松山市文化財調査報告書 102

宮前川流域の遺跡

南江戸桑田
大峰ヶ台6次・8次
北斎院

— 本文編 —

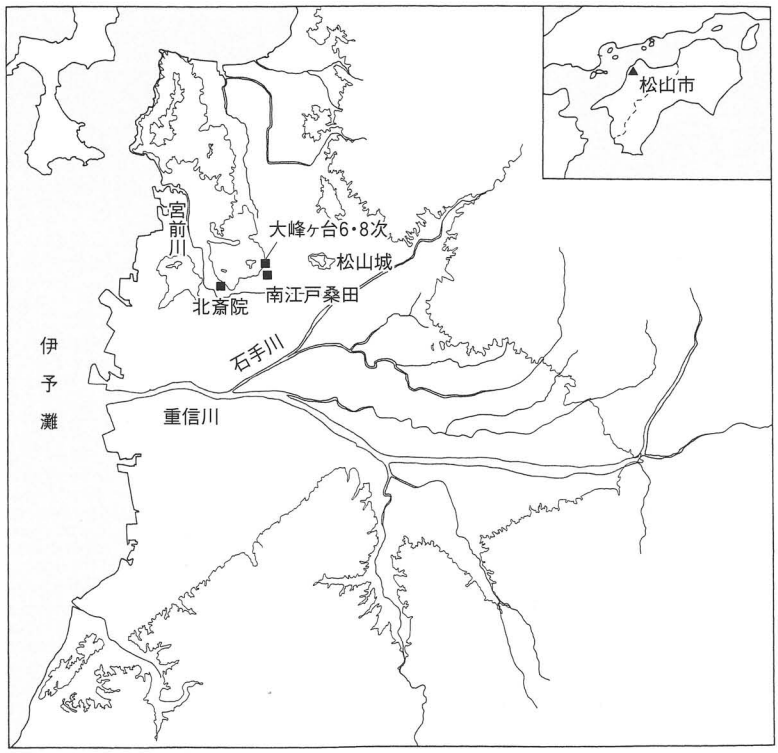
2005

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

宮前川流域の遺跡

南江戸桑田
大峰ヶ台6次・8次
北斎院

— 本文編 —



2005

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

序

本書は、昭和50年度から平成元年度までに、松山平野西部の大峰ヶ台丘陵と宮前川流域とで実施した4遺跡の埋蔵文化財の発掘調査報告書です。

大峰ヶ台丘陵南側の宮前川流域には、日本で初めて発見された大規模水利施設「堰」をもつ古照遺跡、水辺の祭祀巨木と多量の外来系土器を出土した宮前川遺跡など、川や海に関係する遺跡が多くみられます。また、宮前川の河口には、三津浜港があり、瀬戸内海の各地を結んでいます。

このように、宮前川流域の地域は、古代より松山平野の海の玄関口として役割を果たしてきています。

今回報告します南江戸桑田遺跡からは近世の墳墓群が発見され、さらに辻遺跡では二度調査を行い、中近世の集落跡を確認しました。これらの調査結果のなかで注目されるのは、多くの近世墓の検出で、桶棺の埋葬方法からは松山の地域色が認められました。

また、北斎院遺跡からは宮前川遺跡と同様な古墳時代初頭の外来系土器が出土し、宮前川遺跡が斎院地区に広く展開することが明らかになってきました。

こうした成果をあげることができましたのは、関係各位の埋蔵文化財行政に対する深いご理解とご協力のたまものであり、厚く感謝申し上げますとともに、本書が、埋蔵文化財の調査研究の一助となり、ひいては文化財保護、生涯教育の向上に寄与できることを願っております。

平成17年3月31日

財団法人松山市生涯学習振興財団
理事長　中　村　時　広

例　　言

1．本書は、松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センターおよび財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、昭和50年・昭和63年・平成７年に松山市北斎院町・南江戸５丁目・朝日ヶ丘１丁目で実施した埋蔵文化財調査の報告書である。

なお、報告は本文編と写真図版・分析編とに二分冊し、今回は本文編の一分冊目となる。

2．本文中では遺構の呼称を記号化して記述した。竪穴式住居址：ＳＢ、土坑：ＳＫ、溝：ＳＤ、井戸：ＳＥ、柱穴：ＳＰ、性格不明遺構：ＳＸである。

3．遺構の製図と遺物の実測・製図等は、栗田茂敏と梅木謙一の指示のもと、水口あをい、山下満佐子、平岡直美、大西陽子、西本三枝、丹生谷道代、多知川富美子、矢野久子、平岡華美、吉岡智美が行った。

4．挿図の縮尺は縮尺値をスケール下に記した。測量図等の方位は磁北である。

5．写真図版は、遺構の撮影は担当者と大西朋子が、遺物の撮影は大西朋子が担当し、図版作成は担当者と協議のうえ大西朋子が行った。

6．本書にかかわる資料は、松山市埋蔵文化財センターで収納・保管している。

7．本書の執筆は、栗田茂敏・梅木謙一・宮内慎一が行った。執筆に際しては、西尾幸則・田城武志・栗田正芳の各氏に多くの助言をうけた。

また、松下孝幸先生（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長）には人骨の鑑定と修復を委託依頼した。　その結果は、一部を第６章中に掲載し、詳細は二分冊目の写真図版・分析編で行う。紙上にて、感謝申し上げます。

8．編集は、梅木謙一が行い、水口あをいが補助した。

9．報告書作成データーは下記である。

印刷　オフセット印刷－175線

用紙　本文　マットカラー　110kg

　　折込　90kg

製本　アジロ綴じ

本　文　目　次

第１章　はじめに……〔梅　木〕……1
　１．調査・刊行に至る経緯　２．刊行組織　３．環　境

第２章　南江戸桑田遺跡……〔梅　木〕……5
　１．調査の経過　２．１区の調査　３．２区の調査　４．小　結

第３章　大峰ヶ台遺跡６次調査地……〔栗　田〕……25
　１．試掘調査　２．遺構と遺物　３．小　結

第４章　大峰ヶ台遺跡８次調査地……〔梅　木〕……135
　１．調査の経過　２．層　位　３．Ａ区の遺構と遺物
　４．Ｂ区の遺構と遺物　５．小　結

第５章　北斎院遺跡……〔梅木・宮内〕…149
　１．調査の経過　２．層　位　３．遺構と遺物　４．小　結

第６章　調査の成果と課題……〔梅　木〕……175
　１．大峰ヶ台丘陵東麓域での成果　２．宮前川下流域での成果

挿　図　目　次

第１章　はじめに
第１図　調査地周辺の遺跡分布図（縮尺１：50,000）……3

第２章　南江戸桑田遺跡
第２図　調査地位置図（縮尺１：1,000）……5
第３図　遺構配置図（縮尺１：400）……6
第４図　１区土層図（縮尺１：80）……7
第５図　１区遺構配置図（縮尺１：80）……8
第６図　１～４号墓測量図（縮尺１：20）……10
第７図　５・６号墓測量図（縮尺１：20）……11
第８図　７・８号墓測量図（縮尺１：20）……13
第９図　９・10号墓測量図（縮尺１：20）……14
第10図　11・12号墓測量図（縮尺１：20）……16
第11図　13～15号墓測量図（縮尺１：20）……17
第12図　墓出土遺物実測図（縮尺１：３）……18
第13図　墓出土銭貨拓本（縮尺１：２）……19
第14図　１区出土遺物実測図（縮尺１：３）……20
第15図　２区遺構配置図・土層図（縮尺１：80）……21

第３章　大峰ヶ台遺跡６次調査地
第16図　調査地位置図……26
第17図　試掘調査トレンチ配置図（縮尺１：1,000）……27
第18図　試掘調査出土遺物実測図(1)（縮尺１：２）……29
第19図　試掘調査出土遺物実測図(2)（縮尺１：３）……30
第20図　Ｂ調査区全測図（縮尺１：200）……31
第21図　Ｂ１区東西断面土層図（縮尺１：100）……33
第22図　Ｂ１区南北断面土層図（縮尺１：100）……34
第23図　Ｂ２区土層図（縮尺１：100）……35
第24図　Ｂ１区遺物出土状況（縮尺１：40）……37
第25図　Ｂ２区谷部遺物出土状況（縮尺１：40）……39
第26図　Ｂ１区第５層出土遺物実測図(1)（縮尺１：３・１：２）……43
第27図　Ｂ１区第５層出土遺物実測図(2)（縮尺１：３）……44
第28図　Ｂ１区第６層出土遺物実測図（縮尺１：３）……45
第29図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(1)（縮尺１：３）……46
第30図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(2)（縮尺１：３）……47

第31図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(3)（縮尺１：３）……48
第32図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(4)（縮尺１：３）……49
第33図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(5)（縮尺１：３）……50
第34図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(6)（縮尺１：３）……51
第35図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(7)（縮尺１：３）……52
第36図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(8)（縮尺１：３）……53
第37図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(9)（縮尺１：３）……54
第38図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(10)（縮尺１：３）……55
第39図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(11)（縮尺１：３）……56
第40図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(12)（縮尺１：３）……57
第41図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(13)（縮尺１：３）……58
第42図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(14)（縮尺１：３）……59
第43図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(15)（縮尺１：３）……60
第44図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(16)（縮尺１：３）……61
第45図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(17)（縮尺１：３）……62
第46図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(18)（縮尺１：３）……63
第47図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(19)（縮尺１：３）……64
第48図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(20)（縮尺１：３）……65
第49図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(21)（縮尺１：３）……66
第50図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(22)（縮尺１：３）……67
第51図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(23)（縮尺１：３）……68
第52図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(24)（縮尺１：３）……69
第53図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(25)（縮尺１：３）……70
第54図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(26)（縮尺１：３）……71
第55図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(27)（縮尺１：３）……72
第56図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(28)（縮尺１：２）……73
第57図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(29)（縮尺１：２）……74
第58図　Ｂ１区第６・７層出土遺物実測図（縮尺１：３）……75
第59図　Ｂ１区第９層出土遺物実測図(1)（縮尺１：３）……76
第60図　Ｂ１区第９層出土遺物実測図(2)（縮尺１：３）……77
第61図　Ｂ１区第９層出土遺物実測図(3)（縮尺１：３・１：２）……78
第62図　Ｂ１区第７・８・９層出土遺物実測図（縮尺１：３）……79
第63図　Ｂ１区第９・10層出土遺物実測図(1)（縮尺１：３）……80
第64図　Ｂ１区第９・10層出土遺物実測図(2)（縮尺１：３・１：２）……81
第65図　Ｂ１区第11層出土遺物実測図(1)（縮尺１：３）……82
第66図　Ｂ１区第11層出土遺物実測図(2)（縮尺１：３）……83
第67図　Ｂ１区第11層出土遺物実測図(3)（縮尺１：２）……84
第68図　Ｂ１区出土地点不明遺物実測図(1)（縮尺１：３）……85

第69図　Ｂ１区出土地点不明遺物実測図(2)（縮尺１：３）……86
第70図　Ｂ１区出土地点不明遺物実測図(3)（縮尺１：２）……87
第71図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(1)（縮尺１：３）……88
第72図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(2)（縮尺１：３）……89
第73図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(3)（縮尺１：３）……90
第74図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(4)（縮尺１：３）……91
第75図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(5)（縮尺１：３）……92
第76図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(6)（縮尺１：３）……93
第77図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(7)（縮尺１：３）……94
第78図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(8)（縮尺１：３）……95
第79図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(9)（縮尺１：３）……96
第80図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(10)（縮尺１：３）……97
第81図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(11)（縮尺１：３・１：２）……98
第82図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(12)（縮尺１：２）……99
第83図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(13)（縮尺１：２）……100
第84図　Ｂ２区ＳＸ１・２出土遺物実測図（縮尺１：３）……101
第85図　Ｂ２区ＳＸ３出土遺物実測図（縮尺１：３・１：２）……102
第86図　Ｂ２区出土地点不明遺物実測図(1)（縮尺１：３）……103
第87図　Ｂ２区出土地点不明遺物実測図(2)（縮尺１：３）……104
第88図　Ｂ２区出土地点不明遺物実測図(3)（縮尺１：３・１：２）……105
第89図　Ｃ調査区出土遺物実測図(1)（縮尺１：３）……106
第90図　Ｃ調査区出土遺物実測図(2)（縮尺１：３）……107
第91図　Ｃ調査区出土遺物実測図(3)（縮尺１：３）……108
第92図　Ｃ調査区出土遺物実測図(4)（縮尺１：３）……109
第93図　Ｃ調査区出土遺物実測図(5)（縮尺１：２）……110
第94図　Ｃ調査区出土遺物実測図(6)（縮尺１：２）……111

第４章　大峰ヶ台遺跡８次調査地

第95図　調査地位置図（縮尺１：1,000）……136
第96図　Ａ・Ｂ区土層図（縮尺１：50）……137
第97図　Ａ・Ｂ区遺構配置図（縮尺１：200）……139
第98図　Ａ区遺構配置図（縮尺１：120）……140
第99図　掘立１測量図・出土遺物実測図（縮尺１：50・１：３）……141
第100図　掘立２測量図（縮尺１：50）……142
第101図　１・２号墓測量図・出土遺物実測図（縮尺１：20・１：３）……143
第102図　出土地点不明遺物実測図（縮尺１：３）
第103図　Ｂ区遺構配置図（縮尺１：120）……145
第104図　Ｂ区出土遺物実測図（縮尺１：３）……146

第５章　北斎院遺跡
第105図　調査地位置図（縮尺１：1,000）……149
第106図　遺構配置図・遺物出土状況（縮尺１：100）……151
第107図　土層図（縮尺１：50）
第108図　出土遺物実測図(1)（縮尺１：４）……153
第109図　出土遺物実測図(2)（縮尺１：４）……154
第110図　出土遺物実測図(3)（縮尺１：３）……157
第111図　出土遺物実測図(4)（縮尺１：３）……158
第112図　出土遺物実測図(5)（縮尺１：３）……159
第113図　出土遺物実測図(6)（縮尺１：３）……160
第114図　出土遺物実測図(7)（縮尺１：３）……161
第115図　出土遺物実測図(8)（縮尺１：３）……162
第116図　出土遺物実測図(9)（縮尺１：３）……164
第117図　出土遺物実測図(10)（縮尺１：３）……165

表　目　次

第１章　はじめに
表１　調査地一覧 ……４

第２章　南江戸桑田遺跡
表２　墓一覧 ……22
表３　墓出土遺物観察表　土製品・木製品 ……23
表４　墓出土遺物観察表　銭貨 ……24
表５　ＳＥ01出土遺物観察表　石製品
表６　１区出土遺物観察表　土製品

第３章　大峰ヶ台遺跡６次調査地
表７　試掘調査出土遺物観察表　鉄製品 ……112
表８　試掘調査出土遺物観察表　土製品
表９　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品
表10　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　石製品
表11　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品 ……113
表12　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　石製品 ……122
表13　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品
表14　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　石製品 ……123

表15　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品 ……124
表16　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　石製品 ……125
表17　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品
表18　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　石製品
表19　Ｂ１区出土地点不明遺物観察表　土製品
表20　Ｂ１区出土地点不明遺物観察表　石製品 ……126
表21　Ｂ２区第９層出土遺物観察表　土製品
表22　Ｂ２区第９層出土遺物観察表　石製品 ……131
表23　Ｂ２区ＳＸ出土遺物観察表　土製品
表24　Ｂ２区ＳＸ３出土遺物観察表　石製品
表25　Ｂ２区出土地点不明遺物観察表　土製品
表26　Ｂ２区出土地点不明遺物観察表　石製品 ……132
表27　Ｃ調査区出土遺物観察表　土製品
表28　Ｃ調査区出土遺物観察表　石製品 ……134

第４章　大峰ヶ台遺跡８次調査地
表29　掘立柱建物址一覧 ……147
表30　墓一覧
表31　溝一覧
表32　Ａ区出土遺物観察表　土製品 ……148
表33　Ａ区出土遺物観察表　石製品
表34　Ｂ区出土遺物観察表　土製品

第５章　北斎院遺跡
表35　出土遺物観察表　土製品 ……166
表36　出土遺物観察表　石製品 ……174

第1章　はじめに

1．調査・刊行に至る経緯

松山市教育委員会文化教育課（現、文化財課）は昭和50年度に北斎院町、昭和63年度と平成元年度に南江戸で宅地開発に伴う事前の発掘調査を実施した。また、松山市総合公園建設に伴う事前調査を昭和63年度に行った。発掘調査に至るまでの詳細は第２章以降の各調査報告で行い、ここでは遺跡名称について若干の解説をする。

昭和63年度に調査した大峰ヶ台遺跡６次調査地は調査時に「辻遺跡」、平成元年度調査の大峰ヶ台遺跡８次調査地は「辻遺跡２次調査」としていたが、両地点は埋蔵文化財包蔵地「33　大峰ヶ台弥生遺跡Ｂ・大峰ヶ台古墳群Ｂ」内にあり、既に包含地内で本格調査が行われ、遺跡名が決められていたので、今回の本報告では遺跡名称を先のように変更している。この件については、先に刊行された『大峰ヶ台遺跡Ⅱ』（1998）のＰ４～５に遺跡一覧と位置図があり、参照していただきたい。

野外調査以降は、各調査担当者が整理作業を行い、平成16年度には本格的な報告書作成作業を実施した。この間では松山市教育委員会文化教育課、同文化財課、松山市立埋蔵文化財センターならびに財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターは互いに協力・支援し、作業の円滑化に努めた。

【文　献】

高尾和長編　1998　『大峰ヶ台遺跡Ⅱ－９次調査－』松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

2．刊行組織（平成17年３月31日現在）

松山市教育委員会	教育長	土居　貴美
事務局	局長	久保　浩三
	企画官	石丸　修
	企画官	丹生谷博一
	企画官	仙波　和典
文化財課	課長	篠原　忠人
㈶松山市生涯学習振興財団	理事長	中村　時広
	事務局長	三宅　泰生
	事務局次長	石丸　允良
	事務局次長	池田　政勝
埋蔵文化財センター	所長	杉田　久憲
	専門監兼学芸係長	早瀬　忠幸
	次長兼調査係長	西尾　幸則
	管理係長	岸本　照修
	調査員	栗田　茂敏
	調査員	梅木　謙一
	調査員	宮内　慎一
	調査員	大西　朋子（写真担当）

3．環　境

(1)　立　地

松山市は、四国北西部、愛媛県の中央に位置し、西は瀬戸内海の斎灘・伊予灘、北は高縄山塊（高縄半島）、南東部は四国山地に囲まれている。松山平野は、東西約20km、南北約17kmの広さをもつ三角状の沖積地帯である。平野中央には重信川・小野川、北には石手川・久万川・宮前川等が流れ、その流域には浸食と堆積による肥沃な土地が形成されている。また、平野には北から中央部に弁天山・岩子山・大峰ヶ台・土亀山・天山・星ヶ岡山などの独立丘陵がある。地質は、平野の南部に中央構造線がはしり、領家花崗岩類・変成岩類と和泉層群等が分布する（松山市　1992）。

今回報告する大峰ヶ台遺跡は平野の北西部にある独立丘陵に立地し、西方の伊予灘までは約3.5kmである。南江戸桑田遺跡と北斎院遺跡は大峰ヶ台丘陵の南を流れ、伊予灘の三津湾にそそぐ宮前川の中・下流域にあたり、沖積低地に立地する遺跡である。

(2)　歴史的環境（第１図）

大峰ヶ台丘陵と宮前川流域には多くの遺跡が存在している。低地部には集落跡、丘陵部には古墳群が展開する。

先土器時代～縄文時代

これまでに、先土器時代の遺構・遺物は発見されていない。縄文時代資料は、遺構は未だ検出がないが、古照遺跡（栗田正芳　1996）の包含層で後期～晩期土器の出土が見られる。

弥生時代

前期：前期末～中期初頭には、西側の弁天山丘陵上に環壕集落を形成する斎院烏山遺跡（梅木1994・作田　1998）がある。遺跡が立地する丘陵部分は、昭和の前半期に大きく削り取られ、遺構の一部を検出したにとどまる。

中期：斎院烏山遺跡の直後、中期初頭～前葉には、斎院烏山遺跡北東450ｍの宮前川遺跡別府地区（大滝雅嗣　1987）に集落が形成される。遺構は稀薄だが、出土品には分銅形土製品１点がみられる。同時期の集落資料は、松山平野でも数が少ない。中葉～後葉は、大峰ヶ台丘陵の山頂部で集落が形成され、いわゆる高地性集落に比定されている。分銅形土製品や土製勾玉等の出土がある。

後期～古墳時代初頭：終末期までの資料は明確でない。終末期になると、低地部の宮前川遺跡や津田中学校構内遺跡一円に集落が形成され、古墳時代初頭および前期まで継続する。宮前川遺跡の集落は北斎院地区と西山地区（西尾・栗田　1986）、および斎院烏山遺跡（作田一耕　1998）からなり、これまでに住居址・溝・土器棺が検出されている。出土品は膨大で、多量の土器、骨角器、獣魚骨等があり、土器には近畿・吉備からの搬入品や近畿・山陰地方の土器を真似たものが数多くある。

古墳時代

集落：４～５世紀には堰遺構で著名な古照遺跡（松山市　1974）がある。古照遺跡で課題なのは、居住区域の発見である。６世紀代には弁天山丘陵裾部の津田中学校構内遺跡と、岩子山丘陵裾部の岩子山遺跡（作田一耕　1998）とに住居址があり、集落の形成が認められる。

墳墓：大峰ヶ台丘陵では前期～後期までの古墳が周囲を巡らす。前期初頭には北丘陵に朝日谷２号墳（梅木　1993）があり、前期後半～中期には西の丘陵頂部に大池東３・４・５号墳（高尾　1998）がある。後期には丘陵の多くの部分で古墳群が形成されている。

❹南江戸桑田遺跡　❺大峰ヶ台遺跡６次　❻大峰ヶ台遺跡８次　❼北斎院遺跡
❶宮前川遺跡別府地区　❷弁天山古墳群　❸斎院烏山遺跡　❹岩子山古墳群
❺朝日谷２号墳　❻古照遺跡

第１図　調査地周辺の遺跡分布図（S＝1：50,000）

一方、宮前川の下流域にあたる弁天山丘陵上にも古墳が築造されている。前半期には、工事中発見・調査した弁天山古墳があり、箱式石棺を主体部にもち、石棺からは青銅鏡が2面出土している。なお、墳形は確認できていない。津田山古墳（西田栄　1986）からも箱式石棺と青銅鏡1面が検出されている。なお、この時期と目されている古墳に弁天山0号墳があるが、調査は踏査にとどまっている。後半期は、宮前川下流域の東西丘陵に御産所古墳群（森　光晴ほか　1976）・岩子山古墳群（名本二六雄　1975）・弁天山古墳群が形成され、岩子山古墳からは人物埴輪や馬形埴輪等が出土している。

古代～中世

古代には、大峰ヶ台丘陵の東麓に平安時代の澤廃寺がある。

中世には、北斎院地内遺跡（武正　1994）で15～16世紀の集落が展開し、区画溝・墓等が検出され、中世集落の状況が明らかになってきている。また、南斎院土居北遺跡（中野良一　2004）では、50メートル四方の区画溝が検出され、当該期の居宅構造の分かる貴重な資料がある。

以上、大峰ヶ台丘陵と宮前川中・下流域の遺跡について簡単に触れたが、この地域には沖積低地が多く、調査数が少ないこともあり、各時代で判明しないことが多くある。

【文　献】

松山市　1992　『松山市史　第一巻』松山市史編集委員会

栗田正芳　1996　『古照遺跡－第8・9次調査－』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

梅木謙一　1994　「斎院烏山遺跡」『斎院の遺跡』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

作田一耕　1998　『斎院・古照』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター

大滝雅嗣　1987　『宮前川遺跡』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター

西尾幸則・栗田茂敏　1986　『宮前川遺跡』松山市教育委員会

松山市　1974　『古照遺跡』古照遺跡調査本部・松山市教育委員会

西田　栄　1986　「津田山古墳」『愛媛県史　資料編　考古』愛媛県史編さん委員会

森　光晴・西尾幸則・沖野新一　1976　「御産所11号古墳」『埋蔵文化財発掘調査報告』松山市教育委員会

名本二六雄　1975　『岩子山古墳』松山市教育委員会

武正良浩　1994　「北斎院地内遺跡」『斎院の遺跡』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

中野良一　2004　『南斎院土居北遺跡・南江戸闔目遺跡（2次調査）』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター

表1　調査地一覧

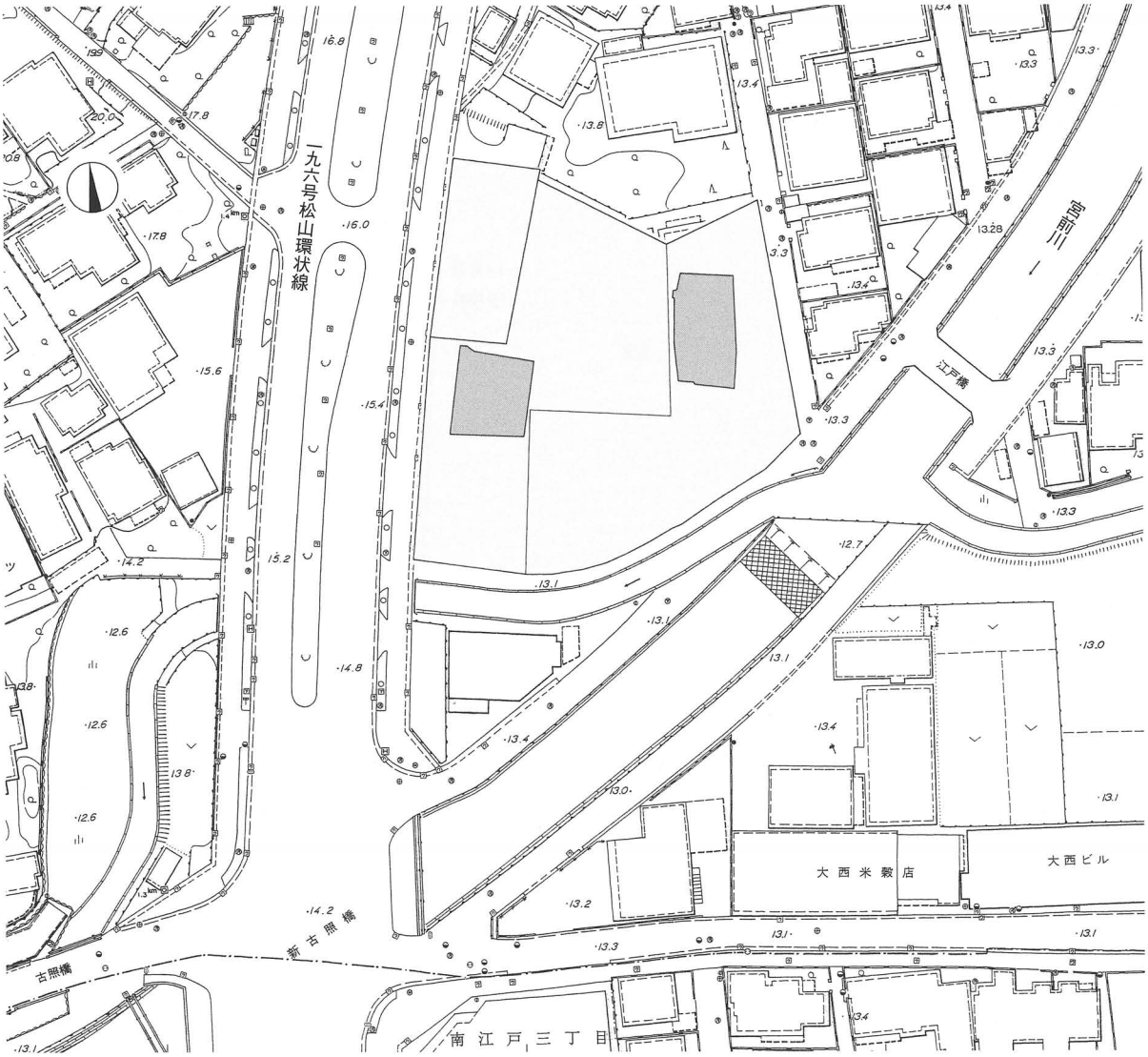
遺　跡　名	現　住　所（松山市）	調査面積（㎡）	調　査　期　間
南江戸桑田	南江戸5丁目770他・766他	2,881	1988年8月9日 ～ 同年10月12日
大峰ヶ台6次	朝日ヶ丘1丁目1376他	3,000	1988年5月11日～1990年2月28日
大峰ヶ台8次	南江戸5丁目1544-1他	1,096	1989年7月15日 ～ 同年7月31日
北　斎　院	北斎院町379-1・379-2	600	1975年6月18日 ～ 同年7月17日

第２章　南江戸桑田遺跡

１．調査の経過

(1)　調査・報告の経緯（第２図）

本調査は、駐車場建設に伴う事前の緊急調査である。対象地は複数の土地所有者からなり、２度に分けられて埋蔵文化財の確認願いが申請された。まず1988（昭和63）年５月に南江戸五丁目766番他の申請が松山市教育委員会文化教育課（以下、「文化財課」）に提出され、つぎに同年８月に南江戸五丁目770番他の申請が文化財課に提出された。申請地はいずれも松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地『33　大峰ヶ台弥生遺跡Ａ　大峰ヶ台古墳群Ａ』と『34　朝美町遺跡（遺物包含地）（住居址）』内にあたり、周知の遺跡であり、遺跡の遺存やその範囲を確認するために試掘調査を実施した。その結果、申請地内には遺跡が遺存しており、文化財課は申請者と協議の上、遺跡の消失する範囲に対して本格的な発掘調査を行うことにした。



第２図　調査地位置図（Ｓ＝１：1,000）

本格調査は昭和63年８月～同年10月に実施し、本格的な整理作業および報告書の作成は平成16年度に行った。なお、調査は複数の申請地と調査工程上から２区画に分け実施し、５月申請分を２区、８月申請分を１区と呼称し、報告においても個別に記載した。

(2) 調査組織

調 査 地　松山市南江戸五丁目770、765-1、744-1、766、767-1

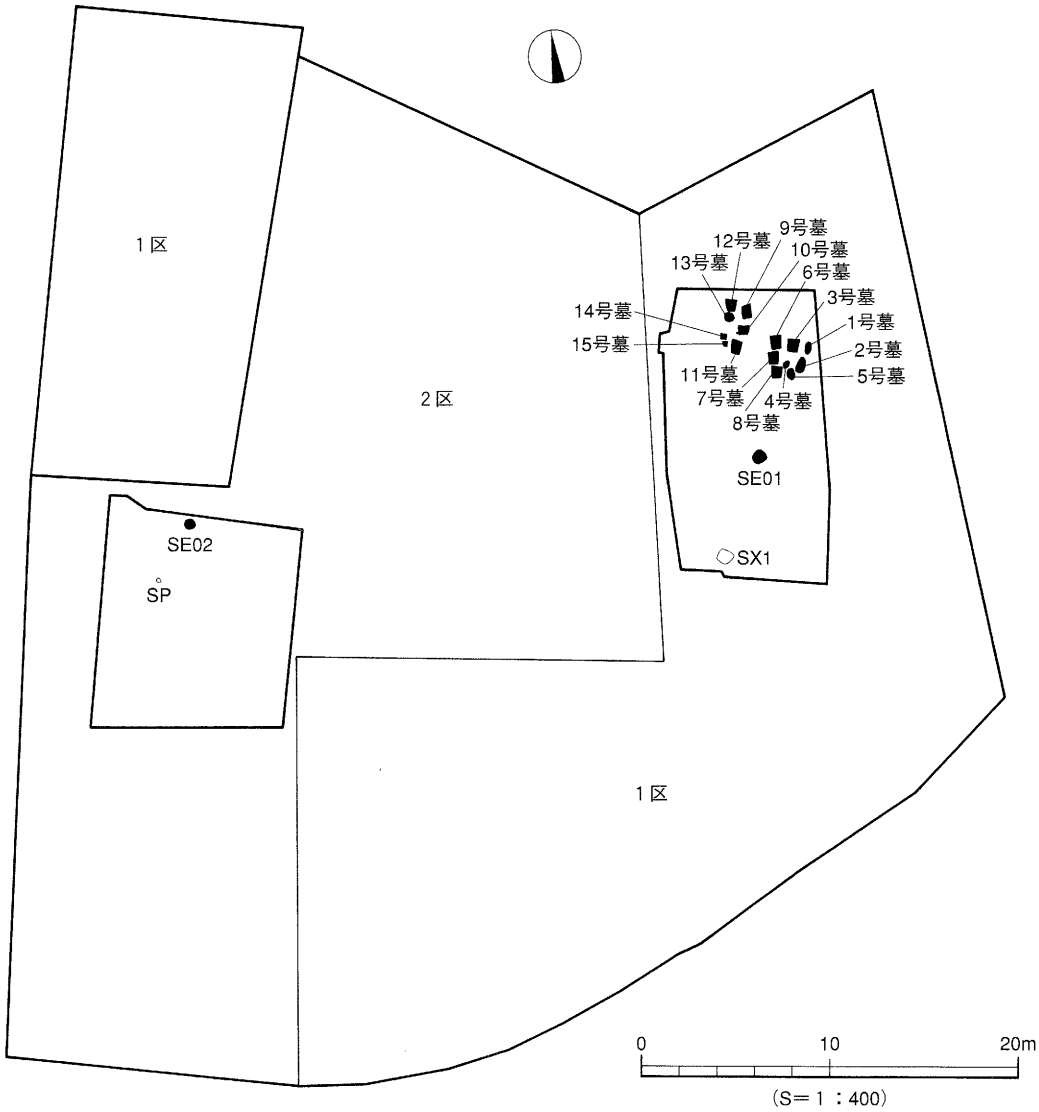
遺 跡 名　南江戸桑田遺跡

調査期間　昭和63年８月９日～同年10月12日

調査面積　2,881㎡

調査担当　重松佳久（現、松山市公園緑地課）・丹下道一（退職）

調査協力　㈲寿企画計算センター・栗林愼八・和田信之・和田清重

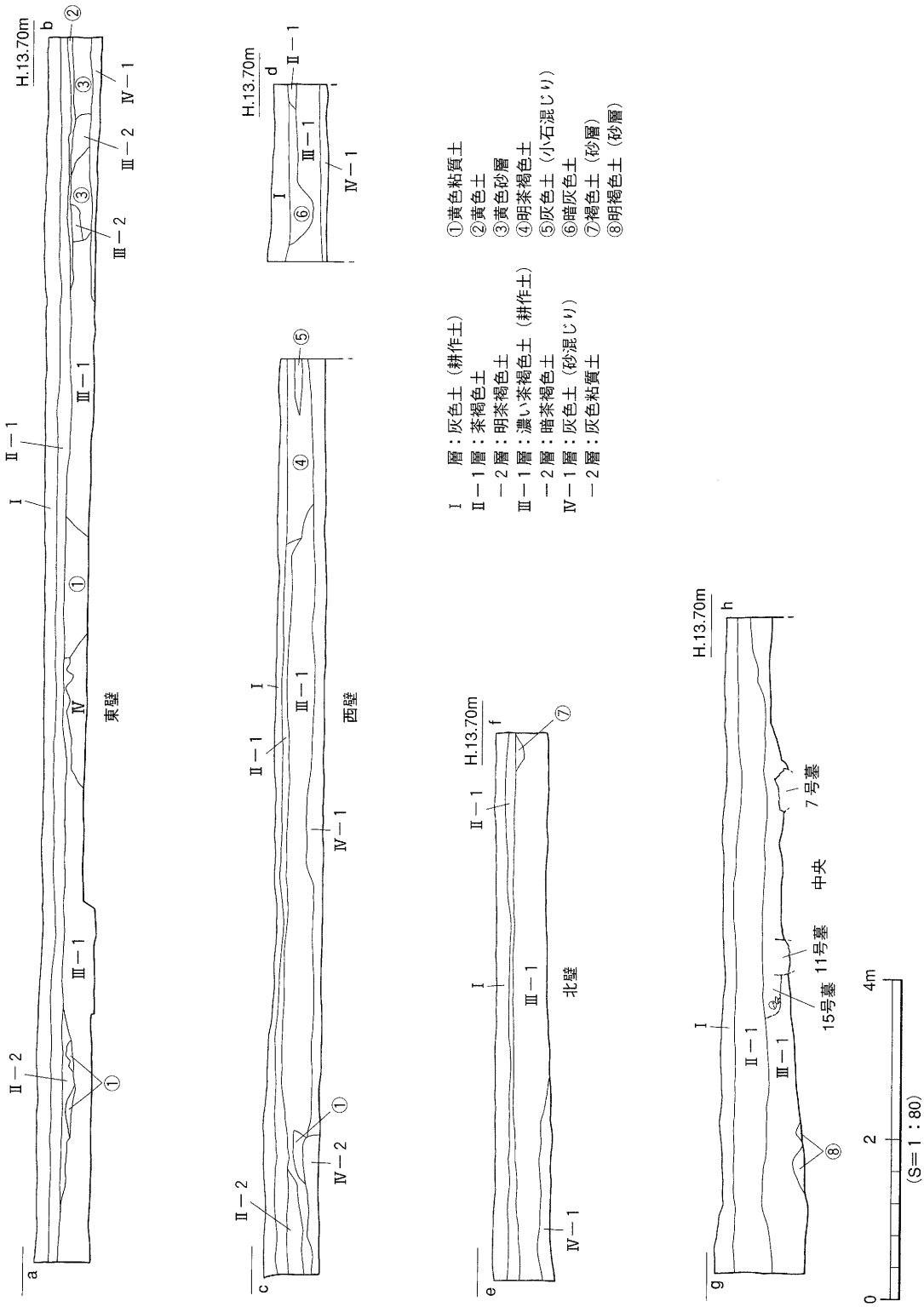


第３図　遺構配置図

2．1区の調査

(1) 層　位（第4図）

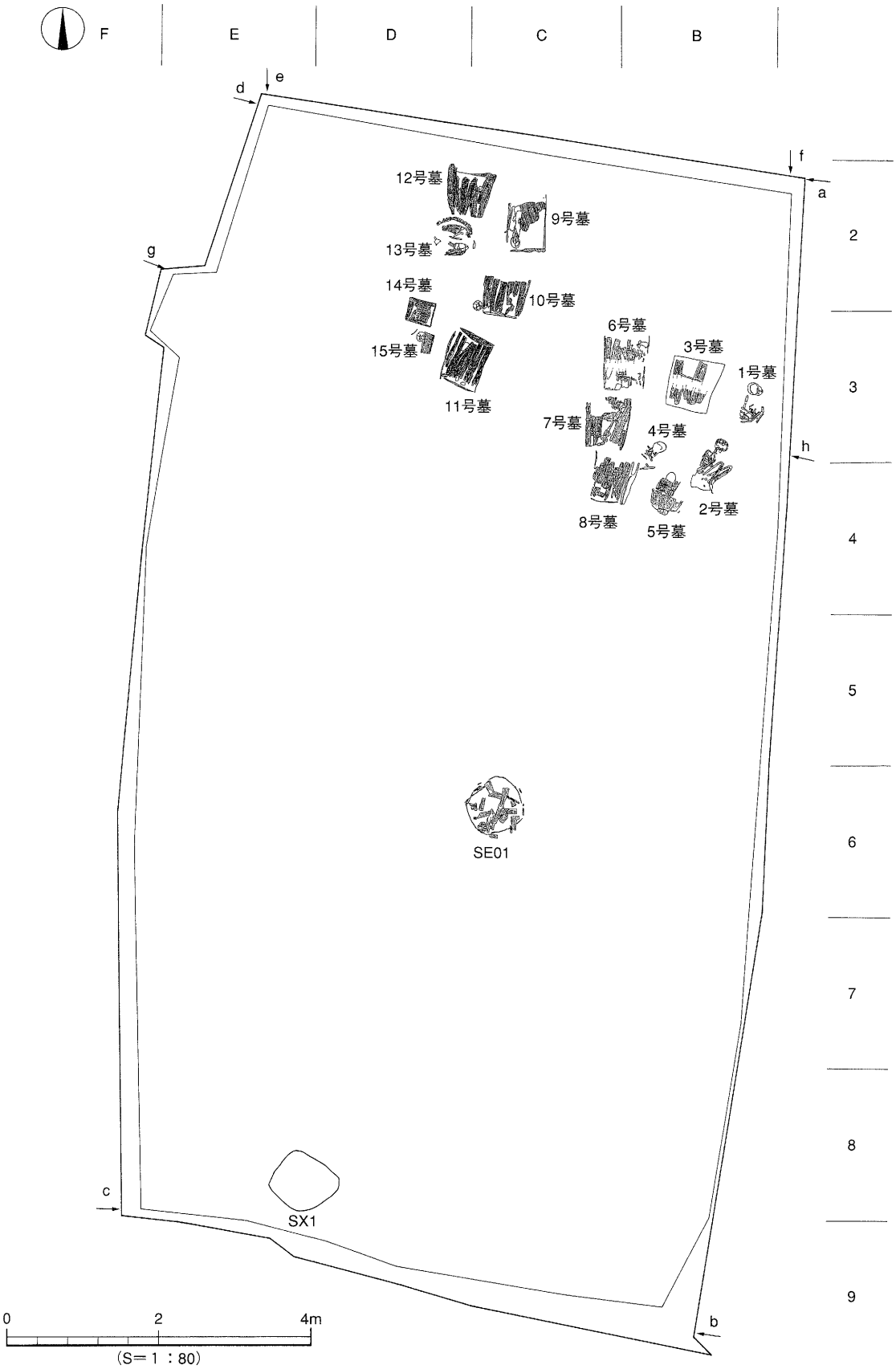
調査地は大峰ヶ台丘陵の南東麓にあり、標高13mに立地する。1区の基本層位はⅠ層灰色土、Ⅱ層茶褐色土、Ⅲ層濃茶褐色土、Ⅳ層灰色土であり、Ⅱ～Ⅳ層は色調や粘性で細分される。また、部分的に各種の土壌が堆積し、層位の複雑さは近接する宮前川の氾濫に起因する。



第4図　1区土層図

(2) 遺構と遺物

検出遺構は墓15基、井戸１基、性格不明遺構１基である（第５図）。



第５図　１区遺構配置図

1）墓：墓は調査区の北半部に集中してあり、15基のうち12基で木棺が検出されている（表２）。

1号墓（第６図、図版１・２）

1号墓は調査区の北東、グリッドＢ３にあり、遺存状況が悪い。検出人骨の長軸は頭位が北を指し、規模は長軸が51㎝、短軸は30㎝である。人骨は屈葬の状況にあり、漆器が出土している（第６図左最上段）。木棺・墓坑は未検出だが、当初からないかは定かでない。

2号墓（第６図、図版２）

2号墓は調査区の北東、グリッドＢ３～Ｂ４にある。棺材は遺存が悪いが、人骨は良好である。検出人骨の長軸は南北方位をとり、頭位は北東を指し、顔面が東を向く。規模は長軸が67㎝、短軸は45㎝である。人骨は屈葬の状況にあり、木棺痕跡と土師器片１点（第12図１）が出土している（第６図左中段）。墓坑は未検出であったが、当初からないかは定かでない。

3号墓（第６図、図版３・４）

3号墓は調査区の北東、グリッドＢ３にある。棺材と人骨の遺存は良い。棺の長軸は南北方位をとり、人骨の頭位は北東を指し、顔面が西を向く。規模は長さ57㎝で直径の長軸が57㎝、短軸は44㎝、土坑の深さは10㎝である。人骨は屈葬の状況にあり、漆器（椀）・土師器片１点（第12図２）が出土している。第６図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨、つづいて桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

4号墓（第６図）

4号墓は調査区の北西、グリッドＢ３にあり、遺存状況が極めて悪い。検出位置からは８号墓や５号墓と切り合い関係があると見られる。検出人骨の長軸は南北方位をとり、頭位は北東を指す。規模は長軸が34㎝、短軸は33㎝である（第６図左下段）。木棺は未検出だが、当初からないかは定かでない。

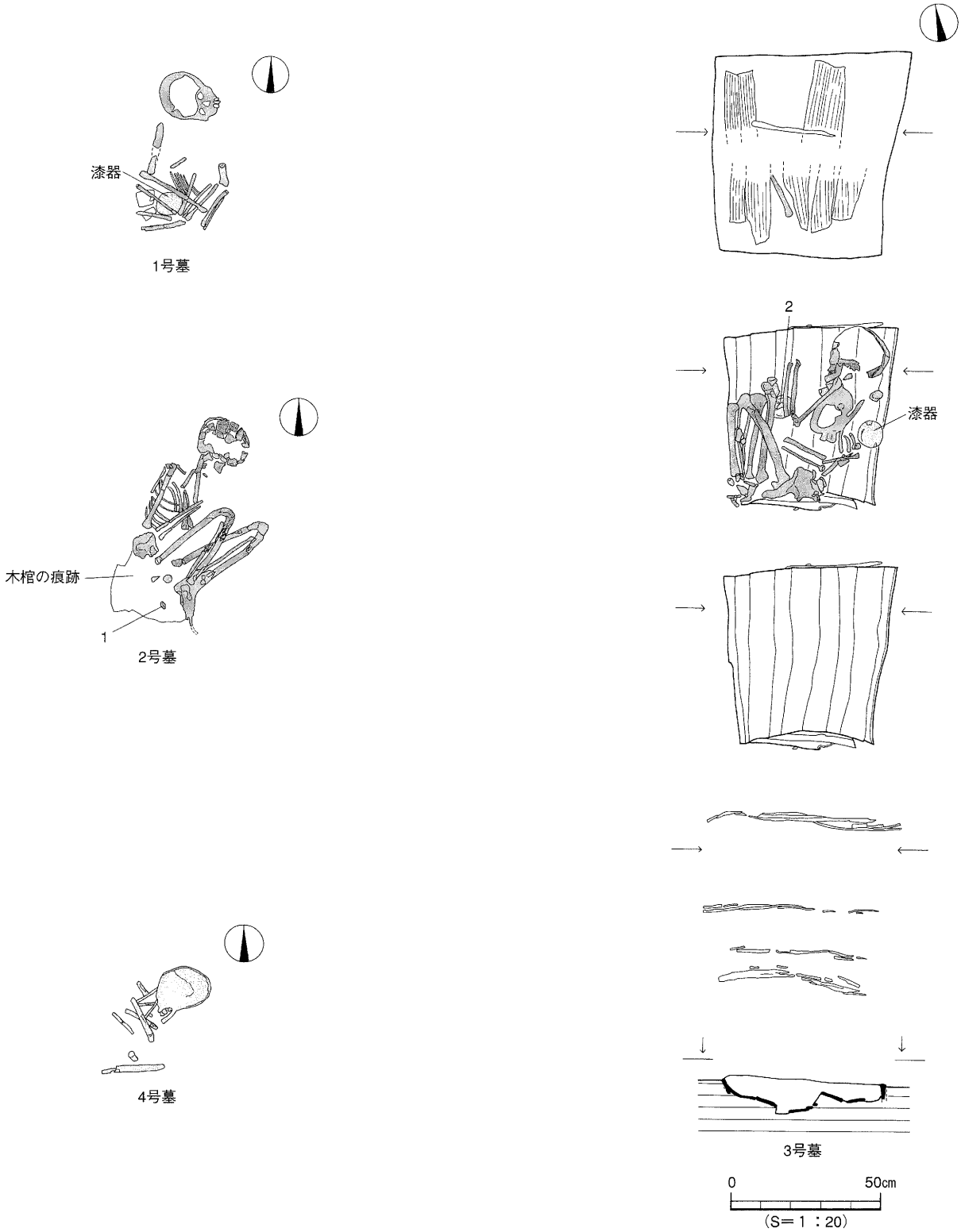
5号墓（第７図、図版４～６）

5号墓は調査区の北西、グリッドＢ４にある。棺材と人骨は北半分の遺存が悪い。棺の長軸は南北方位をとり、人骨の長軸は頭位が北東を指し、（顔面が西を向く？）。規模は長さ40㎝で直径の長軸が55㎝、短軸は42㎝、土坑の深さ13㎝である。人骨は屈葬の状況にあったと見られ、漆器（椀）１点（図版５－２）が出土している。第７図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨、つづいて桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

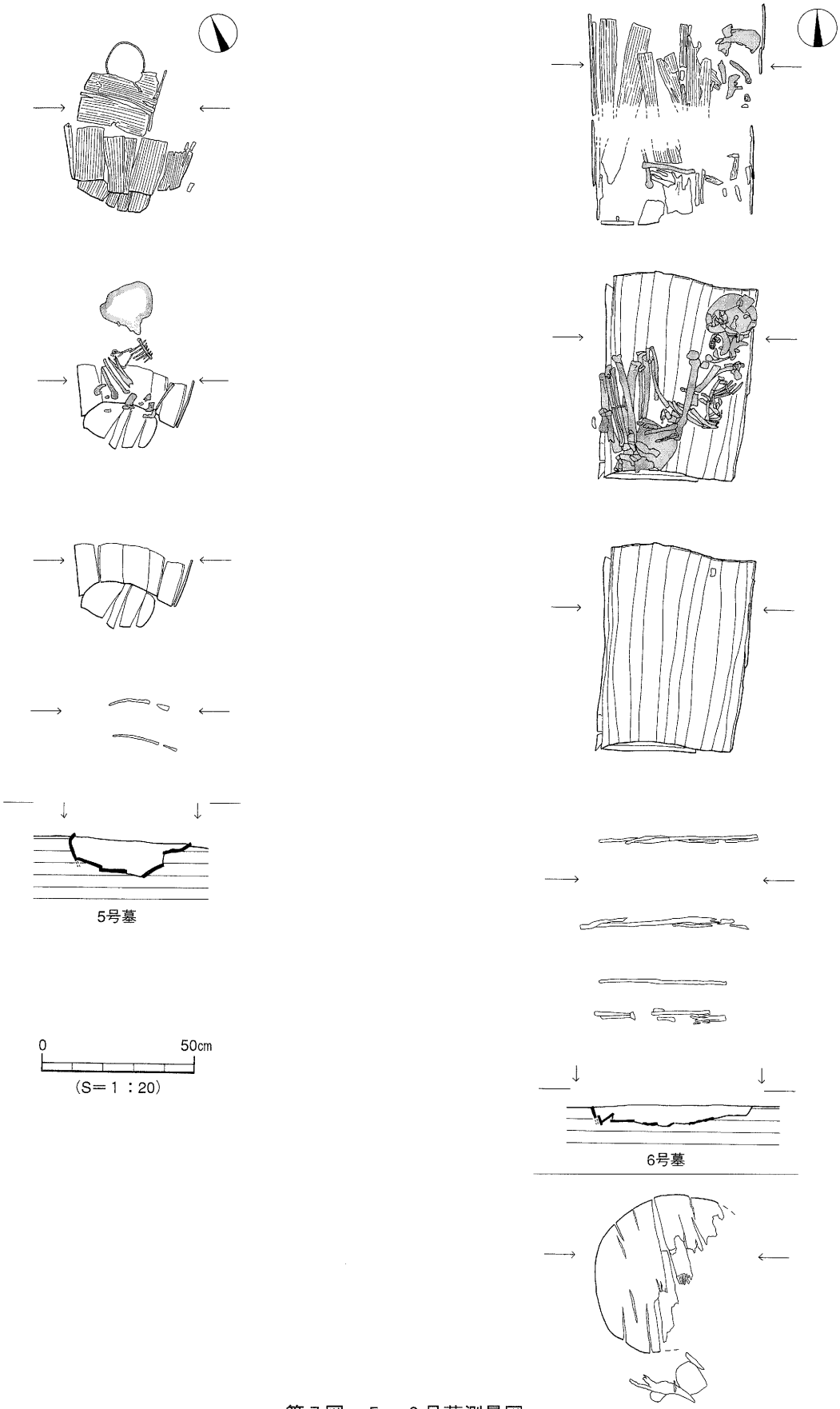
6号墓（第７図、図版６・７）

6号墓は調査区の北西、グリッドＢ３にある。棺材と人骨の遺存は良い。棺の長軸は南北方位をとり、人骨の長軸は頭位が北東を指し、顔面が西を向く。規模は長さ63㎝で直径の長軸が57㎝、短軸は50㎝、土坑の深さは７㎝である。人骨は屈葬の状況にあり、土師器片１点（第12図３）が出土してい

る。第７図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨、つづいて桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。最下図は桶棺の蓋とみられる木製品の出土状況である（検出順番不明）。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。



第６図　１～４号墓測量図



第7図　5・6号墓測量図

7号墓（第8図、図版7・8）

7号墓は調査区の北西、グリッドB3～C3にある。棺材の遺存は比較的良いが、人骨は乱れがある。棺の長軸は南北方位をとり、頭位は北を指し、顔面の向きは不明。規模は長さ62cmで直径の長軸が57cm、短軸は48cm、土坑の深さは7cmである。人骨は屈葬の状況にあり、土師器片2点（第12図4・5）・漆器（椀）(巻頭図版2－1）・銭貨6点（第13図24～29）・櫛が出土し、土師器は棺外で、それ以外は棺内出土である。銭貨は全て寛永通宝で、24・27の裏面には「文」が見られる。第8図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨・漆器・櫛、つづいて銭貨・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

8号墓（第8図、図版9・10）

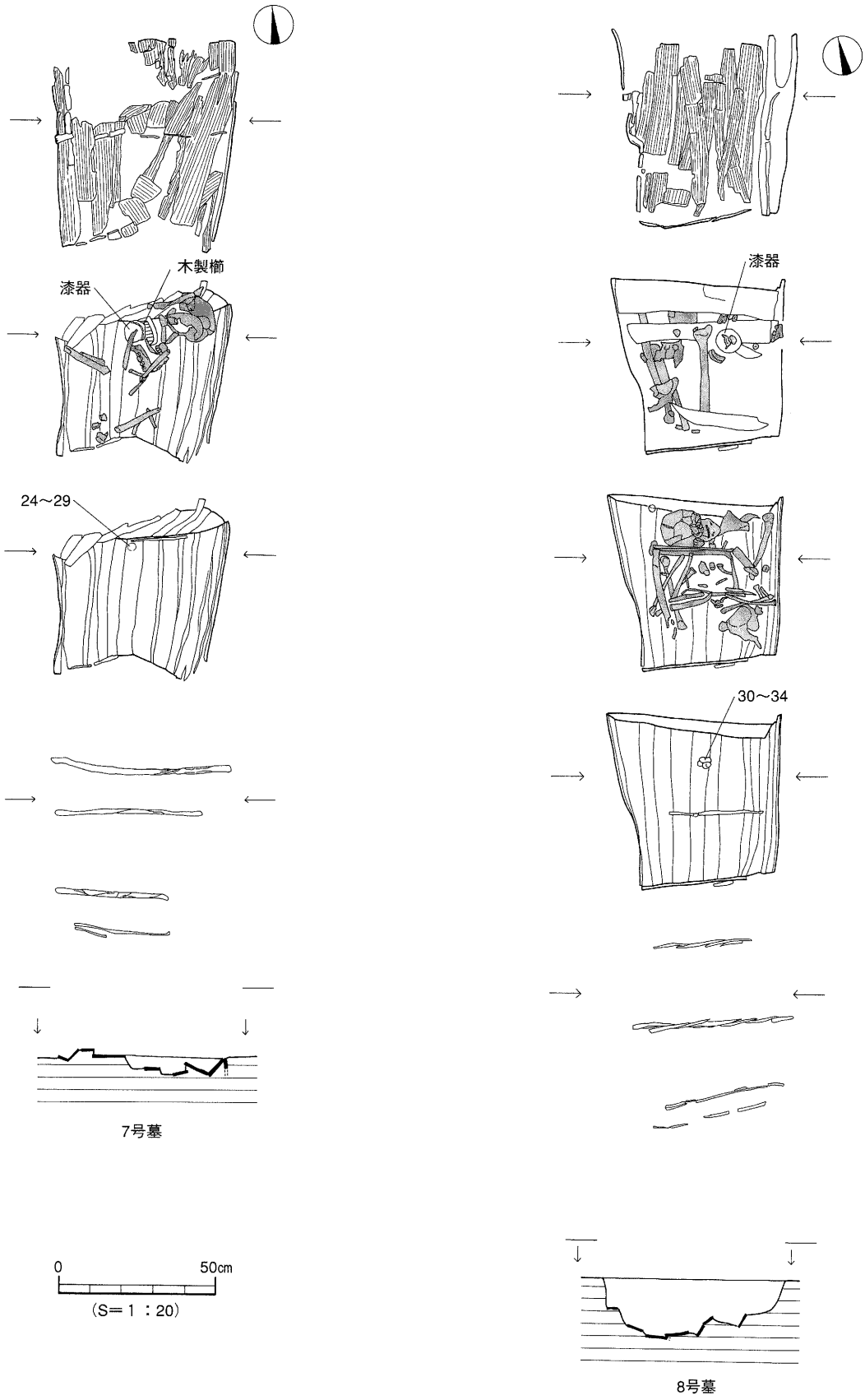
8号墓は調査区の北東、グリッドB4～C4にある。棺材と人骨の遺存は良いが、人骨に乱れがある。棺の長軸は南北方位をとり、頭位が北を指し、顔面が東を向く。規模は長さ57cmで直径の長軸が55cm、短軸は43cm、土坑の深さは19cmである。人骨は屈葬の状況にあり、漆器（椀）1点（巻頭図版2－2）・銭貨5点（第13図30～34）が出土し、遺物は全て棺内である。銭貨は寛永通宝4点、永楽通宝1点がある。第8図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに漆器・人骨、つづいて人骨、さらに銭貨・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

9号墓（第9図、図版10・11）

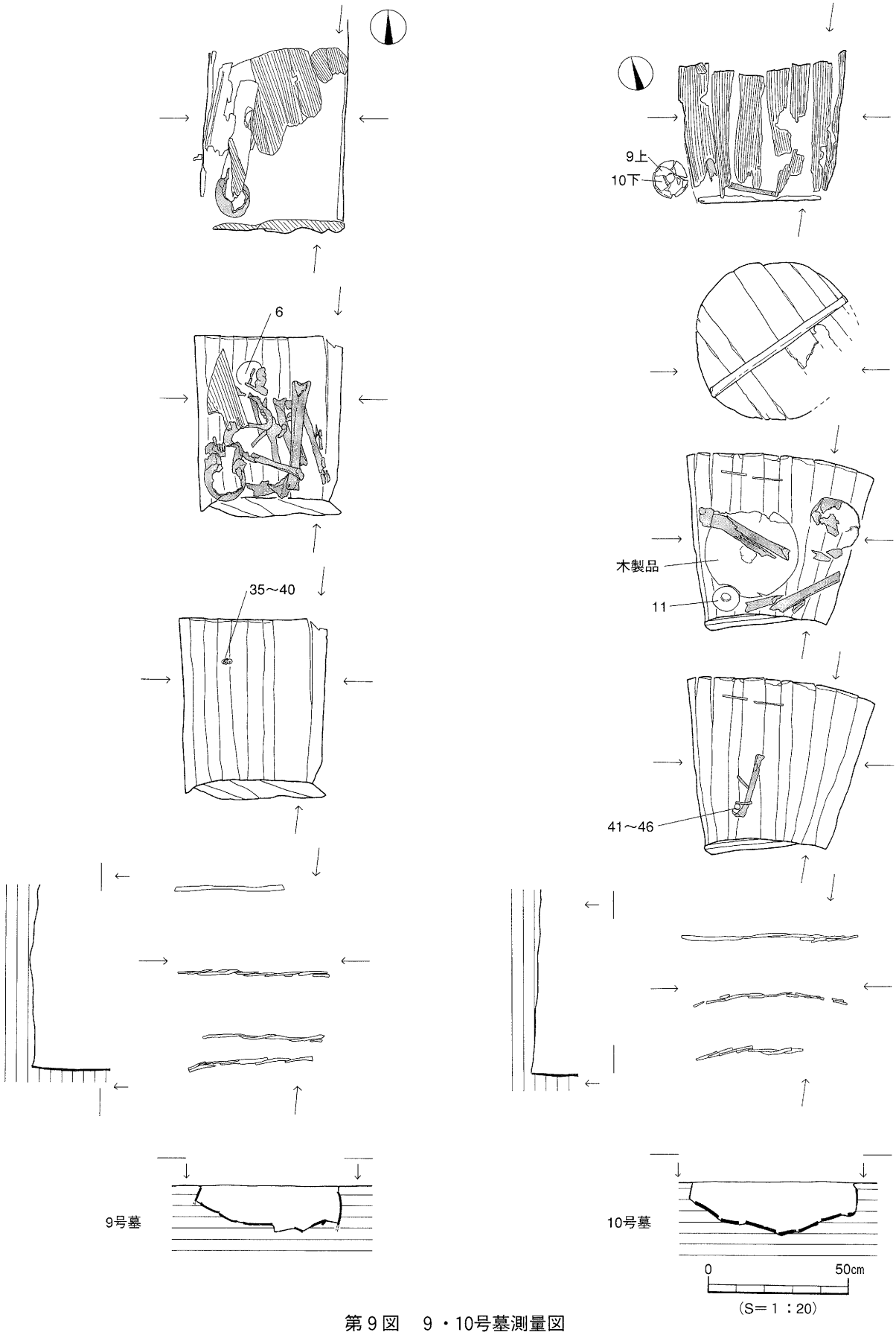
9号墓は調査区の北、グリッドC2にある。棺材と人骨の遺存は良いが、頭蓋は動いている。棺の長軸は南北方位をとる。規模は長さ62cmで直径の長軸が53cm、短軸は47cm、土坑の深さは29cmである。人骨は屈葬の状況にあるが、頭蓋と体部骨が分かれて検出されている。体部の状況からは、頭蓋が南に動いたものと見られる。出土品は土器3点（第12図6～8）・銭貨6点（第13図35～40）があり、土器3点のうち完形の土師器皿6は棺内、7・8は破片で棺外から出土している。第9図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨・土師皿、つづいて銭貨・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

10号墓（第9図、図版11・12）

10号墓は調査区の北、グリッドC2～C3にある。棺材の遺存はよいが、人骨の遺存は悪い。棺の長軸は南北方位をとる。顔面は検出時で西を向いている。規模は長さ60cmで直径の長軸が66cm、短軸は45cm、土坑の深さは28cmである。人骨は屈葬の状況にあるが、多くの体部骨がない。出土品は土器2点（第12図9・10）・漆器1点（第12図11）・木製品1点・銭貨6点（第13図41～46）があり、土器2点は棺外で、残りは棺内である。第9図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材と土師器、つぎに桶棺の蓋、つづいて人骨・漆器椀・盆状木製品、さらに銭貨・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。



第8図　7・8号墓測量図



第９図　９・10号墓測量図

11号墓（第10図、図版13・14）

11号墓は調査区の北、グリッドＣ３～Ｄ３にある。棺材と人骨の遺存はよい。棺の長軸は南北方位をとり（やや東を向き）、顔面は西を向いている。規模は長さ62cmで直径の長軸が55cm、短軸は50cm、土坑の深さは30cmである。人骨は屈葬の状況にある。出土品は土器１点（第12図12）・漆器１点・木製品１点（巻頭図版２－３）があり、土器１点は棺外で、残りは棺内である。第10図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨・漆器椀・円形木製品、つづいて桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

12号墓（第10図、図版14～16）

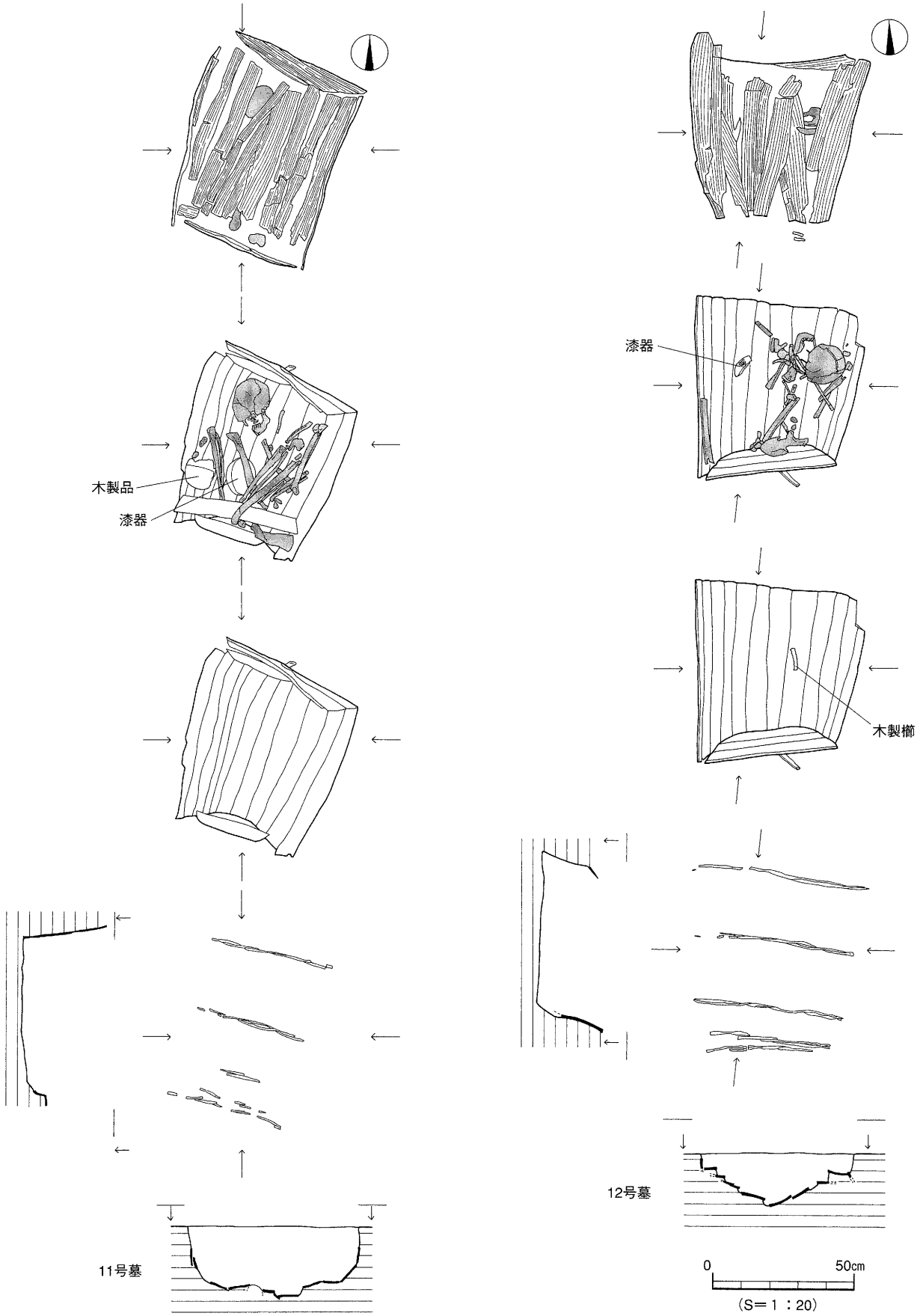
12号墓は調査区の北、グリッドＣ２～Ｄ２にある。棺材の遺存はよいが、人骨は乱れがある。棺の長軸は南北方位をとり、頭蓋は移動の可能性がある。規模は長さ65cmで直径の長軸が60cm、短軸は48cm、土坑の深さは25cmである。人骨は屈葬の状況にあると見られる。出土品は漆器１点・木製櫛１点（巻頭図版３－１・２）・銭貨６点（第13図47～52）があり、遺物は全て棺内である。銭貨は全て寛永通宝で、47の裏面に「文」が見られる。第10図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨・漆器椀、つづいて木製櫛・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

13号墓（第11図、図版16・17）

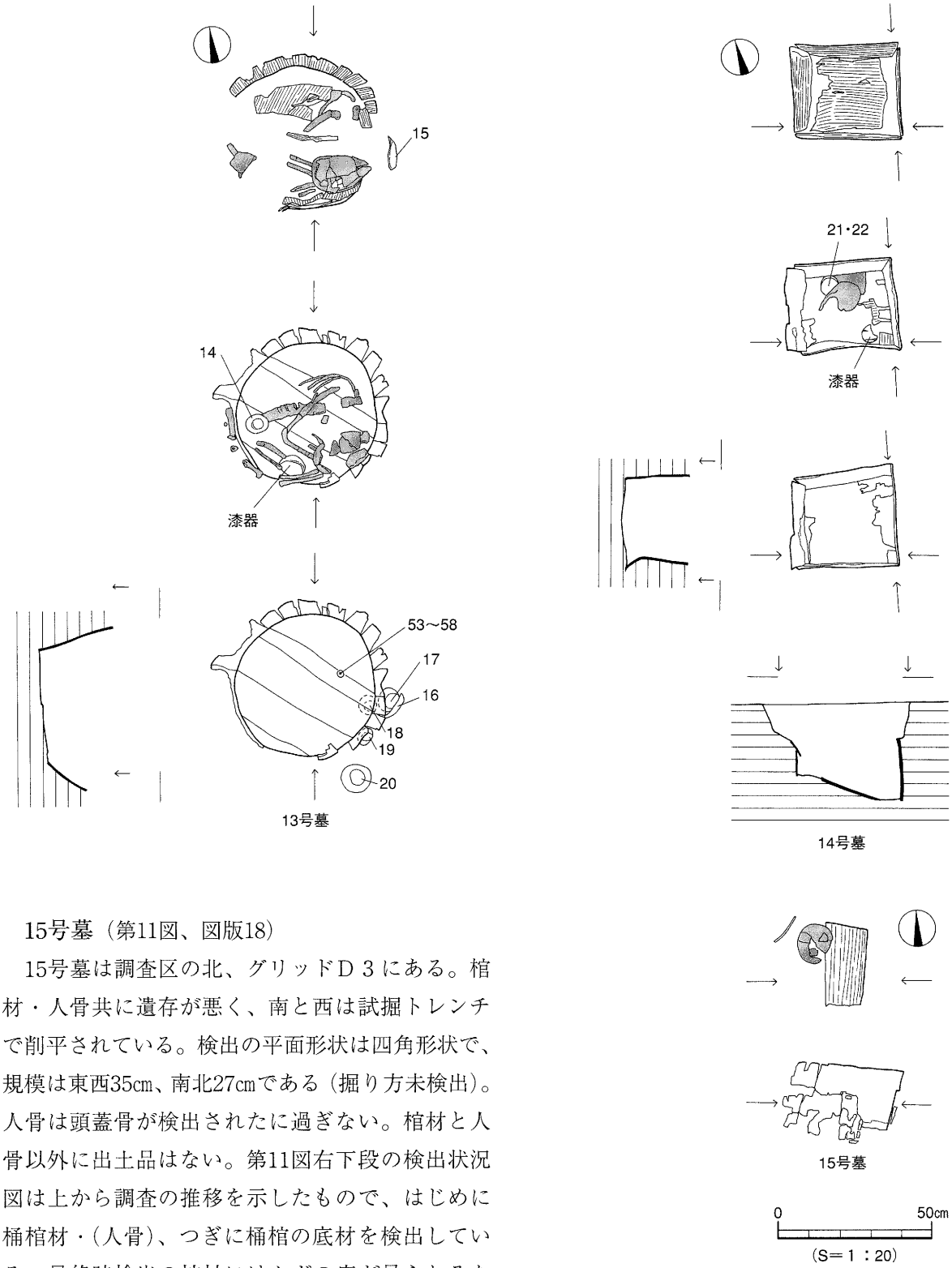
13号墓は調査区の北、グリッドＣ２～Ｄ２にある。棺材・人骨共に比較的遺存はよいが、人骨は乱れがある。検出の平面形状は円形で、顔面は西を向いて検出されている。規模は径45cm、土坑の深さは25cm（残存高）である。人骨は屈葬の状況にあると見られる。出土品は土師器８点（第12図13～20）・木製櫛１点・漆器１点・銭貨６点（第13図53～58）があり、このうち土師器片13は棺上、土師器14・木製櫛・漆器・銭貨は棺内、土師器15～20は棺外で出土している。銭貨は全て寛永通宝である。第11図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材・人骨、つぎに人骨・土師器・漆器椀、最後に桶棺の底材・棺外土師器を検出している。この状況からは桶棺が立てられて埋設されたことが復元される。

14号墓（第11図、図版17・18）

14号墓は調査区の北、グリッドＤ２～Ｄ３にある。棺材は比較的遺存がよいが、人骨は遺存が悪い。検出の平面形状は正方形状で、規模は東西35cm、南北30cm、土坑の深さは32cmである。人骨の埋葬状況は分からない。出土品は土師器２点（第12図21・22）・漆器椀（巻頭図版３－３）があり、遺物は棺内で出土している。第11図右上段の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに蓋を含む箱棺材、つぎに人骨・漆器椀・土師器、最後に箱棺の底材を検出している。この状況からは箱棺が埋設されたことが復元される。



第10図　11・12号墓測量図



第11図　13～15号墓測量図

15号墓（第11図、図版18）

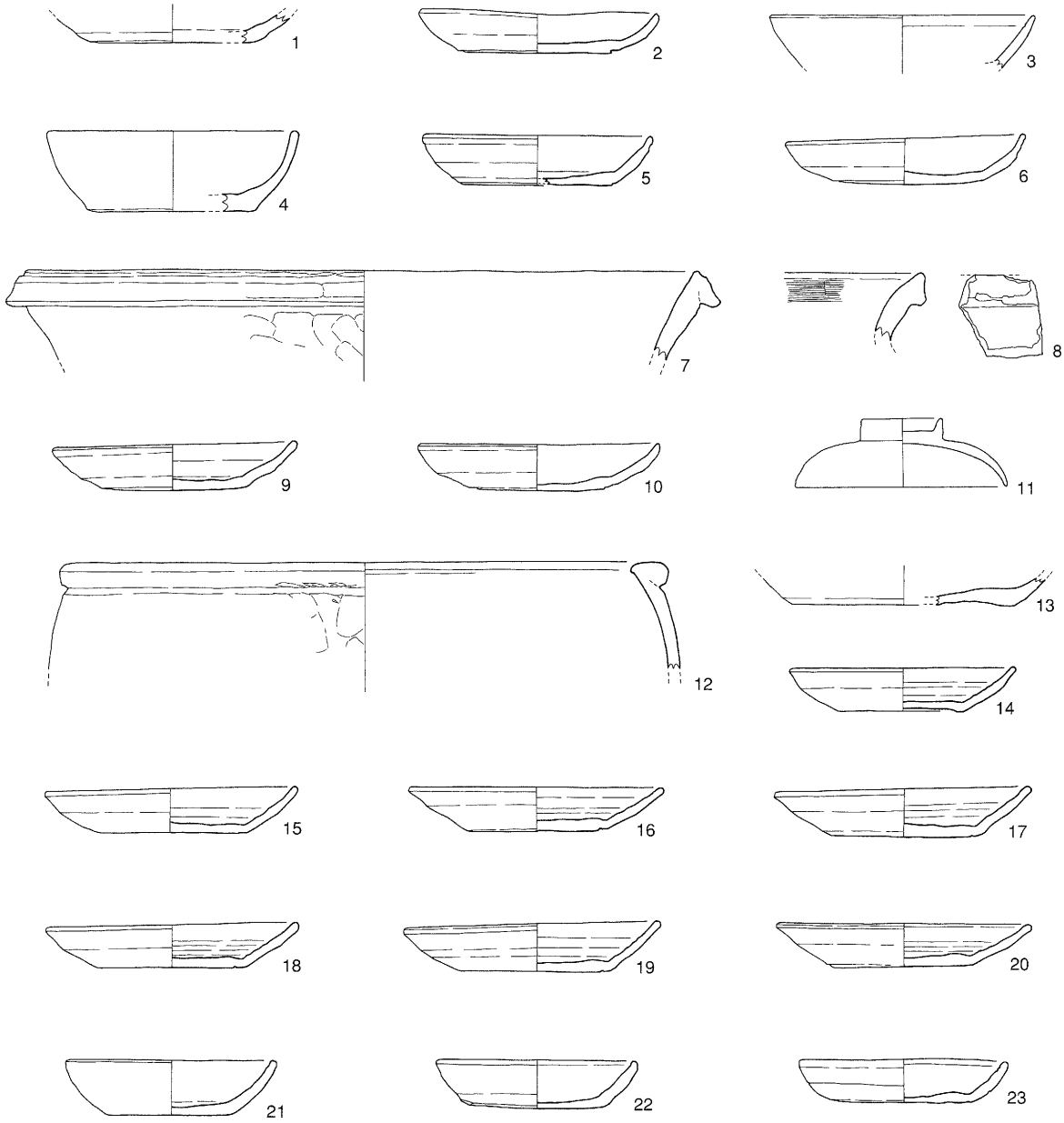
15号墓は調査区の北、グリッドＤ３にある。棺材・人骨共に遺存が悪く、南と西は試掘トレンチで削平されている。検出の平面形状は四角形状で、規模は東西35cm、南北27cmである（掘り方未検出）。人骨は頭蓋骨が検出されたに過ぎない。棺材と人骨以外に出土品はない。第11図右下段の検出状況図は上から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材・(人骨)、つぎに桶棺の底材を検出している。最終時検出の棺材にはタガの痕が見られるため、桶棺は横転して埋設されたことが復元される。

なお、第12図の23は墓出土の土師器であるが、整理段階でどの墓のものかが判断できなかった資料である。

2）井戸：井戸１基を検出している。

ＳＥ01（第５図、図版19）

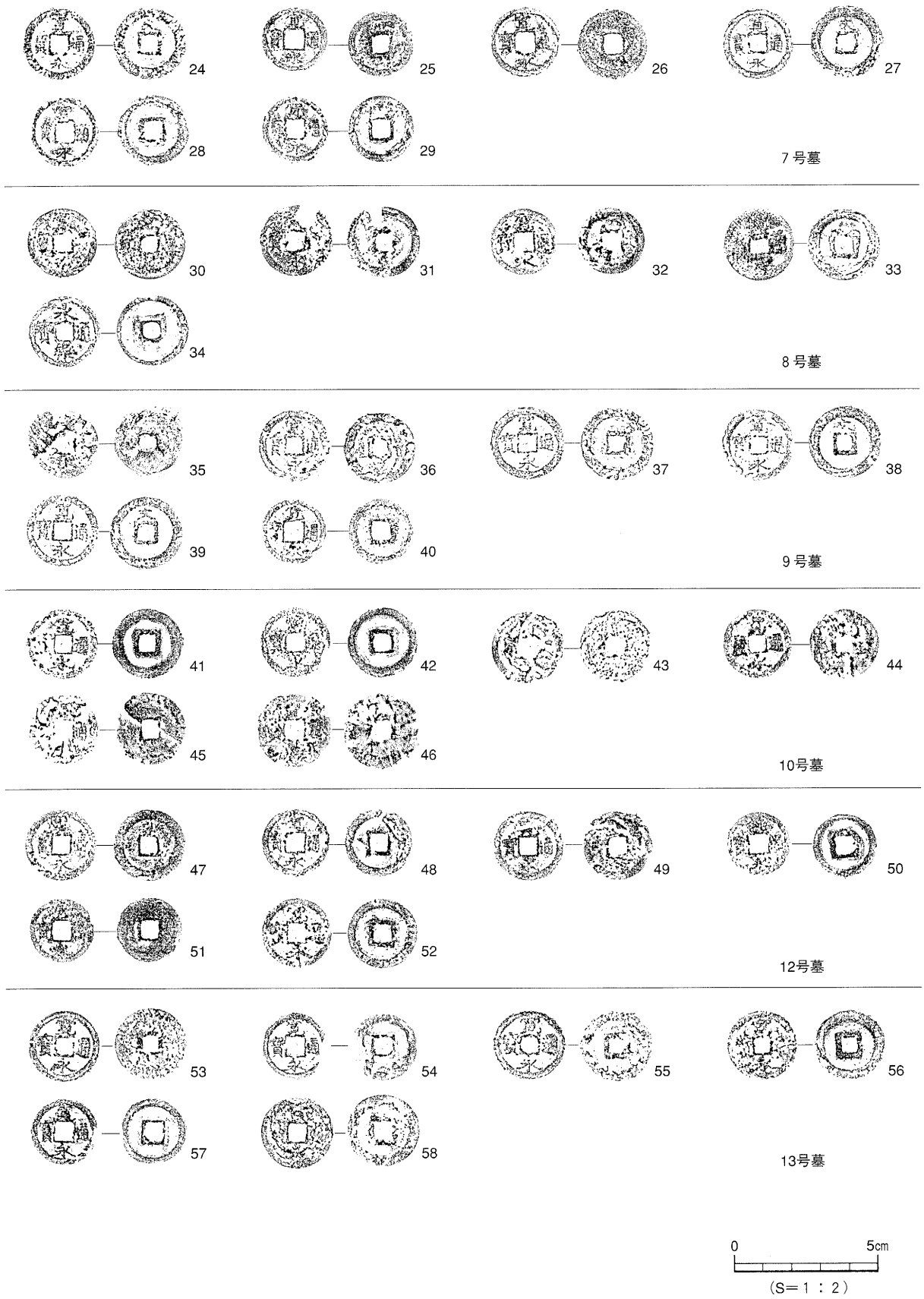
ＳＥ01は調査区の中央、グリッドＣ６にある。平面形状は円形で、規模は径0.74×0.7mである。木質が散乱して検出されている。出土遺物は第14図59・60があり、59は緑色片岩製の男根状石製品である。60は陶磁器片で壺の肩部片である。時期は出土品から近世以降になる。



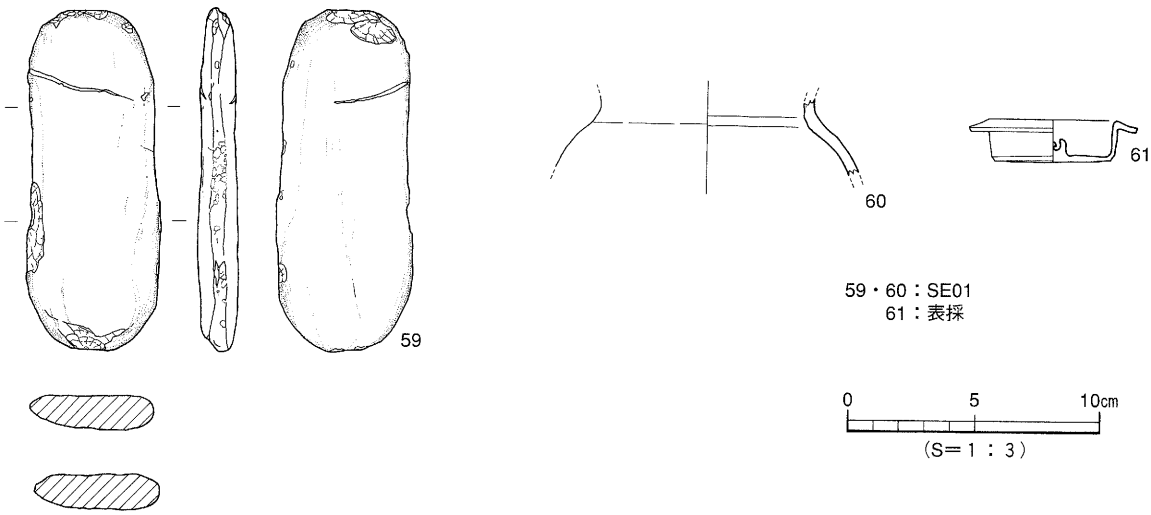
1：２号墓内
2：３号墓内
3：６号墓内
4・5：７号墓棺外
6：９号墓内
7・8：９号墓棺上
9・10：10号墓棺外
11：10号墓内
12：11号墓棺上
13：13号墓棺上
14：13号墓内
15～20：13号墓棺外
21・22：14号墓内
23：墓内（墓No.不明）

0　5　10cm
（S＝１：３）

第12図　墓出土遺物実測図



第13図　墓出土銭貨拓本



第14図　1区出土遺物実測図

3）性格不明遺構：性格付けできない遺構を1基検出している。

ＳＸ１（第5図、図版20）

ＳＸ１は調査区の南、グリッドＤ８～Ｅ８にある。平面形状は隅丸四角形で、規模は長軸0.9m、短軸0.8mである。遺構は木片が散乱状況で検出されている。時期判断できる資料はない。

4）その他の遺物：1区のトレンチからは第14図61の陶磁器の蓋が出土している。日本産で、近世以降のものであろう。

3．2区の調査

(1) 層　位（第15図）

調査地2区は調査地1区の西20mの（やや高い）位置にあり、標高13.4mに立地する。2区の基本層位はⅠ層灰色土、Ⅱ層茶褐色土混じりの灰色土、Ⅲ層灰色土からなり、Ⅱ層では部分的にその下部に茶褐色土が見られる。なお、1区との対応関係はつかめなかった。

(2) 遺構と遺物

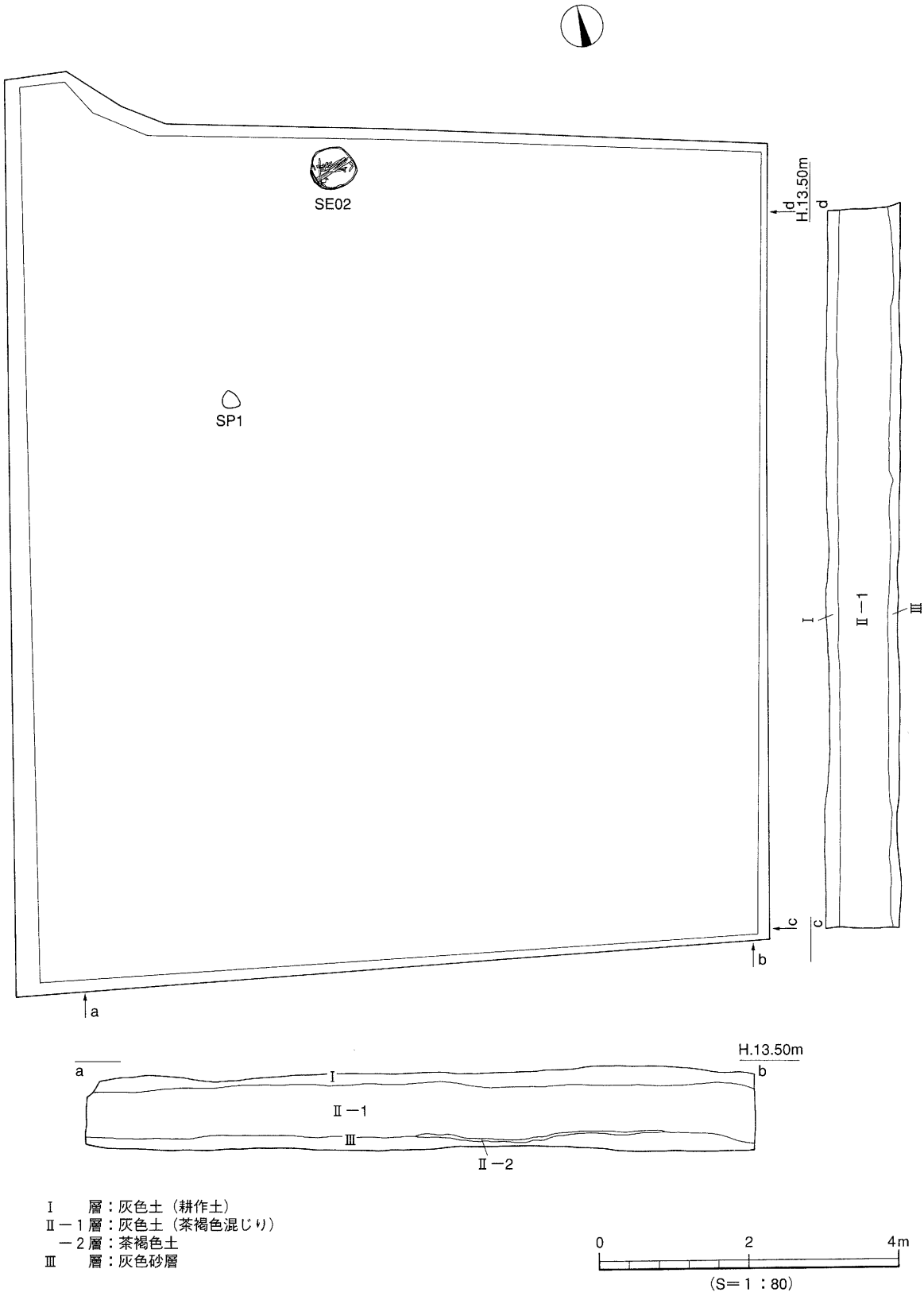
検出遺構は井戸1基、ピット1基である（第15図、図版20）。

1）井戸：ＳＥ02

ＳＥ02は調査区北中央にある。平面形状は円形で、規模は径0.6～0.5mである。井戸枠とその部材が散乱して検出されている。出土遺物は須恵器片1点がある。時期は特定できないが、中～近世とみられる。

2）ピット：ＳＰ１

ＳＰ１は調査区中央のやや北西よりの地点にある。平面形状は概ね円形である。出土遺物はなく、時期は不明である。



第15図　2区遺構配置図・土層図

4．小　結

今回の調査では近世墓と井戸等を確認した。ここでは調査の主体になった墓を取り上げ、まとめとしたい。

近世墓群：今回の調査ではおよそ7.5m²の中に15基の墓を検出した。中近世墓は周囲の松環古照遺跡（岡田　1993）や古照ゴウラ遺跡５次調査地（河野　1996）に見られ、墳墓群を形成することは珍しくはない。ただし、今回は遺存の良好な墓が多く、棺構造や副葬形態等が詳しく明らかになった点で注目される。

棺構造は桶棺（Ⅰ）・箱式棺（Ⅱ）・不明（Ⅲ）に３大別され、桶棺が11基・箱式棺が１基・不明が３基あり、その大多数を桶棺が占めるのである。さらに桶棺11基には埋設に違いが見られ、棺を横転させるもの（Ⅰａ）と、垂直に立たせるもの（Ⅰｂ）とがあり、前者が10基で９割を占め、後者は１基で極めて少ない。桶棺を横転させ埋設する事例は県下でも稀であり、地域性も考えられ継続調査としたい。

方位では、桶棺は棺蓋と頭位とが基本的に一致を見せ概ね北方位をとり、箱棺・不明も判明しているものは北であり、施設の差なく、頭位の北方位指向は明らかである。埋納方法では、遺体はいずれも屈葬であり、顔面が東西のいずれかを向き、東が３基、西が６基で、西が優位である。顔面の西向き傾向の理由は定かでない。

副葬品は土師器・銭貨・漆器椀・木製品があり、土師器は皿ないし坏が15基中10基で検出され、土師器副葬が基調と言える。また、銭貨も６基で見られ、貨幣種による副葬枚数の違いが認められ、寛永通宝で占められるものは６枚一組が基本になり、永楽通宝が入るものは総数が５枚と少ない量となる。出土土師器と銭貨からは墳墓群の時期が比定でき、墳墓群は18世紀代に形成されたと考えられる。また、漆器椀と木器は遺存の善し悪しが出土を左右するが、今回は９基で出土を見ており、より詳しい副葬形態を知る資料が得られている。

さて、人骨については土井ヶ浜人類学ミュージアムに整理と調査を委託依頼し、年齢・性別等の情報を抽出した。結果の詳明は、別冊『宮前川流域の遺跡Ⅱ　分析・写真図版編』に掲載するが、本資料は近世における松山平野の古人骨の基礎的資料になった。

以上から、今回検出の墳墓群は18世紀における松山平野西部の墳墓形態を知る良好な資料と言えるだろう。

岡田敏彦　1993　『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター
河野史知　1996　「古照ゴウラ遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅷ』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

表２　墓一覧

番号	分類	規模（cm）	頭位	顔面方向	出　土　品	備　考	図版
1	Ⅲ	51×30	北	東	土師（破片）・漆器（1）		1・2
2	Ⅲ	67×45	北東	東	土師（破片）	木棺痕跡？	2
3	Ⅰａ	直径57×44・長さ57・深さ10	北東	西	土師（1）・漆器（1）		3・4
4	Ⅲ	34×33	北東				
5	Ⅰａ	直径55×42・長さ40・深さ13	北東	西？	漆器（1）		4～6
6	Ⅰａ	直径57×50・長さ63・深さ７	北東	西	土師（破片）		6・7
7	Ⅰａ	直径57×48・長さ62・深さ７	北		土師（2外）・漆器・銭貨（6）・櫛		7・8
8	Ⅰａ	直径55×43・長さ57・深さ19	北	東	漆器（1）・銭貨（5）		9・10
9	Ⅰａ	直径53×47・長さ62・深さ29			土師（内1・外2）・銭貨（6）		10・11
10	Ⅰａ	直径66×45・長さ60・深さ28		西	土師（外2）・漆器（1）・木器・銭貨（6）		11・12
11	Ⅰａ	直径55×50・長さ62・深さ30		西	土師（外）・漆器・木器		13・14
12	Ⅰａ	直径60×48・長さ65・深さ25			漆器（1）・櫛・銭貨（6）		14～16
13	Ⅰｂ	×45・深さ25		西	土師（内1・外7）・銭貨（6）		16・17
14	Ⅱ	35×30・深さ32			土師（2）・漆器		17・18
15	Ⅰａ	35×27				損傷著しい	18

表３　墓出土遺物観察表　土製品・木製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
1	皿	底径（7.0） 残高　1.2	小片。	回転ナデ	回転ナデ	乳茶色 乳茶色	石（1） ◎	２号墓内	
2	皿	口径 10.1 器高　1.9 底径　6.4	完形品。内湾して、上外方に立ち上がる口縁部。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	淡茶色 淡茶色	石・長（1） 金 ◎	３号墓内	21
3	皿	口径（10.7） 残高　2.4	灯明皿か。	回転ナデ （マメツ）	回転ナデ	淡茶色 淡茶色	石・長（1） 金 ◎	６号墓内 煤付着	
4	坏	口径（10.6） 器高　3.5 底径（6.5）	内湾して、上方に立ち上がる口縁部。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	淡灰茶色 淡灰茶色	密 金 ◎	７号墓外 煤付着	
5	皿	口径（10.0） 器高　2.2 底径（6.6）	２分の１残存。口縁部直下のナデ凹み強し。	坏回転ナデ 底糸切り痕	回転ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長（1） ◎	７号墓外	
6	皿	口径 10.4 器高　2.3 底径　6.5	完形品。口縁端部は面をなす。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	淡乳橙色 淡乳橙色	石・長（1～3） 金 ◎	９号墓内	21
7	鉢	口径（28.8） 残高　3.8	口縁外端部に接して粘土帯を貼り付ける。	口ヨコナデ 胴ナデ	ナデ	暗灰褐色 暗灰褐色	石・長（1～2） 金 ◎	９号墓上	
8	甕	残高　2.0	口縁端部は下方拡張で、ナデ凹む。	ヨコナデ	ハケ	暗灰色 暗灰色	石・長（1～3） 金 ◎	９号墓上	
9	皿	口径 10.5 器高　2.1 底径　6.3	口縁端部はあいまいな面をなす。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	乳茶色 黄褐色	長（1） 金 ◎	10号墓外	
10	皿	口径 10.3 器高　2.1 底径　6.7	完形品。口縁端部は丸い。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 明褐色	石・長（1～3） 金 ◎	10号墓外	21
11	蓋	口径　9.1 器高　2.0 底径　3.4	蓋の可能性あり。	漆塗	漆塗	黒色 黒色	木製品	10号墓内	21 22
12	鍋	口径（26.2） 残高　4.6	口縁外端部に接して、粘土紐を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡褐色 淡褐色	石・長（1） ◎	11号墓上	
13	坏	底径（9.6） 残高　1.2	底部３分の１残存。	坏回転ナデ 底糸切り→すのこ痕	回転ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石（1～2） 金 ◎	13号墓上	
14	皿	口径　9.8 器高　2.0 底径　5.3	灯明皿か。口縁端部はあいまいな面をなす。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長（1～2） 金 ◎	13号墓内 煤付着	21
15	皿	口径 10.8 器高　2.0 底径　6.3	完形品。口縁端部は面をなす。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長（1） ◎	13号墓外	21
16	皿	口径 11.0 器高　2.0 底径　6.0	完形品。口縁端部は面をなす。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長（1） 金 ◎	13号墓外	21
17	皿	口径 11.1 器高　2.4 底径　6.3	完形品。口縁端部はあいまいな面をなす。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長（1～2） ◎	13号墓外	21
18	皿	口径 10.6 器高　2.0 底径　6.4	完形品。口縁端部はあいまいな面をなす。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	明茶色 明茶色	石・長（1～2） 金 ◎	13号墓外	21
19	皿	口径 11.1 器高　2.3 底径　6.5	完形品。口縁端部はあいまいな面をなす。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長（1） 金 ◎	13号墓外	21
20	皿	口径 11.0 器高　2.0 底径　6.0	完形品。口縁端部はあいまいな面をなす。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	淡褐色 淡褐色	長（1～3） ◎	13号墓外	21
21	皿	口径　9.1 器高　2.5 底径　5.3	完形品。口縁部は内湾して上方に立ち上がる。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長（1） 金 ◎	14号墓内	21
22	皿	口径　8.4 器高　2.2 底径　5.8	完形品。口縁部は内湾して上方に立ち上がる。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	淡茶色 乳茶色	石・長（1～2） 金 ◎	14号墓内	21
23	皿	口径　9.1 器高　1.9 底径　6.1	完形品。口縁部は内湾して上方に立ち上がる。	坏回転ナデ 底回転糸切り	回転ナデ	淡乳褐色 淡乳褐色	石・長（1） ◎	墓不明	21

表４　墓出土遺物観察表　銭貨

番　号	貨銭名	背文字	法　量			備　考	図　版
			外径(cm)	内径(cm)	重さ(g)		
24	寛永通寶	丈	2.5	0.6	3.13	７号墓	22
25	寛永通寶		2.2	0.6	2.46	７号墓	22
26	寛永通寶		2.5	0.7	2.39	７号墓	22
27	寛永通寶	丈	2.6	0.6	3.48	７号墓	22
28	寛永通寶		2.4	0.6	2.79	７号墓	22
29	寛永通寶		2.3	0.6	1.96	７号墓	22
30	寛永通寶		2.4	0.6	3.33	８号墓・文字不明瞭	22
31	寛永通寶		2.5	0.6	2.21	８号墓・一部欠損	22
32	寛永通寶		2.3	0.6	1.92	８号墓	22
33	寛永通寶		2.5	0.7	3.08	８号墓	22
34	永樂通寶		2.5	0.6	3.46	８号墓	22
35	不　明		2.3	0.6	2.43	９号墓	22
36	寛永通寶		2.5	0.6	3.66	９号墓	22
37	寛永通寶		2.5	0.6	4.94	９号墓	22
38	寛永通寶	丈	2.6	0.6	3.69	９号墓	22
39	寛永通寶	丈	2.5	0.6	3.39	９号墓	22
40	寛永通寶		2.2	0.6	2.79	９号墓	22
41	寛永通寶		2.5	0.5	3.07	10号墓	22
42	寛永通寶		2.5	0.6	2.13	10号墓	22
43	寛永通寶		2.5	0.6	3.41	10号墓・文字不明瞭	22
44	寛永通寶		2.5	0.6	2.78	10号墓	22
45	寛永通寶		2.5	0.6	2.06	10号墓	22
46	寛永通寶		2.6	0.6	2.60	10号墓	22
47	寛永通寶	丈	2.5	0.6	2.80	12号墓	22
48	寛永通寶		2.3	0.6	2.97	12号墓	22
49	寛永通寶		2.3	0.6	1.93	12号墓	22
50	寛永通寶		2.2	0.6	2.12	12号墓	22
51	寛永通寶		2.3	0.6	1.88	12号墓	22
52	寛永通寶		2.5	0.6	3.01	12号墓	22
53	寛永通寶		2.5	0.6	3.85	13号墓	22
54	寛永通寶		2.2	0.6	1.74	13号墓	22
55	寛永通寶		2.4	0.5	3.43	13号墓	22
56	寛永通寶		2.4	0.5	3.44	13号墓	22
57	寛永通寶		2.2	0.6	3.14	13号墓	22
58	寛永通寶		2.5	0.6	2.49	13号墓	22

表５　SE01出土遺物観察表　石製品

番　号	器　種	残　存	材　質	法　量				備　考	図　版
				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
59	男根状石器	完存	緑色片岩	13.4	5.0	1.5	210		

表６　１区出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調　整		色調(外面)(内面)	胎　土 焼　成	備　考	図版
				外　面	内　面				
60	壺	残高　2.9	小片。	施釉	回転ナデ	暗黄褐色 灰褐色	密 ◎	SE01 陶磁器	22
61	蓋	口径　5.0 器高　1.7 底径　4.6	完形品。つまみは小さく、中央部が凹む。	㊐施釉 ㊍回転ナデ ㊎回転糸切り	施釉	灰色 灰色	密 ◎	陶磁器	22

第３章　大峰ヶ台遺跡６次調査地

１．試掘調査

(1)　概　要（第16・17図）

松山総合公園整備に伴う調査である。この公園整備にあたっては、1985（昭和60）年以降、大峰ヶ台丘陵上の各所において調査が行われたが、本調査は1988（昭和63）年、メインエントランス建設予定地において実施された調査である。調査は、まず、同年５月から７月の間、第17図に記された範囲に合計18本のトレンチを設定して遺跡の有無を確認するところから始めた。対象地は仮にＡ調査区～Ｃ調査区の３区にわけて確認を行った。Ｔ１～Ｔ５を設定したエリアがＡ調査区、その西のＴ６・７を設定した部分がＢ調査区、さらにその北のＴ８～Ｔ18による確認範囲がＣ調査区となっている。これらのトレンチのうち、Ａ調査区に設定された５本のトレンチでは、第18図に示された刀装具をＴ２表土中から出土した以外は、僅かな陶磁器片が採集されたのみで、顕著な遺構も存在しなかった。Ｂ調査区においては主に弥生土器を包含する土層が設定されたトレンチのいずれにおいても確認されたため、この部分については本格調査が必要と判断された。また、Ｃ調査区でもほとんどのトレンチは無遺物であったが、唯一Ｔ15において主として弥生土器を包含する黒色シルトの溜まりが検出されたので、このトレンチ周辺を拡張して調査を行うこととした。それぞれのトレンチにおける試掘時の出土遺物は第18・19図に示している。

(2)　試掘調査出土遺物（第18・19図、図版45）

Ｔ２出土遺物

鍔（１）　Ａ調査区に設定したトレンチＴ２表土近くからの採集品である。倒卵形を呈する鉄製の鍔で、櫃孔は小柄と茎櫃孔のみである。表面に大小の円形や隅丸三角形を基調とした文様が施されている。

Ｔ６出土遺物

弥生土器（２～７）　２、４はそれぞれ中期の高坏と甕、その他は後期の高坏、壺、甕である。

土師器坏（８）　底部ヘラ切りの円盤高台坏底部片。

Ｔ７出土遺物

弥生土器（９・10）　いずれも中期中葉の土器。９は大型壺の頸部で、多重の断面三角形突帯に棒状浮文を組み合わせたもの、10は鋤先状を呈する高坏口縁部で、端部に刻み目を持つ。上面から斜め下方に穿孔されている。

須恵器坏蓋（11）　天井部と口縁部境に稜を持つ蓋、口端部は丸く収める。

Ｔ15出土遺物

弥生土器（12～15）　12、13は、それぞれ中期中葉の高坏口縁部とジョッキ形土器底部片。14、15は後期の壺と甕の底部片である。

２．遺構と遺物

(1)　Ｂ調査区の調査（第17図）

調査地は、大峰ヶ台丘陵の東麓斜面にあたり、東西方向に長い谷状地形を呈している。この谷地形を利用して、江戸時代末期の弘化２年には土盛りによる堤を築いて溜め池が構築されており、堤構築に伴う紀年銘入りの石碑が現在も残されている。調査地は、この堤直下の水田地で、その現況は、南

第16図　調査地位置図

第17図　試掘調査トレンチ配置図

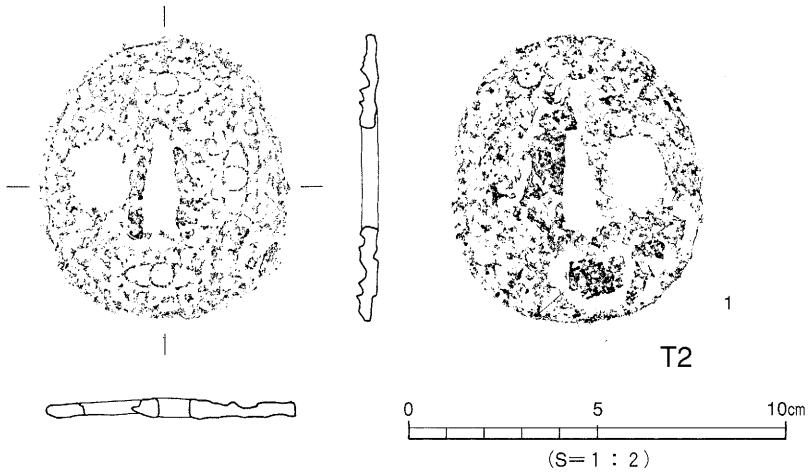
北方向に走る生活道路によって東西に二分され、段状に造成された二枚の水田となっている。この二枚の水田は、道路により平面距離でおおよそ６ｍ隔てられ、また耕作面のレベルで２ｍの比高差がある。調査は、この調査区を含めたエントランス予定地の造成工事と併行で行われたため、造成工期とのかねあいから、西側の高い一枚をＢ１区として先に完了して工事に明け渡した後、低い東側の一枚をＢ２区として引き続き行った。なお、生活道路は調査中も生き続けたため、この部分の掘削は行い得なかった。したがって、両調査区を通した土層断面は観察不能ということになり、以下の報告で、それぞれの調査区の層名は第何層として同じであっても、あくまで土色・土質によって決定しているのみであって、厳密には両調査区を通じてつながった同一層であるとの確証があるわけではない。しかし、出土遺物の時期、上下層との層位関係からみれば、きわめて整合性は高いものと考えている。いずれの調査区でも、谷に溜まった状態で弥生土器を主とした遺物が出土した。

１）Ｂ１区の調査（第20～22図・図版23～29）

西側水田の調査で、遺構として柱穴が数基検出されたほかは、包含層に伴う遺物の調査である。先述のように、調査区中央部には西方向から東方向へ開く谷が存在し、何枚かの水田面の下層に弥生遺物を包含する黒色系のシルトが溜まっているといった状況である。第１～５・13層は水田耕作土や床土で、当然のことながら水平基調の層であり、第６層以下の層は、特に谷中央付近の縦断面Ｂ～Ｂ′でみると斜面上方の西方向から流下した堆積であることがわかる。斜面下方東側部分では地山面まで掘りきれない部分が残ったが、横断面Ｄ～Ｄ′では一応トレンチを掘り抜いて地山面を確認している。Ｂ～Ｂ′の最東端の下層に第11層として不自然に盛り上がったように見える層は、堆積の過程で形成された北西から南東に走る溝の埋土、暗褐色～黒色の砂であり、この溝は横断面Ｄ～Ｄ′で確認することができる。以下、各層からの出土遺物について解説する。

第５層出土の遺物（第26・27図）

第５層は、現在の水田下面にかつて存在した水田の耕作土で、耕作の際に下層から混入した遺物が若干出土している。

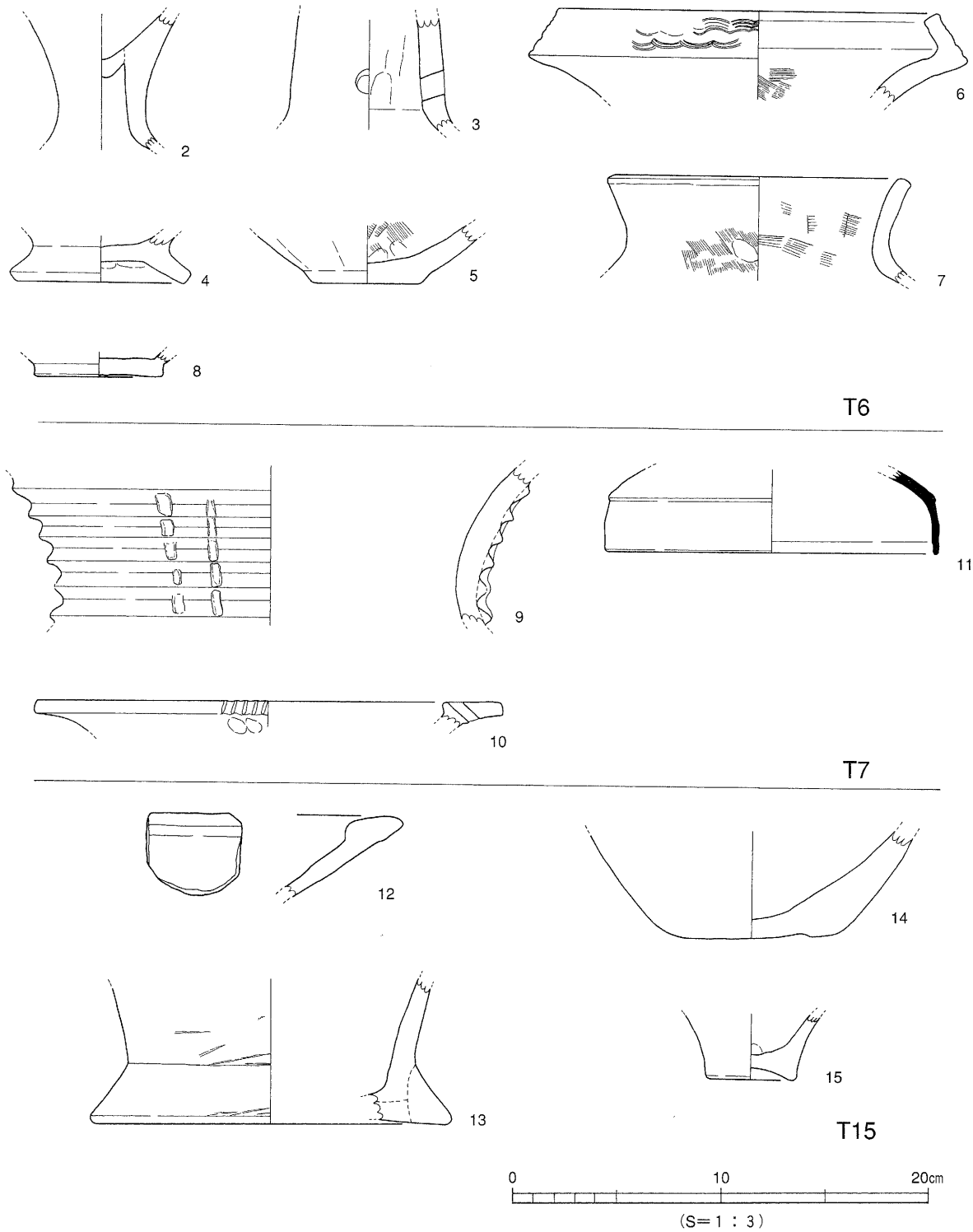


第18図　試掘調査出土遺物実測図(1)

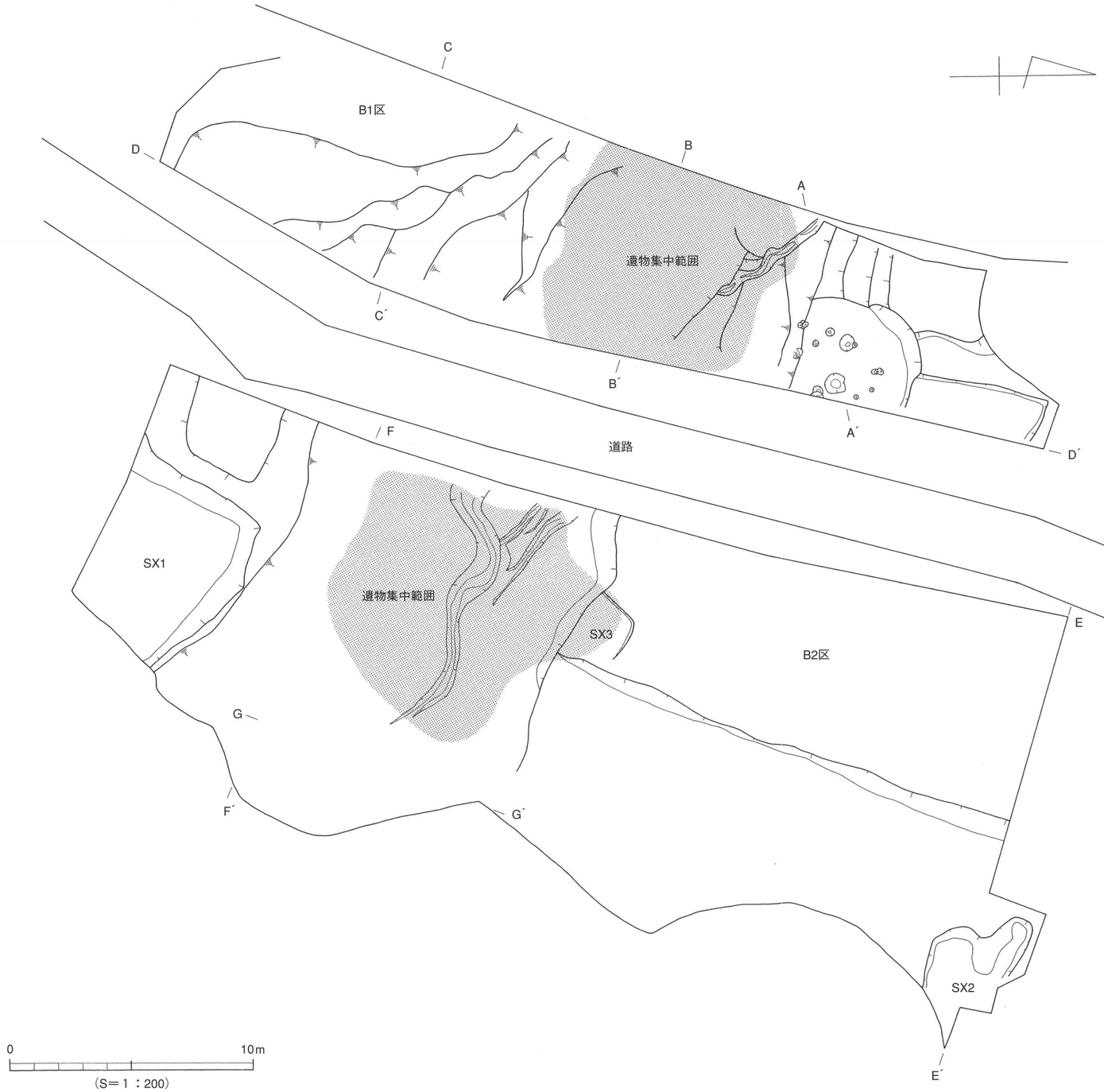
弥生土器（第26図）

壺（16・17）　16、17は中期中葉の壺口縁部、16は口端面の上下端に刻み目を持つ。17の内面には渦紋状の突帯が巡っている。

甕・鉢（18～21）　18は後期の甕口縁部、19、20は後期の甕底部、21は鉢底部か。



第19図　試掘調査出土遺物実測図(2)



第20図　B調査区全測図

石製品

敲　石（22）　砂岩の円礫を敲石として利用しており、複数の箇所に使用痕が確認できる。

石　鏃（23）　小型の凹基三角形鏃で、赤色チャートを素材としている。僅かに尖端を欠き、現況で重量0.57ｇを量る。縄文石鏃か。

須恵器（第27図）

蓋（24）　坏もしくは短頸壺の蓋と考えられる片、天井部から鈍い稜を持って屈曲し、外反気味の口縁部が続く。

壺（25）　断面三角形の低く薄い高台を持つ小型壺の底部片。

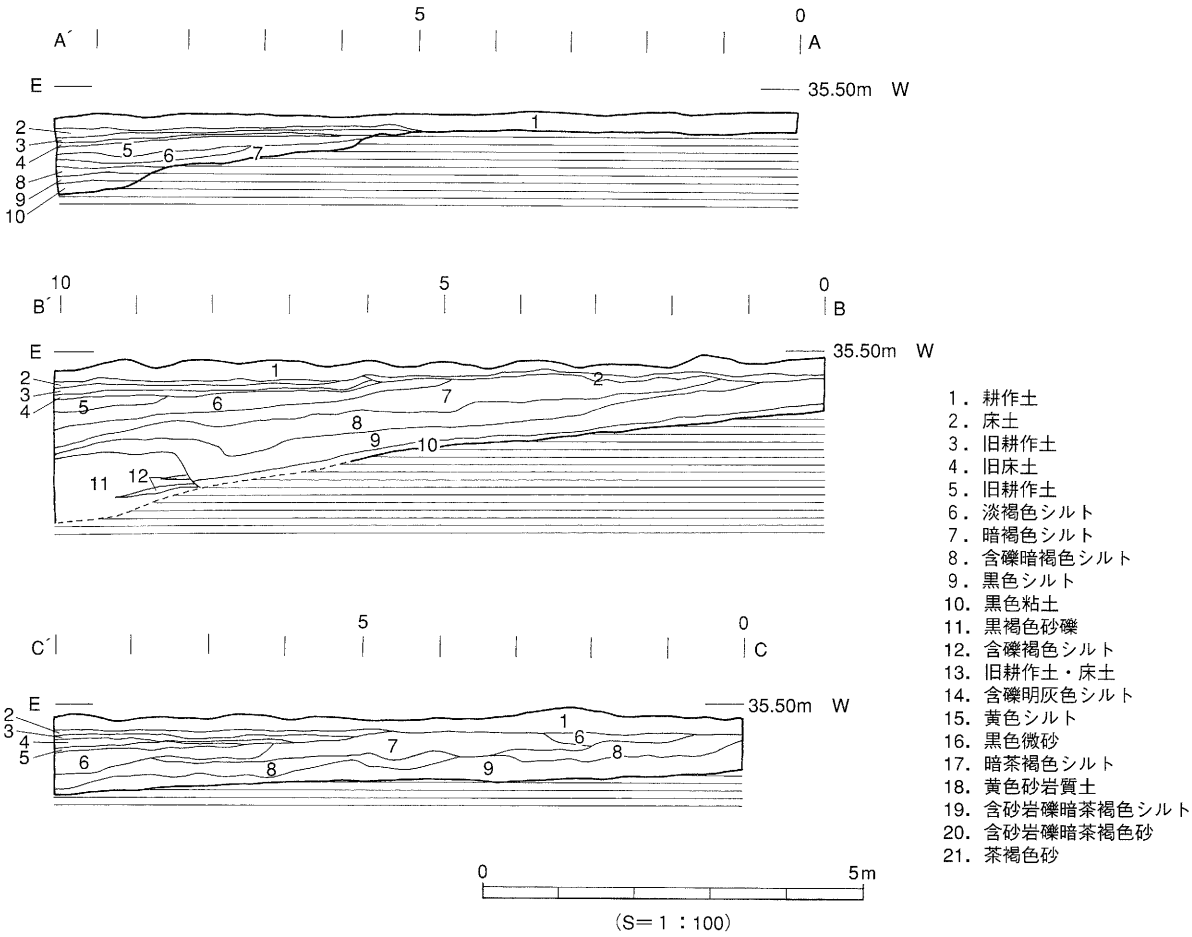
陶　器

壺（26）　直立気味の短い口頸部、端部を外反させ若干肥厚して丸く収めるが玉縁状というほどにはならない。焼きは須恵器とかわらない。

擂　鉢（27）　備前焼擂鉢口縁部の片。上方に立ち上がった口縁部を持ち、体部内面には太い擂り目が２条まで確認できる。

第６層出土の遺物（第28図）

Ｂ調査区の調査で弥生後期の遺物を大量に出土したのは後述する第７層であるが、その上位の第６



第21図　Ｂ１区東西断面土層図（A～A´、B～B´、C～C´）

層からも僅かながら後期の土器を出土している。

弥生土器

壺（28～33）　28～30は複合口縁壺の口縁部片である。28には粗い櫛歯状工具による波状文、30には多重沈線が施されている。31は広口・短頸壺の口頸部、32は小型直口壺の底部と思われる。

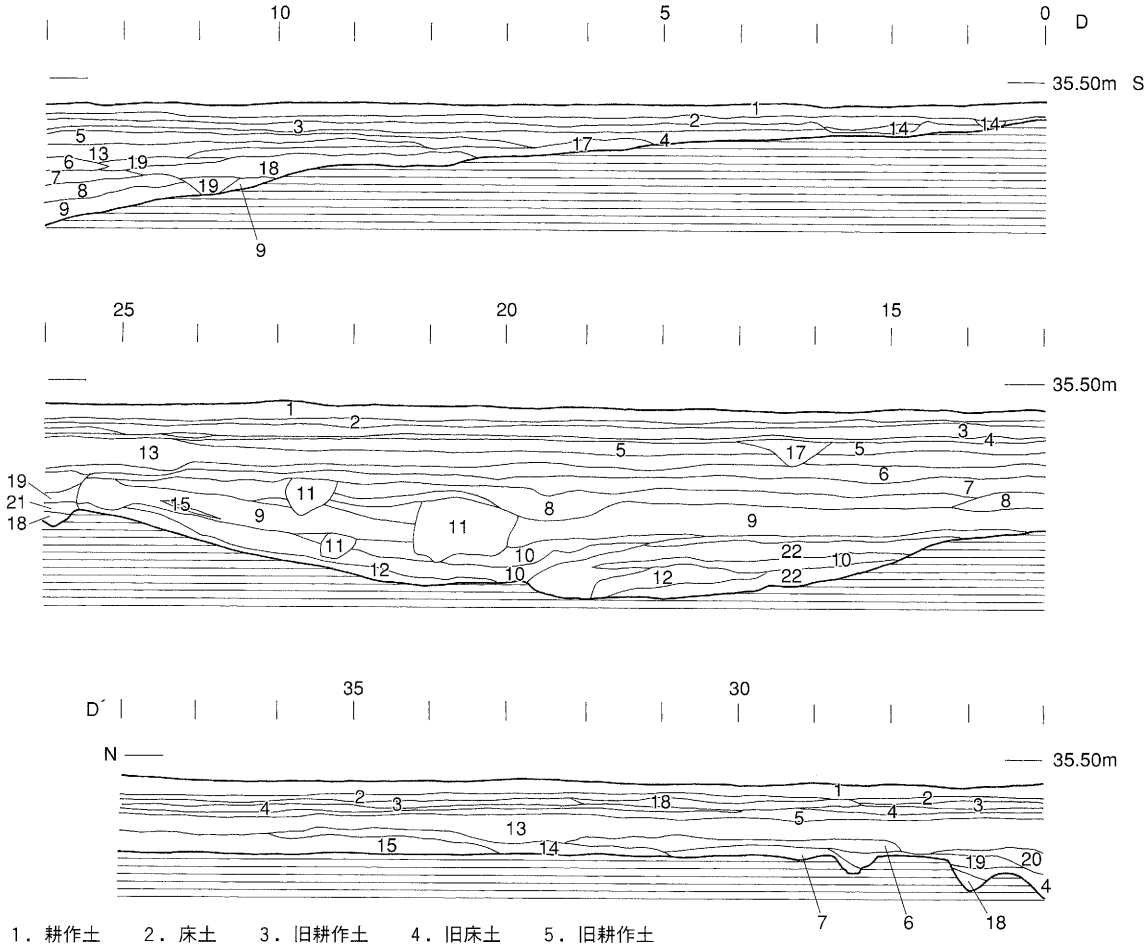
支　脚（34）　中空筒状の支脚の裾部片。

第７層出土の遺物

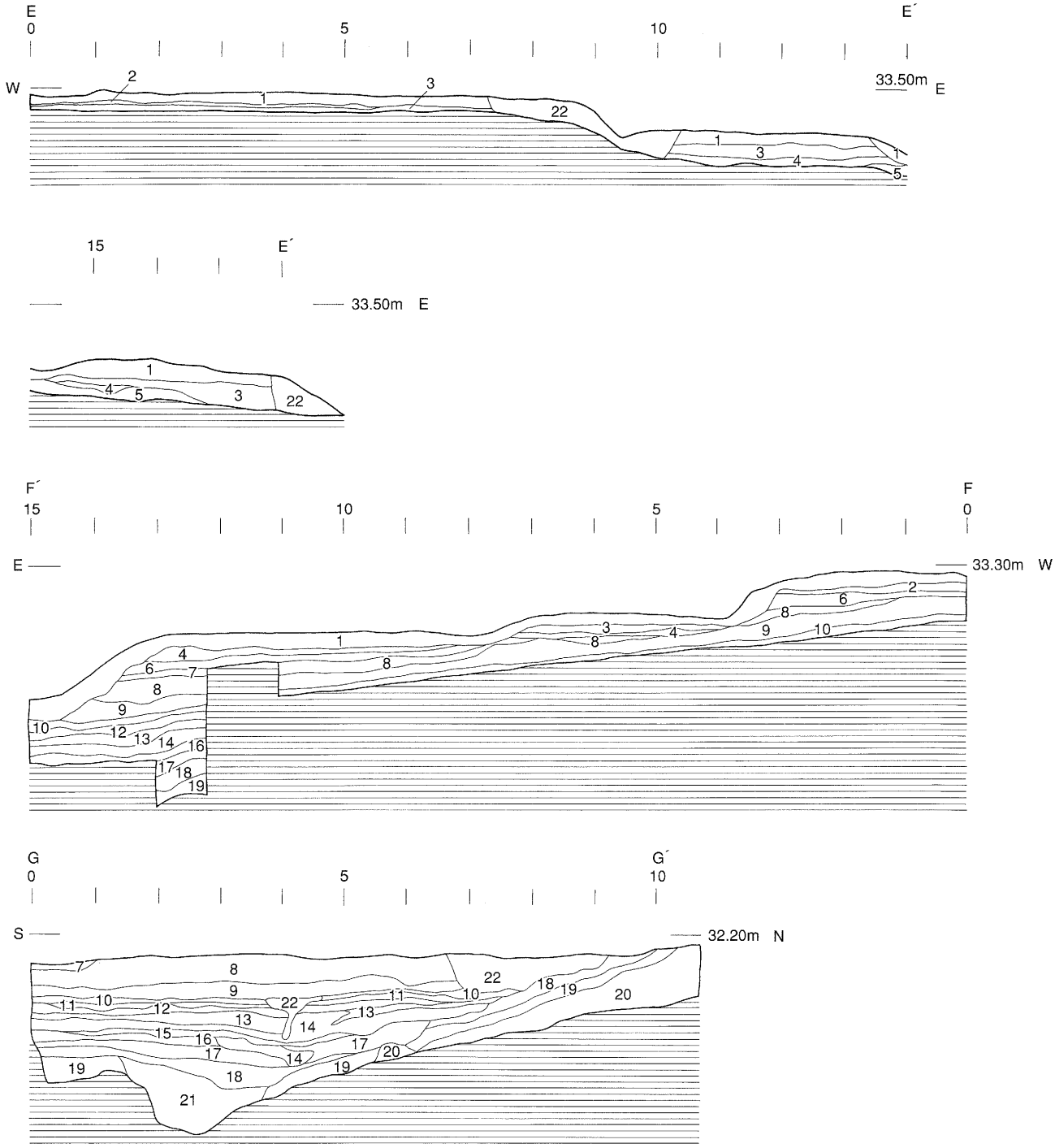
第７層の遺物には弥生時代後期のものが多いが、一部中期のものも含まれている。

弥生後期の土器（第29～55図、図版33～38）

甕（35～85）　35～40は、口頸部から胴部上位間での片で、多くのものが内面に稜を持って屈曲し、口端面に平坦な面を有している。内外面の調整には刷毛目を多用している。41～43は口頸部付近から底部までの小型のものである。43では判然としないが、41や42では上述の口頸部同様、内面に稜を持って頸部で屈曲し、また43も含めて調整に刷毛目を多用するところも同様である。底部は41のように



第22図　Ｂ１区南北断面土層図（D～D´）



1．耕作土　2．床土　3．旧耕作土　4．旧床土　5．旧耕作土
6．淡褐色シルト　7．暗褐色シルト　8．含礫暗褐色シルト
9．黒色シルト　10．黒色粘土　11．含礫黒色シルト　12．黄色シルト
13．黄褐色シルト　14．砂礫　15．含砂礫黒色シルト　16．含礫黄褐色砂
17．黄褐色砂　18．含黒色シルト黄褐色砂　19．茶褐色シルト
20．黄色砂岩質土　21．18＋砂礫　22．攪乱

0　5m
（S＝1：100）

第23図　B２区土層図（E～E´、F～F´、G～G´）

シャープさのない平底、42のように小さな平底、43ではほとんど丸底に近い平底となっている。44～85は胴部以下から底部の破片である。底部形態にはいくつかのタイプがあり、44～48にみられるような、コイン大の平底を呈するもの、49～51に代表されるような比較的しっかりした平底になるもの、74～76のようにほとんど丸底に近い平底のもの、あるいは77～85のようなやや突出した形状の平底もしくは窪み底になるものがある。

鉢（86～111）　やや器高の低い甕状の形態の86～91のようなものを含めて鉢としている。これらは、器面調整も基本的には甕と同様である。92や93は、当初から鉢という器種を意識して製作されたもので内面に磨きを施す点でも、他のものとは異なっている。底部では、ややくびれを持った窪み底状を呈するものをはじめとして、94～109のような底部を鉢のものとして扱っている。その他、110のような単純な器型のもの、111のようなミニチュア土器も鉢としてここで扱った。

壺（112～220）　112～131は複合口縁壺の口頸部。112を代表して口縁部外面のタガが発達せず、直線的に口縁が立ち上がるもの、116にみられるように内湾気味に立ち上がるもの、また、120のように外反しながら立ち上がるものがある。123～130は屈曲部外面のタガが発達しこの部分に面を持つもので、これらのうちにも口縁の立ち上がりには３とおりのものがある。131では短い口縁が直上に立ち上がっている。口縁部外面に施文を有するものでは、櫛歯状工具による波状文やこれに沈線を組み合わせたものが多い。頸部突帯を持つものはヘラ描きによる斜格子文を施している。132・133は口縁端でやや開くが、直口気味の壺口頸部。134・135は大型長頸壺である。両者とも口縁がラッパ状に大きく開き、134では口端部を外下方に折り曲げている。頸部には断面三角形の、無文の細い突帯が巡る。135の口端面には２段の竹管文が巡り、さらに小判状の浮文を数ヶ所に配している。頸部には斜格子を刻んだ突帯を持ち、その上位に４条のヘラ描き沈線が巡る。こういった、大型・中型壺の底部は、基本的には142～179にみられるような、立ち上がりの鈍い平底であるが、180～185のように、若干突出した小さな平底になるものもある。また、191～198のようにほとんど丸底に近いものもあり、底部形態のバリエーションとしては甕に通じるところがある。

200～205は、小型の直口もしくは広口壺で、206～214はその底部と考えられるものである。コイン大の平底にやや長胴の胴部を持つ。底部のみでは小型の甕と区別がつきにくいが、外面の調整が比較的入念なものを壺として取り扱った。215～219は、扁球形の胴部を持つ中・小型品で、薄く小さな円板を貼り付けたような底部形態をなすものが多い。

器　台（221～229）　円孔を穿たれた円柱状の胴部から受部・裾部が開く形態のもので、228のような小型品から中型品、225のような比較的大型のものがある。大型品の227では円孔と多重沈線を組み合わせている。

高　坏（230～249）　230はエンタシス状の柱部を持つ形態の高坏と考えられるもので、上下方、特に下方に拡張された端面には、棒状工具による１条の沈線と波状文を組み合わせた施文がなされている。その他の坏部は、外面に稜を持って口縁部が強く外反するものである。脚部には236～239のような比較的底脚のものと、その他の円孔を持った高い柱状になるものがある。

支　脚（250～268）　大きく３とおりの形態のものがある。250は小型のもので、低い円柱の上面の一端をつまみ上げたような形態のものである。257～265は中空の円柱をＵ字状に切り欠いて受部としたもの、266～268は角状の受部を持つものである。

第24図　Ｂ１区遺物出土状況

第25図　Ｂ２区谷部遺物出土状況

弥生中期の土器（第53～55図、図版37・38）

甕（269～298）　269～271は、内面に稜をもって口縁部を強く折り曲げるもので、頸部突帯や口端部刻み目などの施文を持たないものである。272～278は、頸部に刻み目突帯を持つもので、なおかつ口端部にも刻み目を施される274・275がある。278の二段の突帯のうち上位の刻み目は爪形のように小さく、下位のものは押圧による大きな刻み目と、上下で異なっている。底部には稜をもってシャープに立ち上がる平底と、くびれの上げ底になるものとのふたとおりがある。

壺（299～311）　口縁部には端面有文のものと無文のものがある。301と303が有文で、端部を下方にやや拡張し、ヘラ描きの斜格子文を施す。無文のもののうち、300は大きく開いた口縁部内面に円形浮文を貼り付けられている。底部は、シャープな平底あるいは僅かな窪み底で、外面をよく磨かれるものが多い。

石器・石製品（第56・57図、図版38）

窪み石（312）　扁平な砂岩の円礫の両面に敲打による深い窪みがみられる。また、側面の一部に敲打痕を認めることができる。

敲石・磨石（313・314）　313は、円柱状の砂岩転石を敲打に使用したもので、両側端をはじめとする各所に敲打痕跡がみられる。重量464ｇを量る。314の磨石は花崗岩製である。

石　鏃（315）　尖端部を欠くが、現況重量2.49ｇを量る比較的大型の凹基打製鏃、サヌカイト製。

石　斧（316）　緑泥片岩を素材とする磨製石斧片。柱状片刃石斧の一部と考えられる。

砥　石（317・318）　317は方柱状の蛇紋岩を砥石として利用したもの、破損しているが、２面に砥面が確認できる。318は砂岩の砥石片で、通常の砥面のほか側面に筋砥石として利用された痕跡が残っている。

第６・７層出土の遺物（第58図）

第６～７層出土であることは確実であるが、どちらに属するとも判定できない弥生土器が若干あるので、ここで取り扱う。

壺（319～323）　319は中期の底部、その他は後期の壺底部と考えられる。

甕・鉢（324～331）　中期後半あるいは後期初頭と思われる、くびれの上げ底の甕底部325を除いた、頸部324や底部はすべて後期のものである。330・331は鉢の底部であろう。

高　坏（332）　後期の高坏脚部片。互い違いに配された２段の円孔を持つ。

第９層出土の遺物

第９層からの出土遺物は弥生時代中期中葉を主とした遺物群である。

弥生土器（第59～61図、図版39）

甕（333～348）　口頸部には、無文のもの333、頸部突帯のみを持つもの334・335、頸部突帯と口端部刻み目を持つもの336・337がある。頸部突帯は、いずれも押圧による大きな刻み目、口端部刻み目は細かい刻みとなっている。底部には、くびれの上げ底となる338～345と346～348のような平底のふたとおりがある。

壺（349～365）　口頸部には、垂下して拡張した端面に、細い櫛歯状工具で斜格子文を施す349のようなものや、短く開く口縁部と断面三角形の頸部突帯を持つ351や、押圧による刻み目突帯を持つ

354などがあり、これらよりやや下って凹線文を持つ中期後半の353がある。底部は通常の平底と、やや突出した平底のふたとおりがある。胴部中位まで確認できる355は、安定感のある平底に、算盤玉のように胴部中位で強く屈曲する特異な形態をなしている。

高　坏（366・367）　口縁部、柱部ともに小破片で、特に366の口縁部には口径に不安があるが、形態としては口端部を内外に拡張して水平面をつくるタイプである。

石器・石製品（第61図、図版39）

石　斧（368）　緑泥片岩製扁平片刃石斧の基部片、各面ともに入念に磨かれている。

剥　片（369）　サヌカイトの横長剥片。

第７～９層出土の遺物（第62図）

第７層から９層までの間の出土で、層位の特定ができない土器群である。所属する層位から、弥生時代中期のものと後期のものが混在している。

弥生中期の土器（370～376）　370～374は壺、口縁部370は端部をやや拡張した無文のもの、底部は平底もしくはくびれの上げ底である。

弥生後期の土器（377～382）　壺377～379のうち、口頸部377は、短い筒状の頸部から短い口縁部が開く、やや特異な形状をなす。底部379は、７層の200～205のような小型の直口もしくは広口壺のものである。380～382の甕底部には、小さな平底のものと低い上げ底、窪み底のものがある。

第９～10層出土の遺物（第63・64図）

第９層も含めてこれ以下の層から出土する遺物は、基本的に弥生中期のものである。

弥生土器

甕（383～387）　383・384は無文のもの。口縁部は、内面に稜を持って強く折り曲げられる。385～387は圧痕文突帯を持つもので、うち、385、387は口端部刻み目を施されている。

壺（388～400）　口縁部388～392は、端部を下方に拡張するもので、有文のものにはヘラ描斜格子文や山形文を端面に持つもの、また、端面は無文で、端部上端を刻む392のようなものがある。胴部片には、円形浮文を貼り付けた大型壺の肩部396や、これもまた大型壺で、刻み目を持った断面三角形の多重突帯を持つ胴部などがある。

ジョッキ形土器（401）　内面に幅広の肥厚帯を持ったジョッキの口縁部片。

石器・石製品

石　鏃（402）　全長3.6cm、最大幅1.5cm、重量2.75ｇを量る凸基打製鏃、サヌカイト製。

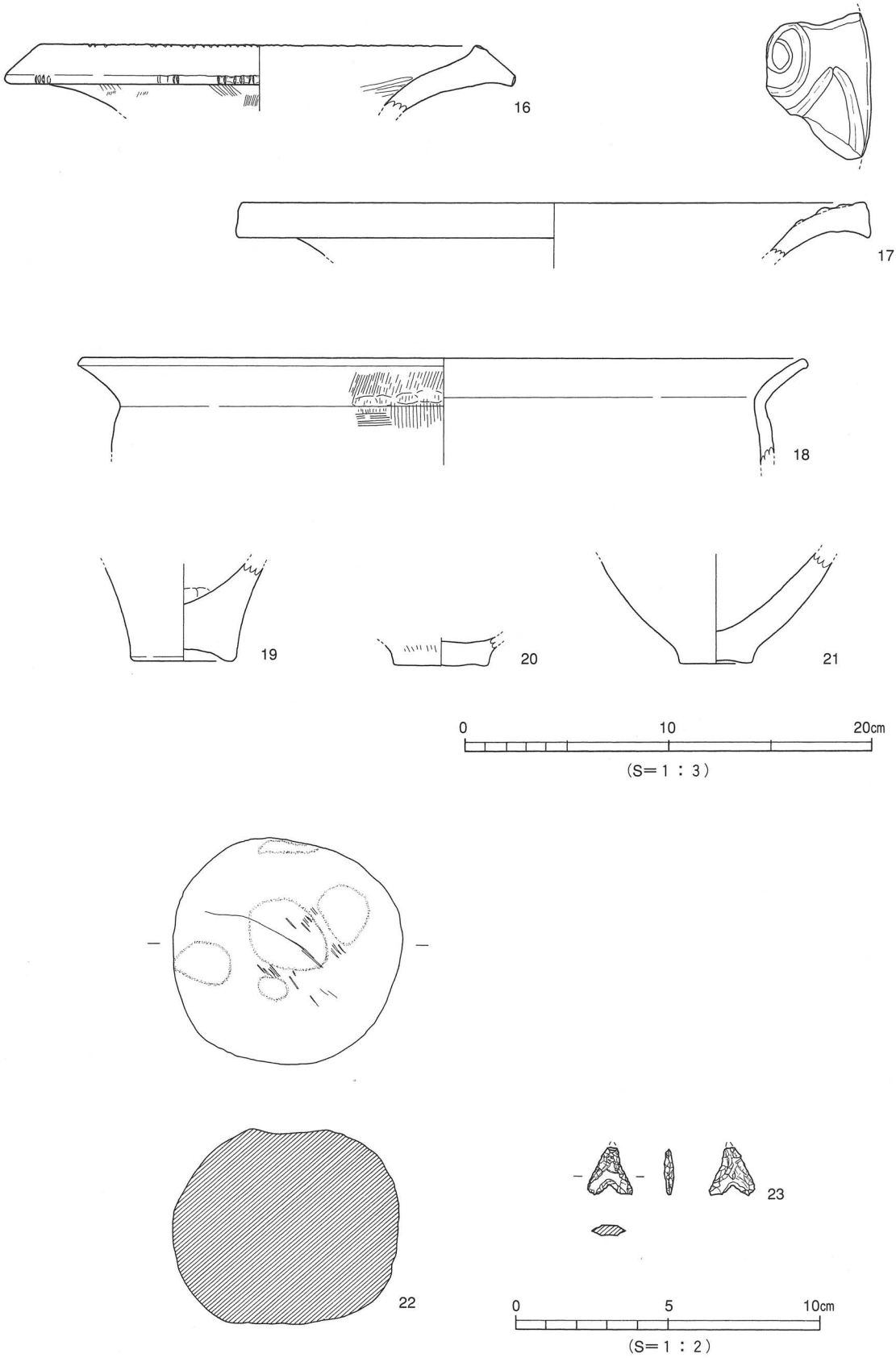
剥　片（403）　サヌカイトの剥片、石鏃未製品か。

第11層出土の遺物（第65～67図、図版40）

８層の下位で、９層やそれ以下の層を切り、東西に走る３条の溝状に検出された砂層を11層として扱っている。出土するものは、以下のような弥生時代中期中葉のものがすべてであり、このことからすると８層以下の層は、この11層も含めてかなり短期間に堆積したものと考えられる。

弥生土器

甕（404～408）　口頸部には無文のものと頸部突帯を持つものとがある。２点ある底部は、両者と



第26図　B１区第５層出土遺物実測図(1)

もくびれの上げ底である。

壺（409～419）　壺口縁部にも無文のものと有文のものがあり、有文のものは下方に拡張した端面にヘラ描山形文を施したり端面は無文であるが、端部上端を刻む410のようなものがある。

高　坏（420）　浅い椀型の坏部、口端部は拡張はされないが上端に水平な面を持つ。

ジョッキ形土器（421）　中実の把手片、一端の接合部が遺存している。

石器・石製品（第67図、図版40）

窪み石（422・423）　ともに砂岩の転石の両面を用いている。

石　斧（424・425）　424は柱状片刃石斧の基部付近の片、425は石庖丁を扁平片刃石斧に転用したものの破損品である。いずれも緑泥片岩を素材としている。

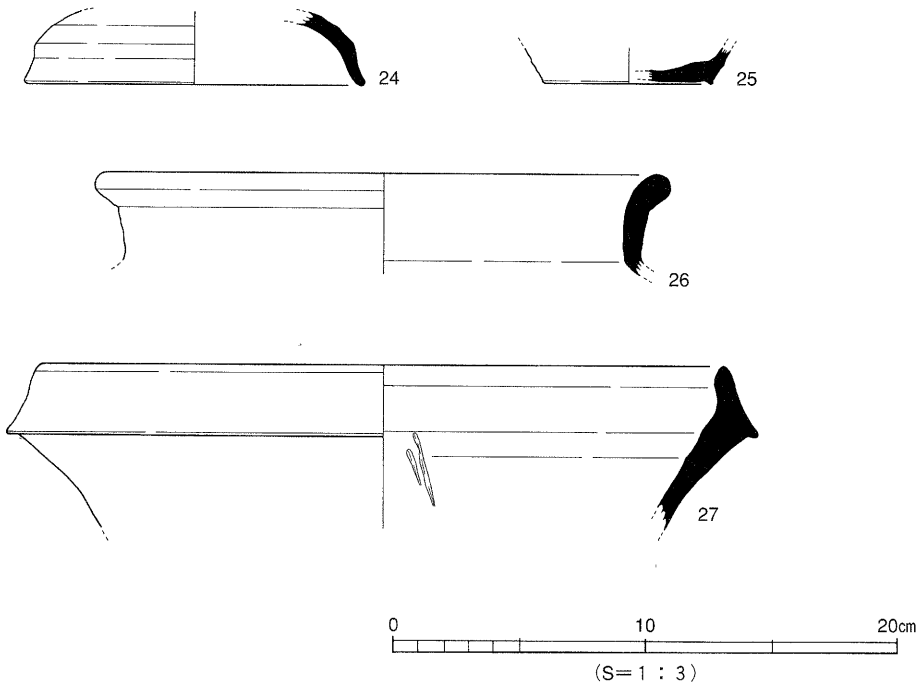
表採・出土層位不明遺物（第68～70図）

表採品、あるいは整理中に所属層位が不明になった弥生土器、石製品が若干ある。

甕・鉢（426～435）　426～430は中期のもの、431～434は後期の甕である。中期のものの口縁部は内面に稜を持って強く折り曲げられるが、後期のものの折り曲げは弱い。中期の底部はくびれの上げ底、後期は小さめの平底である。435は、後期の鉢底部と思われる。

壺（436～446）　436～441は中期のもの、442～446が後期のものである。中期の有文の口縁部のうち、437・438には内面突帯が貼り付けられている。後期の壺には442のような複合口縁のものと443の直口のものがあり、底部は中期のものに比べると小さい平底もしくは窪み底である。

高坏・ジョッキ形土器（447・448）　高坏447は脚部上端の、またジョッキ形土器は把手のそれぞれ小片である。



第27図　Ｂ１区第５層出土遺物実測図(2)

石器・石製品（第70図）

石　斧（449・450）　449は、緑泥片岩を素材とする柱状片刃石斧の片、450は黒色片岩製扁平片刃石斧。刃部付近を欠損している。

剥　片（451）　サヌカイトの剥片である。

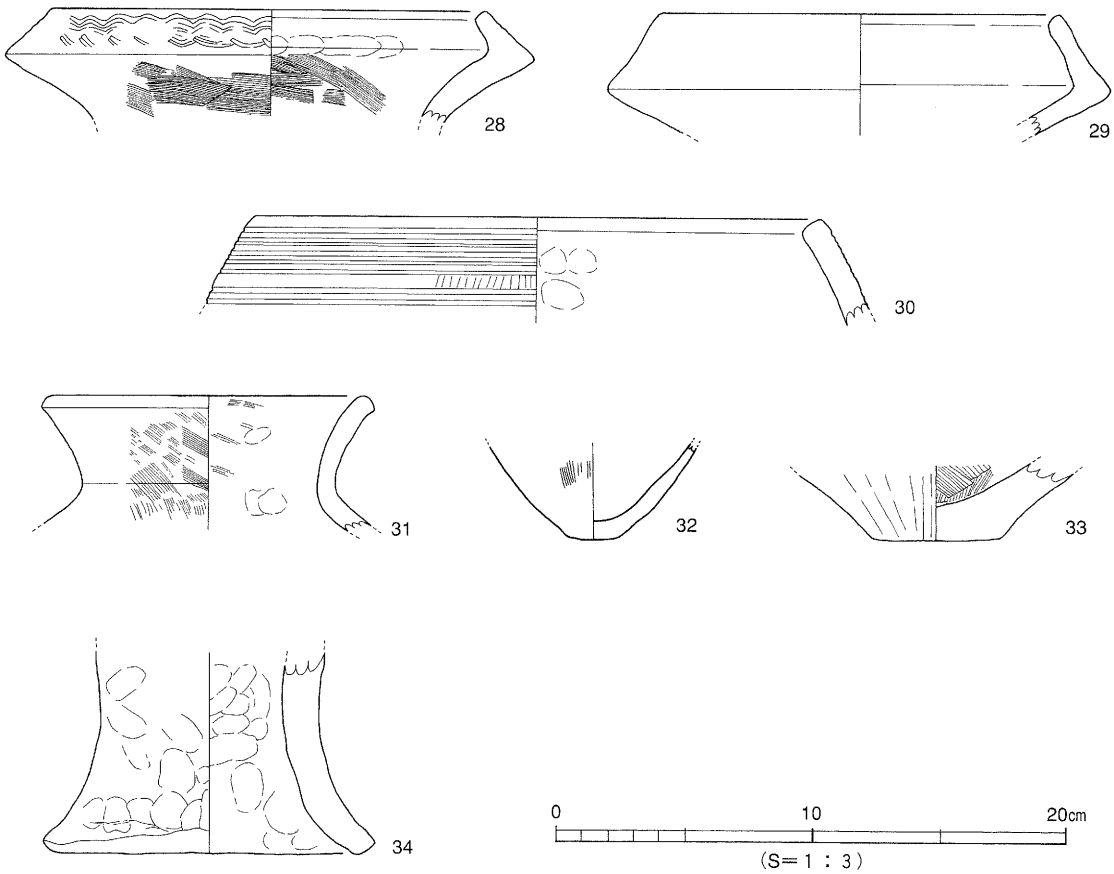
2）Ｂ２区の調査（第20・23・25図、図版30～32）

Ｂ１区の調査後に、この部分を排土置き場に実施した東側水田の調査である。この調査区でも１区から続く谷が検出されたが、１区に比べて一段低い水田であるため、後期の遺物を包含する１区第７層相当の土層は存在せず、１区第９層と層位的には同等と考えられる第９層からの出土がほとんどを占める。また、谷の外の部分で比較的新しい土層で埋まった窪みや平坦面が検出され、ＳＸ１～３として遺物を採り上げているが、これらは扱いとしては攪乱として扱うべきものである。

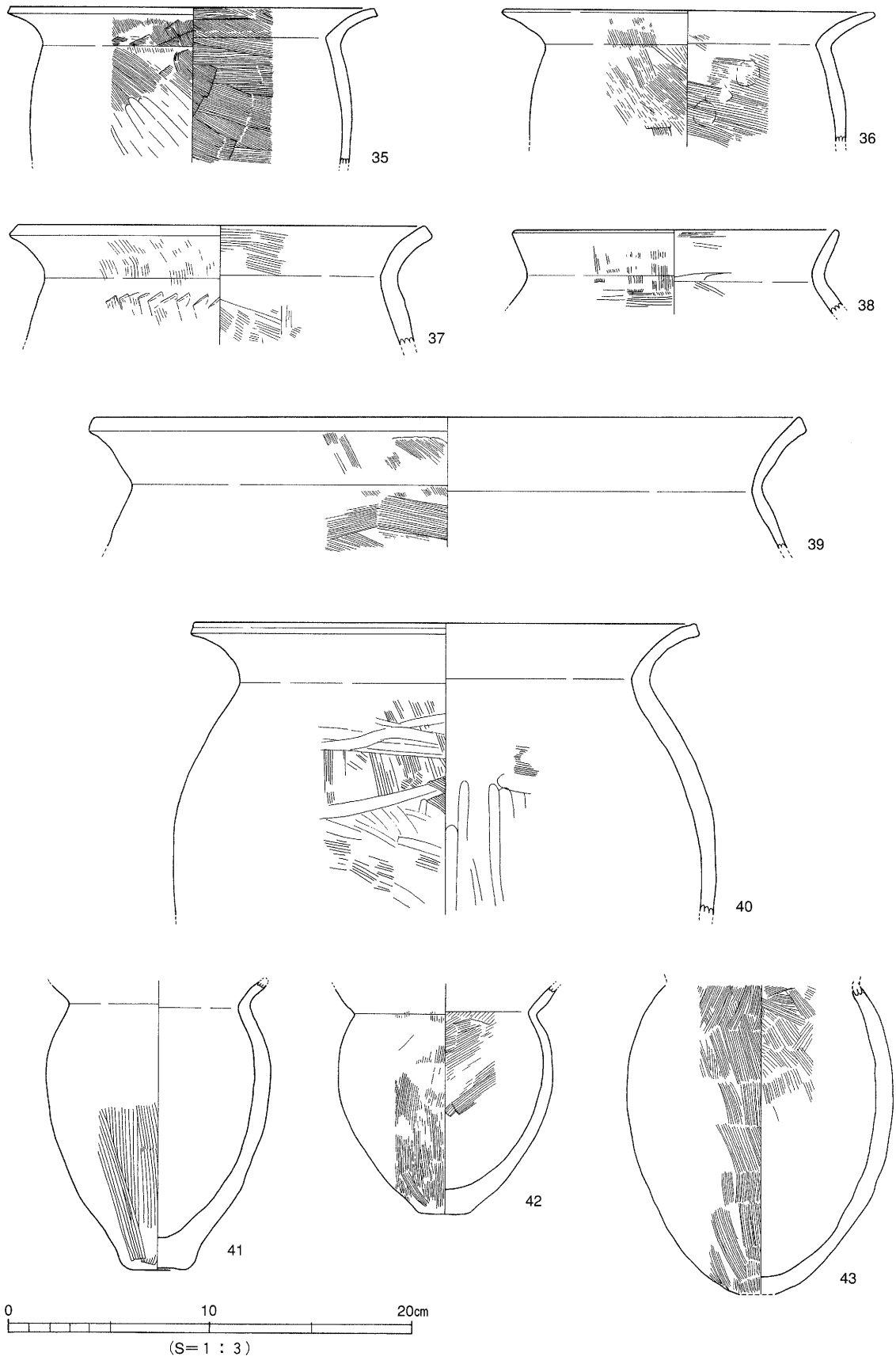
第９層出土の遺物

弥生土器（第71～81図、図版41～44）

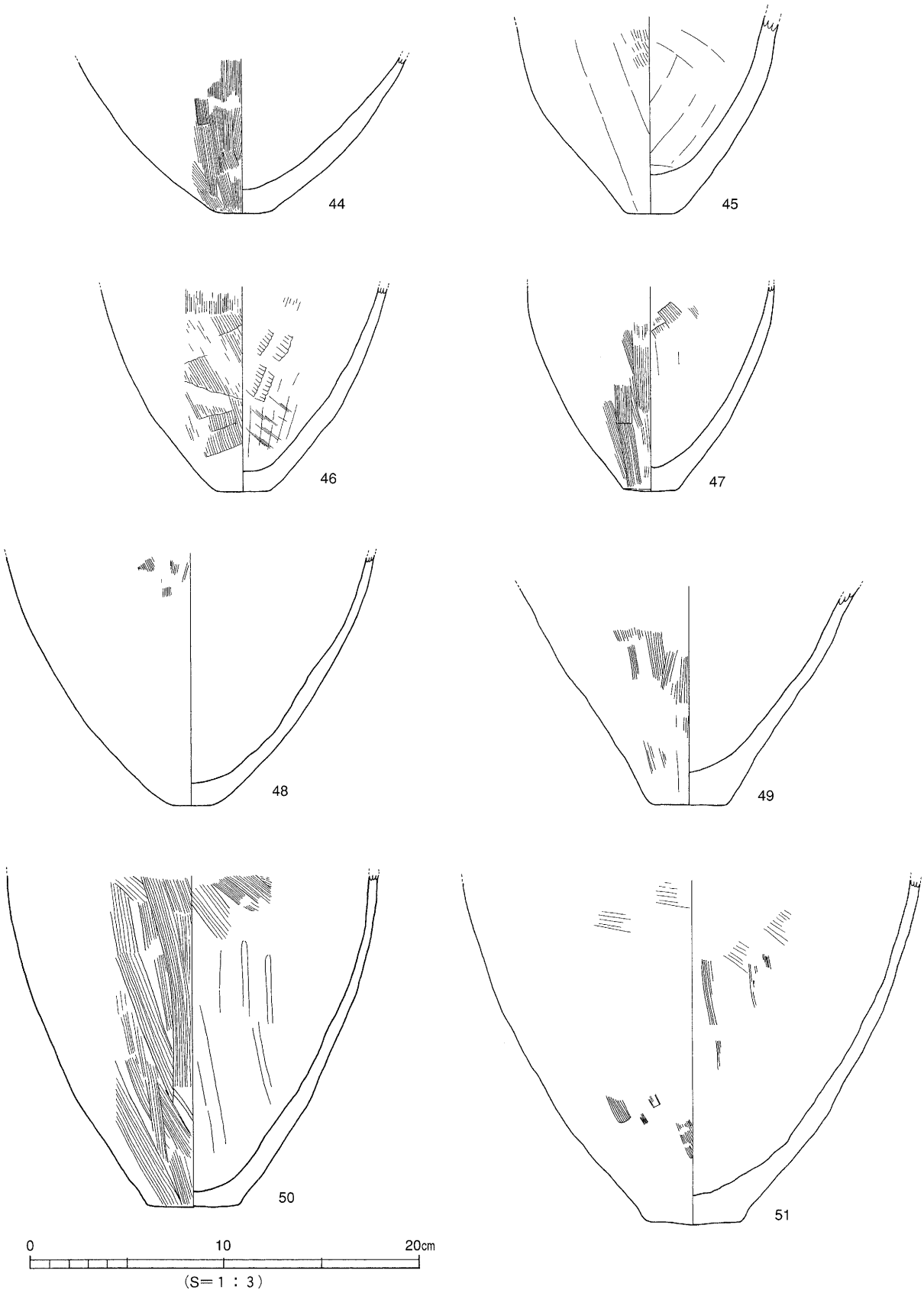
壺（452～505）　有文のもののうち、452、453、455は口端部を著しく拡張はせず、端面にヘラ描による施文、頸部に圧痕文突帯を巻かれるもので、454や456・457も同様の器型になるものと思われ



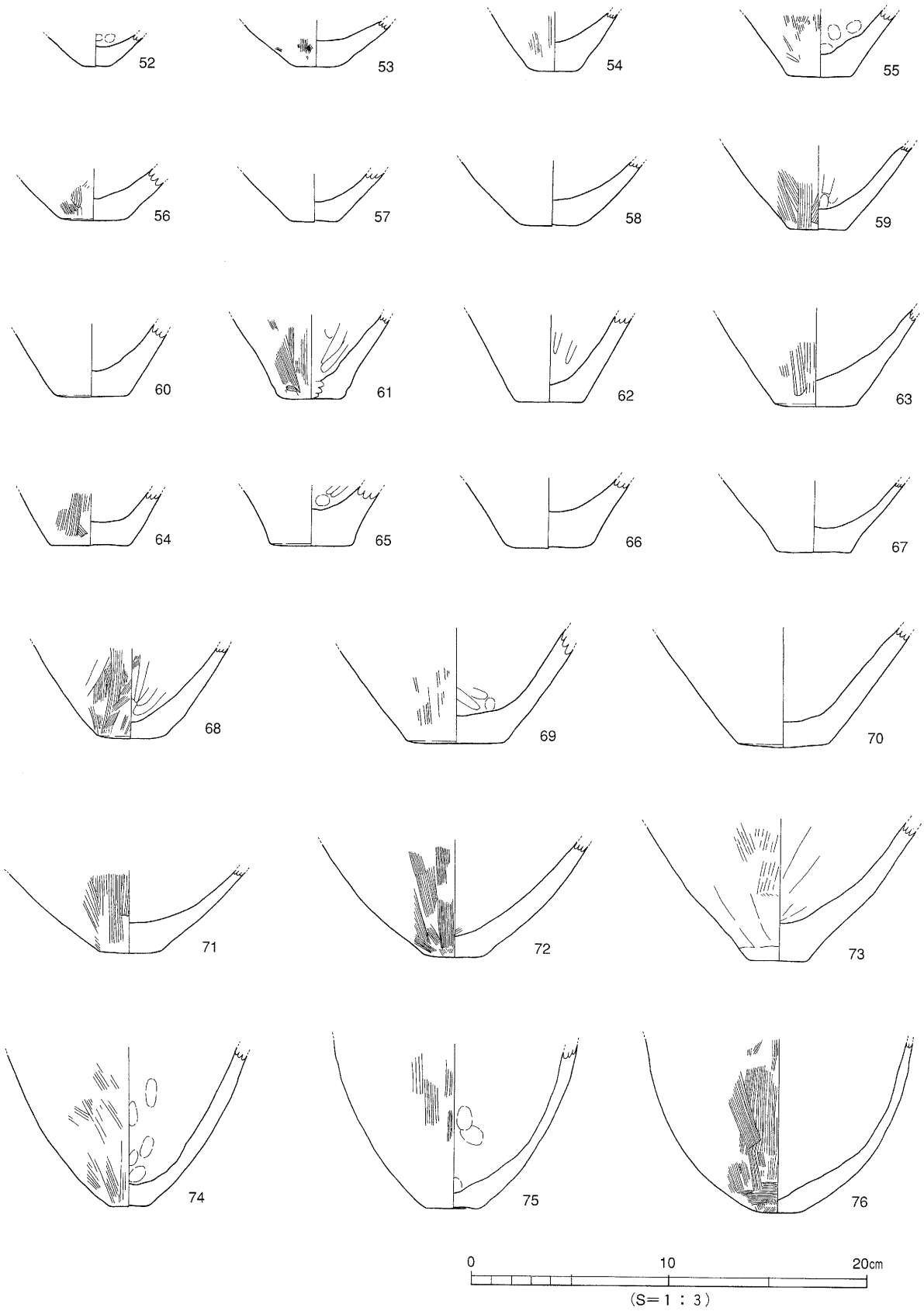
第28図　Ｂ１区第６層出土遺物実測図



第29図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(1)



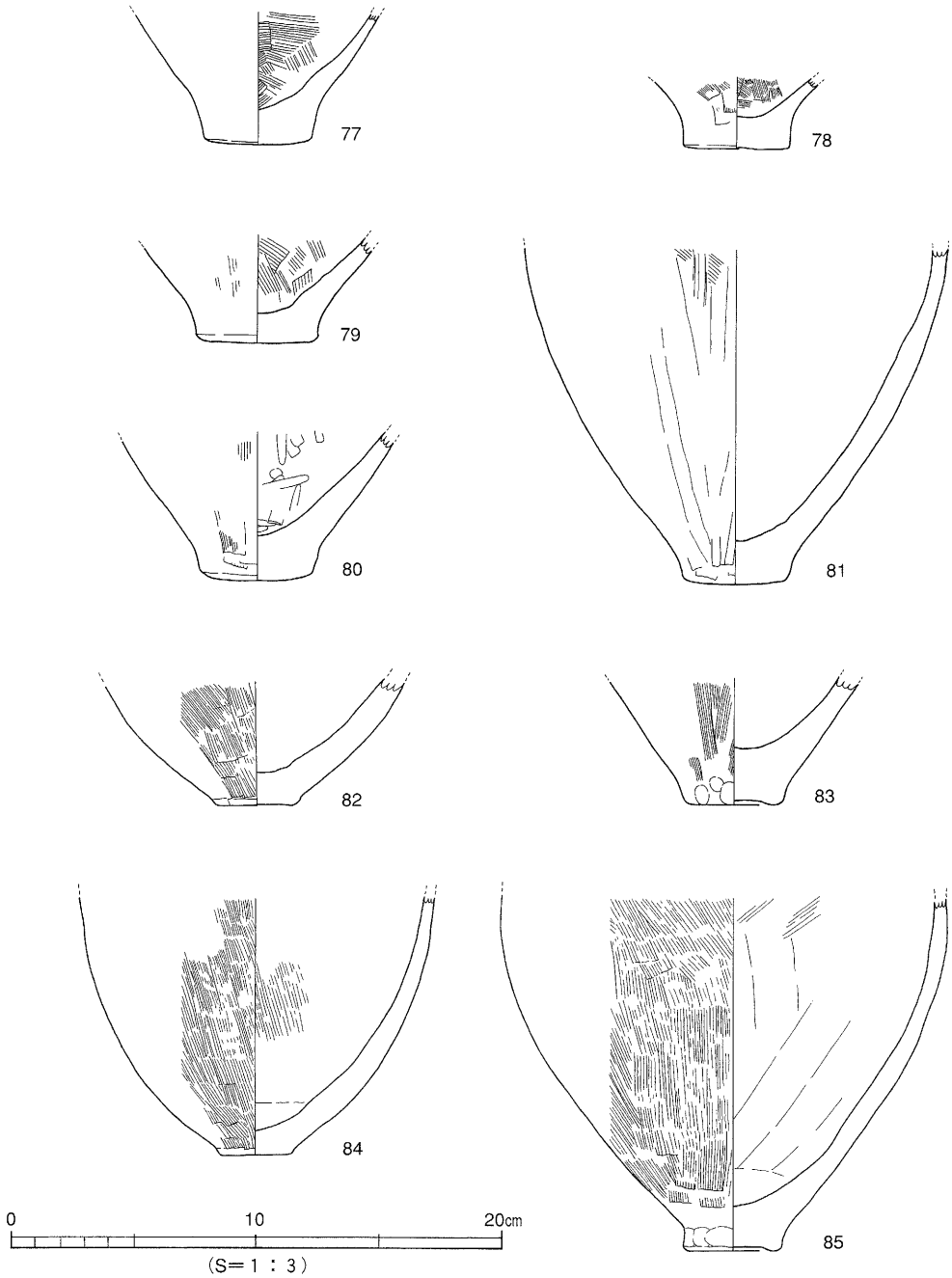
第30図　B１区第７層出土遺物実測図(2)



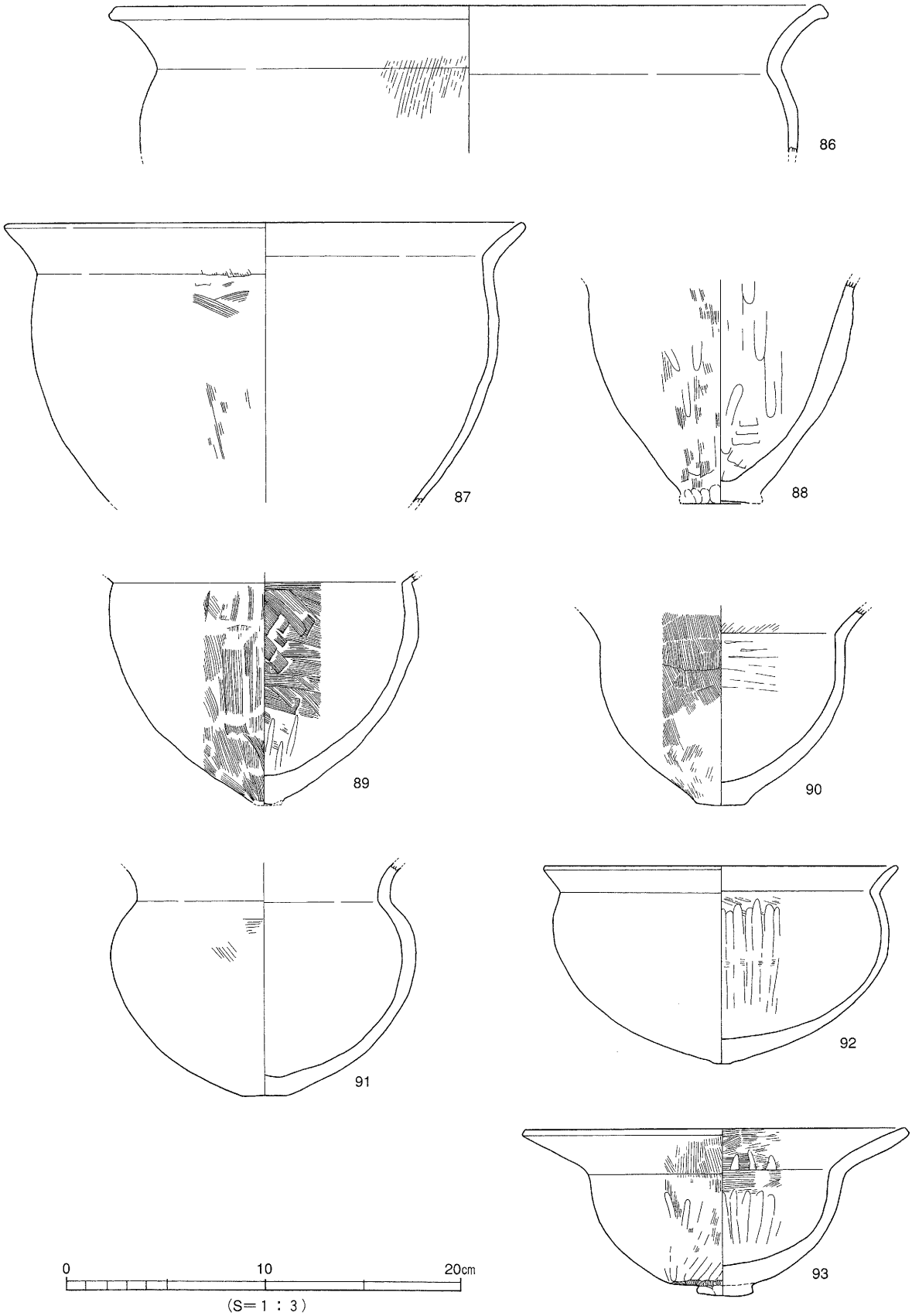
第31図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(3)

る。その他の端面施文を施されるものの多くは459～462のように端部を下方に大きく拡張し、端面に施文を行うものである。口端面が無文のものには472～478のように、口端部の拡張が小さく頸部に断面三角形の突帯を巻かれるものがあり、464や465も同様の壺口縁部と考えられる。頸部突帯は１条に限られることなく、474や476のように複数条となるものもある。この断面三角形突帯を持つもののうちには、475のような口端部が鋤先状になるものと、478の太い頸部に短く開く口縁と甕に近い形状と、多くのものに比べて異なった形態をとるものもある。

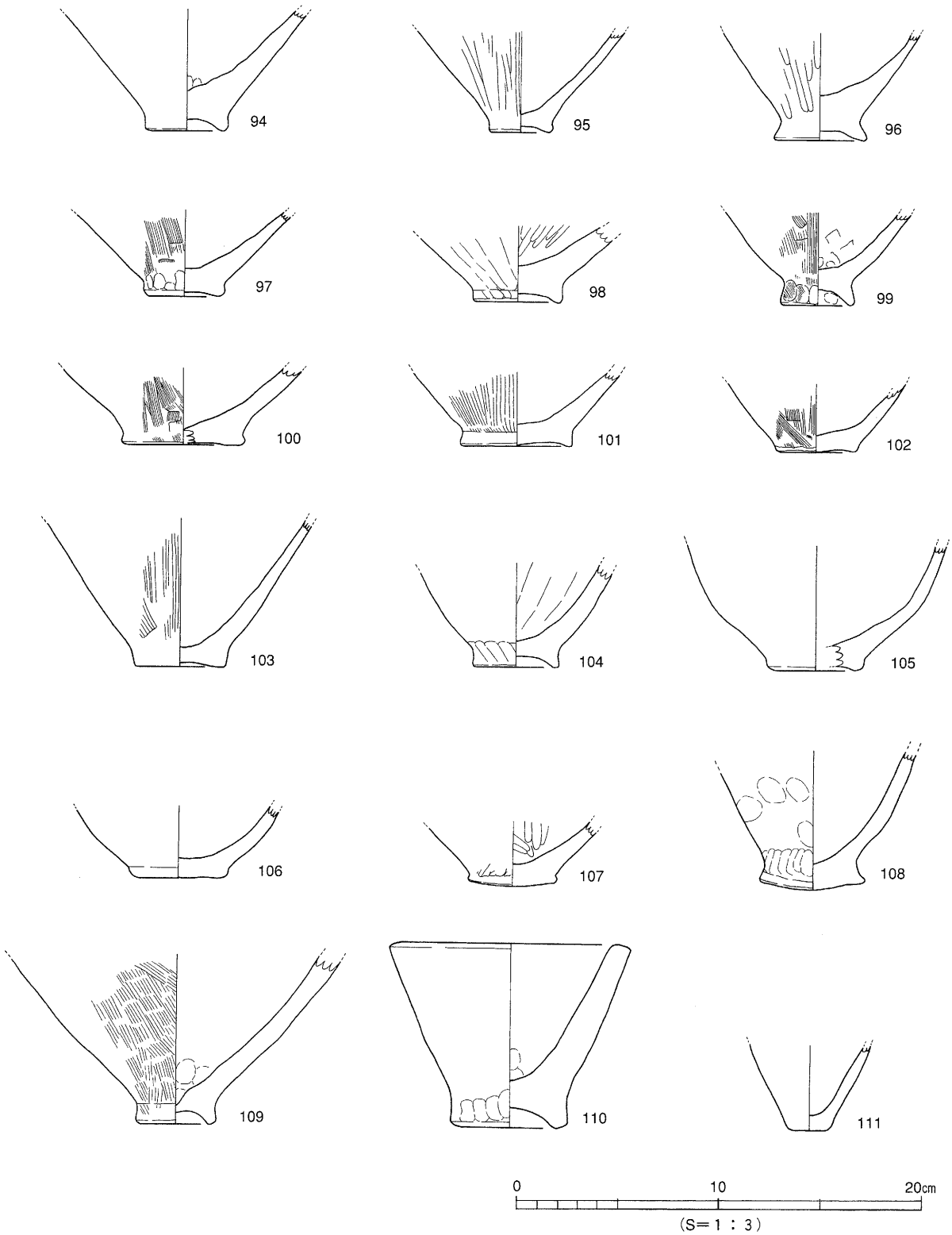
以上の壺口頸部は中期中葉の壺の特徴を備えたものであるが、479はこれらより降るもので、中期



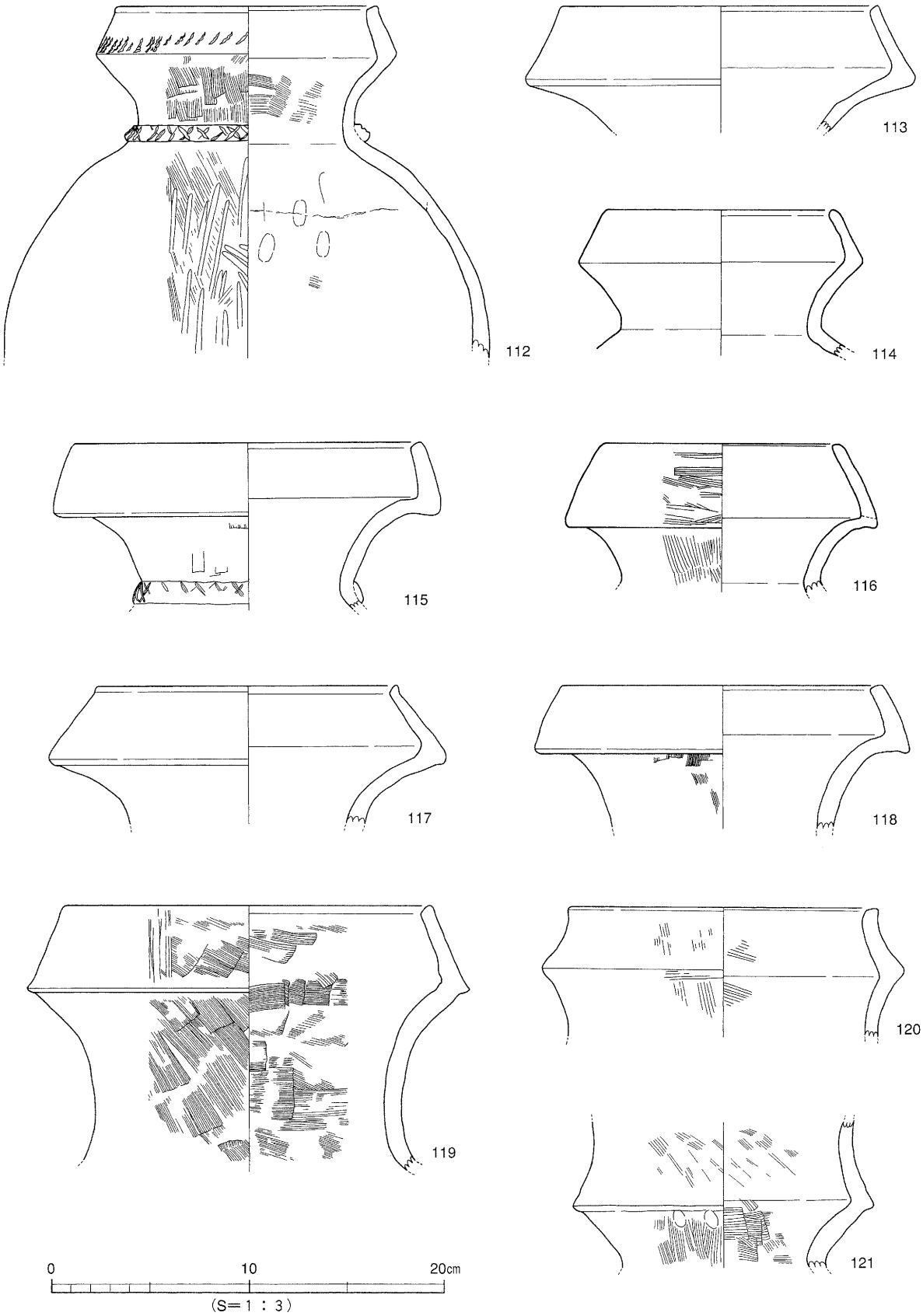
第32図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(4)



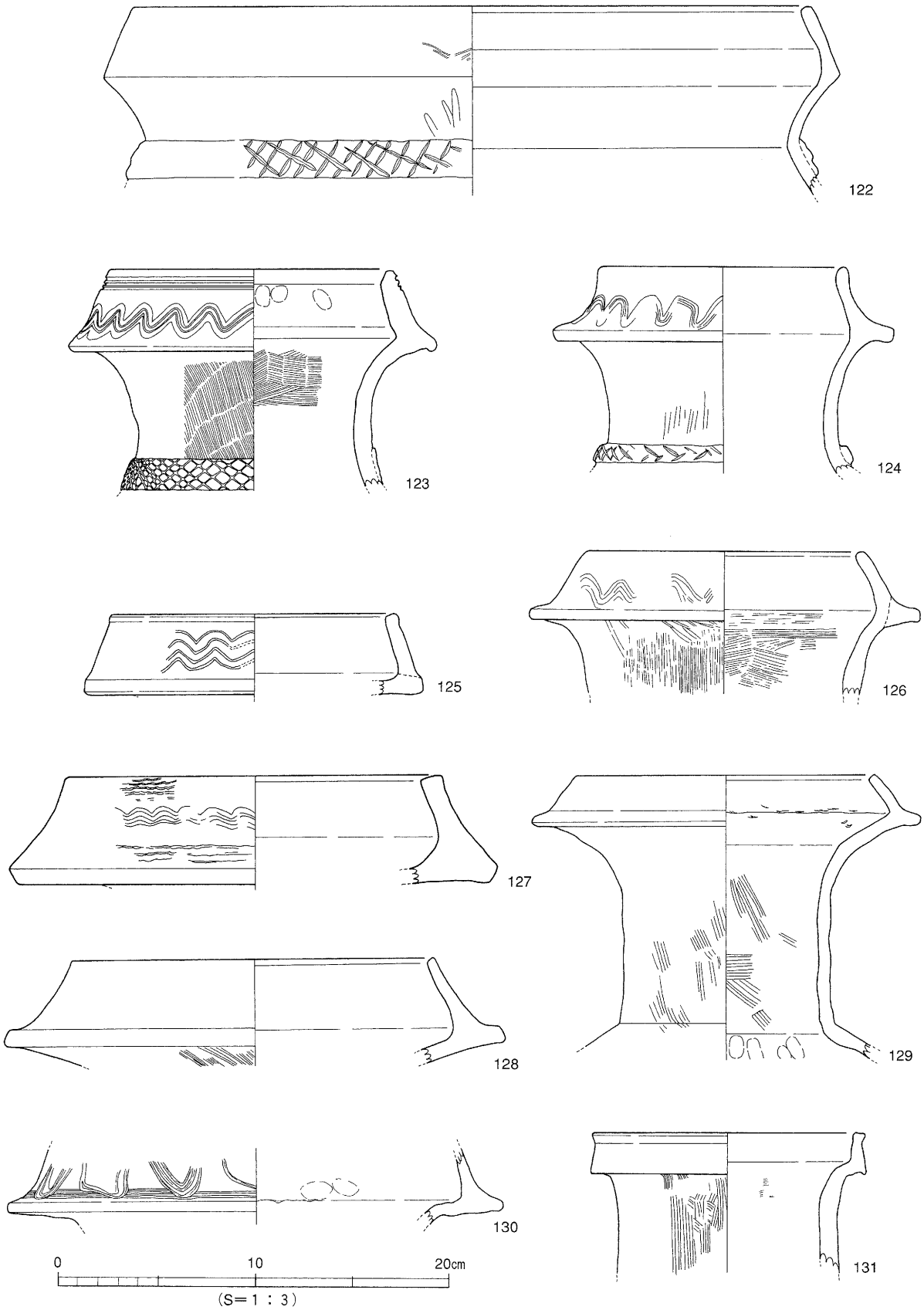
第33図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(5)



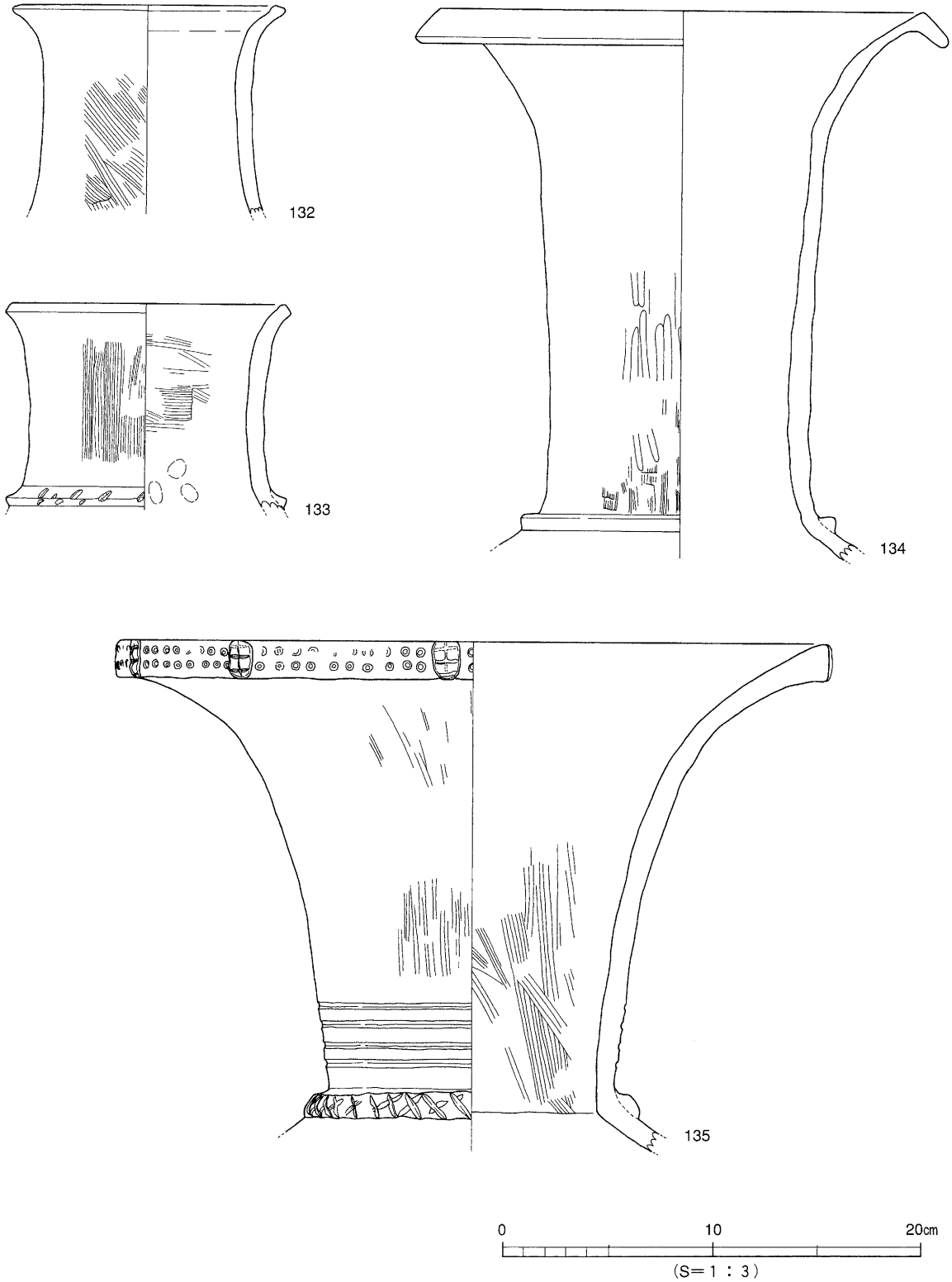
第34図　B１区第７層出土遺物実測図(6)



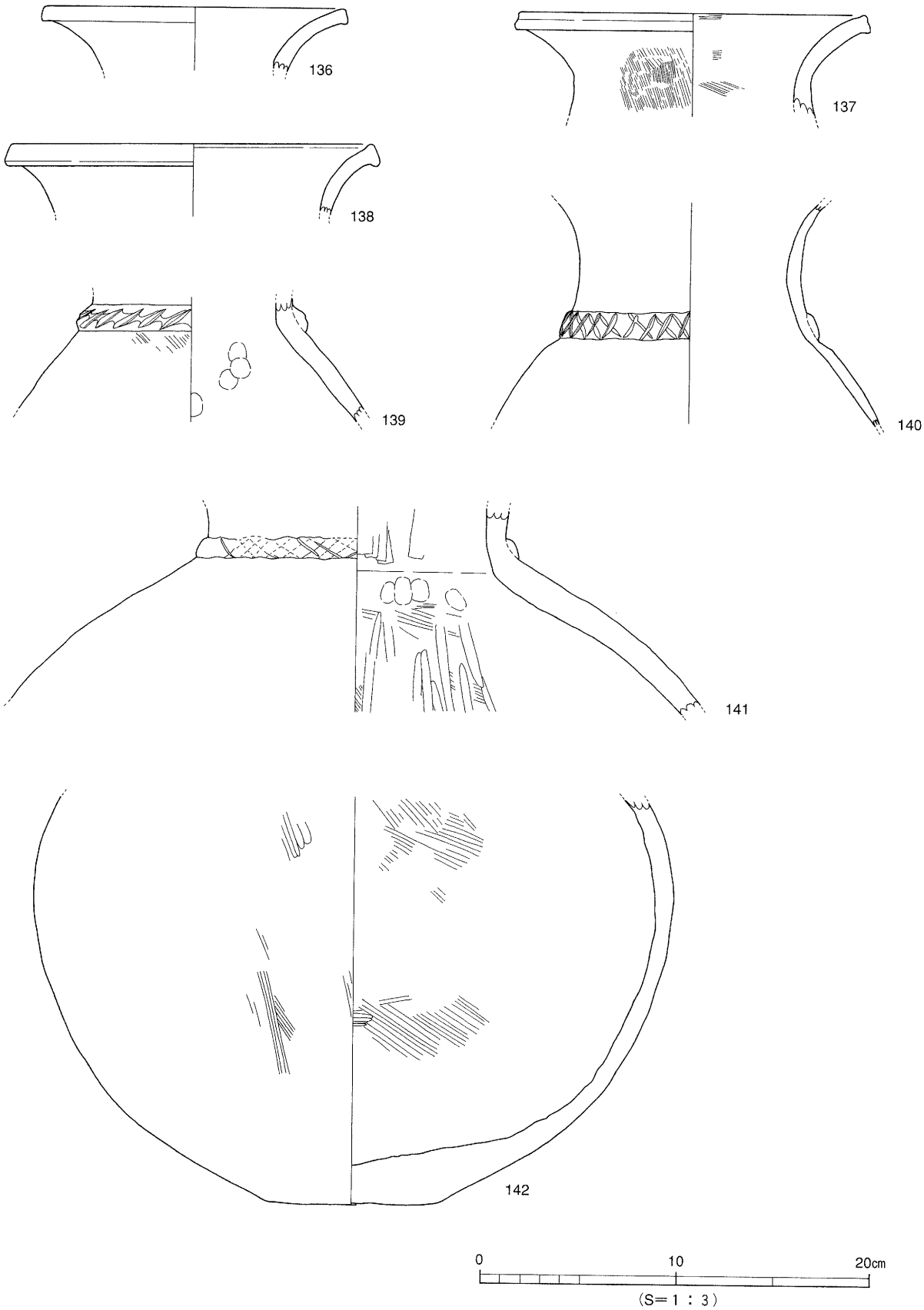
第35図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(7)



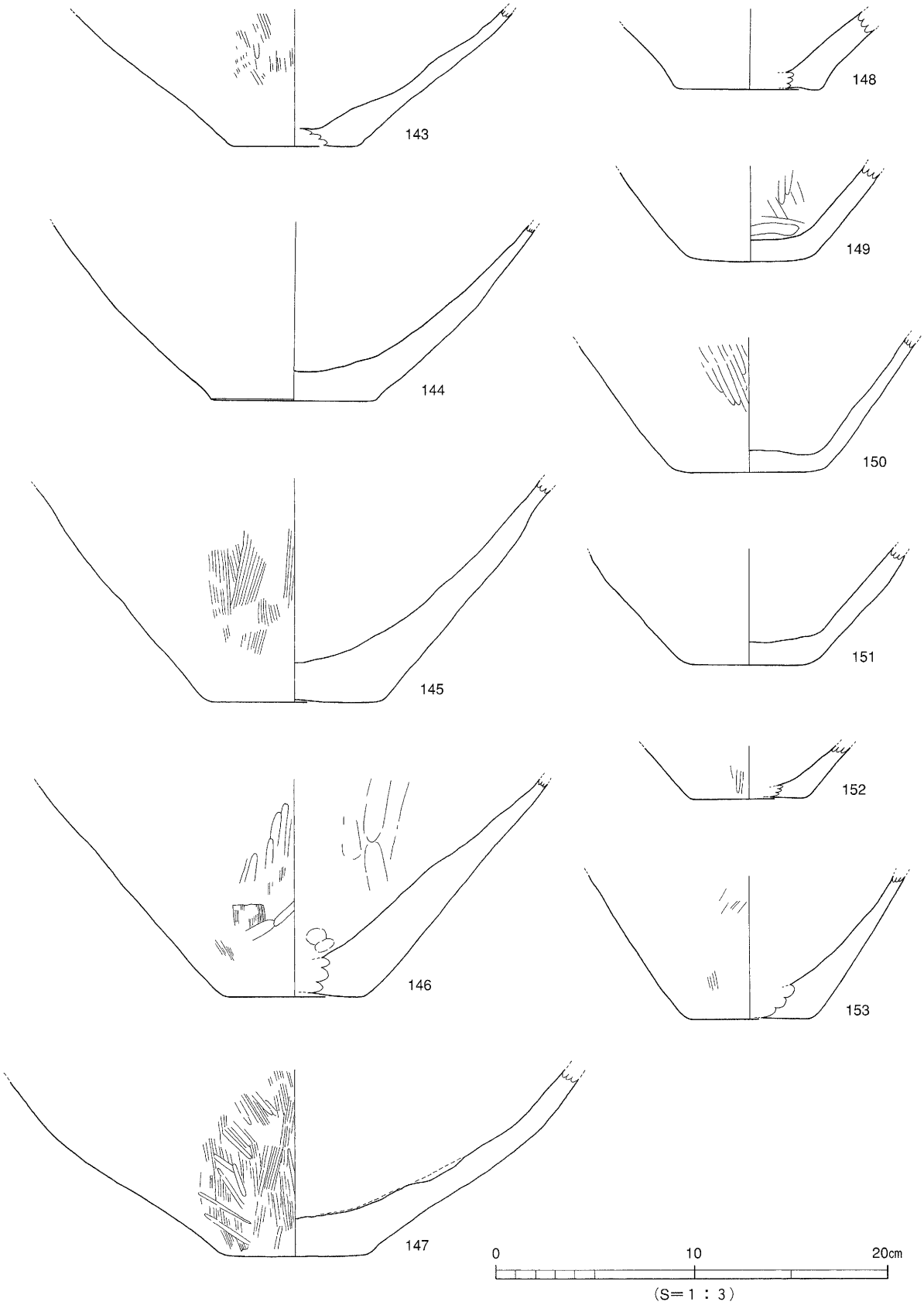
第36図　B１区第７層出土遺物実測図(8)



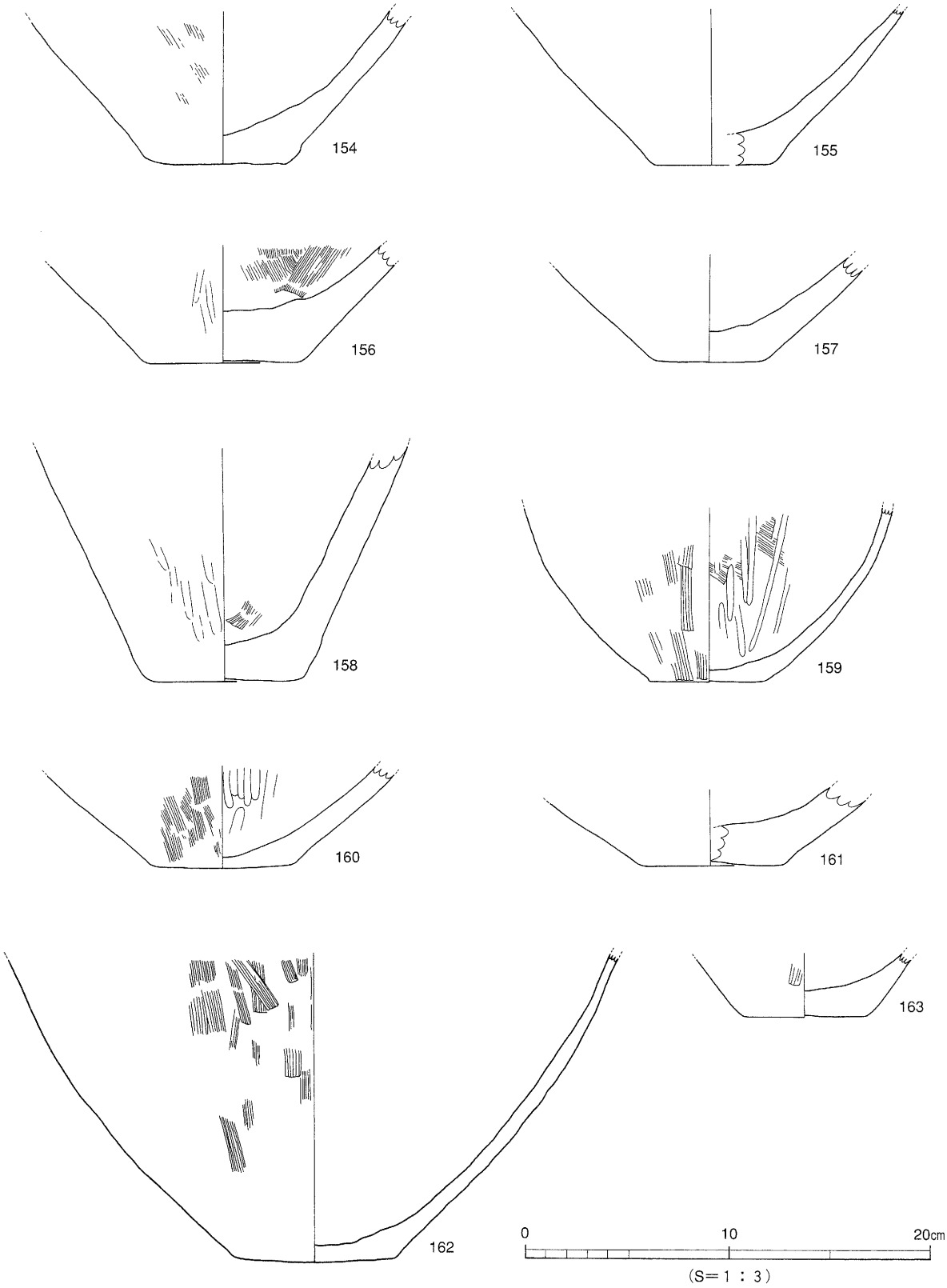
第37図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(9)



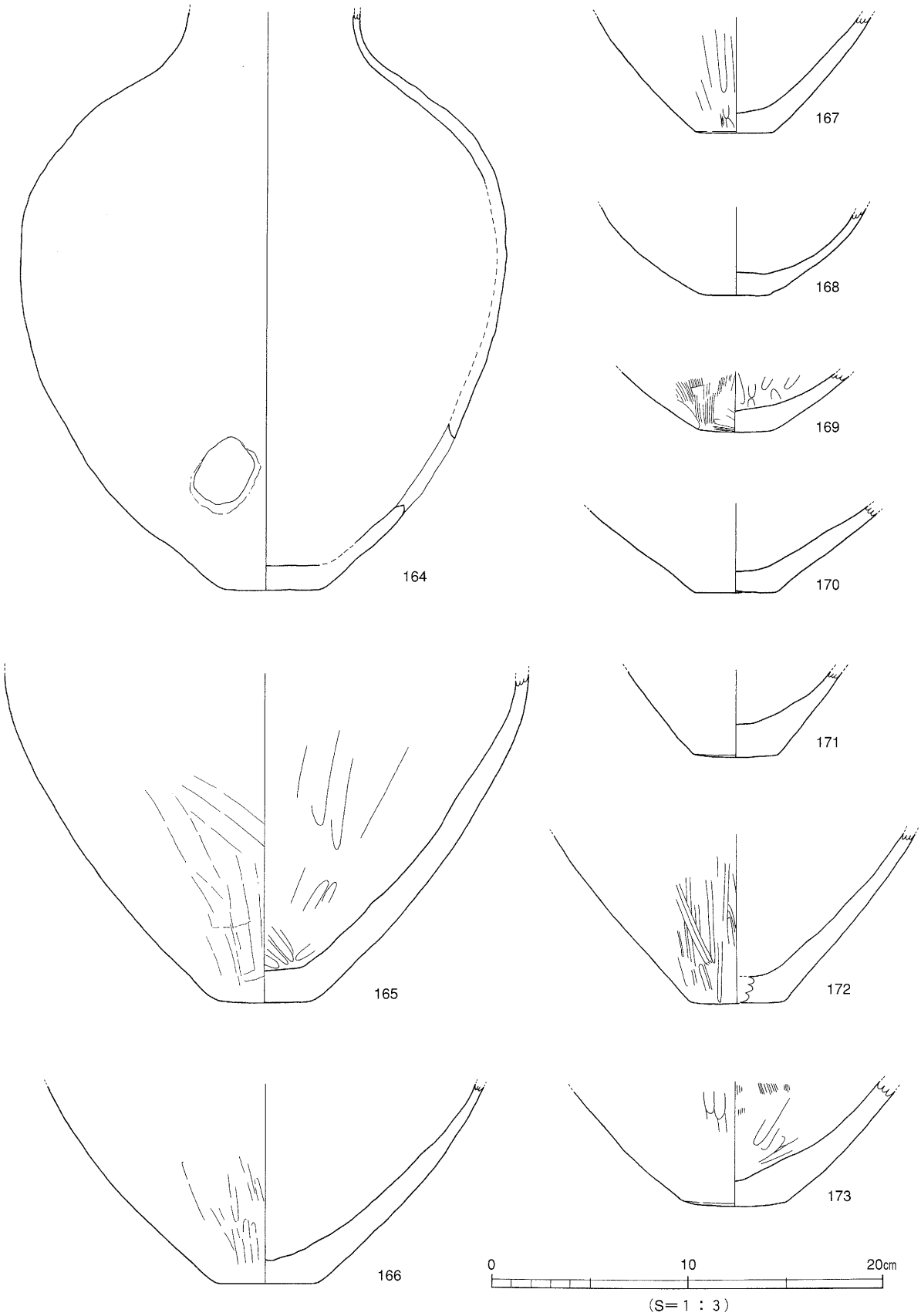
第38図　B１区第７層出土遺物実測図(10)



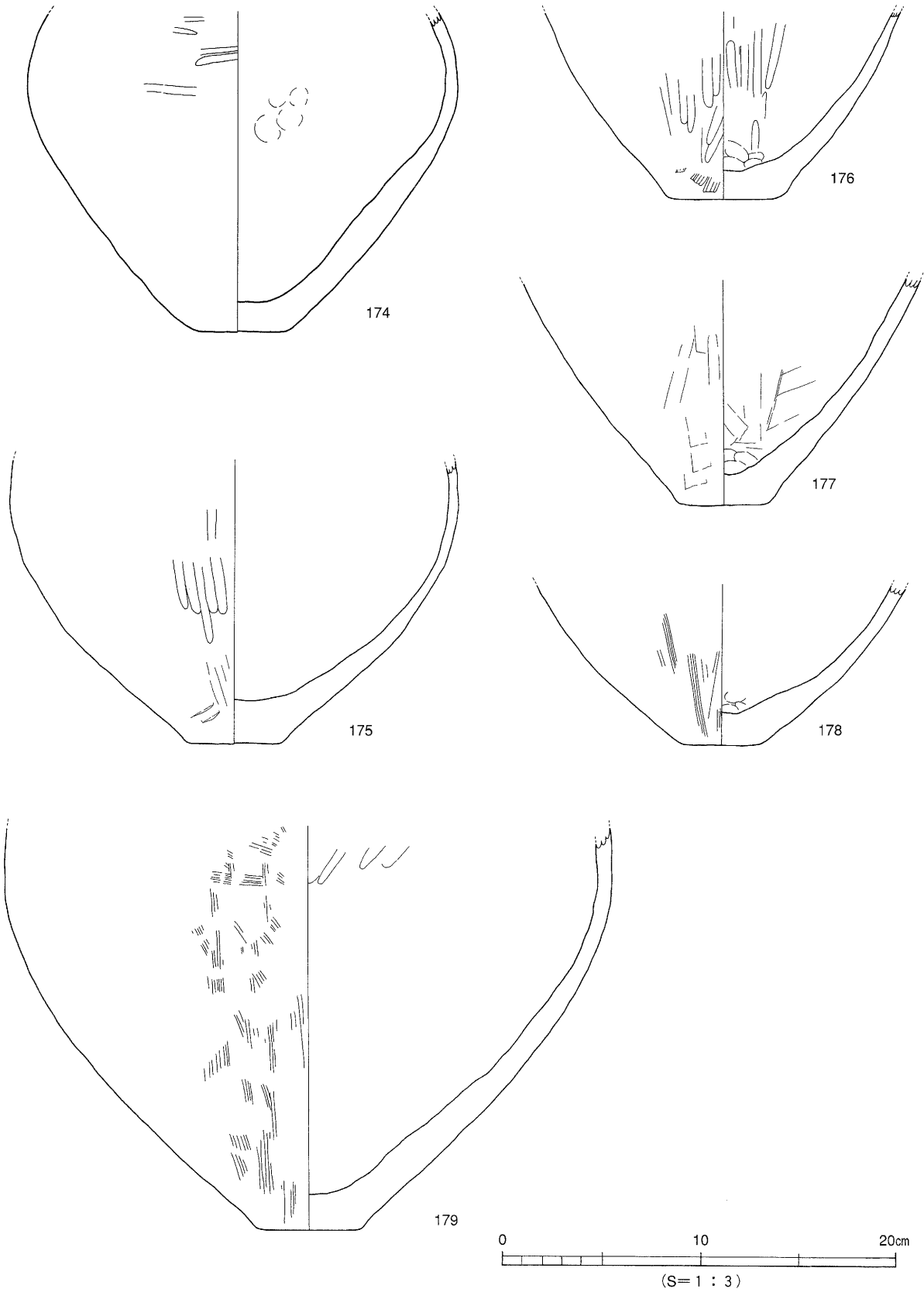
第39図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(11)



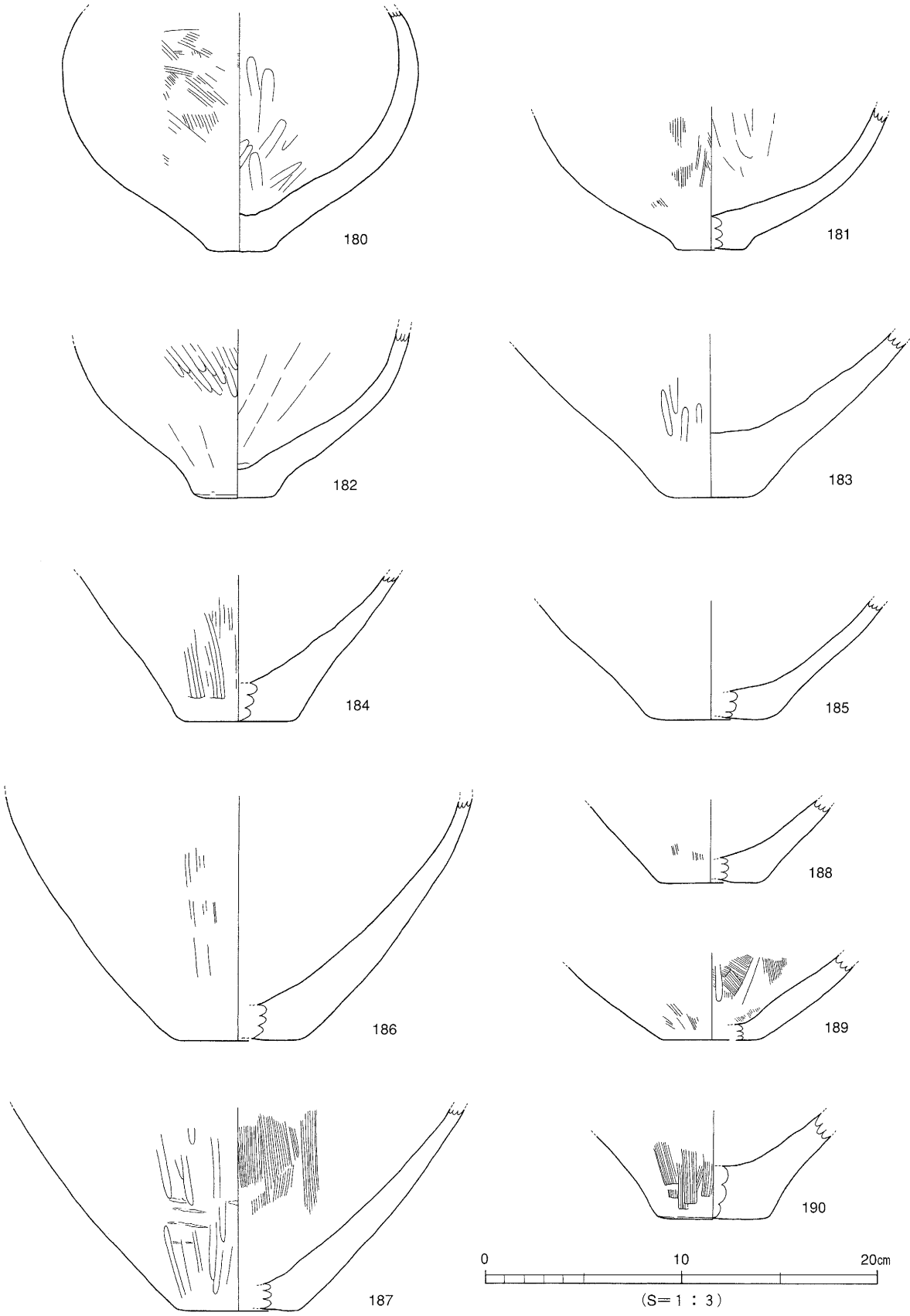
第40図　B１区第７層出土遺物実測図(12)



第41図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(13)



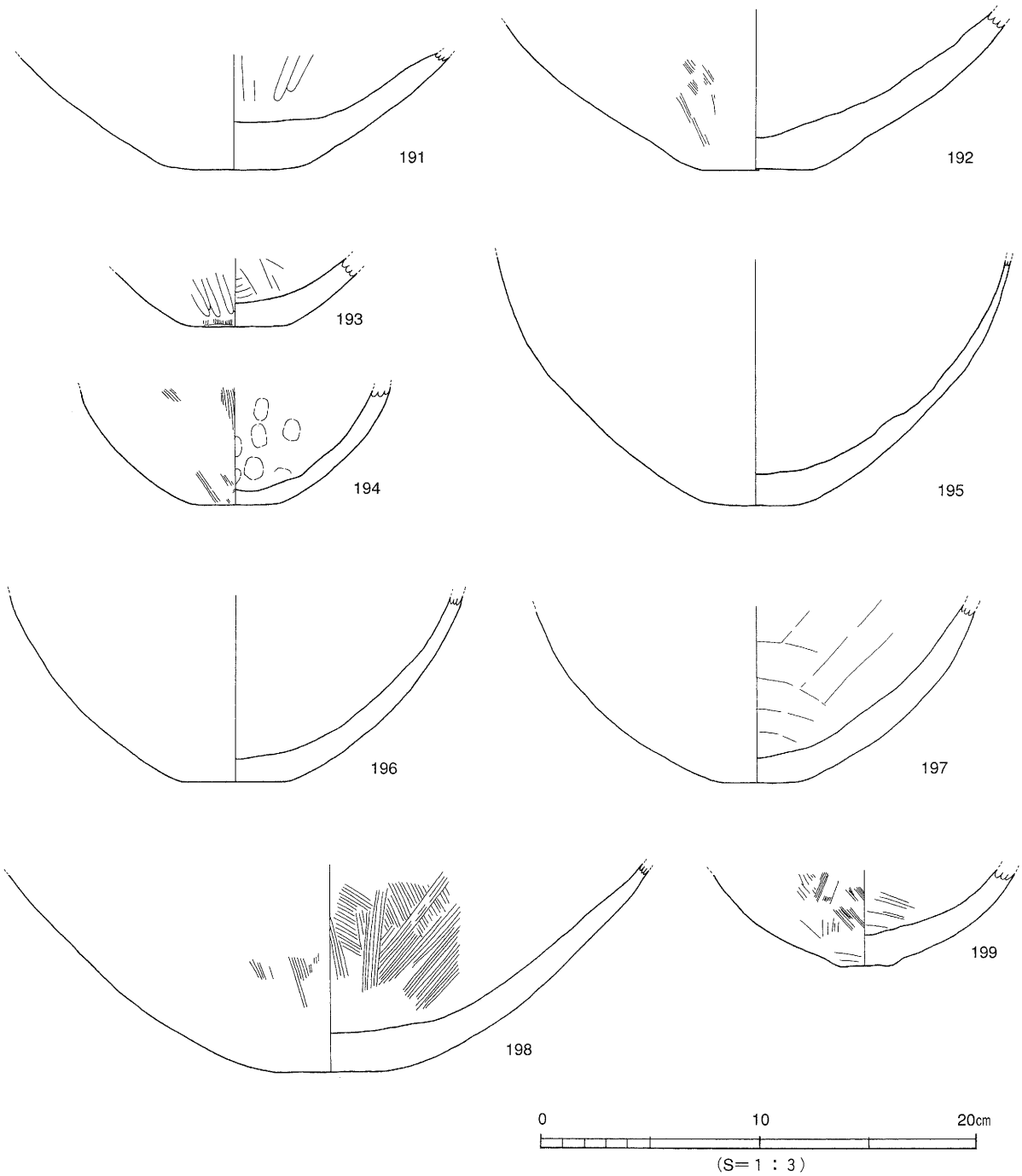
第42図　B１区第７層出土遺物実測図(14)



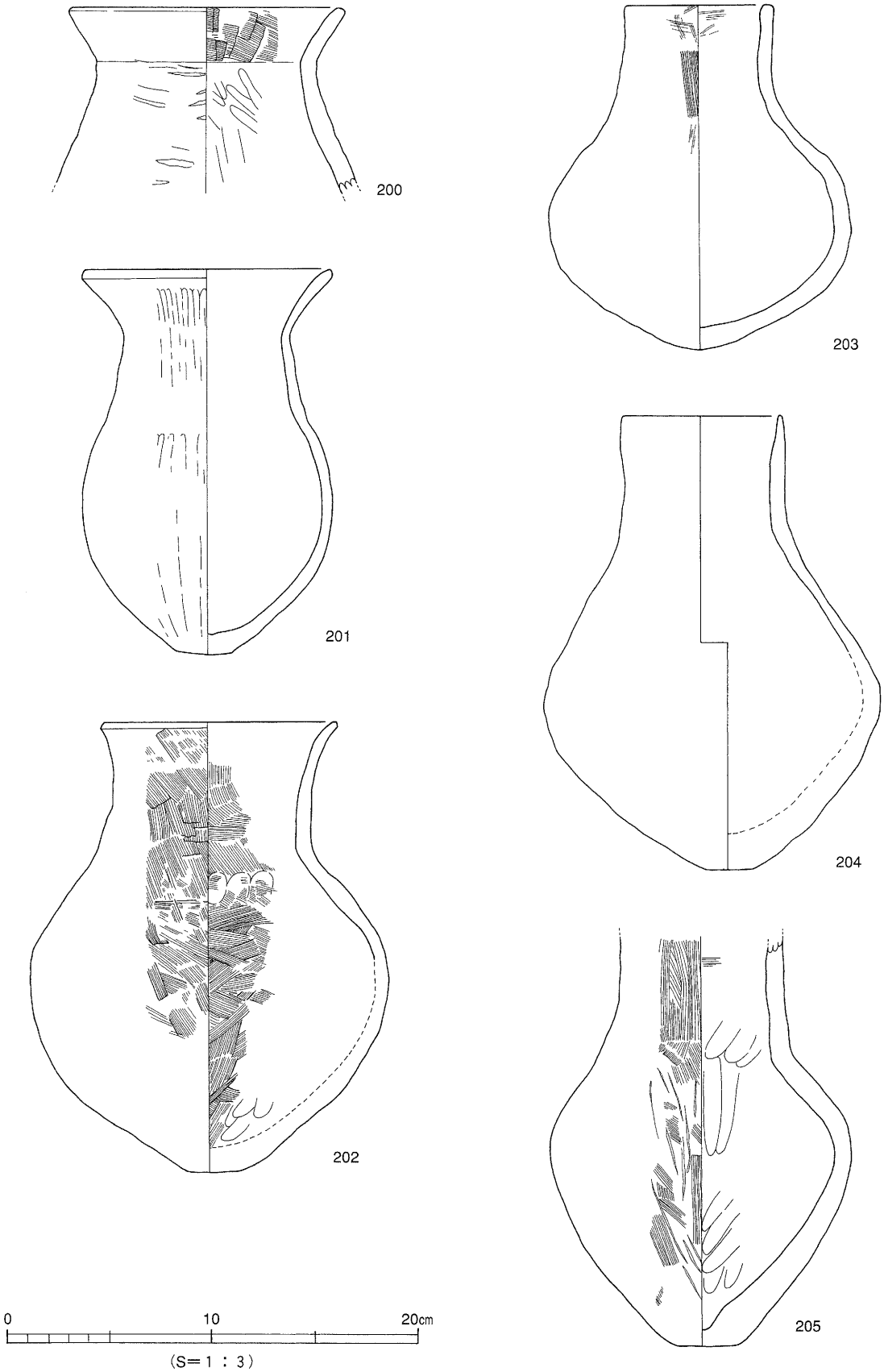
第43図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(15)

後葉の凹線文系の小型壺である。器高18.8cm、口径6.5cm、底径6.4cmを測る。胴張りを胴部中位に持ち、その最大径17.6cmを測る。内外面に肥厚した口端部には３条の凹線、頸部下位には「ノ」の字状の列点文を施されている。器面は荒れているが、胴部の上下位の磨きをそれぞれ縦、横方向に磨きわけているのが観察できる。

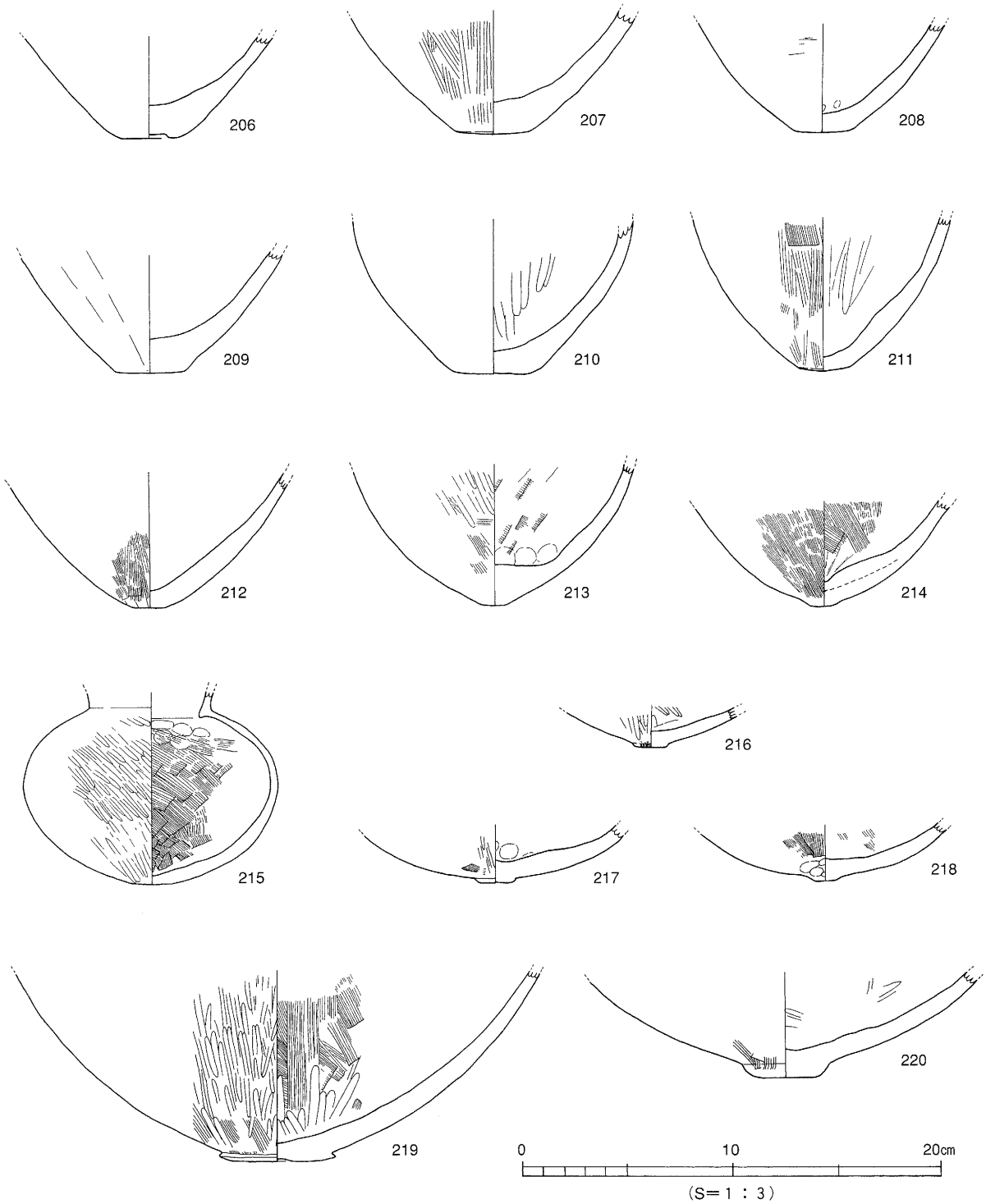
底部には、平底、僅かな窪み底状を呈するものがあり、そのいずれもが比較的安定感のある形態となっている。



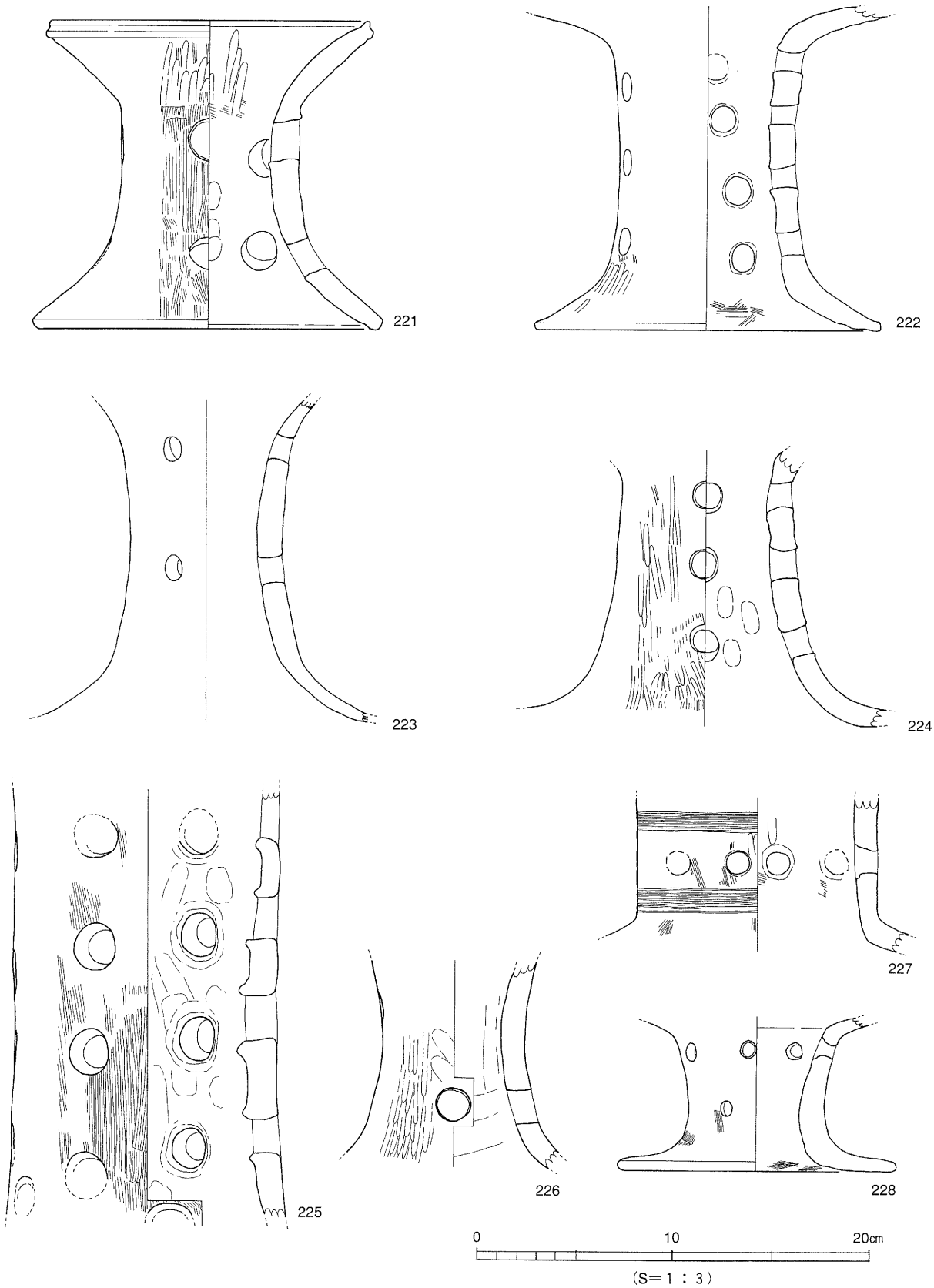
第44図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(16)



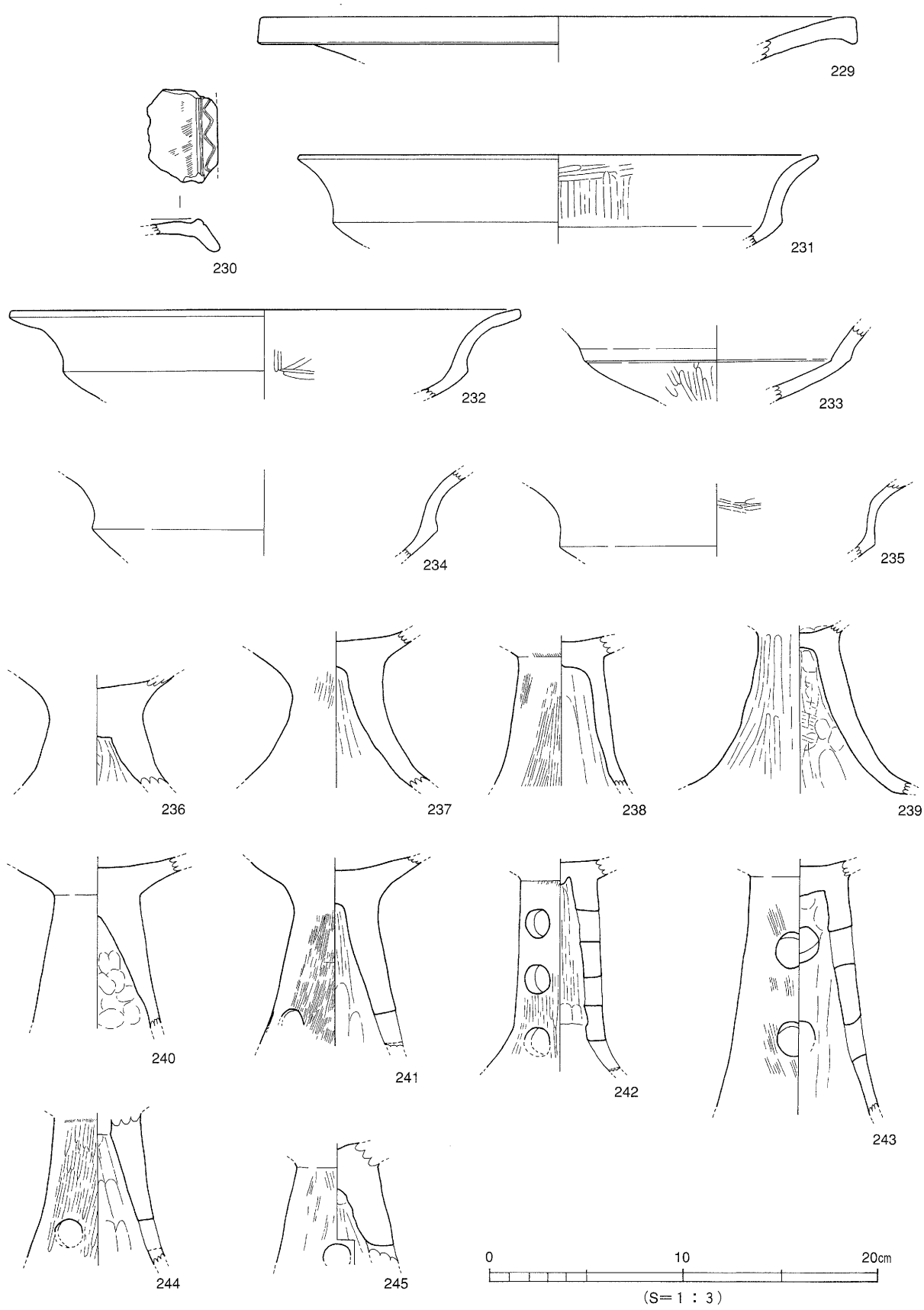
第45図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(17)



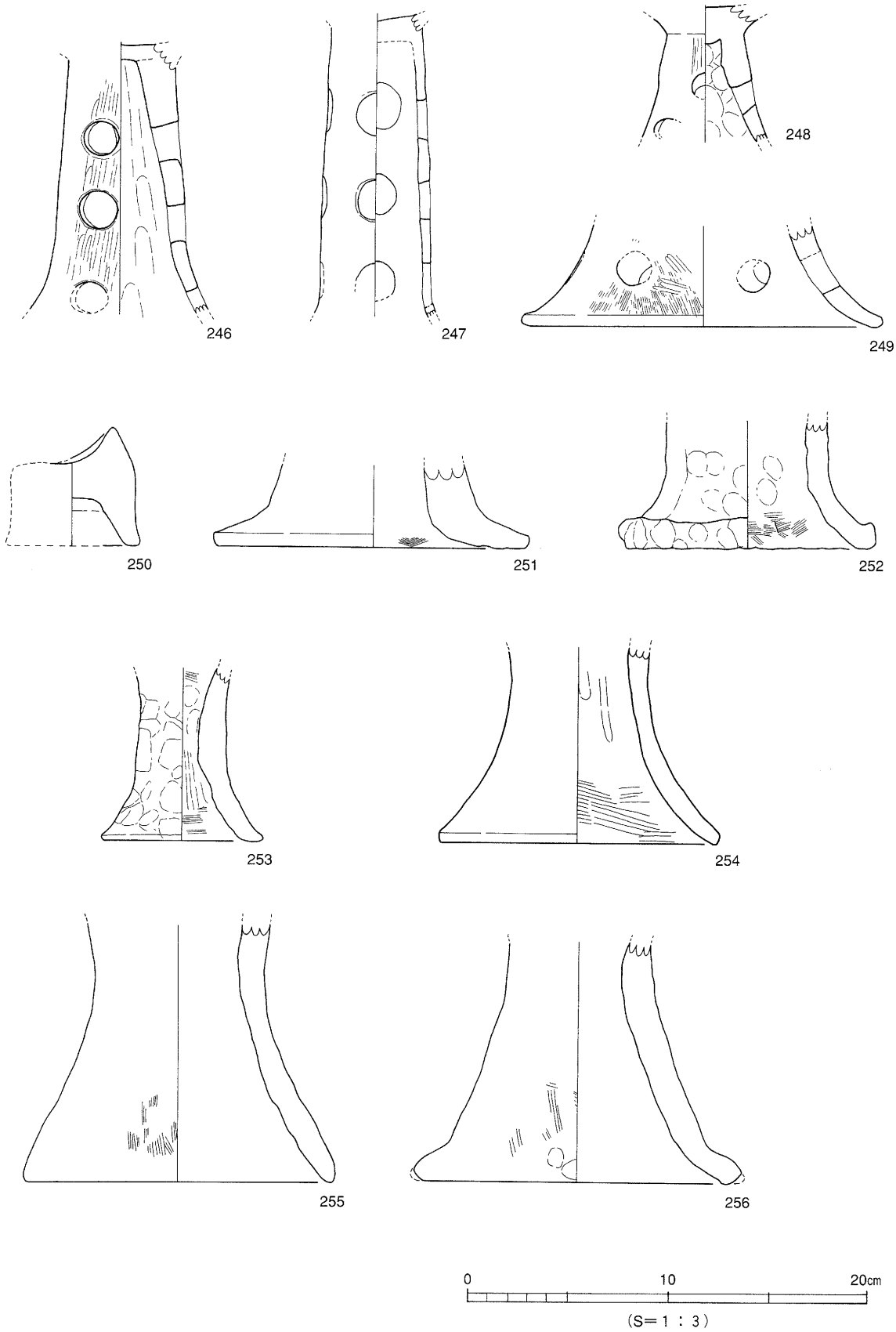
第46図　B１区第７層出土遺物実測図(18)



第47図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(19)



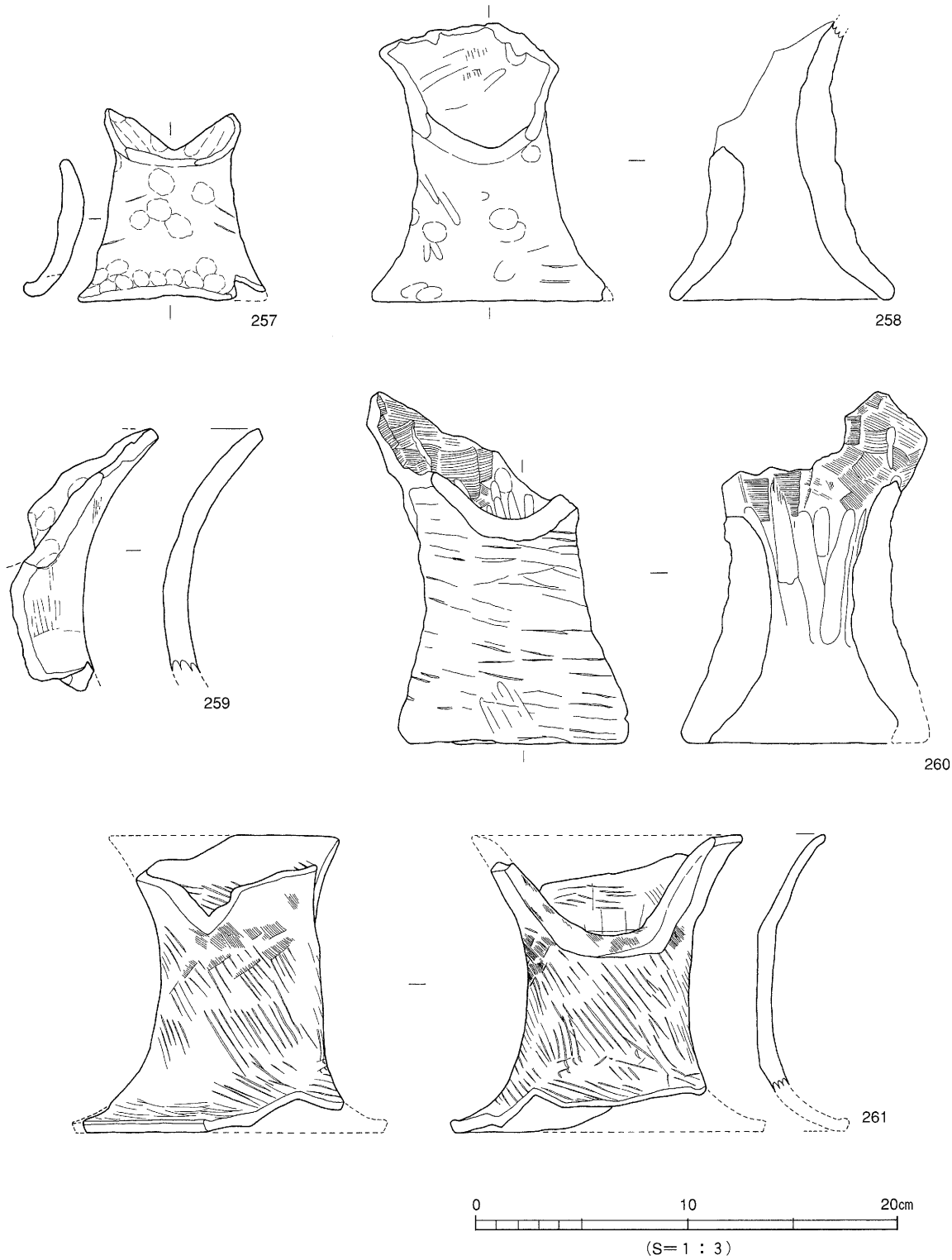
第48図　B１区第７層出土遺物実測図(20)



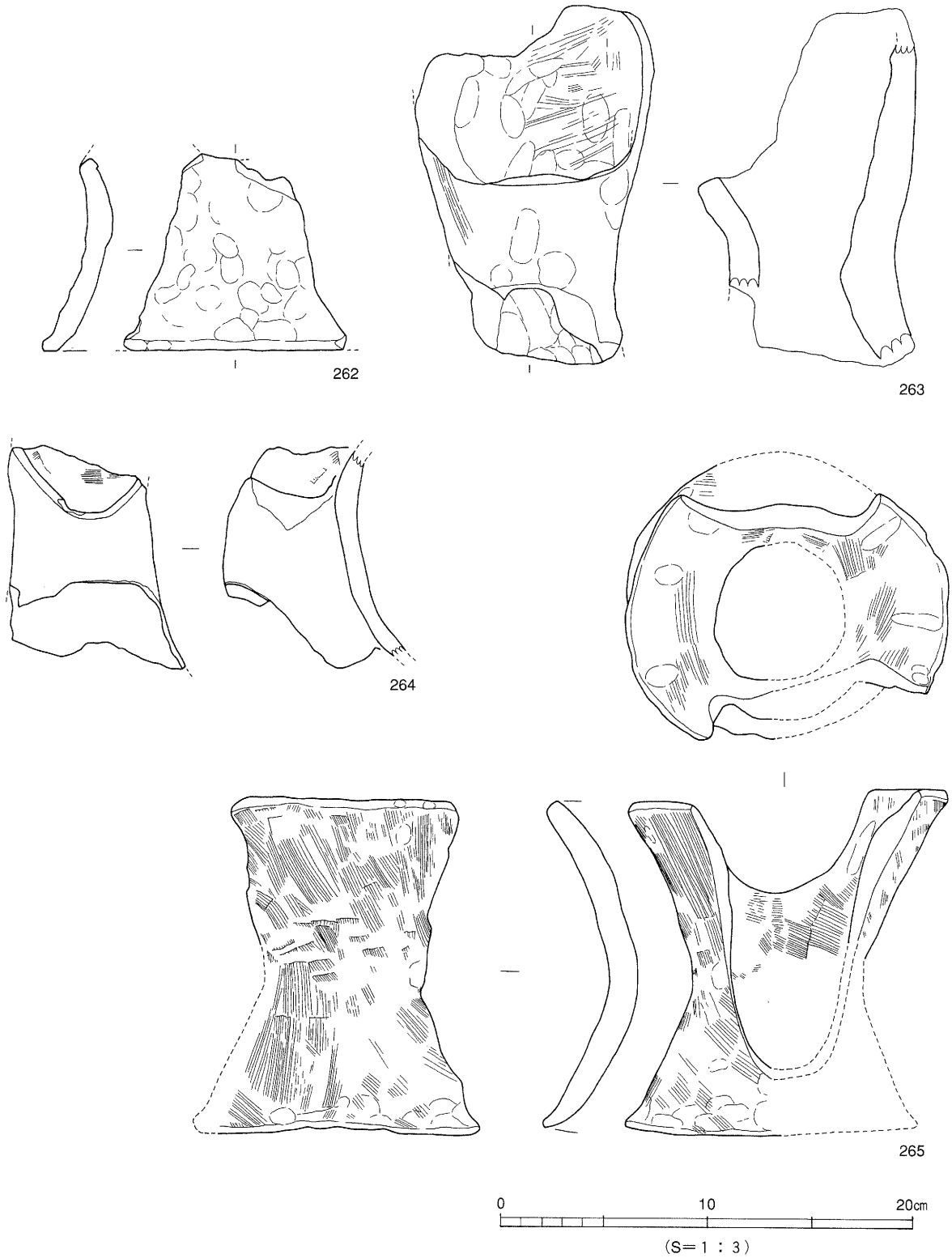
第49図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(21)

縄文土器

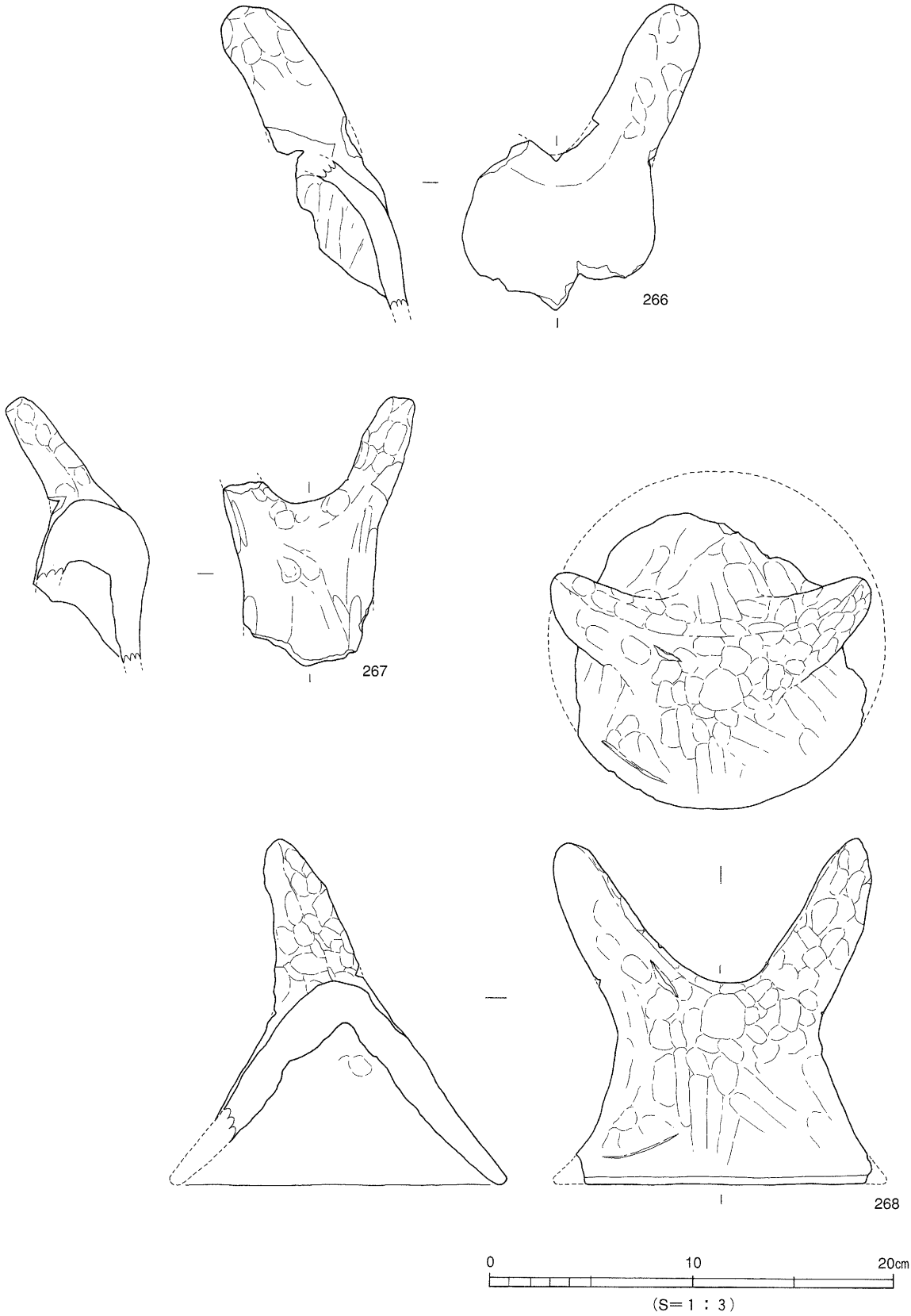
深鉢（506）　外反する口頸部の外面に平行斜線文、端部に浅い刻み目を施されるものである。



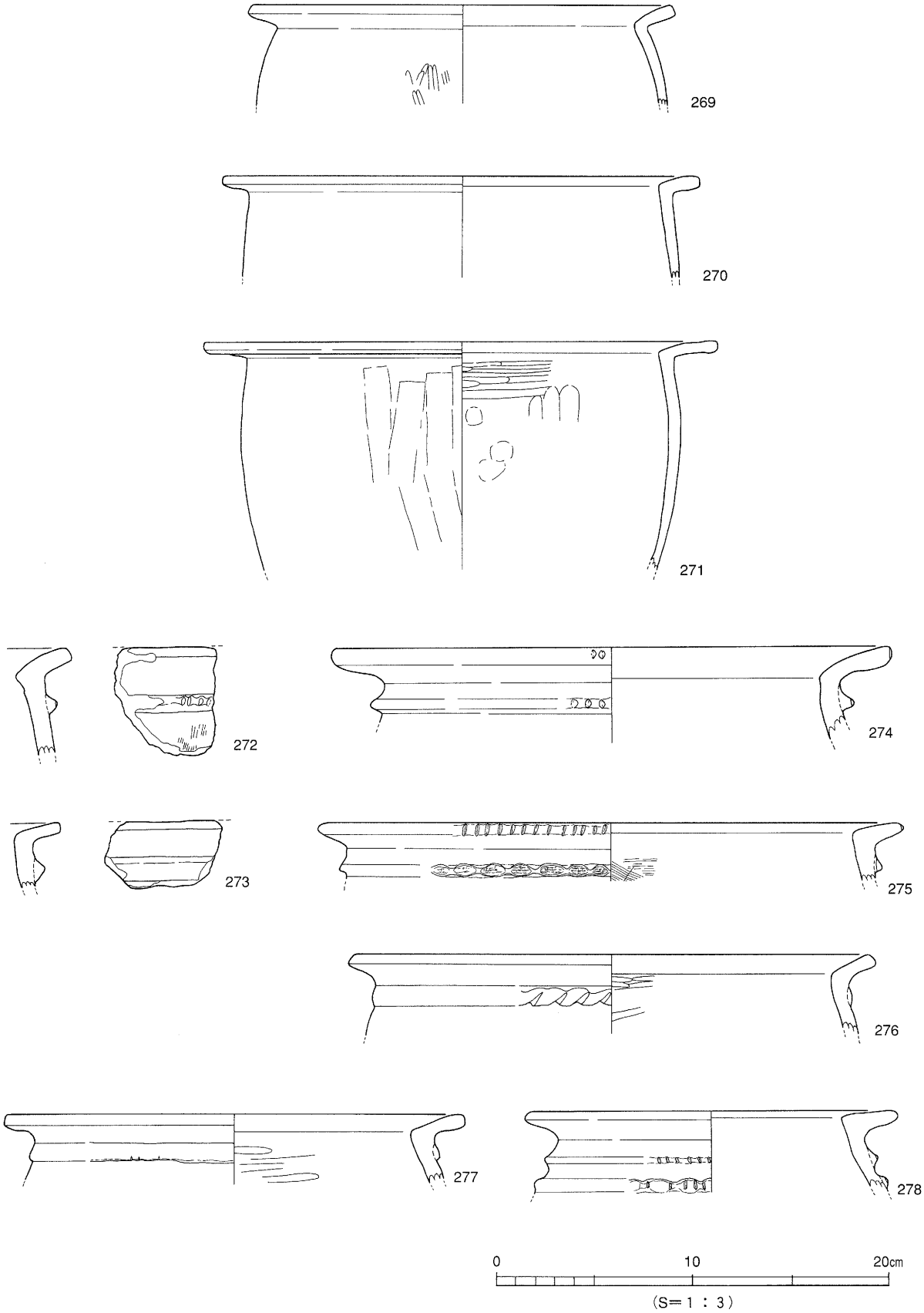
第50図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(22)



第51図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(23)



第52図　B１区第７層出土遺物実測図(24)

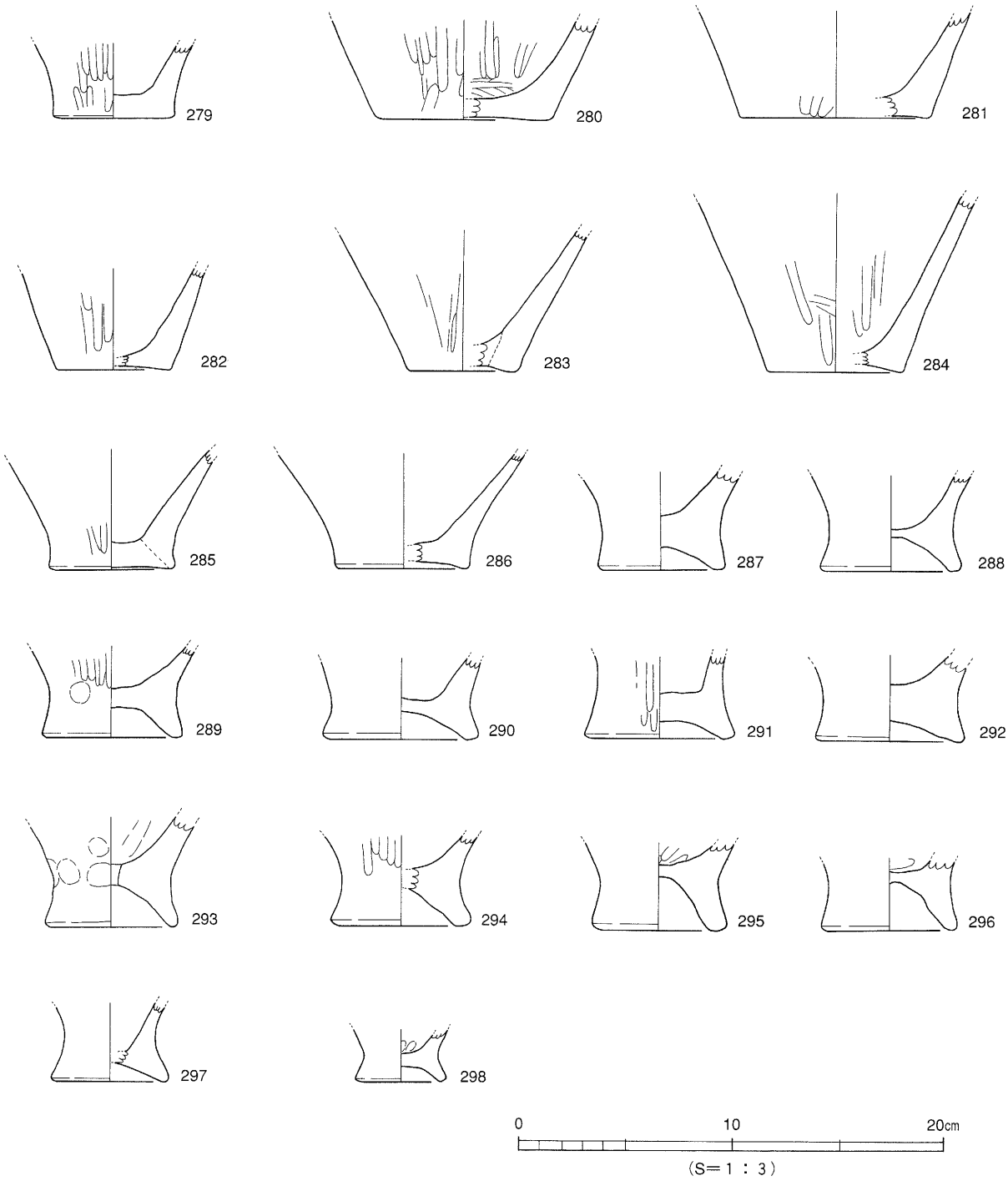


第53図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(25)

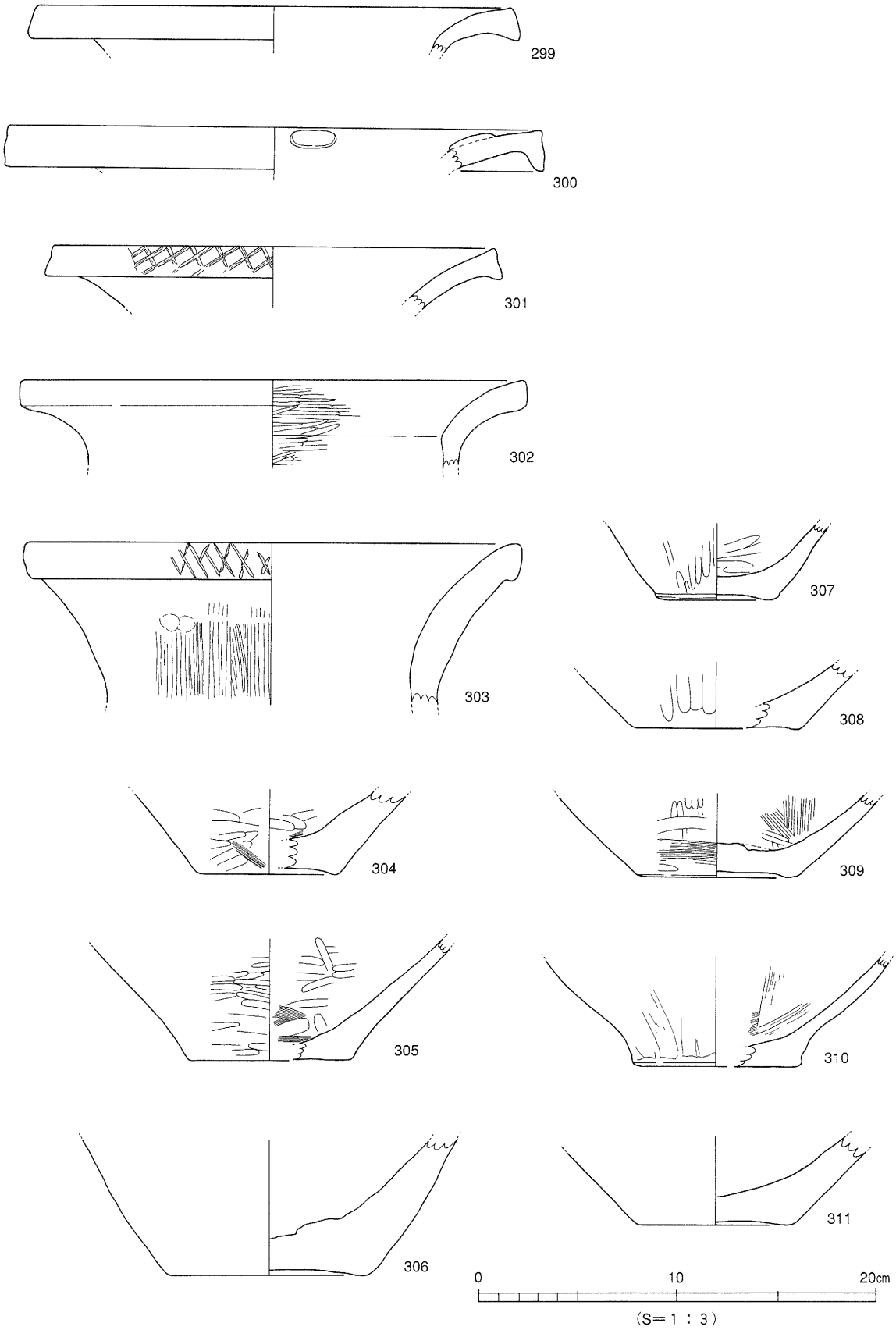
弥生土器

甕（507～569）　507は、前期後半の口頸部で、弱く折り曲げられた口縁部とやや張りを持った胴部形態をなす。頸部には２条の平行沈線、口端部の僅かに生きている部分には刻み目が１点だけ観察できる。

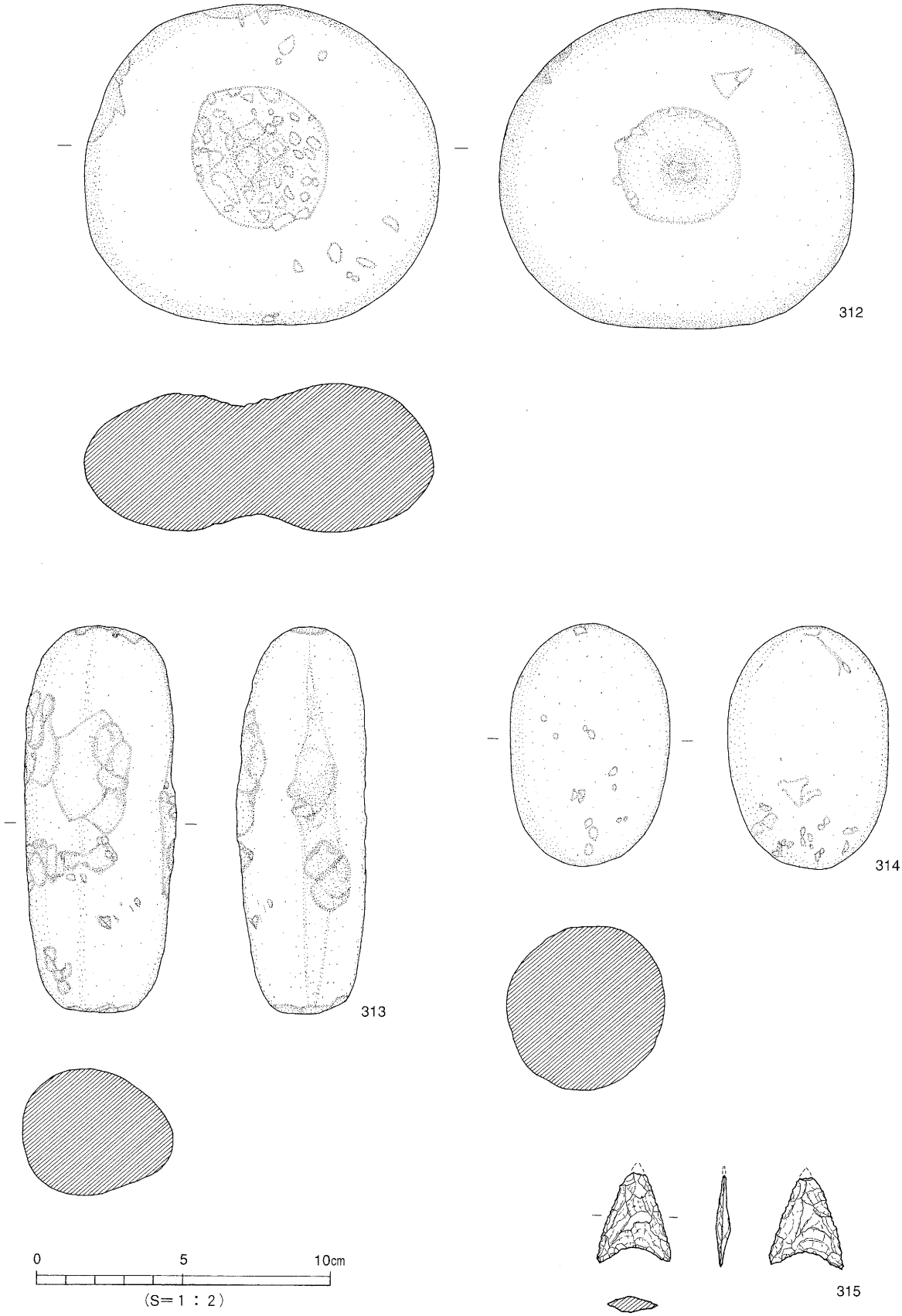
508～564は、中期の甕である。Ｂ１区第９層出土の甕と同様、無文のものと有文のものがある。無



第54図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(26)



第55図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(27)



第56図　B１区第７層出土遺物実測図(28)

文のものの口縁部は、508～518のように水平に近いところまで強く折り曲げられ、胴部径が口径より小さくなるものと、これらよりも折り曲げの度合いが弱く、外上方に開く519～527のようなものとがある。これらのうちには525や526のように口縁部が内湾気味に開くものもある。有文のものの多くは圧痕文突帯を持ち、口端部に刻み目を施されるものと口端部無文のものとがあるのもＢ１区と同様である。底部は538・539のような、顕著なくびれを持たず僅かな上げ底になるものと所謂くびれの上げ底状になるものとがある。

565～569は上記の底部よりも降る中期後半もしくは後期に属すると考えられる甕底部である。

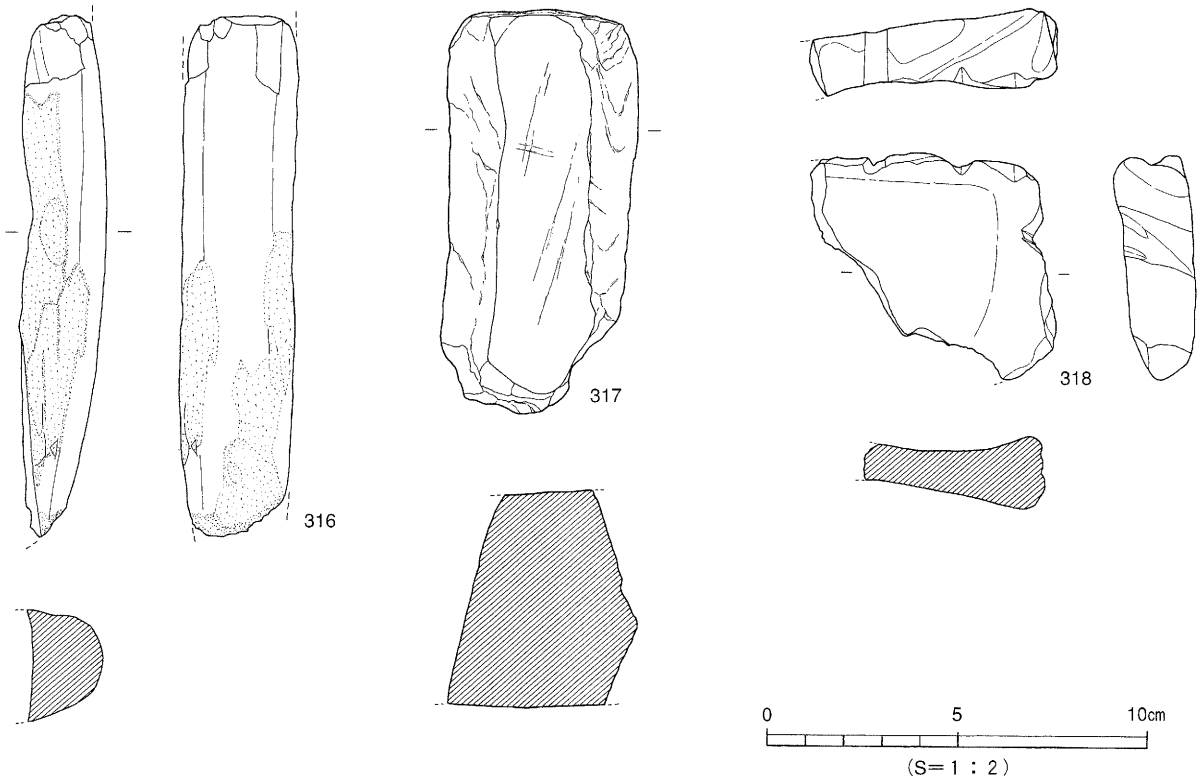
高　坏（570～580）　高坏口縁部570～572は、椀状の坏口縁端を内面に肥厚させ、上端に水平な面をつくり、外端部に刻みを施すものである。脚部には、その上端部に貫通する円孔を穿つもの573・574、あるいは裾部やや上位に貫通する三角形透孔を施すもの578・580、その他無文のものがあり、いずれも中期中葉のものと考えられる。

鉢・その他の土器（581～584）　581・582は手捏ねによる小型の鉢、582は二次的に火熱を受けている。583は台付きの異形の土器で、器種不明のものである。上端部に円孔を持つ台に載せられた部分はシンメトリーな形状にはなっていない。これは製作途上の変形ではなく、意図して成形されたものである。584はジョッキ形土器の底部である。

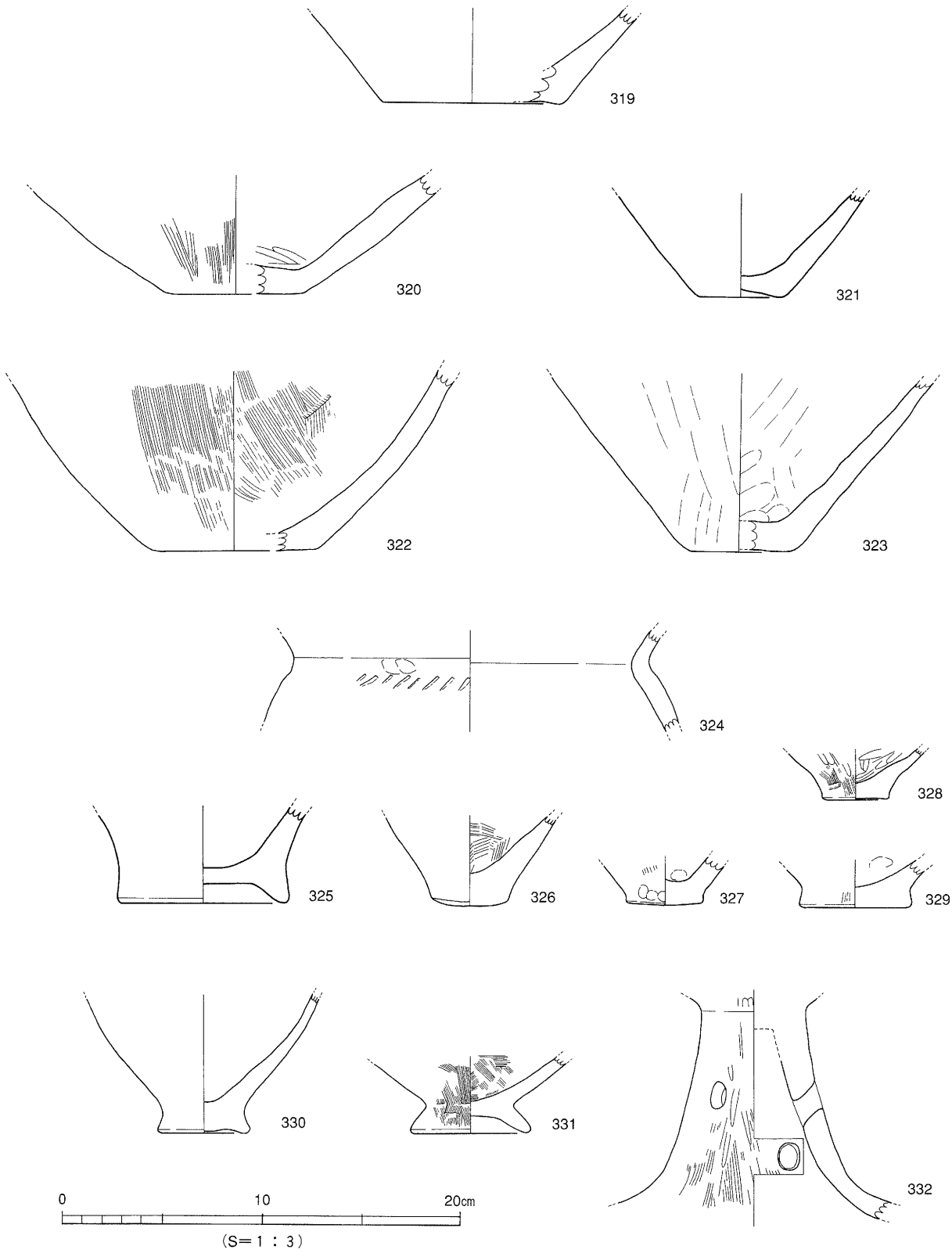
土製品

紡錘車（585）　一部を欠いており、現況で重量26.39ｇ、直径4.6cmを量る。最大厚1.4cmの断面紡錘形に近く成形された円板の中央に、直径0.6cmの孔を焼成前穿孔されている。

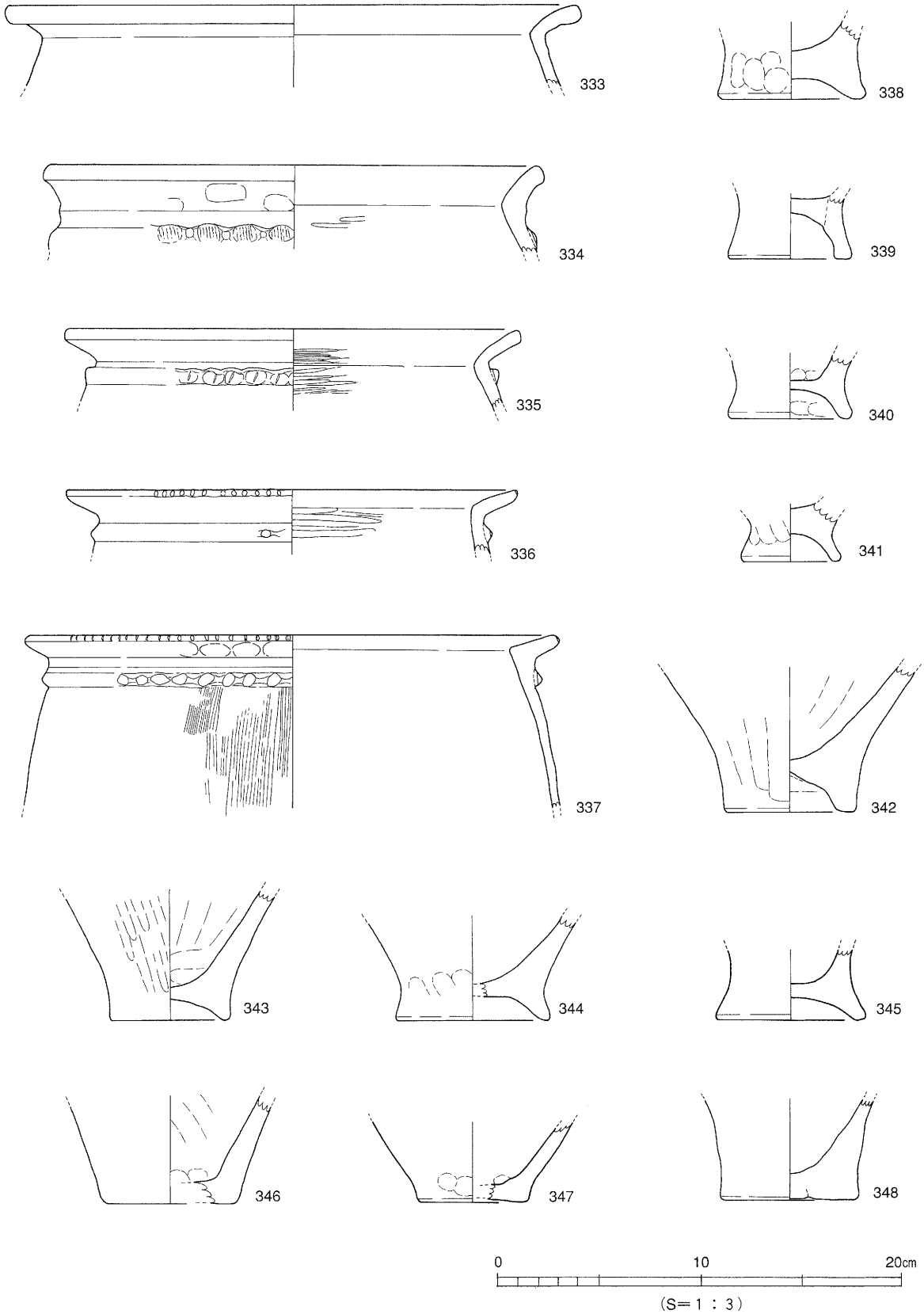
勾　玉（586）　全長3.7cmを測る土製勾玉で、背部に刻み目を持つ。



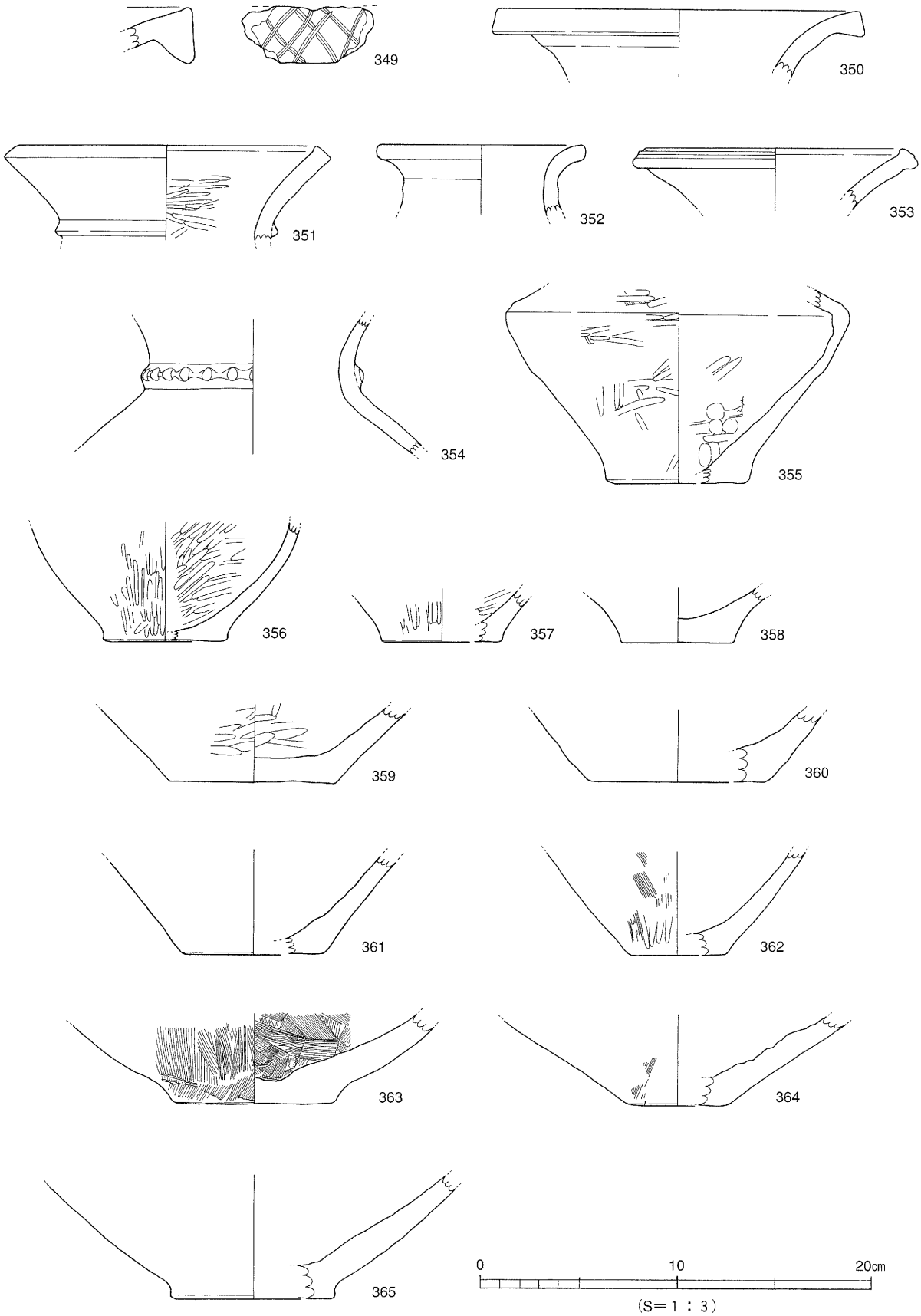
第57図　Ｂ１区第７層出土遺物実測図(29)



第58図　B１区第６・７層出土遺物実測図



第59図　Ｂ１区第９層出土遺物実測図(1)



第60図　B１区第９層出土遺物実測図(2)

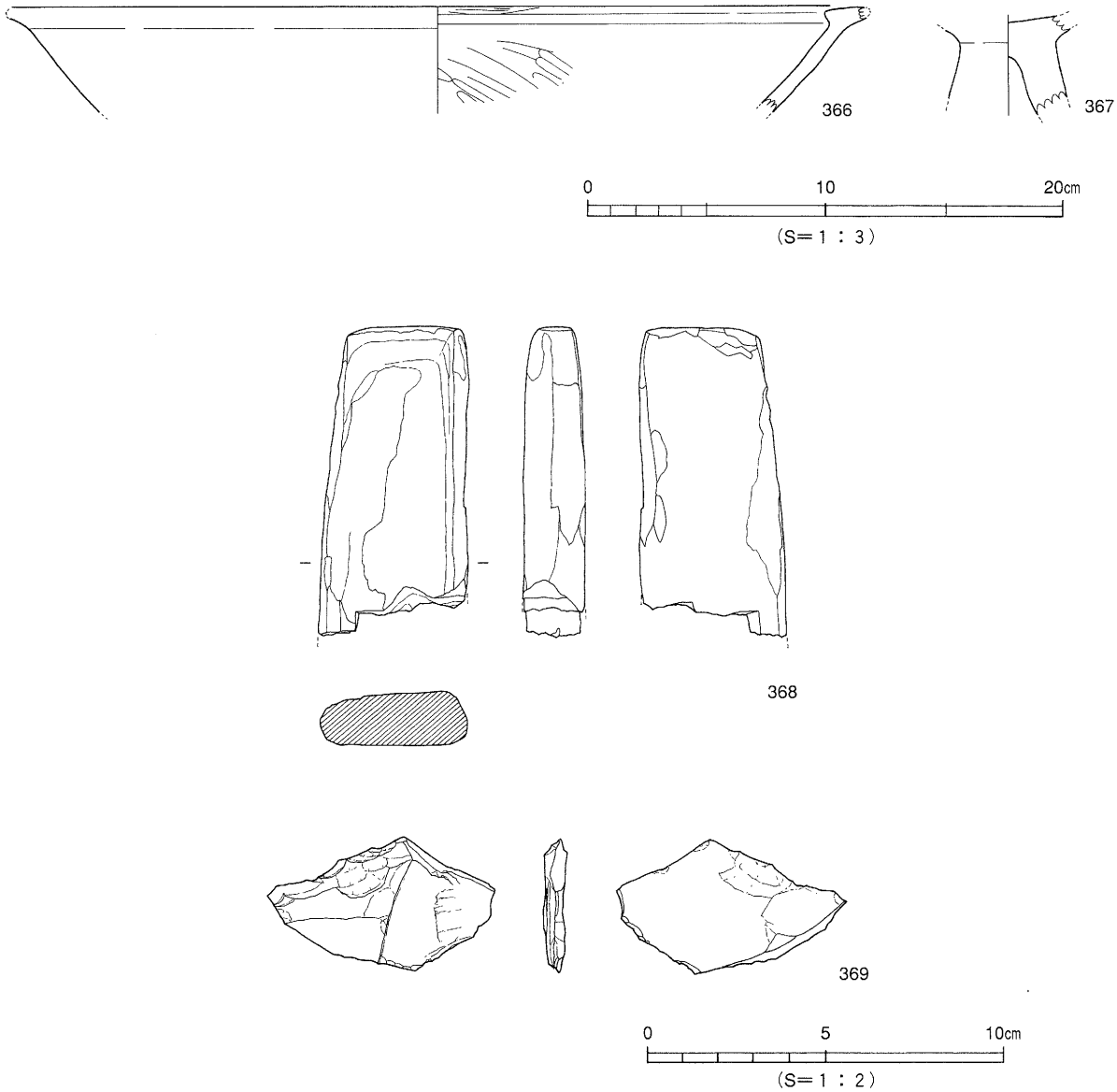
石器・石製品（第82・83図、図版44）

石　斧（587～591）　587・588は伐採斧のそれぞれ刃部、基部の片で、同質の緑色系の凝灰岩からなっているので、同一個体であるかもしれない。589～591は加工斧で、緑泥片岩を素材としている。589が扁平片刃の破損品、590が柱状片刃の小型品、591が大型品である。590は基部付近が僅かに剥離しているがほぼ完形で、全長9.4cm、重量32.05ｇを量る。

石庖丁（592・593）　ともに緑泥片岩製。592は刃部の小破片で、穿孔の一部が確認できる。593は、ほぼ全体の形状を長方形に整え、刃部を敲打によりつくり出した段階の未製品である。

石　鏃（594）　赤色チャートを素材とする打製石鏃で、基部を欠く。現況重量1.63ｇを量る。

台石・窪み石（595～597）　595は凝灰岩、596は砂岩を台石として利用したもので、595では両面を596では片面を擦っている。597は砂岩の窪み石、片面と周縁の一部に敲打痕がみられる。



第61図　Ｂ１区第９層出土遺物実測図(3)

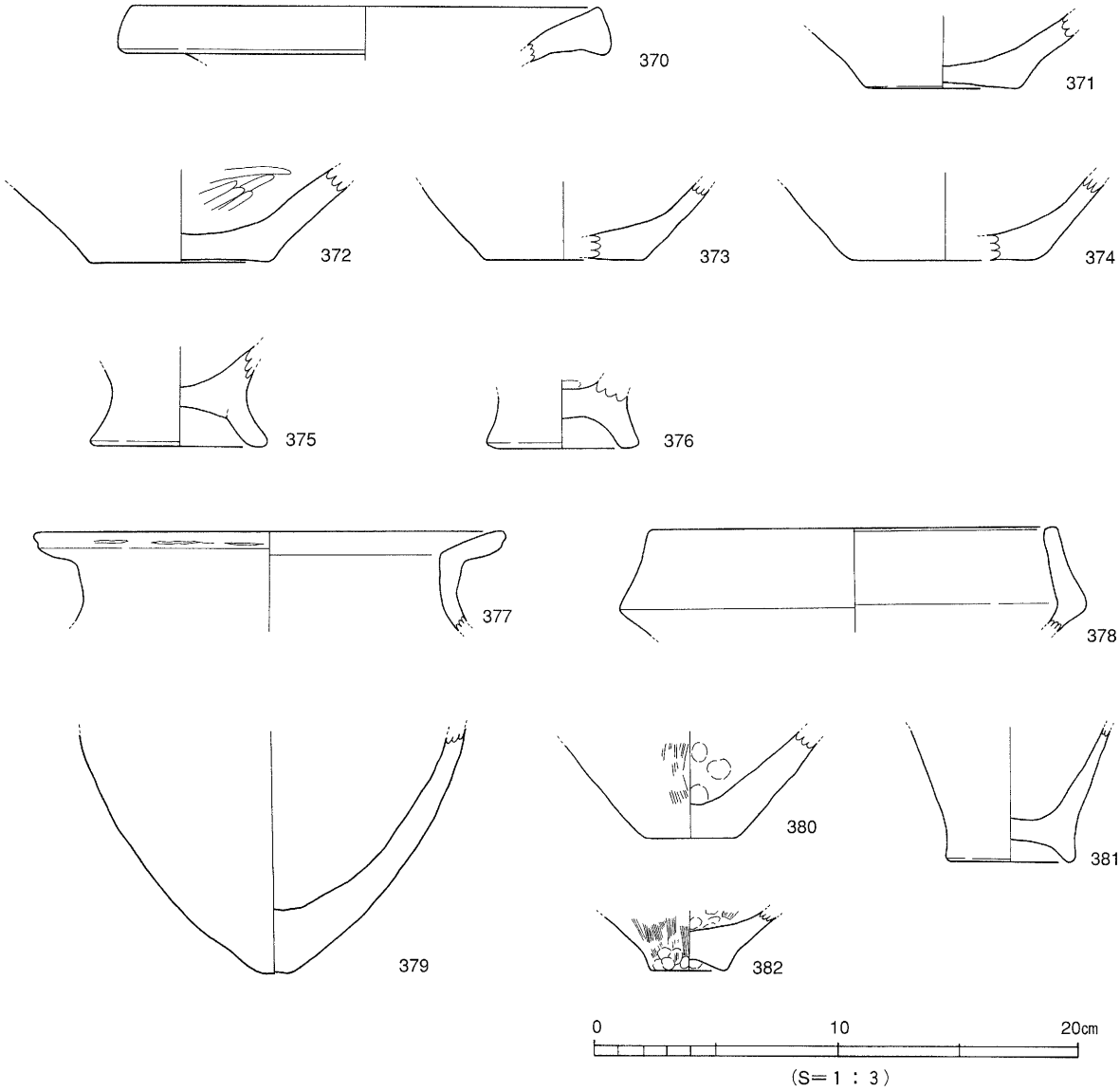
ＳＸ１～３出土遺物（第84・85図）

弥生土器（598～604）　598・599はＳＸ１出土のもので、598が後期の複合口縁壺口頸部である。口縁屈曲部のタガはなく、頸部に断面三角形の突帯を１条持つ。599は中期の甕底部である。600・601はＳＸ２出土のそれぞれ中期、後期の甕底部である。602～606はＳＸ３出土のもの。中期の甕602・603のうち602は口縁部を短く外上方に折り曲げ、口端部を除く内外面の器面を入念に磨いている。壺604・605ともに中期のもの、606は後期の甕底部か。

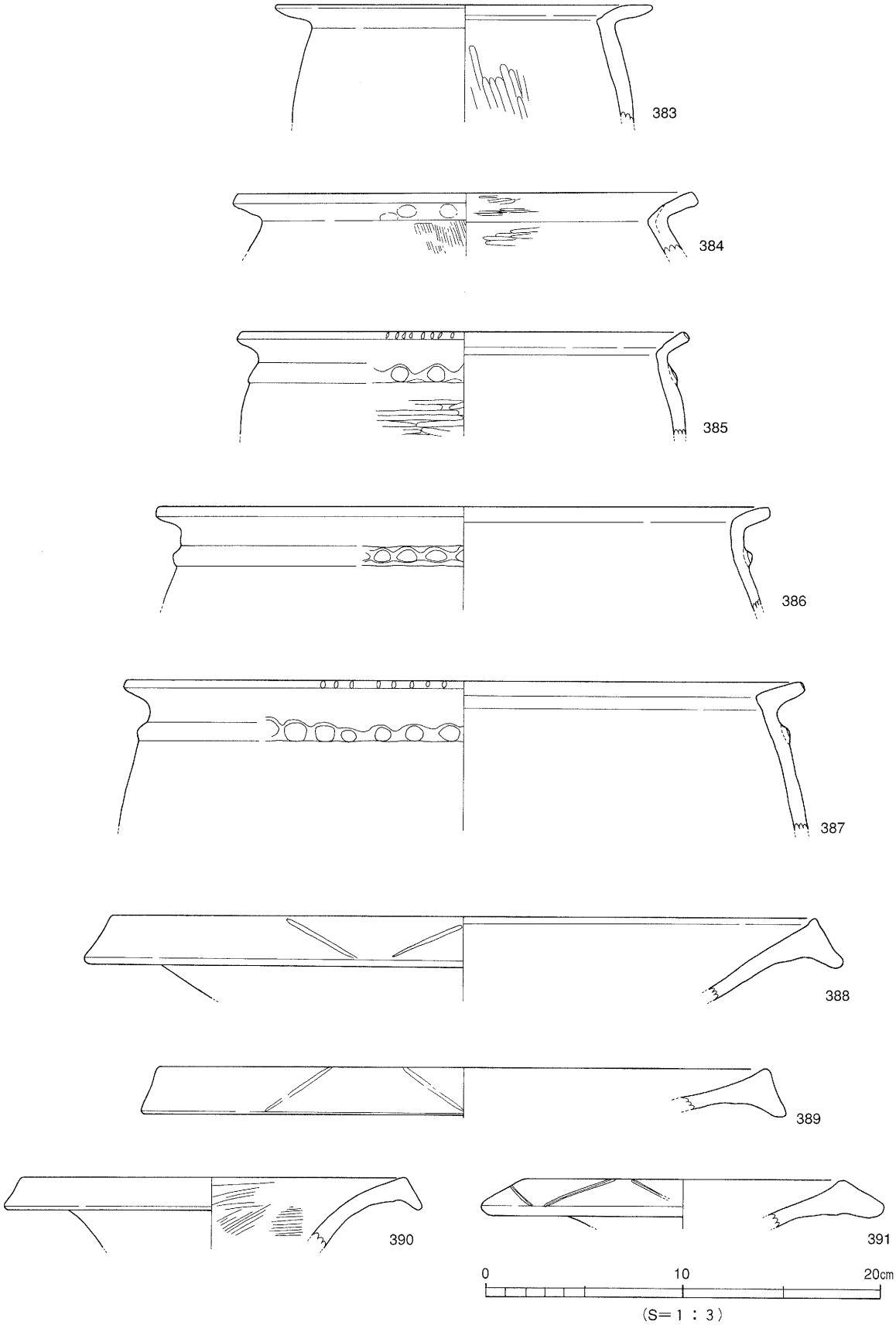
石　斧（607）　ＳＸ３出土、扁平片刃石斧の刃部を欠いたもの。緑泥片岩製。

表採・出土層位不明遺物（第86～88図）

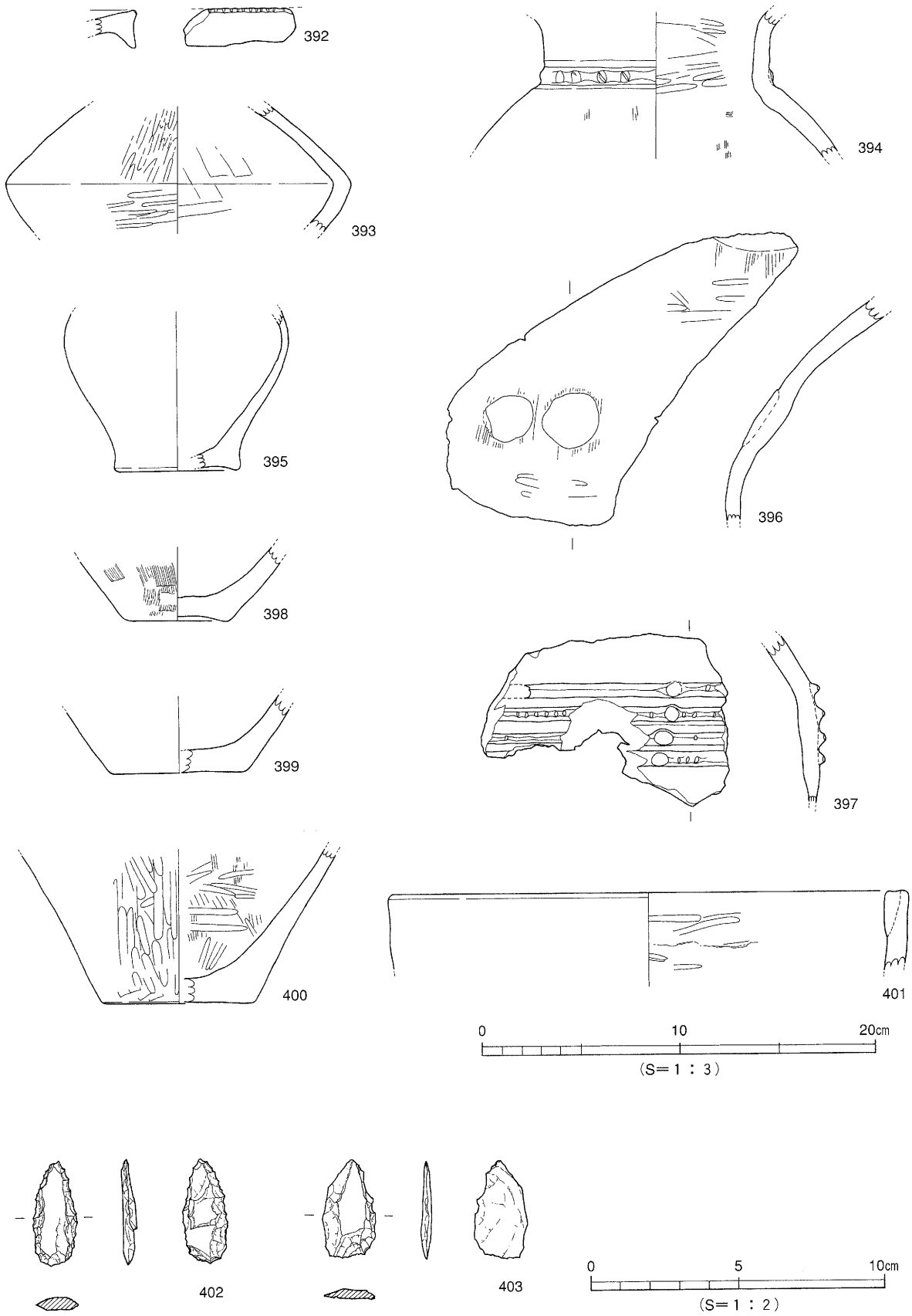
Ｂ２区においても、表採品、あるいは整理中に所属層位が不明になった弥生土器・石製品が若干あるが、この調査区では遺物のほとんどすべてが第９層から出土しているので、特に中期の弥生遺物は



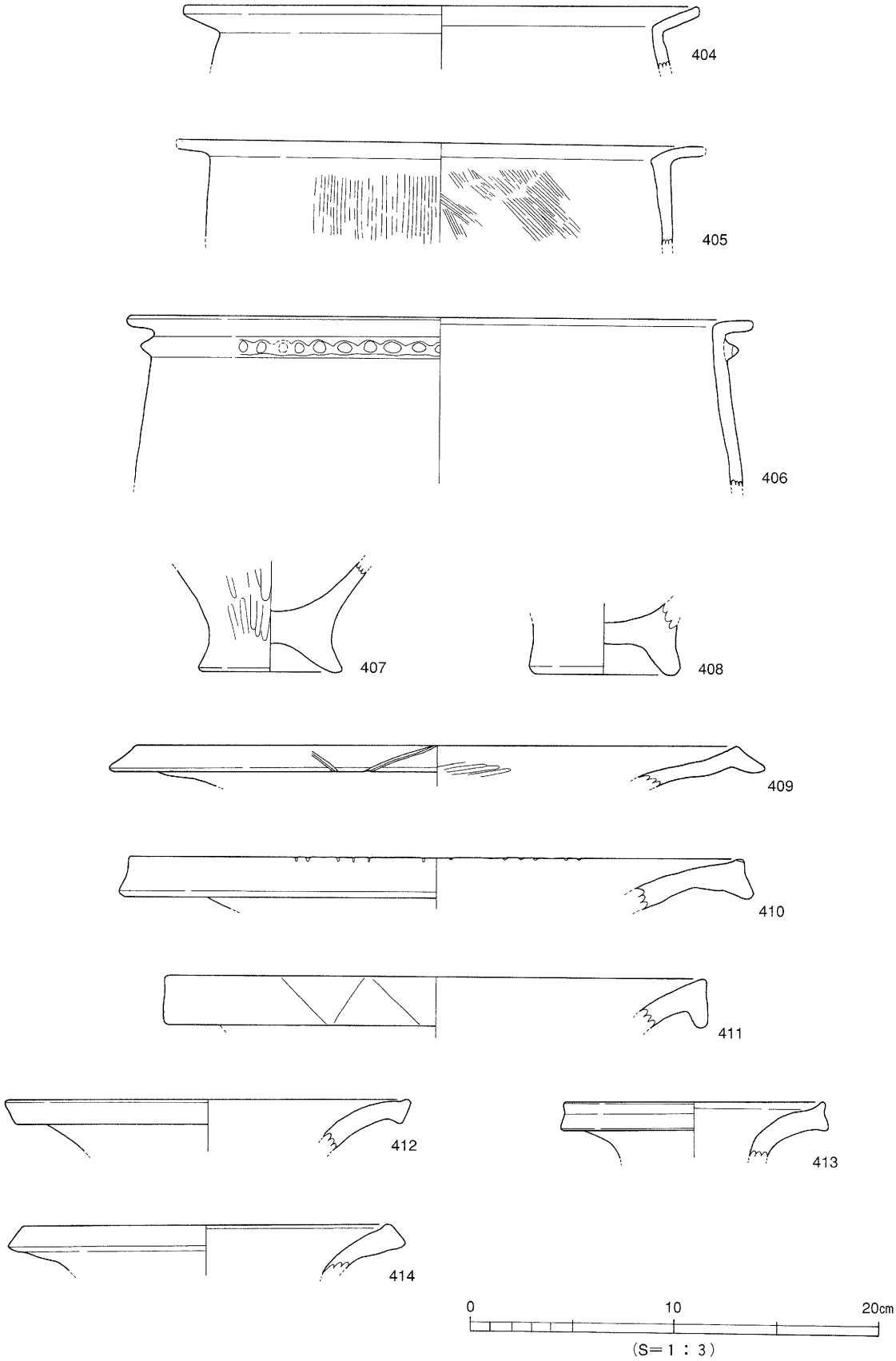
第62図　Ｂ１区第７・８・９層出土遺物実測図



第63図　Ｂ１区第９・10層出土遺物実測図(1)



第64図　B１区第９・10層出土遺物実測図(2)



第65図　Ｂ１区第11層出土遺物実測図(1)

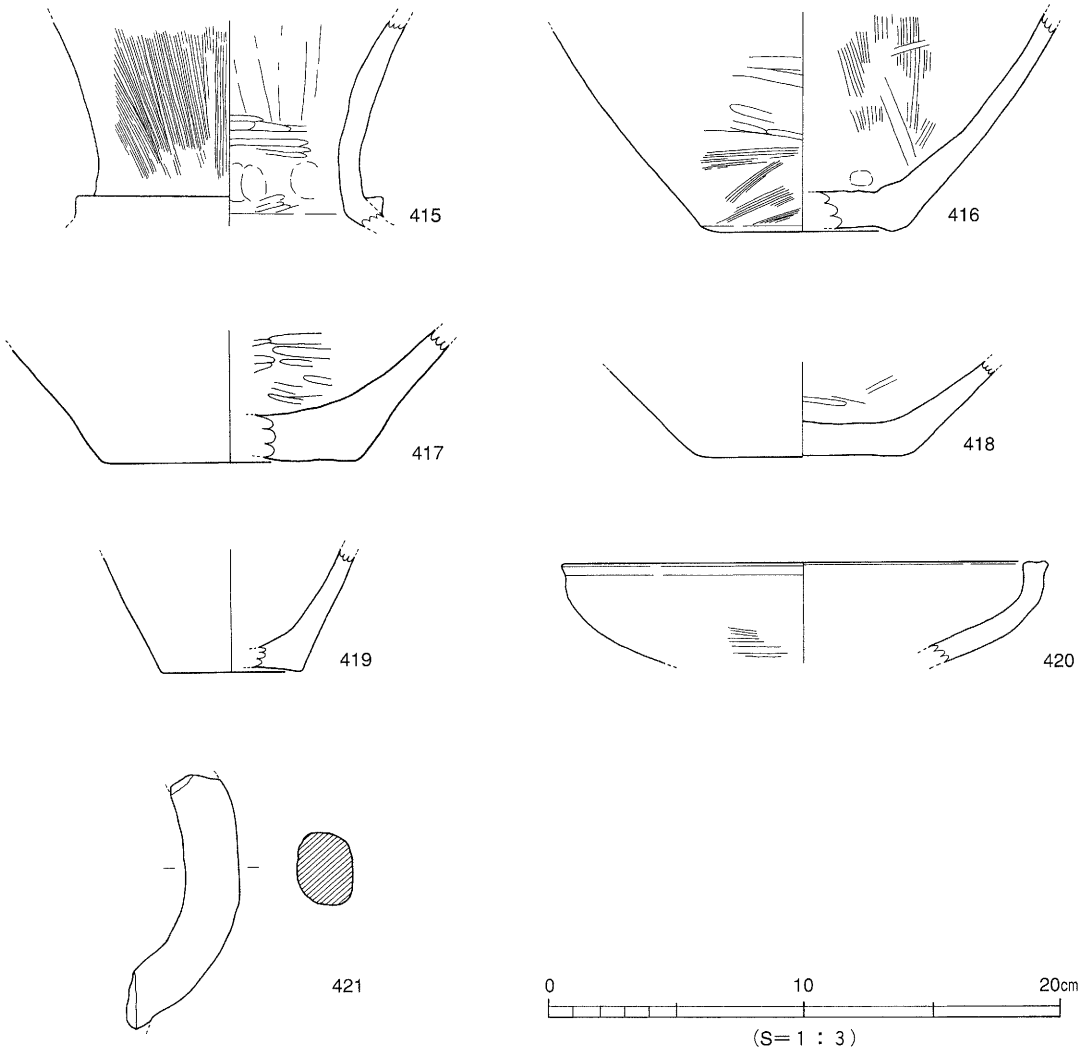
やはり第9層出土の可能性が高い。

弥生土器

甕（608～614）　後期の613を除いて、すべて中期のものである。圧痕文突帯や口端部刻み目を持つ有文のものと無文で水平に近く口縁を折り曲げられるものがある。後期の613は外上方に折り曲げられた口端部に面を持ち、内外面を刷毛目で調整されている。

壺（615～632）　中期のものが615～625で、626～632が後期のものと考えられる。中期のものには、頸部圧痕文突帯や断面三角形突帯を貼りつけられたり、口端面にヘラ描による施文を持ったり、底部では安定感のある平底であるところも、甕同様、第9層出土の壺群の特徴と変わるところはない。後期の口縁部片2点は複合口縁、底部はやや突出した平底になるものや、小さな平底のものがある。

高　坏（633～636）　すべて脚部片で、後期の636を除いて中期のものである。633・634は無文であるが、635には4方向に割り付けられる透孔がある。形状からみて、三角形透孔の頂部が残存しているものと思われる。



第66図　B1区第11層出土遺物実測図(2)

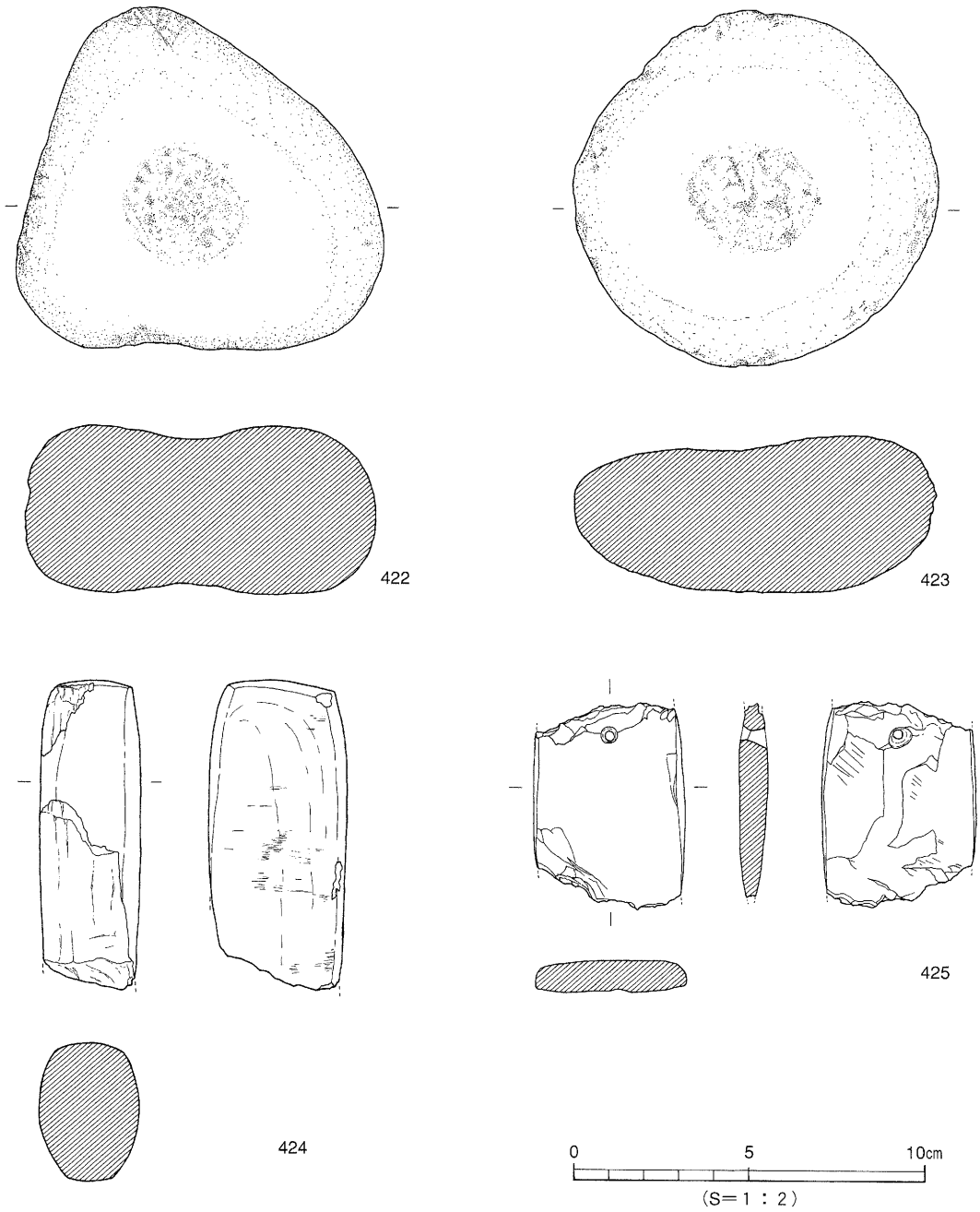
ジョッキ形土器（637）　底部周縁に鍔状のタガが巡っている。復元底径27.4cmと大型のジョッキ底部と考えられる。

石器・石製品

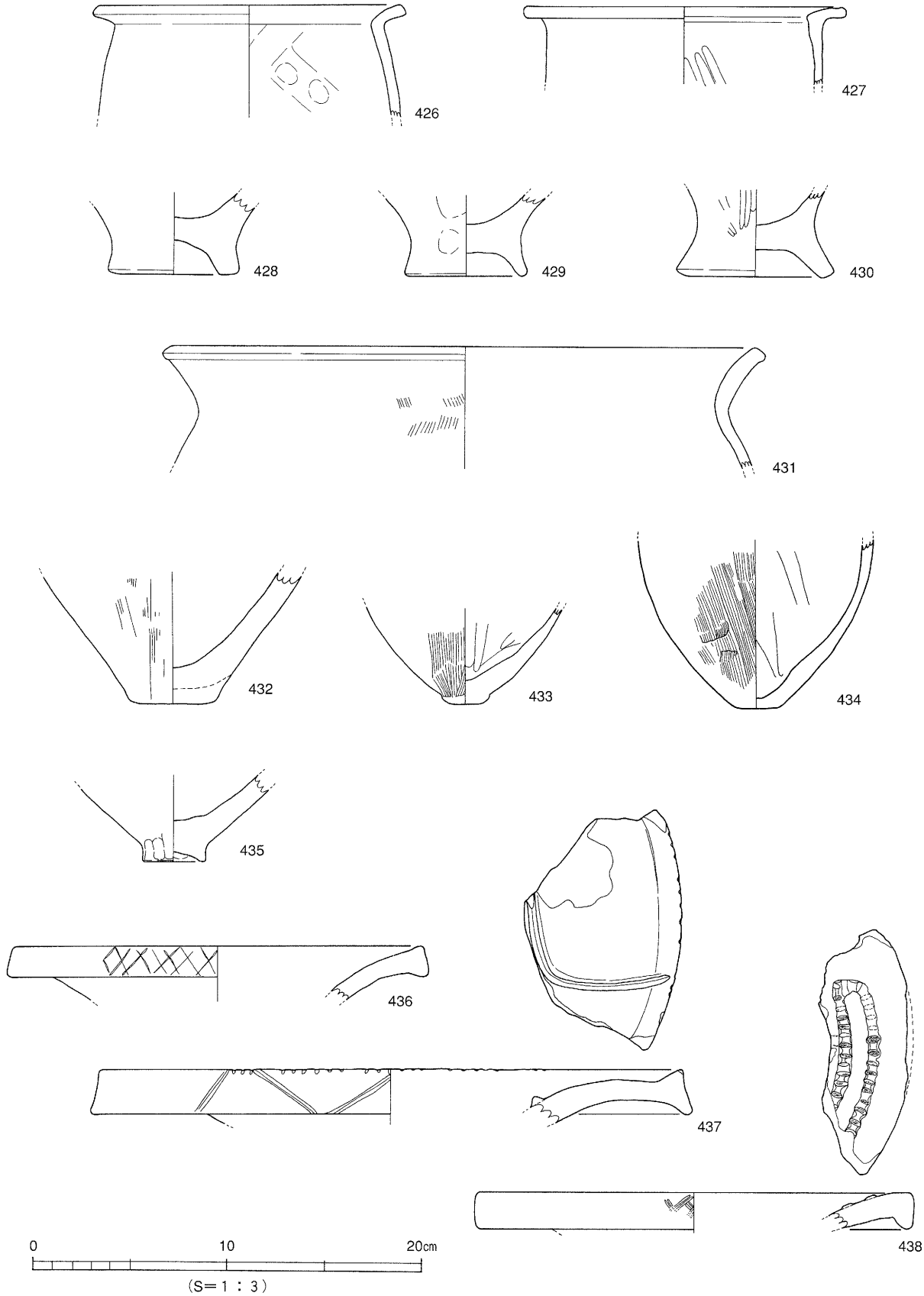
石　斧（638）　緑泥片岩の素材剥片に敲打を加えて短冊状に成形している。扁平片刃石斧の未製品であろう。

石庖丁（639）　緑泥片岩製石庖丁の背部周辺の破片で、穿孔の部分で破損している。穿孔途中で放棄された穿孔痕跡も残っている。

剥　片（640）　サヌカイトの剥片である。



第67図　Ｂ１区第11層出土遺物実測図(3)



第68図　B１区出土地点不明遺物実測図(1)

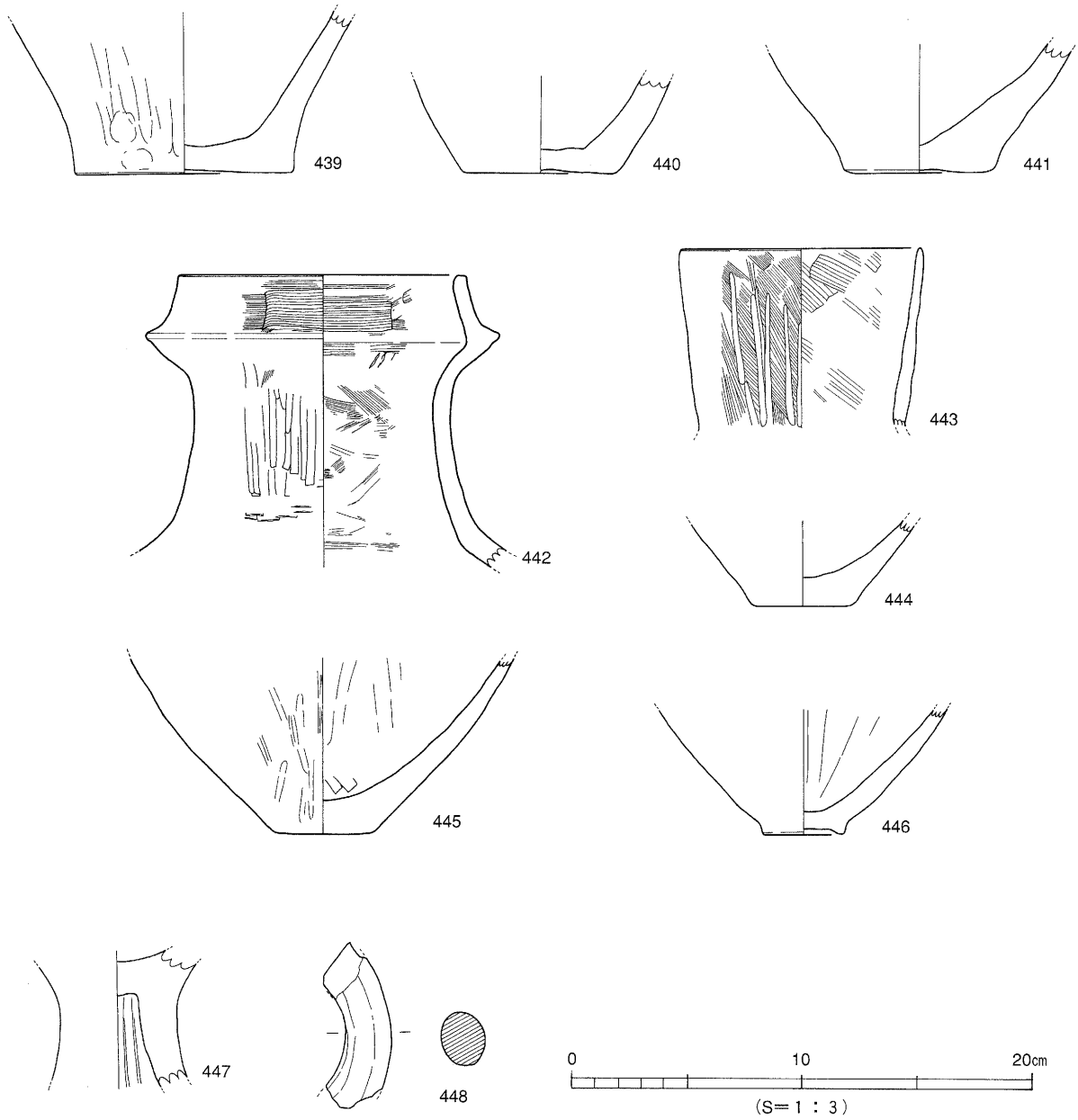
(3)　Ｃ調査区の調査（第17図）

Ｂ区の北方40m付近の竹林斜面に設定した試掘トレンチＴ15において若干の遺物の出土があったので、可能な限りトレンチ周辺を拡張掘削して遺構検出を実施したが、人為的な遺構は存在しなかったので、遺物のみを採集して調査を終えた。

Ｃ調査区出土の遺物

弥生土器（第89～92図、図版45）

壺（641～670）　口頸部でいえば641～651が中期中葉、652・653が後期のものである。中期のものでは頸部に突帯を持ったり、口端面にヘラ描施文を行われたり、口縁部内面に突帯や浮文を持つもの



第69図　Ｂ１区出土地点不明遺物実測図(2)

など、B調査区の第9層出土の中期の壺と変わるところはない。643では大きく開く口縁部内面に部分的に刻み目を施した渦巻き状の突帯を巡らせ、口端部上端も刻んでいる。また、口縁端の穿孔は焼成前に行われたものである。このような口縁部は、同一個体ではないが、多重突帯と縦方向の棒状浮文を持った651のような頸部と組み合うものと思われる。650では下方に拡張した口端面に3条の凹線を施している。底部では中期か、後期かはにわかに判別しがたいものがあるが663や668・669あたりが後期のものか。

甕（671～685）　甕口頸部は無文のもので、やはり中期に属するものである。底部にもいろいろバリエーションがあるが概ね中期後半までにおさまるものであろう。

高　坏（686～689）　すべて中期中葉のもの、686は直線的に外上方に開いた口縁部端部を内外方に拡張して、鋤先状に上端に水平な面をつくっている。687は口端を内面に肥厚させ外端部を刻み、なおかつ焼成前の穿孔を行っている。脚部689の透孔は、貫通する4方向の矢羽根状に復元できる。

ジョッキ形土器（690・691）　口縁部と把手の2点が出土している。口縁部690は内外面ともに縦方向に入念に磨かれている。

須恵器・土師器（第92図）

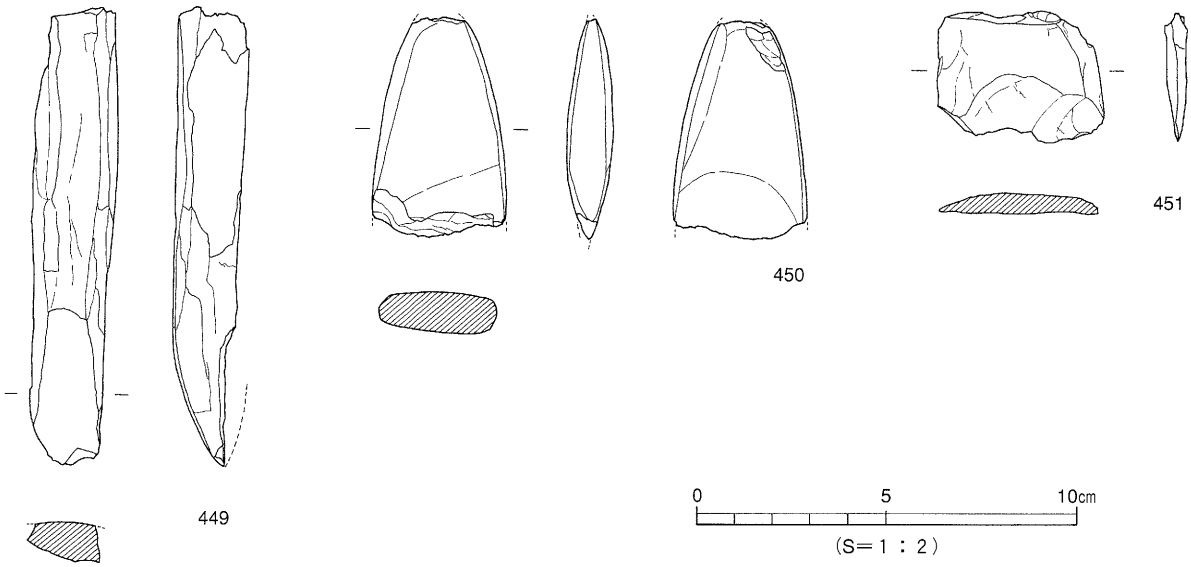
須恵器坏（692）　蓋の破片で口縁部と天井部の境に鈍い稜を持つ。口端部は鈍い段を持って斜めに仕上げられている。

須恵器甕（693）　復元口径19.8cmを測る口頸部片。

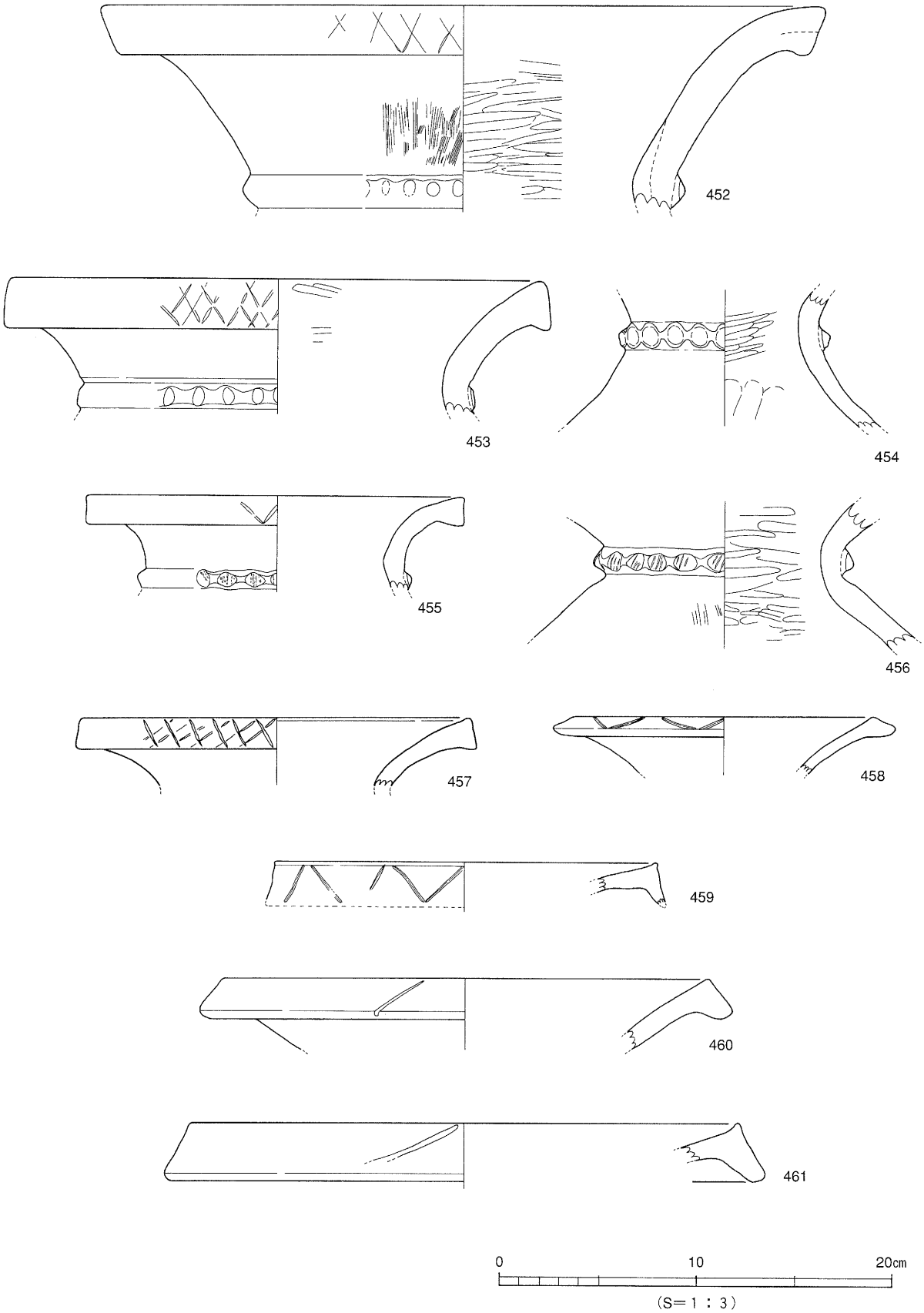
土師器坏（694・695）　円盤高台を持つ坏底部2点。両者ともヘラ切りの後切り離し痕をナデ消されている。

石器・石製品（第93・94図、図版45）

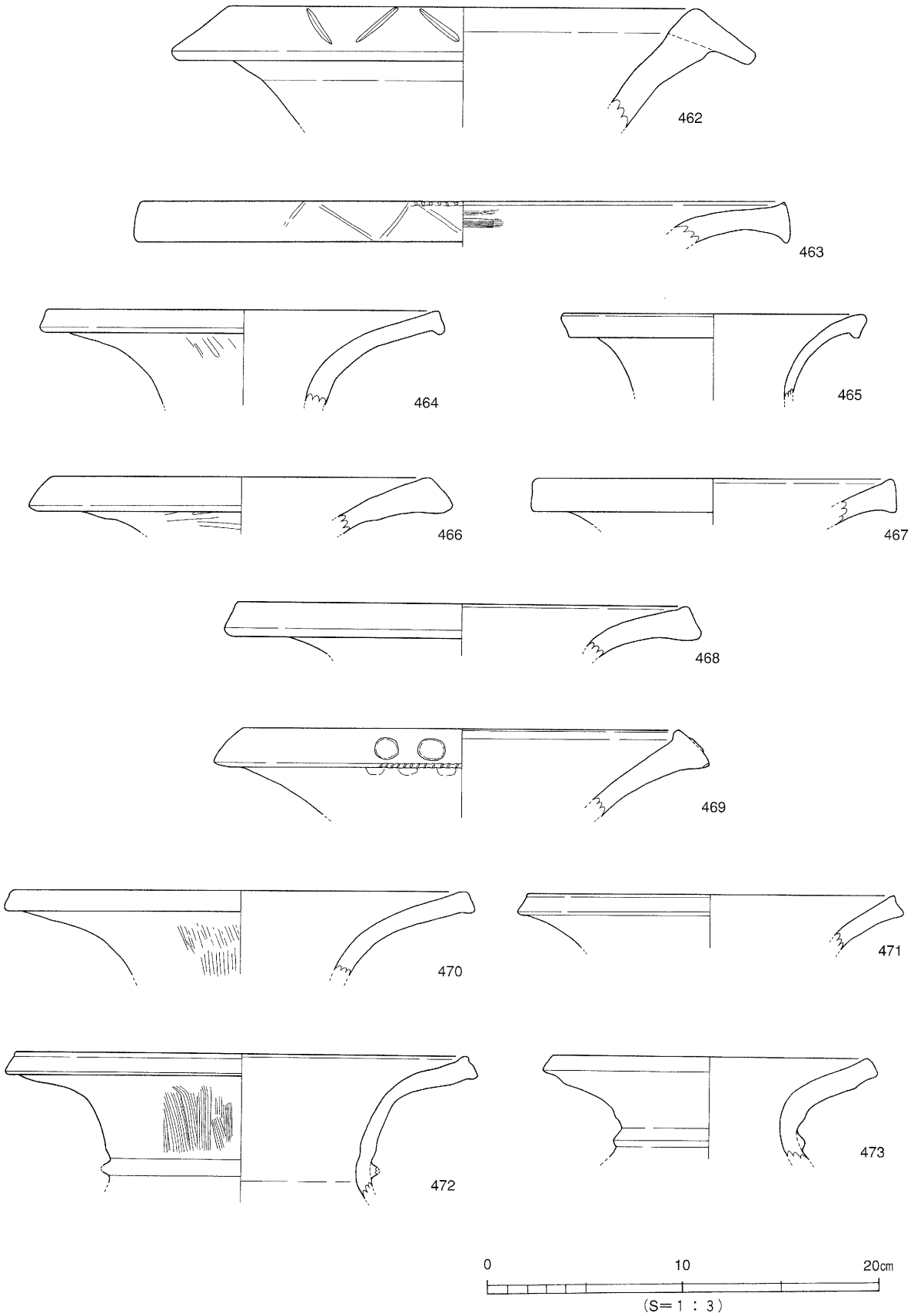
石　斧（696～700）　696～698は緑泥片岩、699・700が凝灰岩を素材とする。696・697は同型、同サイズの大型の柱状片刃石斧の刃部片。696は刃部を欠いているが、697は完存しており、使用痕が残っている。698の扁平片刃石斧は、自然礫の端部に刃つけを施しただけのような簡便なつくりである。



第70図　B1区出土地点不明遺物実測図(3)



第71図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(1)



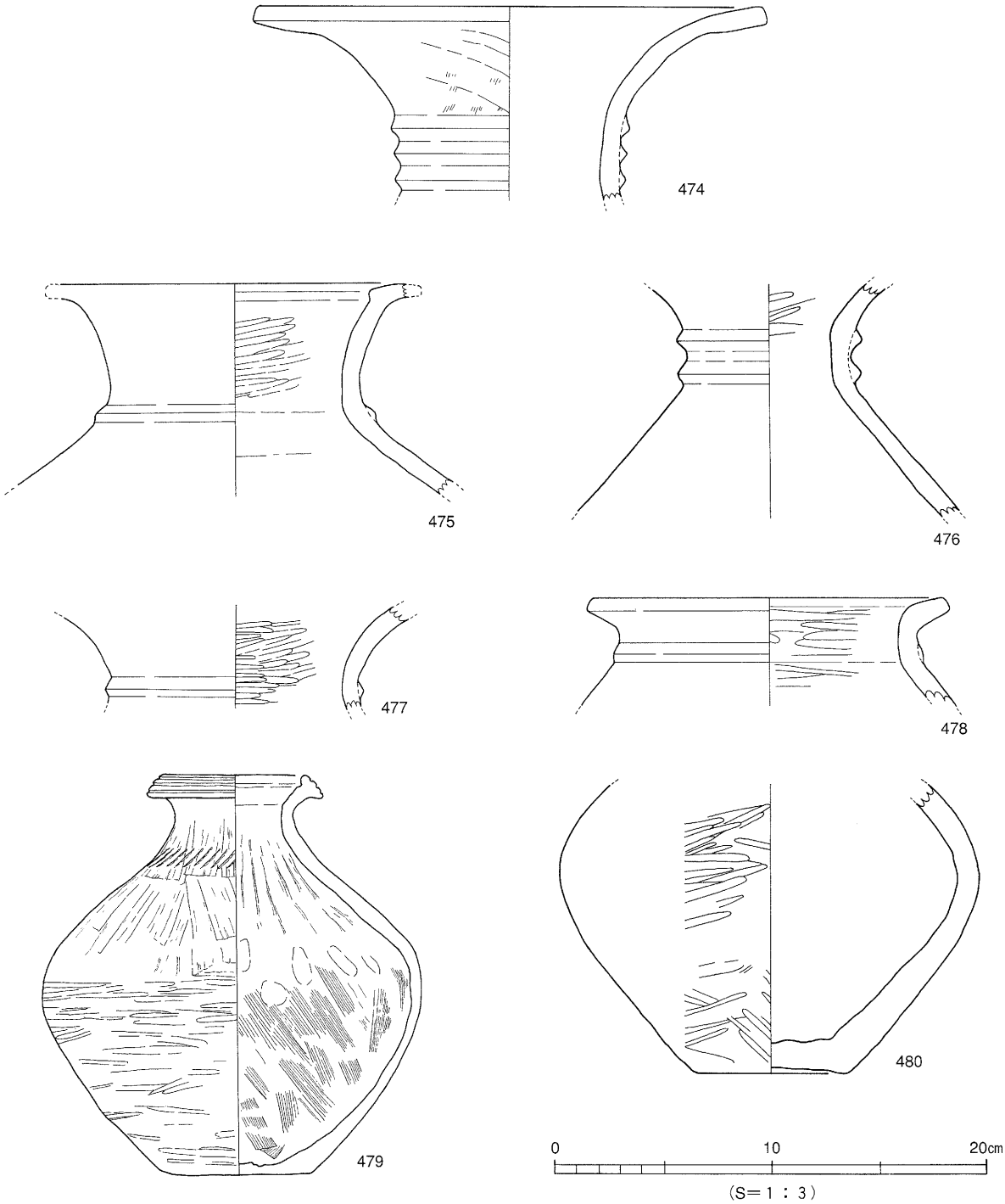
第72図　B 2 区第 9 層出土遺物実測図(2)

699・700は刃部を折損した伐採斧片で、現況で前者が544ｇ、後者が230ｇを量る。

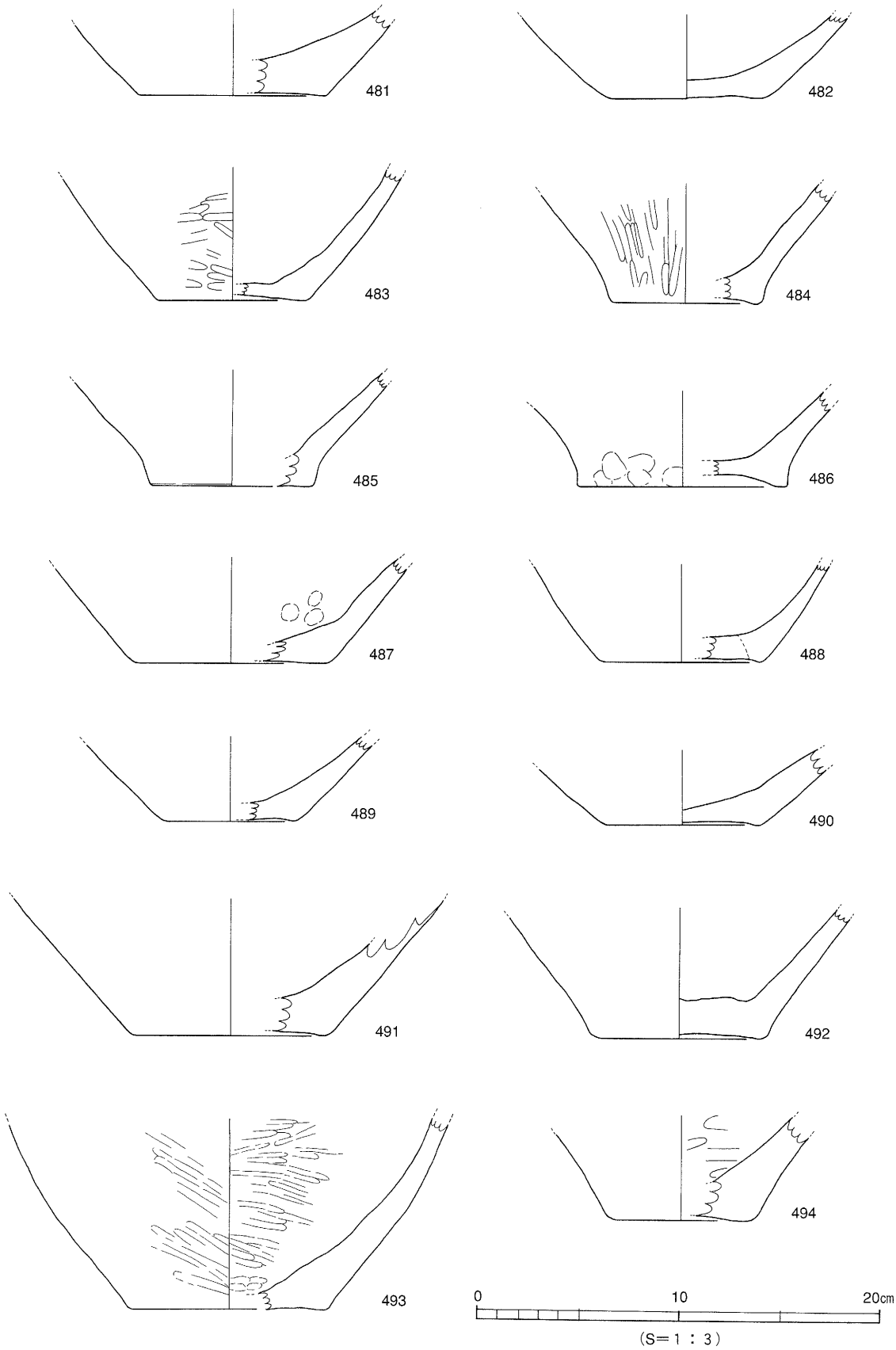
石庖丁（701）　緑泥片岩製磨製石庖丁の刃部片。

敲石・窪み石（702～704）　３者とも凝灰岩の転石を利用している。702・704は敲石、礫の側面を敲打に使用している。703は窪み石、敲打の窪みの部分で破損している。

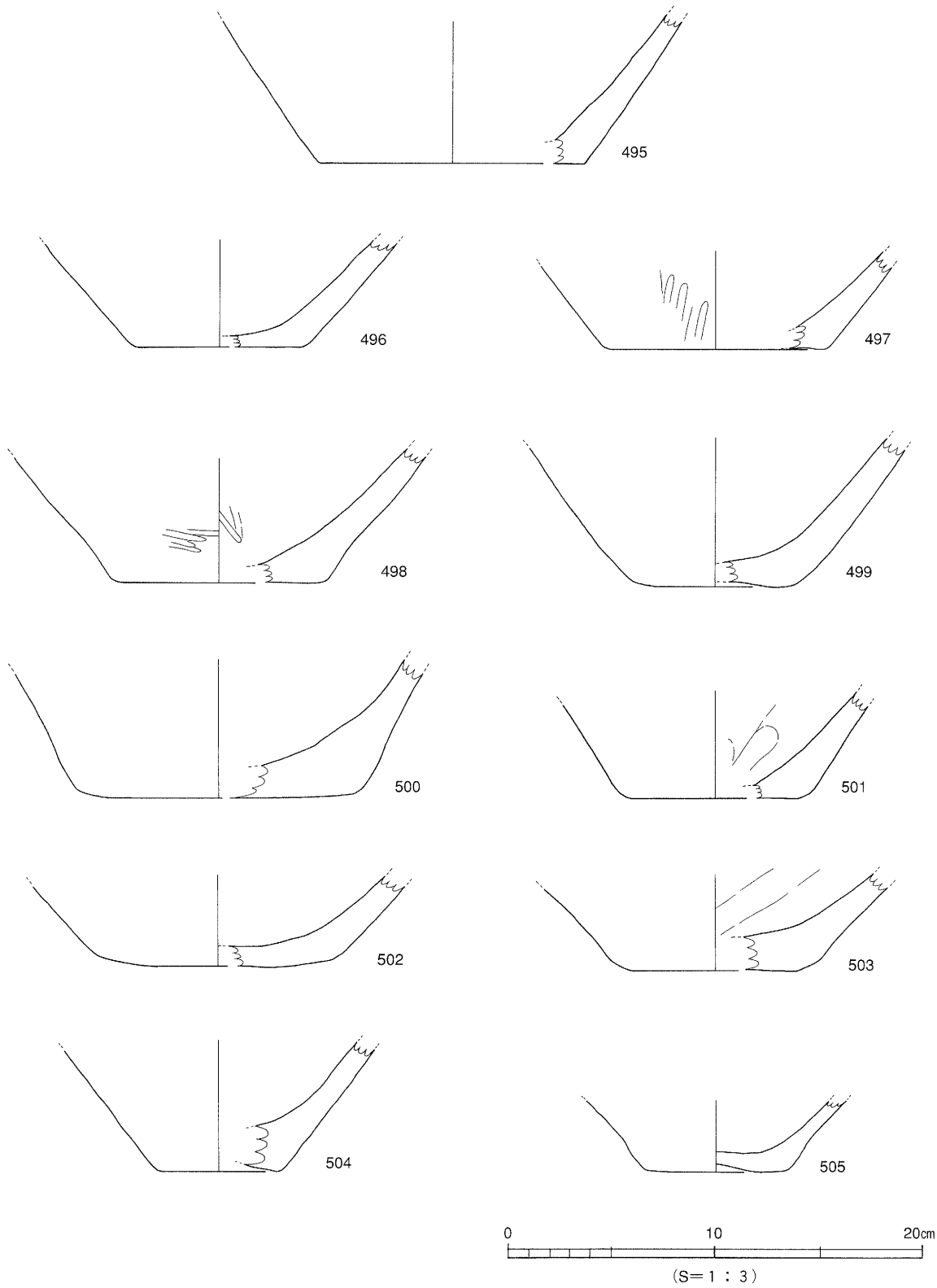
剥　片（705）　大型の凝灰岩剥片である。



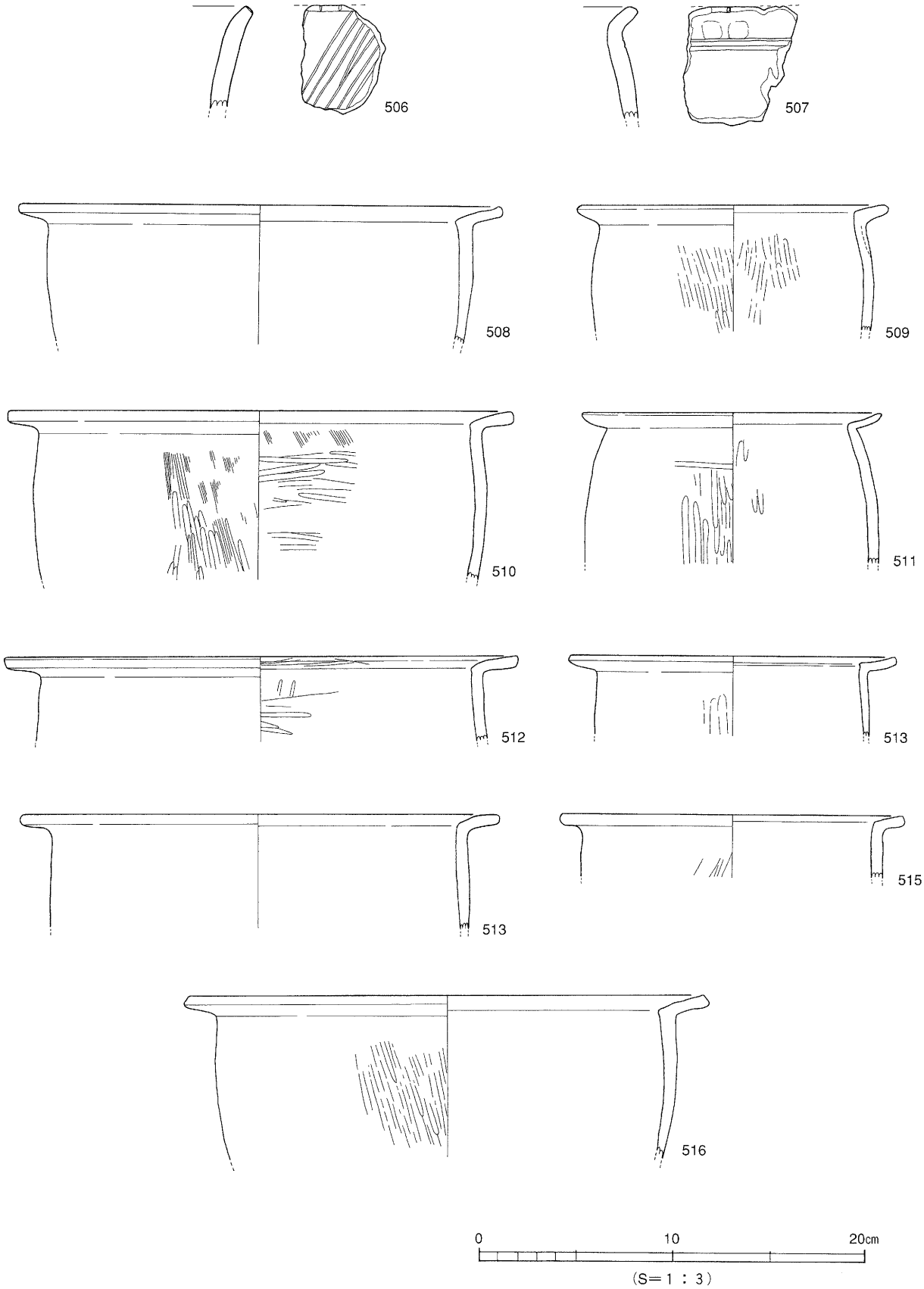
第73図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(3)



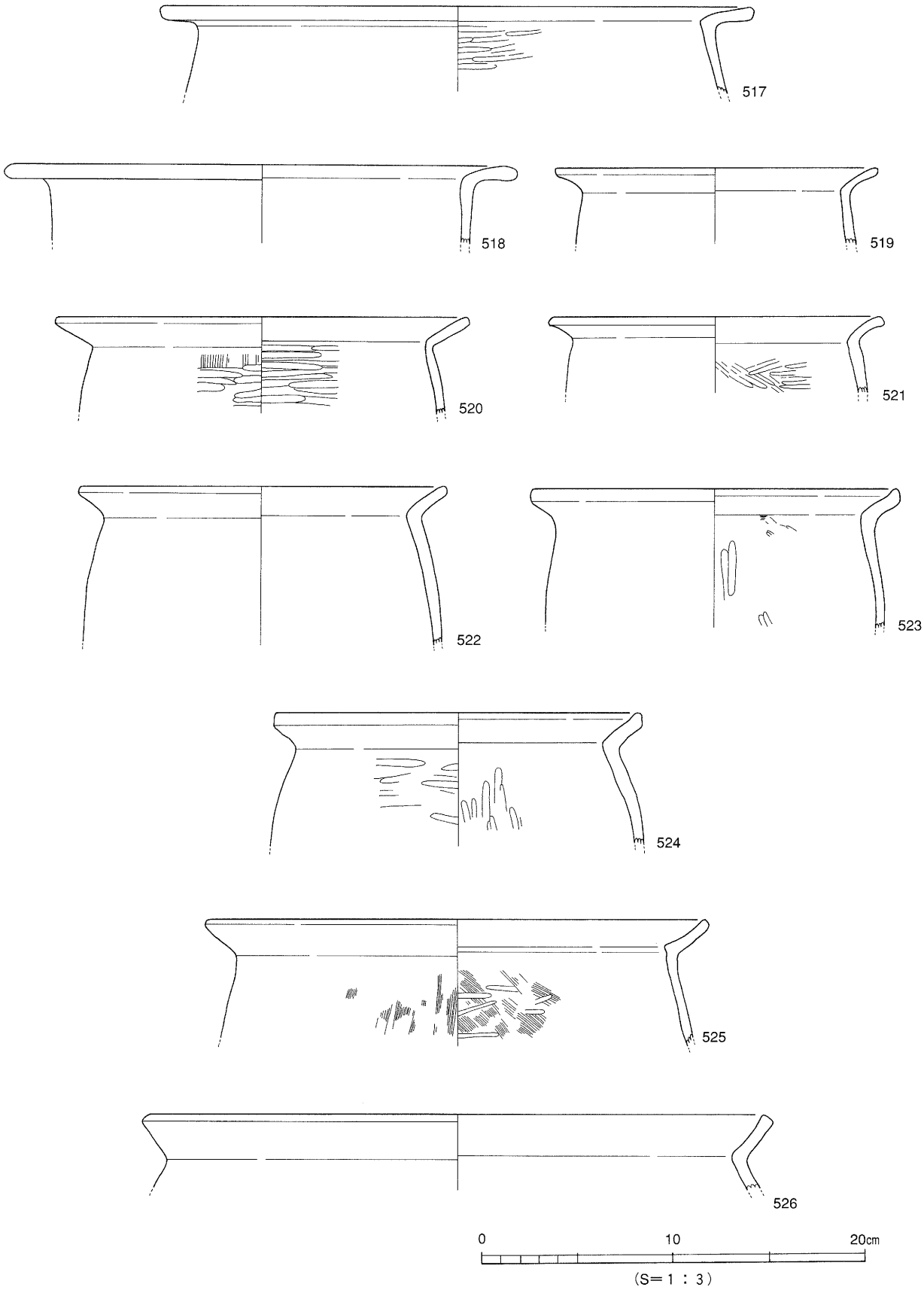
第74図　B 2 区第 9 層出土遺物実測図(4)



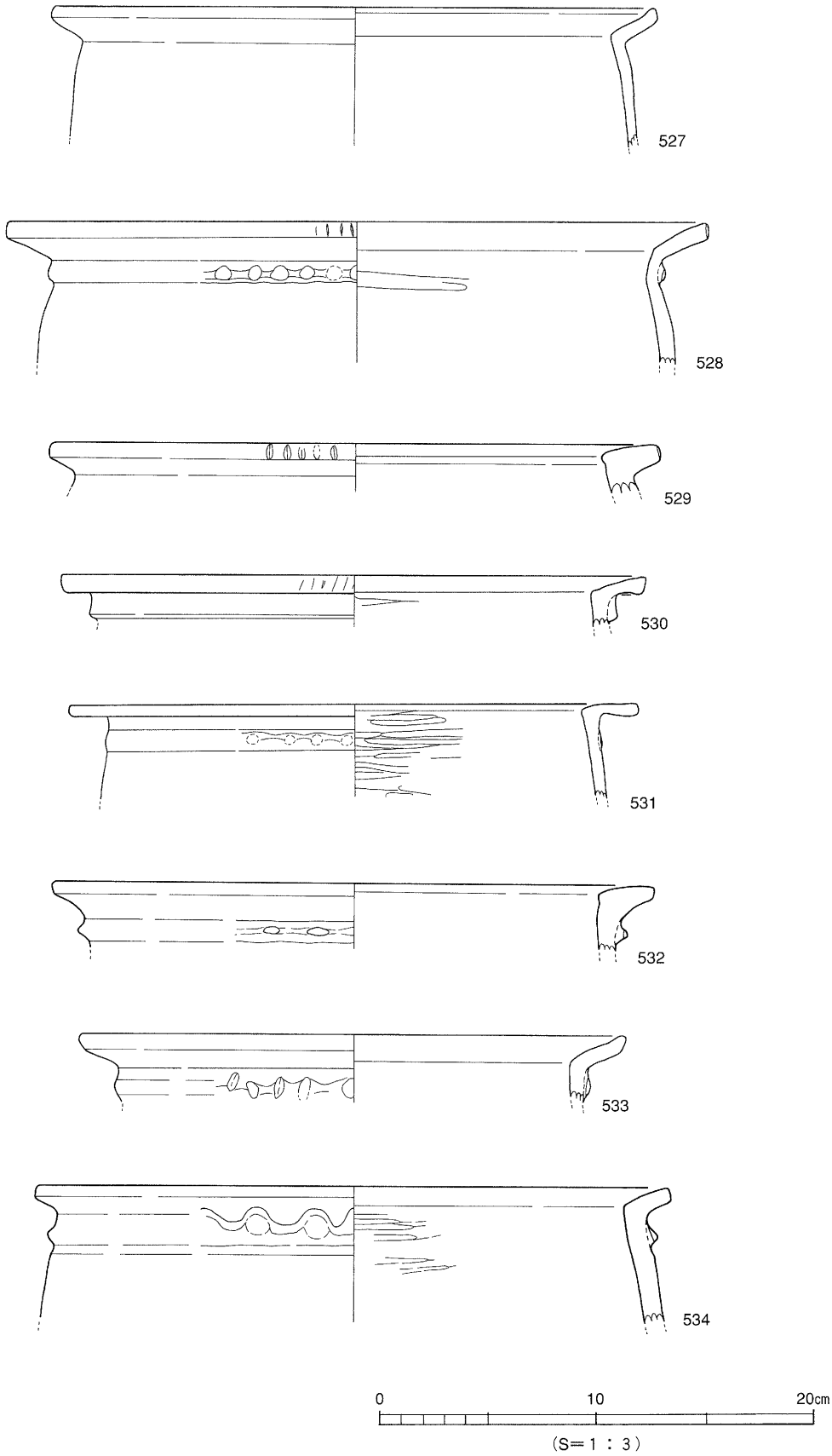
第75図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(5)



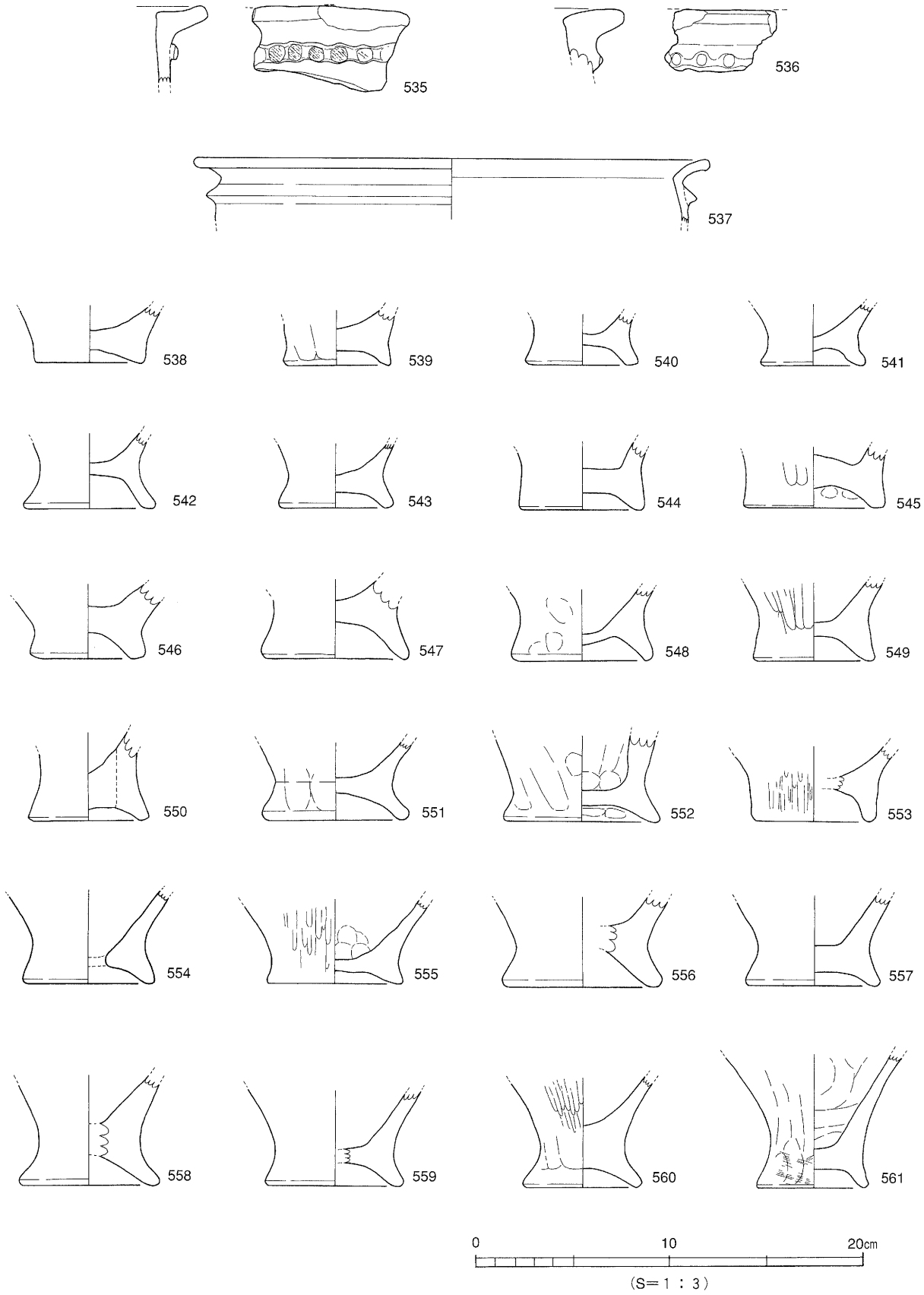
第76図　B 2 区第 9 層出土遺物実測図(6)



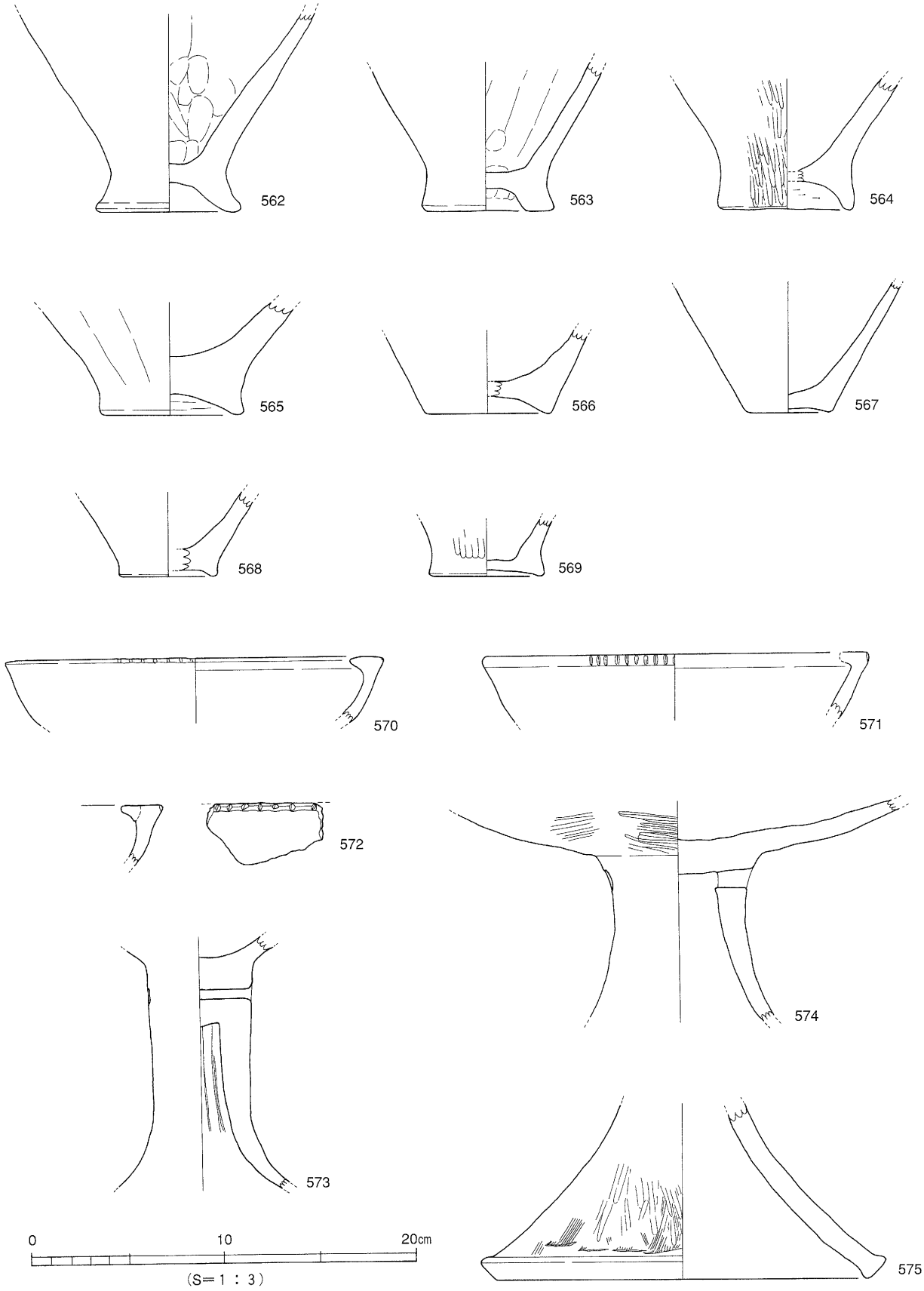
第77図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(7)



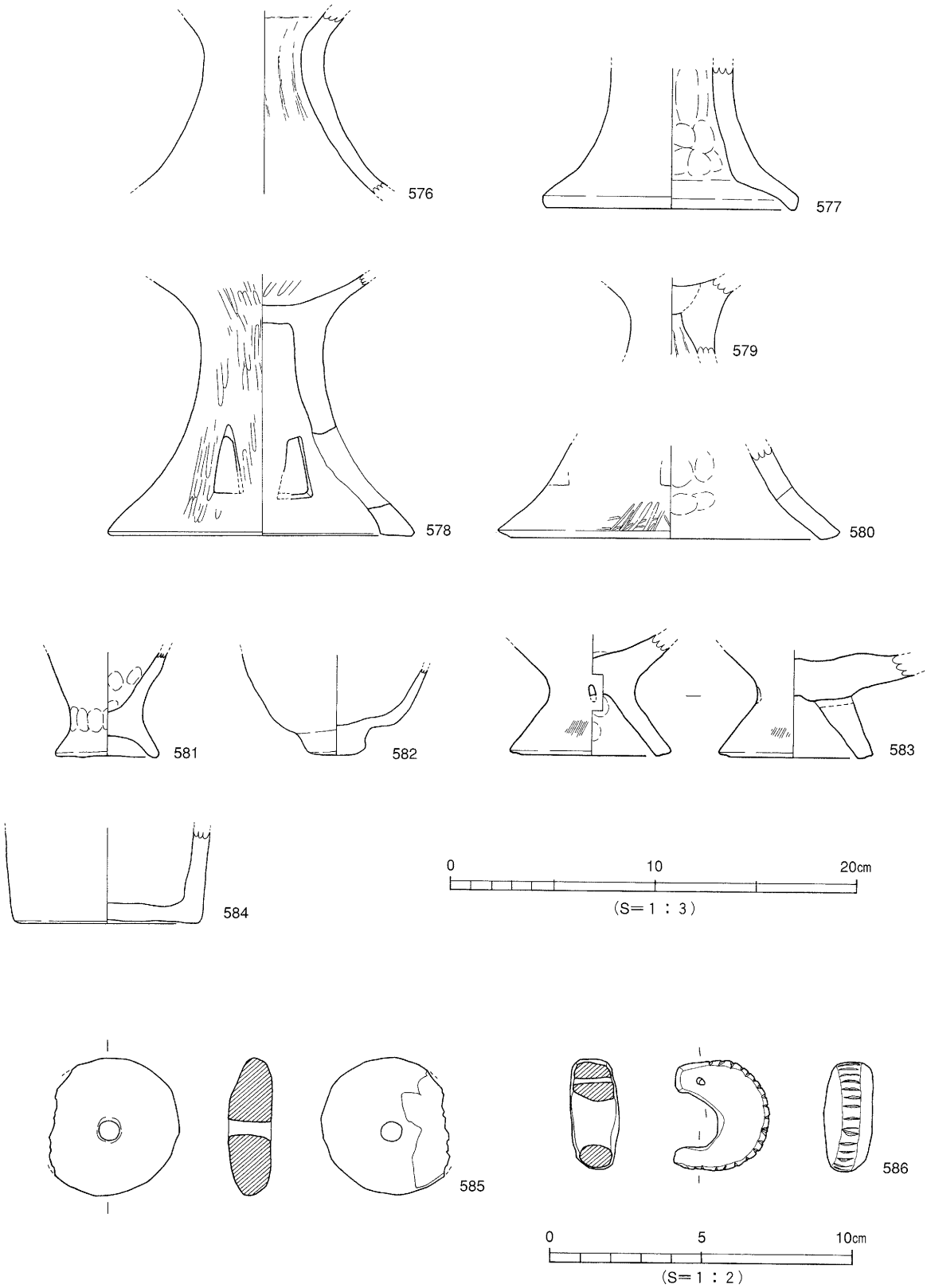
第78図　B 2 区第 9 層出土遺物実測図(8)



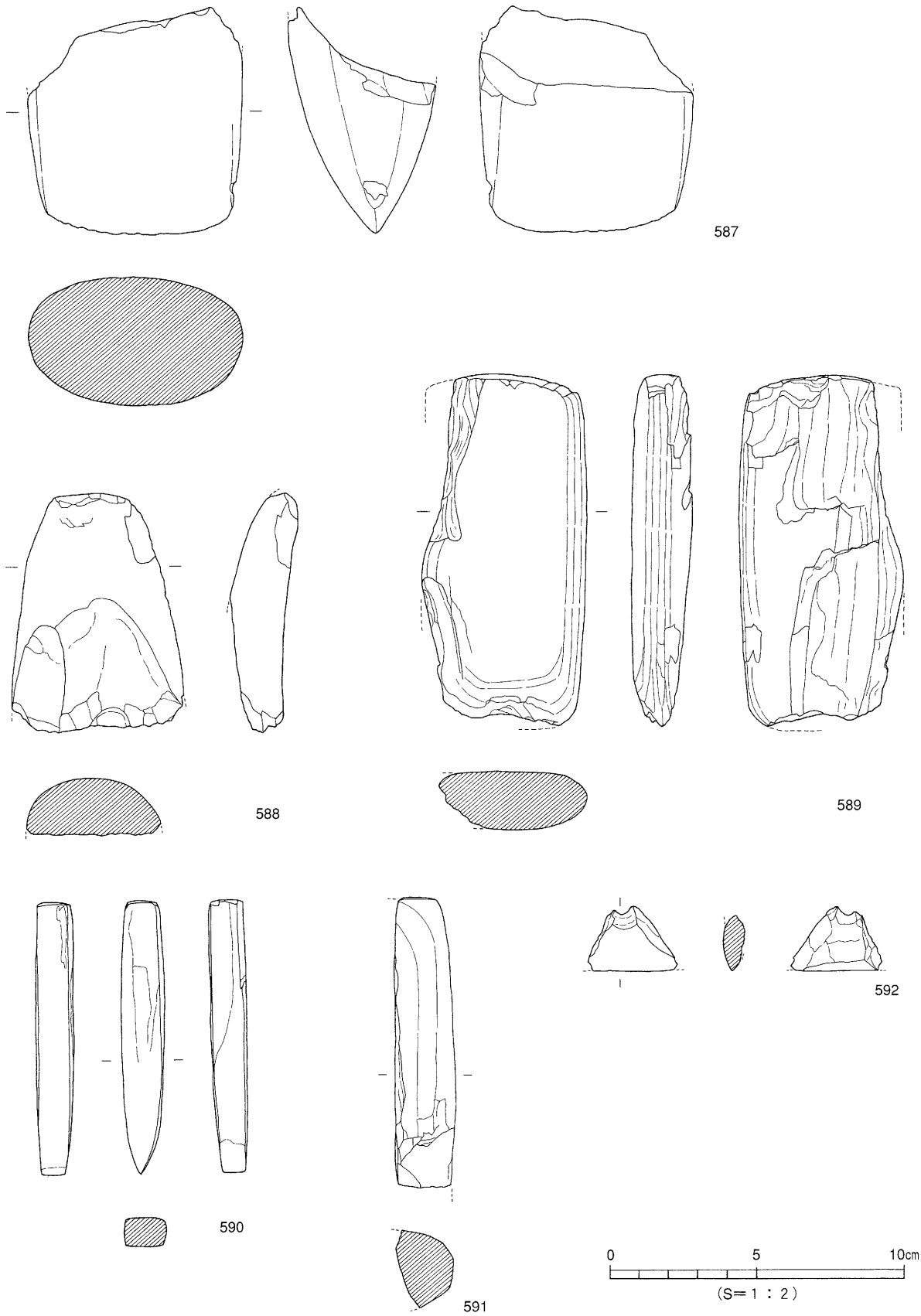
第79図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(9)



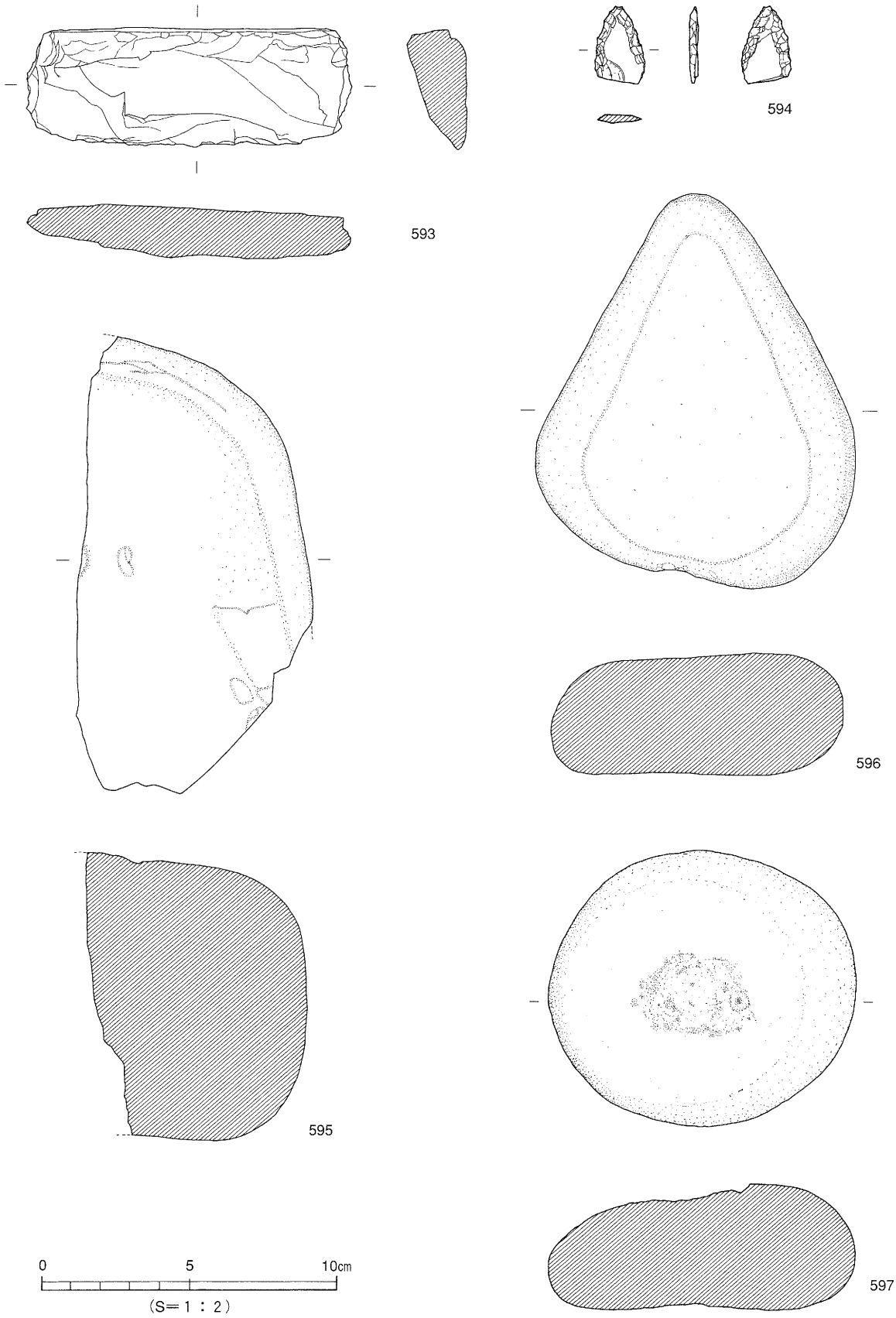
第80図　B 2 区第 9 層出土遺物実測図(10)



第81図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(11)



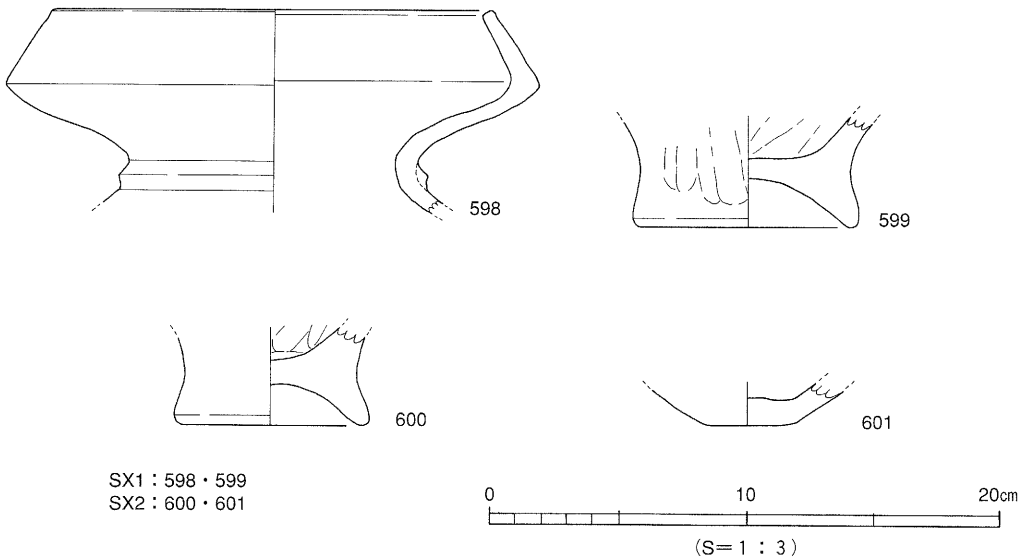
第82図　B 2 区第 9 層出土遺物実測図(12)



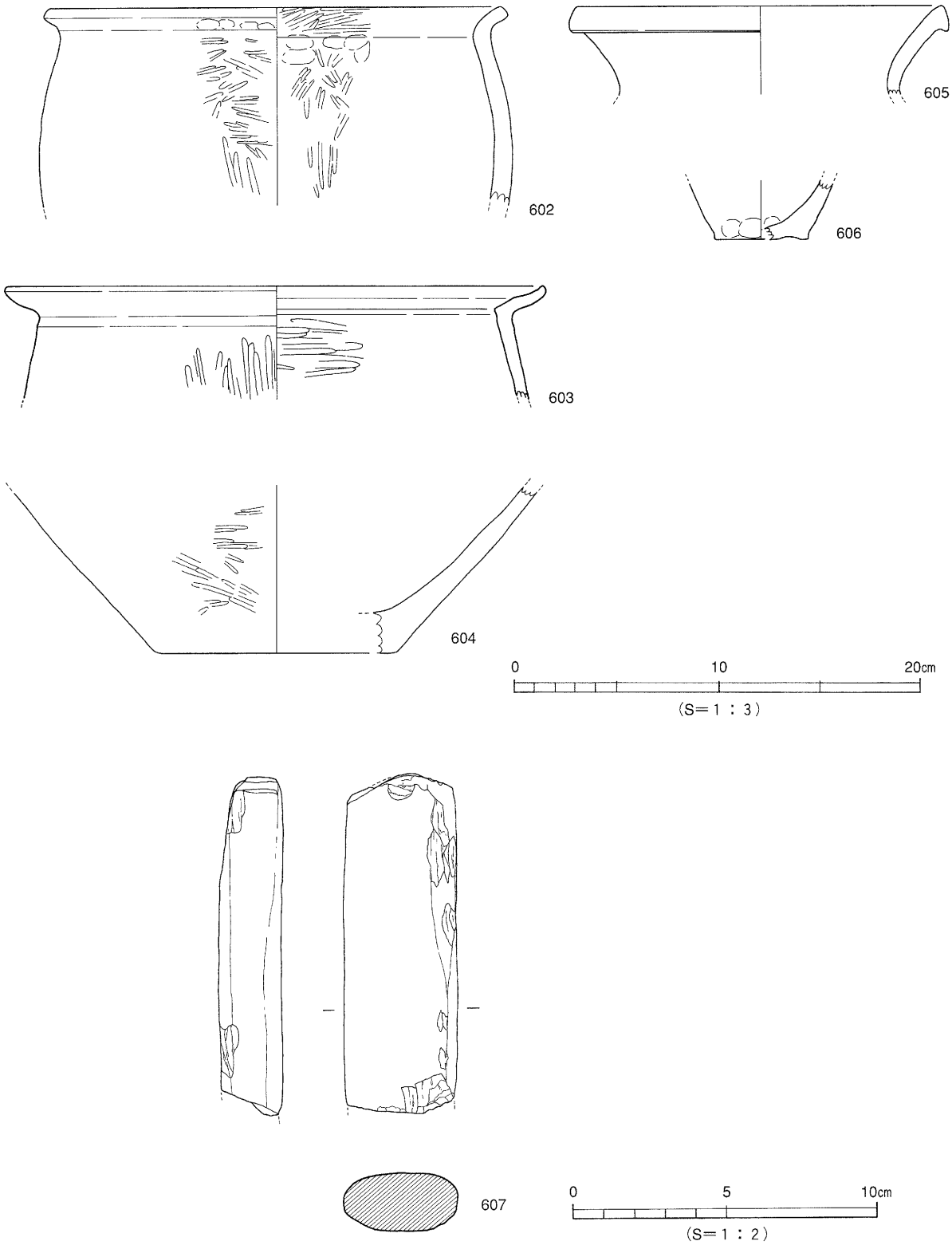
第83図　Ｂ２区第９層出土遺物実測図(13)

3．小　結

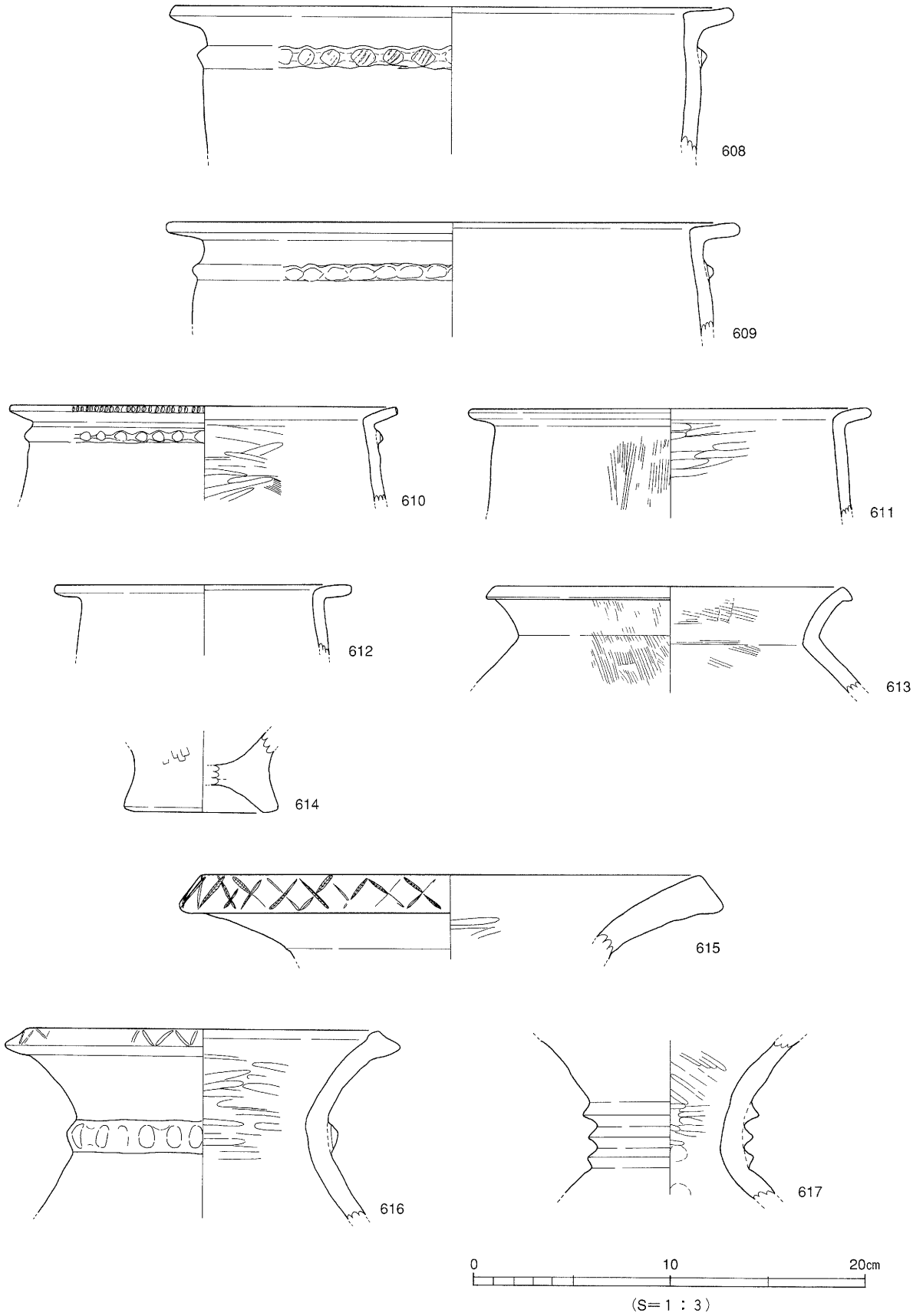
今回は、現松山総合公園、大峰ヶ台の東麓斜面における、主に弥生時代遺物を多く包含する地点での調査であった。遺物を多く出土した調査地点Ｂ調査区は、この丘陵の西から東へ開く鞍部出口付近にあたり、人為的な遺構は希薄ではあったが、この谷に堆積した土砂とともに弥生時代の遺物が出土した。遺物には大きくわけて２期あり、そのひとつは主に第９層から出土した中期の遺物群、またひとつは第７層から出土した後期の遺物群である。第９層と第７層の遺物の出土状況は、同じ谷からの出土とはいっても、若干異なっており、第７層の折り重なるように密集した状況と比較すると、第９層の遺物は破片がまばらに分布している状況で、その出土状況からみて谷を流下してきた土砂とともに運ばれて堆積したものと考えられる。遺物の時期は、中期中葉、梅木謙一の編年でいうⅢの段階のものである。この丘陵には、第１次調査や４次調査でわかっているように、頂上部に短期間存在した該期の集落が存在している。このことから、これらの遺物がこういった丘陵上に存在する集落から土砂とともに斜面を降り、麓の鞍部に堆積した可能性が高い。これに比較すると、第７層の遺物はその密集した状況からみて、この谷に投棄されたような状況を呈している。遺物の時期は後期中～後葉、梅木編年のＶ－３の段階のものである。現在のところ、この丘陵ではこの時期の遺構の確認例はないが、この丘陵麓をさらに降った近隣の平地部では、澤遺跡にみられるように何例か該期の遺構の確認例がある。こういったことや第７層からの出土状況から考えると、これらの遺物に関わる集落、もしくは遺構群が周辺の丘陵麓に存在していた可能性は高い。この谷はこれに伴う廃棄場所として存在していたものであろう。



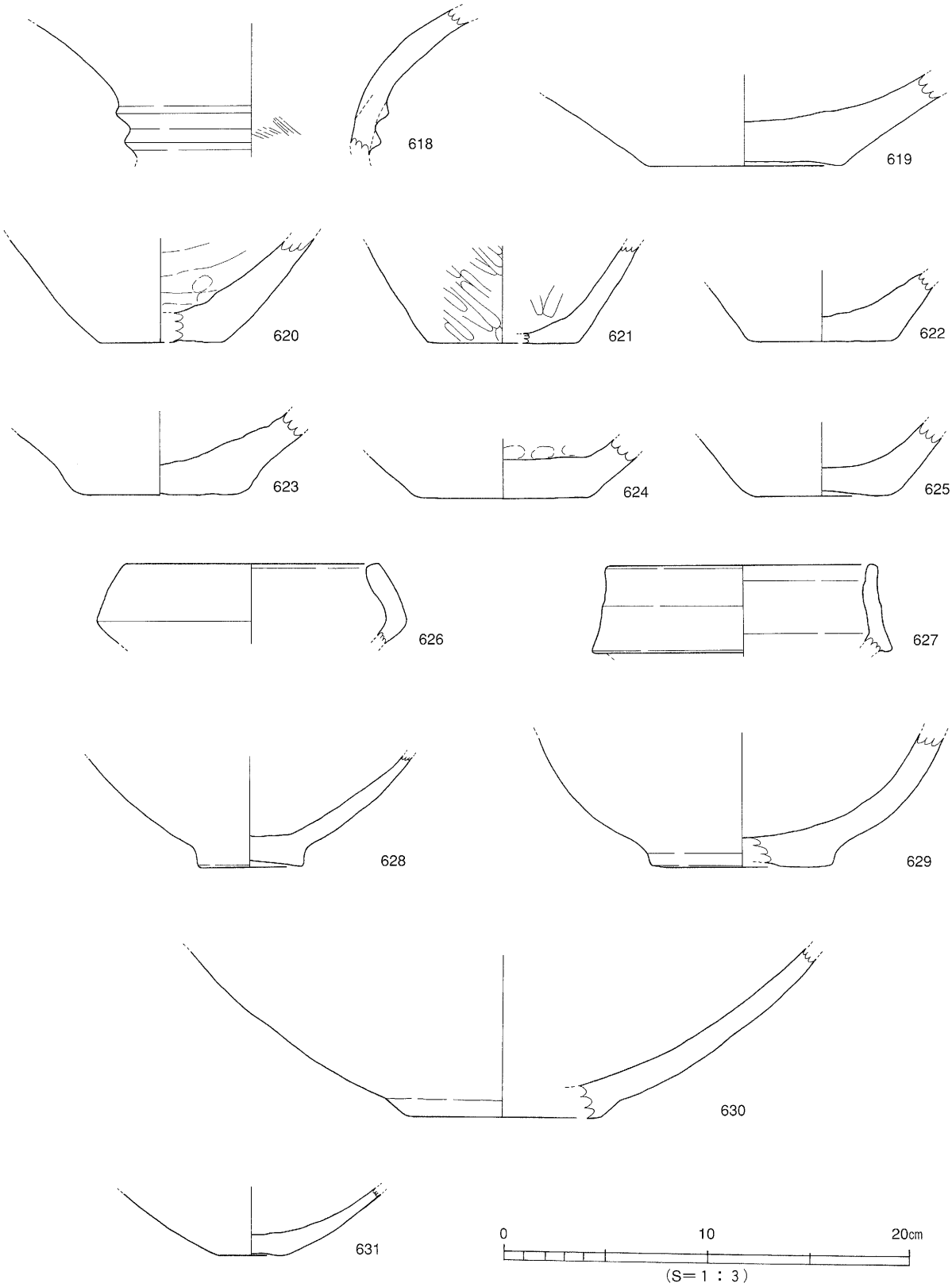
第84図　Ｂ２区ＳＸ１・２出土遺物実測図



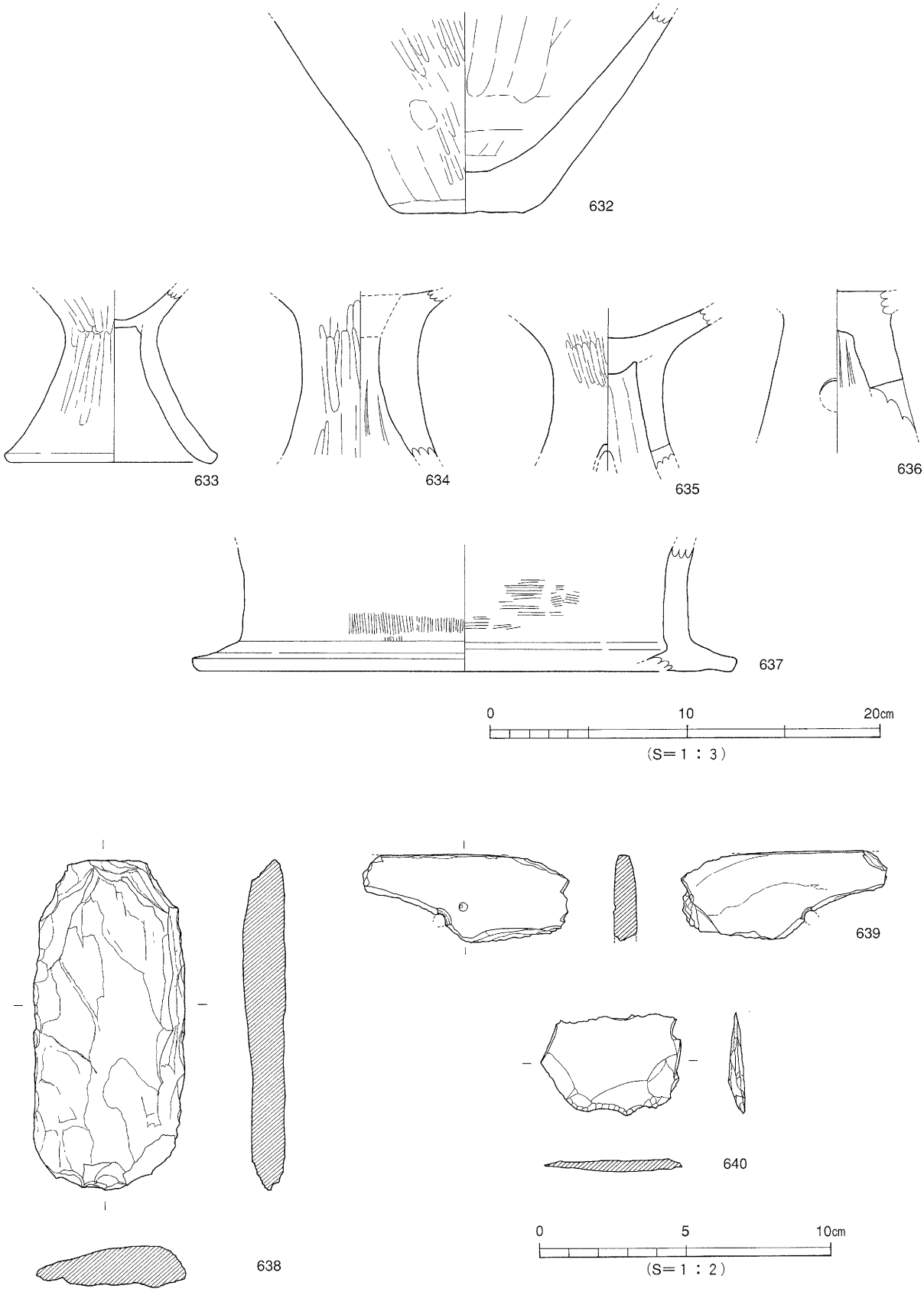
第85図　Ｂ２区ＳＸ３出土遺物実測図



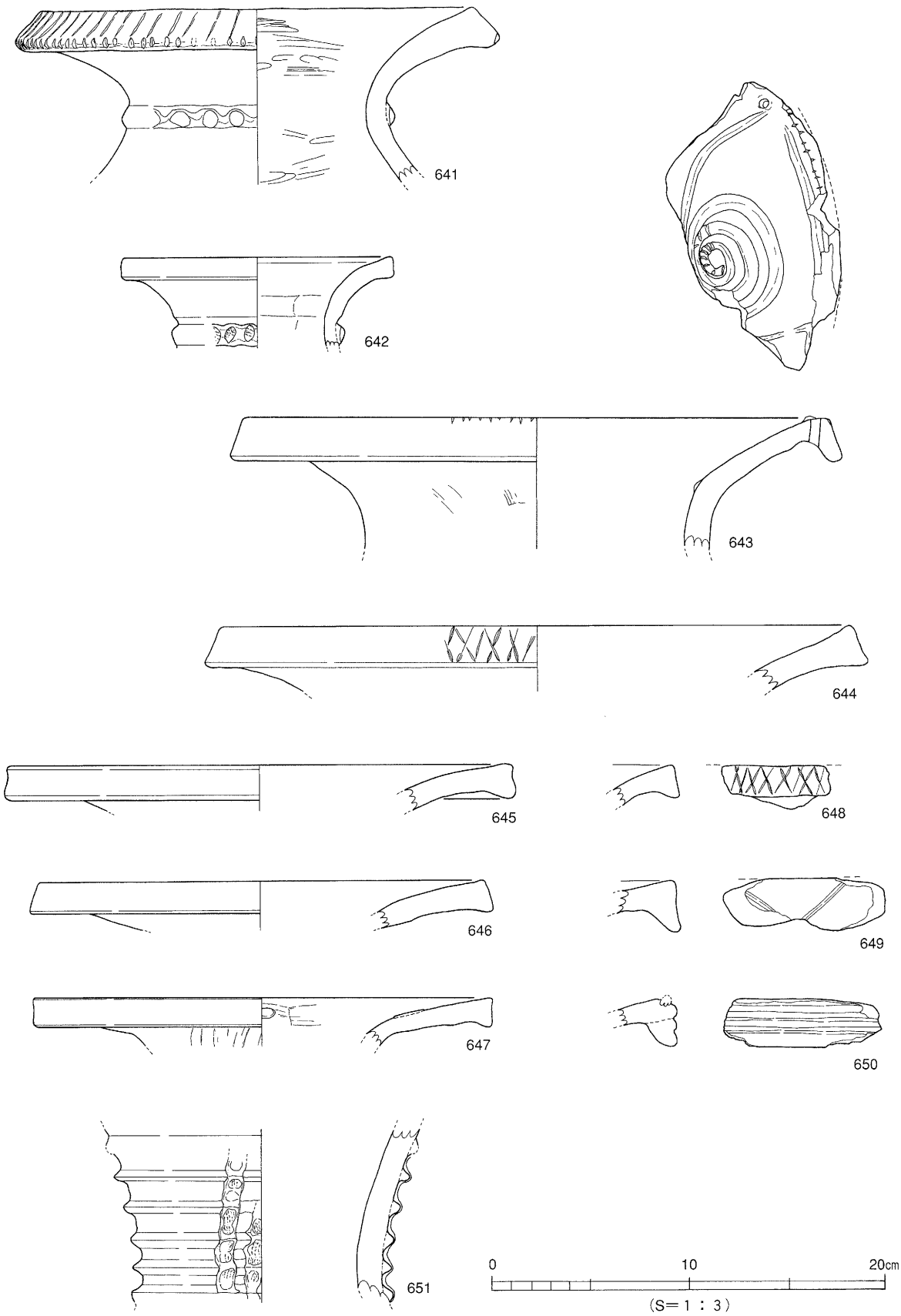
第86図　B２区出土地点不明遺物実測図(1)



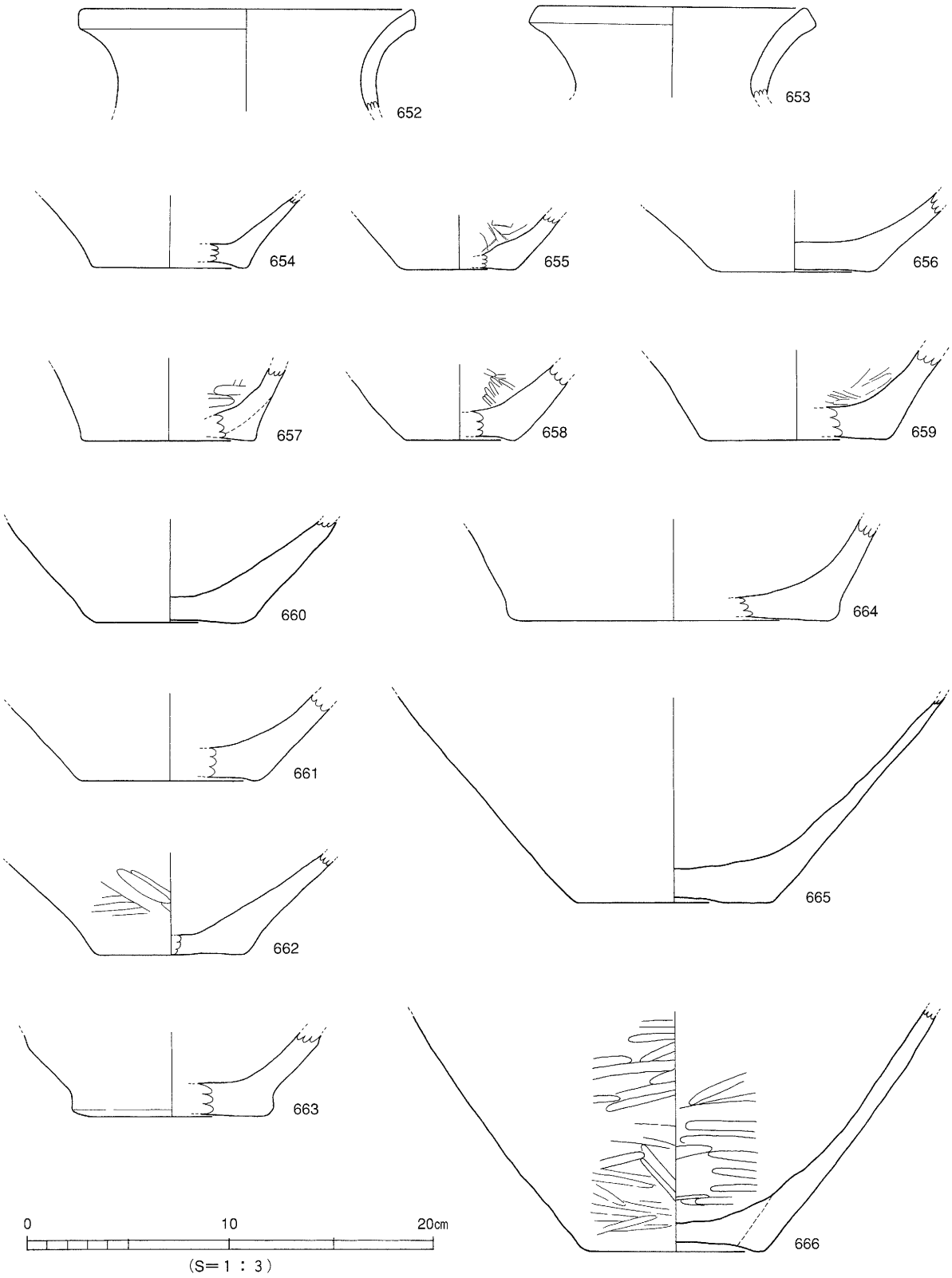
第87図　Ｂ２区出土地点不明遺物実測図(2)



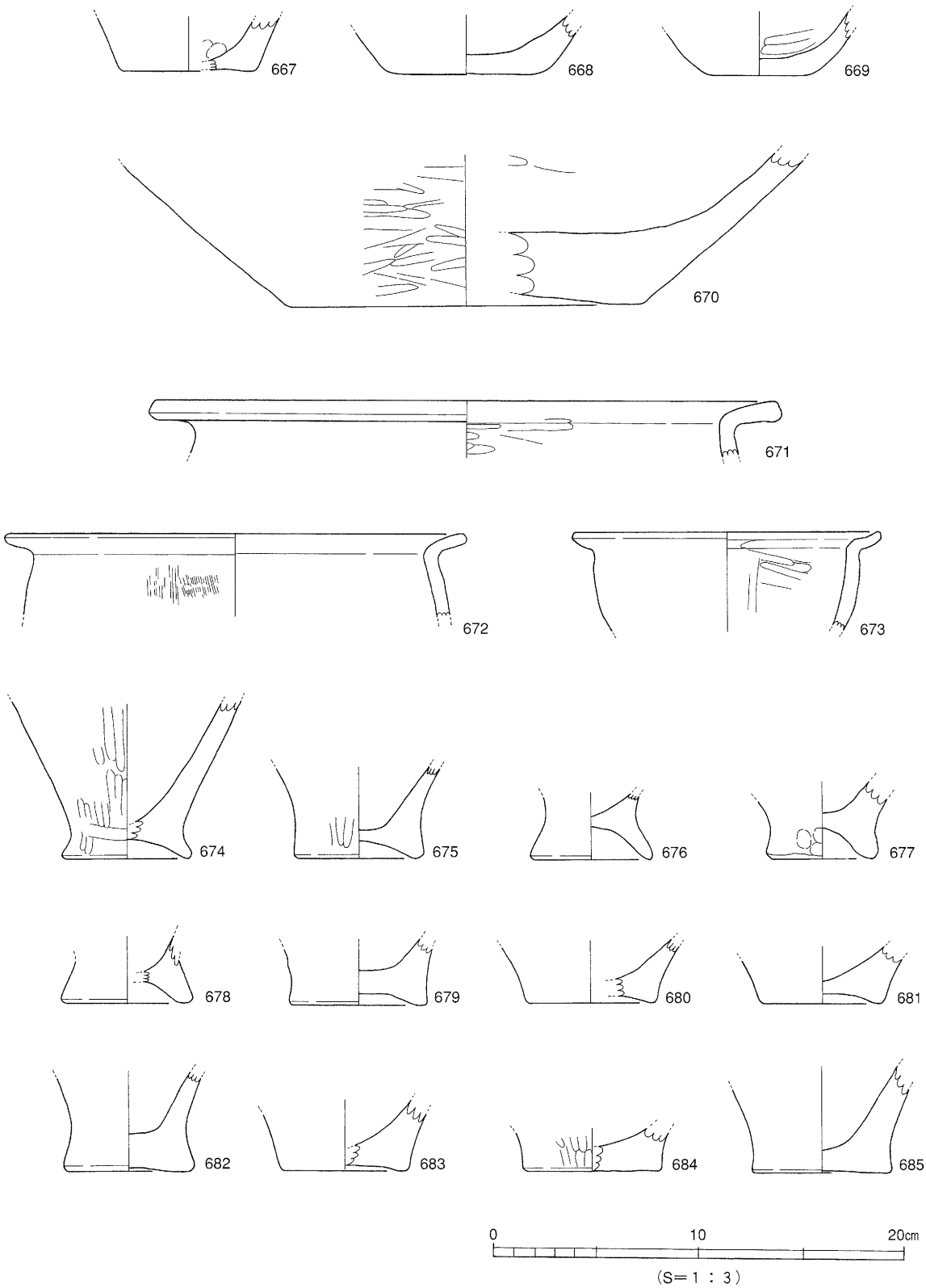
第88図　B２区出土地点不明遺物実測図(3)



第89図　Ｃ調査区出土遺物実測図(1)



第90図　C調査区出土遺物実測図(2)



第91図　Ｃ調査区出土遺物実測図(3)

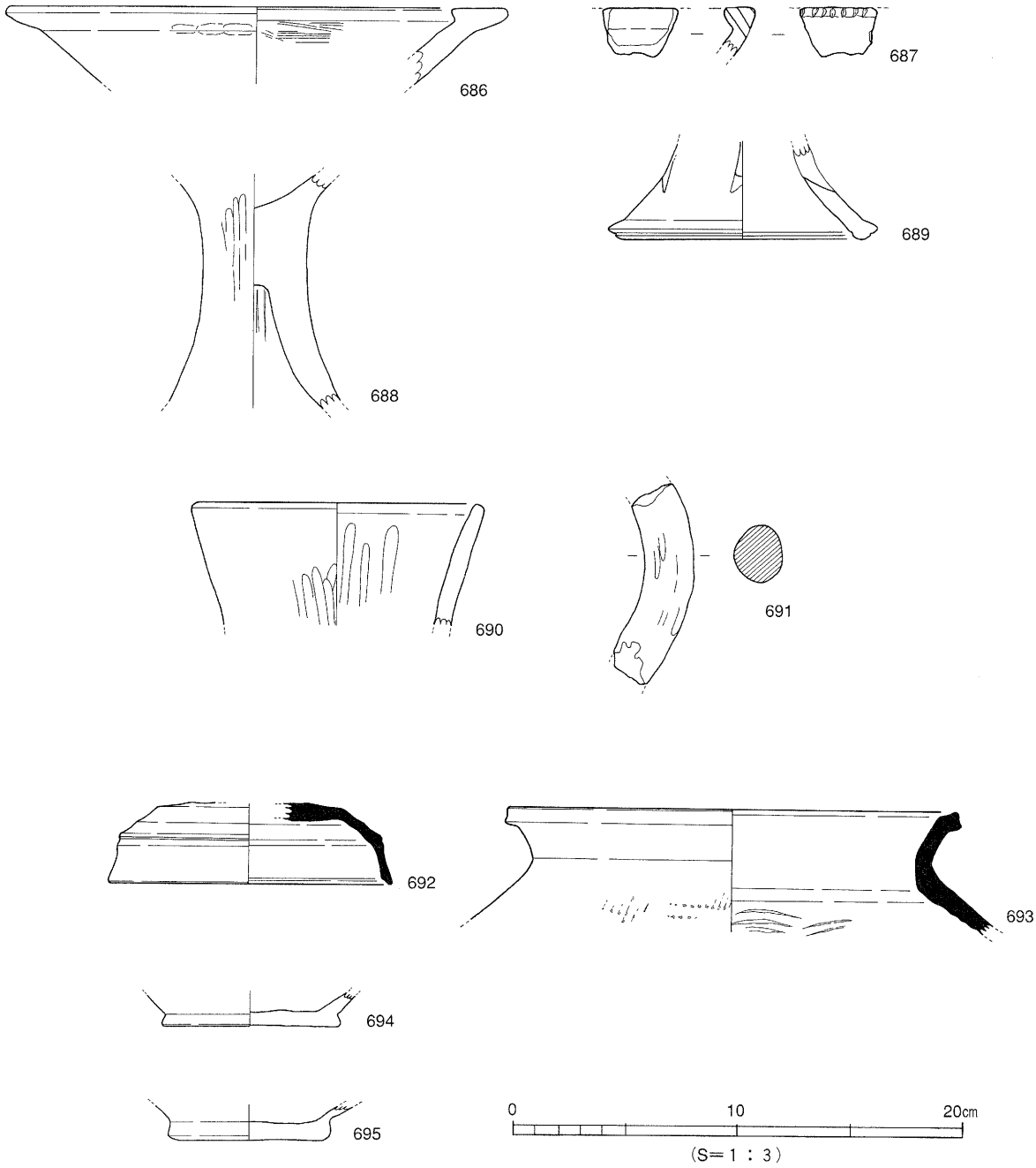
【文　献】

栗田茂敏 『大峰ヶ台遺跡第４次調査』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター　1995

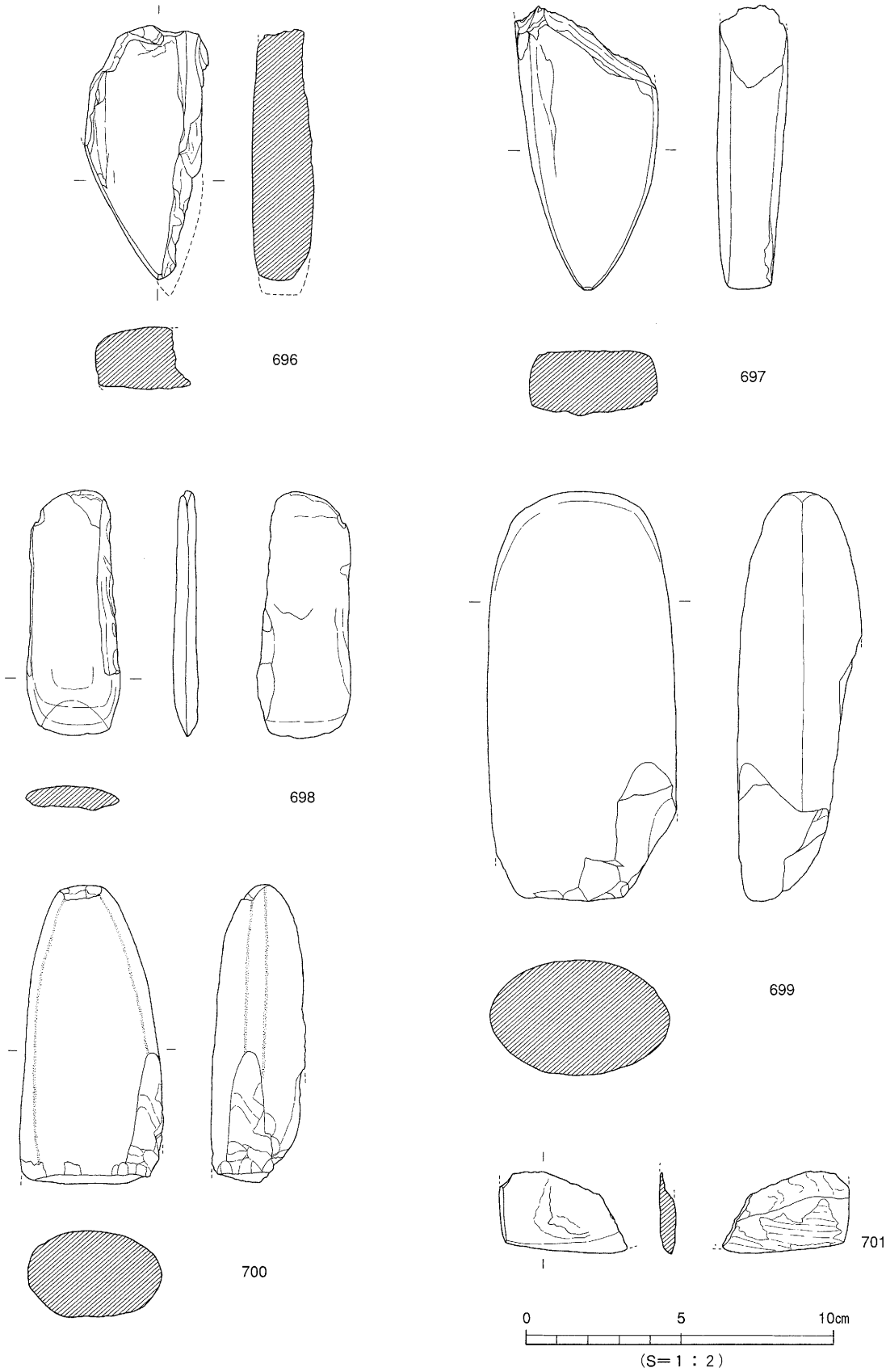
梅木謙一 「伊予中部地域」『弥生土器の様式と編年・四国編』木耳社　2000

「大峰ヶ台の高地性住居址」『松山市史料集　第一巻　考古編』松山市教育委員会　1996

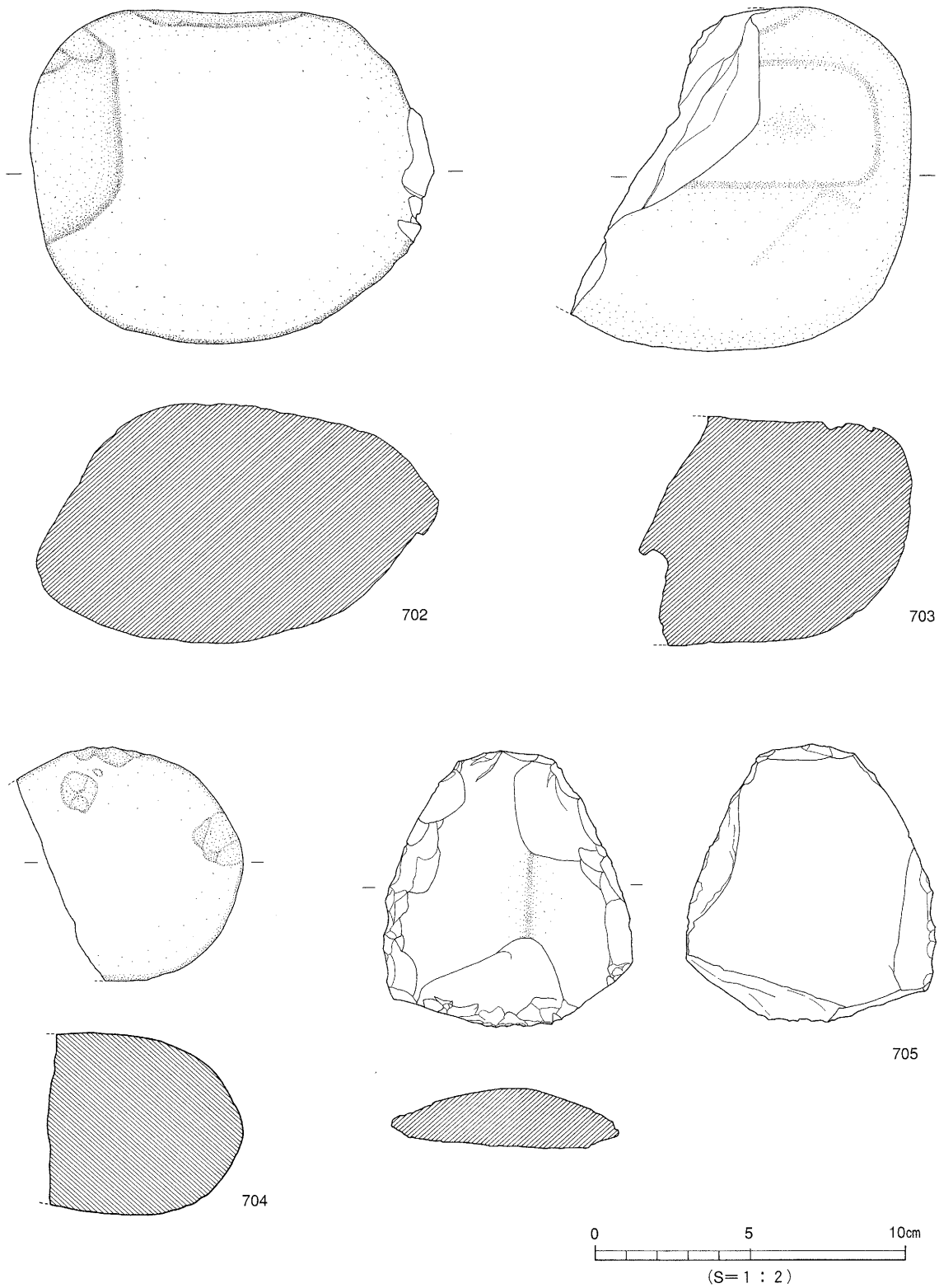
松村　淳 「澤遺跡」『松山市文化財調査年報Ⅱ』松山市教育委員会　1989



第92図　Ｃ調査区出土遺物実測図(4)



第93図　Ｃ調査区出土遺物実測図(5)



第94図　C調査区出土遺物実測図(6)

表７　試掘調査出土遺物観察表　鉄製品

番号	器　種	残　存	材　質	法　量				備　考	図版
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
1	鍔	完存	鉄	7.6	6.6	0.6	54.17		45

表８　試掘調査出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調　整		色調（外面）（内面）	胎　土 焼　成	備　考	図版
				外　面	内　面				
2	高坏	残高　6.6	接合部。坏部は深く窪んでいる。脚部は外方に伸びる。	マメツ	マメツ	灰白色 黒褐色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ○		
3	高坏	残高　5.4	脚部。円孔が2方向まで確認できる。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 橙色	石・長(1～2) ◎		
4	甕	底径　8.0 残高　2.2	くびれを持つ上げ底。	ナデ （指頭痕）	ナデ	浅黄橙色・灰褐色 黒褐色	石・長(1～3) ◎		
5	壺	底径　(5.0) 残高　2.8	平底。大きく外反する胴部。	ナデ	ハケ(11本／cm) （指頭痕）	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石・長(1～2) ◎	黒斑	
6	壺	口径　(18.0) 残高　4.3	「く」の字口縁。端面上段に4条、下段に2条の波状文。	ナデ	ハケ→ナデ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石・長（1） ◎		
7	壺	口径　(13.5) 残高　5.0	ゆるやかに外反する口縁部。端部は面をなす。	㊐ヨコナデ ㊥ハケ(11本／cm) （指頭痕）	ハケ	浅黄橙色 灰褐色	石・長(1～2) ◎		
8	坏	底径　(6.0) 残高　1.2	高台円盤。	ナデ	マメツ	灰白色 浅黄橙色	石・長（1） ◎		
9	壺	残高　8.2	大きく外反する頸部。多重の三角形突帯に棒状浮文2条1組。	ヨコナデ	ナデ	浅黄橙色 にぶい褐色	石・長(1～3) ◎		
10	高坏	口径　(22.1) 残高　1.2	鋤先口縁。端部に円孔。端面に刻み。	ナデ （指頭痕）	ナデ	明褐色 にぶい褐色	石・長（1） ◎		
11	坏蓋	口径　(15.8) 残高　4.0	天井部と口縁部の境界に稜をもつ。端部は丸く収める。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰色	密・長（1） ◎		
12	高坏	残高　3.9	口縁部片。厚みのある端部。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	長（1） △		
13	ジョッキ	底径　(17.0) 残高　7.0	厚みがあり張り出した端部。	工具によるナデ	ナデ	浅黄橙色 灰白色	石・長（1） ◎	黒斑	
14	壺	底径　(8.0) 残高　6.6	厚みのある底部。	ナデ	マメツ	灰褐色 灰褐色	石・長(1～3) ◎		
15	甕	底径　4.1 残高　3.1	上げ底。	マメツ	ナデ （指頭痕）	淡橙色 灰白色	石・長(1～2) ◎		

表９　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調　整		色調（外面）（内面）	胎　土 焼　成	備　考	図版
				外　面	内　面				
16	壺	口径　(21.2) 残高　3.3	大きく外反する口縁部。口縁上下端部に刻目。	㊐端ヨコナデ ㊐ナデ→ハケ	㊐端ヨコナデ ㊐ミガキ	にぶい橙色 橙色	石・長（1） ◎	５層	
17	壺	口径　(30.0) 残高　2.7	大きく外反する口縁部。内面渦紋状の凸帯文。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 橙色	石・長(1～2) △	５層	
18	甕	口径　(35.2) 残高　5.2	折り曲げ口縁。	ハケ(5本／cm) （指頭痕）	マメツ	灰白色 暗灰色	石・長(1～3) ○	５層	
19	甕	底径　(4.8) 残高　4.8	厚みのある上げ底。	ナデ（指頭痕）	マメツ	橙色 灰黄褐色	石・長(1～2) 赤色酸化土粒 ○	５層	
20	甕	底径　(4.4) 残高　1.4	平底。	ハケ	マメツ	黄橙色 灰白色	石・長(1)ウンモ ○	５層	
21	鉢	底径　(3.4) 残高　5.4	くびれをもつ平底。	マメツ	マメツ	灰白色 にぶい橙色	石（1～2） 赤色酸化土粒 ○	５層 黒斑	
24	坏蓋	口径　(13.0) 残高　2.9	天井部と口縁部の境に、ゆるやかな稜をもつ。口縁端部は外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰赤色 暗灰色	密 ◎	５層	
25	壺	底径　(6.6) 残高　1.4	わずかに高台を持つ底部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	５層	
26	壺	口径　(21.4) 残高　4.0	外反する短い口縁部は端部で肥厚され丸い。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色・灰色 灰色	密 ◎	５層	
27	擂鉢	口径　(26.8) 残高　6.5	外傾する口縁部の端部は上方に肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰オリーブ色	密 ◎	５層	

表10　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　石製品

番号	器　種	残　存	材　質	法　量				備　考	図版
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
22	敲　石	完　形	砂　岩	7.47	7.52	6.4	654	５層	
23	打製石鏃	一部欠損	赤色チャート	1.55	1.5	0.35	0.57	５層	

表11　B１区包含層出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
28	壺	口径 (16.8) 残高 4.4	複合口縁。端面上段に4条、下段に2条の波状文。	口端ヨコナデ 口ハケ	口端ヨコナデ（指頭痕） 口ハケ	褐灰色 にぶい褐色	石・長(1～5) 赤色酸化土粒 ◎	6層	
29	壺	口径 (15.6) 残高 4.7	複合口縁。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 褐灰色	石・長(1～3) △	6層	
30	壺	口径 (22.0) 残高 4.2	複合口縁。端面上段沈線文8条＋下段沈線文2条以上。	ヨコナデ→ハケ	ヨコナデ（指頭痕）	浅黄橙色 暗灰色	石・長(1～3) ◎	6層	
31	壺	口径 (12.0) 残高 5.3	ゆるやかに外反する口縁部。	口端ヨコナデ 口頸ハケ(11本/cm)	口ハケ→ナデ 頸ナデ(指頭痕)	明黄褐色 にぶい黄橙色・暗灰色	石（1） ◎	6層	
32	壺	底径 (1.8) 残高 3.9	小さな平底。	ハケ	ナデ	にぶい黄橙色 赤褐色	石（1） 赤色酸化土粒 ◎	6層 黒斑	
33	壺	底径 (5.0) 残高 3.0	平底。	工具によるナデ	ハケ（8本／cm）	にぶい黄橙色 赤褐色	石・長（1） ◎	6層 黒斑	
34	支脚	底径 (13.0) 残高 8.0	ゆるやかに広がる裾部。	ナデ（指頭痕）	ナデ（指頭痕）	浅黄橙色 淡橙色	石・長（1） ○	6層	
35	甕	口径 (18.0) 残高 7.8	外反する口縁部。端部は面をなす。	口・胴上ハケ（14本／cm） 胴下ミガキ	ハケ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3) ◎	7層	
36	甕	口径 (18.2) 残高 6.5	外反する口縁部。端部は丸味をもつ。	ハケ（12本／cm）	口マメツ 胴ナデ(指頭痕)	浅黄橙色 にぶい橙色	石（1） ○	7層	
37	甕	口径 (20.0) 残高 6.0	ゆるやかに外反する口縁部。頸部下に木口痕。	口ハケ→ヨコナデ 胴ハケ→ナデ	ハケ（10本／cm）	橙色 にぶい橙色	石・長（1） ウンモ ◎	7層	
38	甕	口径 (16.0) 残高 4.2	短く外反する口縁部。端部は丸味をもつ。	口ハケ→ヨコナデ 胴ハケ(10本/cm)	ハケ→ナデ	灰黄褐色 にぶい黄橙色	長（1） ◎	7層	
39	甕	口径 (35.0) 残高 6.5	大型品。「く」の字口縁。端部は面をなす。	口端ヨコナデ 口・胴ハケ	マメツ	にぶい橙色 浅黄橙色	石（1～3） 赤色酸化土粒 ○	7層	
40	甕	口径 (25.0) 残高 14.5	外反する口縁部。端部は面をなしわずかに凹む。	口ヨコナデ 胴ハケ→ナデ	口ヨコナデ 胴ハケ・指ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ウンモ　◎	7層	
41	甕	底径 2.4 残高 14.4	小型品。厚みのある平底。	ハケ（7本／cm）	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 △	7層 黒斑	
42	甕	底径 2.4 残高 11.4	小型品。小さな平底。	口ハケ→ヨコナデ 胴ハケ(10本/cm) 底面ナデ	口ヨコナデ 胴上ハケ 胴下ナデ	橙色 にぶい橙色	石（1） ◎	7層 黒斑	33
43	甕	底径 (1.8) 残高 15.6	長方形の胴部。	胴ハケ(12本/cm) 底面ハクリ	ハケ	浅黄橙色・にぶい橙色 浅黄橙色	石（1） ウンモ ◎	7層 黒斑 煤	
44	甕	底径 4.0 残高 8.0	平底。	ハケ（12本／cm）	ナデ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石（1） ◎	7層	
45	甕	底径 2.5 残高 10.2	厚みのある平底。	ハケ→工具によるナデ	工具によるナデ	にぶい橙色 にぶい褐色	石・長(1～5) ◎	7層 黒斑	
46	甕	底径 2.6 残高 10.5	平底。	ハケ（9本／cm）	ハケ→ナデ	灰黄褐色 浅黄橙色	石（1） ◎	7層 黒斑	
47	甕	底径 2.8 残高 10.6	平底。	ハケ（11本／cm）	ハケ→ナデ	にぶい橙色 灰白色	石・長(1～2) ◎	7層 黒斑	
48	甕	底径 1.8 残高 12.9	平底。	ハケ	マメツ	橙色 灰白色	石・長(1～2.5) 赤色酸化土粒 △	7層	
49	甕	底径 3.6 残高 11.3	厚みのある平底。	ハケ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1～4） 赤色酸化土粒 ◎	7層	
50	甕	底径 4.8 残高 17.4	平底。	胴・底面ハケ（9本／cm）	底上ハケ 底下ミガキ	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎	7層 黒斑	
51	甕	底径 5.0 残高 18.0	平底。	ハケ	ハケ	橙色 浅黄橙色	石・長(1～4) ○	7層 黒斑	
52	甕	底径 1.4 残高 1.6	平底。	マメツ	指頭痕	にぶい橙色 褐灰色	長（1） ○	7層	
53	甕	底径 2.0 残高 2.3	平底。	ハケ	マメツ	淡黄色 淡黄色	石（1） ◎	7層 黒斑	
54	甕	底径 1.8 残高 3.0	平底。	ハケ	ナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	石（1） 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	
55	甕	底径 (3.2) 残高 3.4	平底。	ハケ	指頭痕	褐灰色 にぶい褐色	石（1） ◎	7層	
56	甕	底径 3.2 残高 2.7	平底。器壁は厚い。	ハケ	ナデ	灰黄褐色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎	7層	
57	甕	底径 2.2 残高 2.5	平底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 淡黄色	石・長(1～5) ○	7層	
58	甕	底径 (2.6) 残高 3.3	平底。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 にぶい黄橙色	石（1） ○	7層	

Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
59	甕	底径 (2.6) 残高 4.2	平底。	ハケ	ナデ（指頭痕）	灰黄褐色 灰黄褐色	砂粒 ◎	７層	
60	甕	底径 (3.8) 残高 3.7	平底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 褐色	石･長(1～2.5) ◎	７層	
61	甕	底径 (3.0) 残高 4.3	平底。	ハケ	指ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石（3） ◎	７層	
62	甕	底径 3.2 残高 4.5	平底。	ナデ	ミガキ	にぶい橙色 橙色	石（1～2） ◎	７層 黒斑	
63	甕	底径 4.0 残高 5.0	平底。	ハケ	マメツ	にぶい橙色 褐灰色	石･長（1～4） 赤色酸化土粒 ◎	７層	
64	甕	底径 (3.8) 残高 2.7	平底。	ハケ(10本／cm)	ナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	砂粒 ◎	７層	
65	甕	底径 (4.0) 残高 3.0	厚みのある底部。	ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 灰褐色	石（1） ◎	７層 黒斑	
66	甕	底径 3.6 残高 3.5	厚みのある底部。	マメツ	ナデ	橙色 黄橙色	石･長(1～1.5) 赤色酸化土粒 ○	７層 黒斑	
67	甕	底径 4.4 残高 3.6	平底。	マメツ	マメツ	橙色 にぶい橙色	石･長(1～3) △	７層 黒斑	
68	甕	底径 3.4 残高 4.7	平底。	ハケ	ハケ→ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎	７層 黒斑	
69	甕	底径 4.8 残高 5.8	平底。	ハケ	ナデ（指頭痕）	浅黄橙色 橙色	石･長(1～3) 赤色酸化土粒 ◎	７層 黒斑	
70	甕	底径 4.4 残高 6.1	平底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 褐灰色	石･長(1～3.5) 赤色酸化土粒 ○	７層 黒斑	
71	甕	底径 3.2 残高 4.2	平底。	ハケ	マメツ	橙色 にぶい橙色	石（1～4） 赤色酸化土粒 ◎	７層 黒斑	
72	甕	底径 3.0 残高 5.9	平底。	ハケ(12本／cm)	ナデ	にぶい黄橙色 褐灰色	石・長（1） ウンモ ◎	７層	
73	甕	底径 (2.7) 残高 7.1	平底。	ハケ→ナデ	ナデ	灰褐色 にぶい橙色	石・長（1） ウンモ ◎	７層	
74	甕	底径 1.8 残高 8.1	平底。	ハケ	ナデ（指頭痕）	橙色 にぶい橙色	石（1～3） ◎	７層	
75	甕	底径 2.6 残高 8.4	平底。	ハケ	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 にぶい橙色	長（1） ○	７層 黒斑	
76	甕	底径 (1.8) 残高 8.8	平底。	ハケ(12本／cm)	ナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	石（1） ◎	７層 煤	
77	甕	底径 4.4 残高 5.4	平底。	マメツ	ハケ(11本／cm)	明黄褐色 浅黄橙色	石･長(1～4) 赤色酸化土粒 ○	７層 黒斑	
78	甕	底径 4.3 残高 2.9	平底。	ハケ→ナデ	ハケ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長（1） ◎	７層	
79	甕	底径 5.0 残高 4.3	平底。	ハケ→ナデ	ハケ	にぶい橙色 褐灰色	石･長(1～3) ◎	７層	
80	甕	底径 4.6 残高 6.1	やや丸みのある平底。	ハケ→ナデ	ナデ	にぶい橙色 褐灰色	石・長（1） ◎	７層 黒斑	
81	甕	底径 4.4 残高 13.7	平底。	ハケ→工具による ナデ	マメツ	にぶい橙色 浅黄橙色	石･長(1～5) ○	７層	
82	甕	底径 (3.0) 残高 5.0	平底。	ハケ(11本／cm)	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ウンモ ◎	７層 黒斑	
83	甕	底径 3.6 残高 5.2	厚みのある底部。やや上げ底。	ハケ（指頭痕）	マメツ	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎	７層	
84	甕	底径 (2.5) 残高 10.6	平底。	ハケ(10本／cm)	ハケ→ナデ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石･長(1～2) ◎	７層 黒斑	
85	甕	底径 4.0 残高 14.5	厚みがありくびれを持つ底部。やや上げ底。	胴ハケ(8本/cm) 底指頭痕	ハケ→ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎	７層 黒斑	
86	鉢	口径 (35.4) 残高 7.5	大型器。口縁端部は面をなす。	口マメツ 胴ハケ(6本/cm)	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石（1） ○	７層	
87	鉢	口径 (26.0) 残高 14.2	短く外反する口縁部。端部は丸くおさめられている。	ハケ	マメツ	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石･長(1～2) △	７層	
88	鉢	底径 (4.0) 残高 11.4	厚みのある器壁。やや上げ底。	胴ハケ→ミガキ 底指頭痕	ナデ	にぶい橙色 褐灰色	密・砂粒 ◎	７層 黒斑	
89	鉢	残高 11.7	小さい底部。	ハケ(10本／cm)	胴上ハケ 胴下ミガキ	にぶい橙色 橙色	長（1） ウンモ ◎	７層 黒斑	
90	鉢	底径 2.6 残高 10.1	外反する口縁部。突出する平底。	胴底ハケ(13本/cm) 底面ナデ	口ハケ 胴ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長（1） ◎	７層 黒斑	

B１区包含層出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
91	鉢	底径 2.2 残高 11.8	ゆるやかに外反する口縁部。張りのある胴部。平底。	ハケ	マメツ	浅黄橙色 にぶい橙色	石（1～3） ○	7層 黒斑	
92	鉢	口径 17.8 底径 0.8 器高 10.1	短く外反する口縁部。端部は丸味をもつ。張りのある胴部。小さい平底。	マメツ	ハケ→ミガキ	浅黄橙色 橙色	砂粒・ウンモ 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	33
93	鉢	口径 19.3 底径 2.8 器高 8.6	大きく外反する口縁部。貼付の底部。	口ハケ 胴ハケ（9本/cm） 底指頭痕→ミガキ 底面ナデ	口ハケ・一部ナデ 胴ミガキ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎	7層 黒斑	33
94	鉢	底径 4.2 残高 6.0	厚みのある上げ底。	マメツ	マメツ（指頭痕）	赤褐色 にぶい黄橙色	石・長（1～4） ○	7層	
95	鉢	底径 3.0 残高 5.0	上げ底。	ハケ	マメツ	にぶい黄橙色 灰白色	石（1） ウンモ ○	7層 黒斑	
96	鉢	底径 (4.6) 残高 5.3	厚みのある上げ底。	ミガキ	マメツ	にぶい黄橙色 灰白色	石（1～4） ○	7層	
97	鉢	底径 3.6 残高 4.2	やや上げ底。	胴ハケ 底指頭痕	ナデ	灰白色 灰白色	石・長（1～2） 赤色酸化土粒 ◎	7層 黒斑	
98	鉢	底径 4.2 残高 3.8	厚みのある上げ底。	指ナデ	ミガキ	灰褐色 にぶい橙色	石・長（1～2） ◎	7層 黒斑	
99	鉢	底径 3.6 残高 4.6	くびれのある上げ底。	ハケ（指頭痕）	ナデ（指頭痕）	にぶい褐色 にぶい橙色	石（1） ウンモ ◎	7層	
100	鉢	底径 (6.2) 残高 3.9	平底。	ハケ	マメツ	にぶい橙色 明褐灰色	石・長（1～3） ウンモ ◎	7層	
101	鉢	底径 5.5 残高 3.7	つまみ出したような端部。やや上げ底。	ハケ（6本／cm） （指頭痕）	マメツ	橙色 灰白色	石・長（1～3） 赤色酸化土粒 ◎	7層	
102	鉢	底径 3.8 残高 3.4	わずかに上げ底。	ハケ	マメツ	橙色 褐灰色	石・長（1～3.5） ◎	7層 黒斑	
103	鉢	底径 4.4 残高 7.3	やや上げ底。	胴ハケ 底ナデ	マメツ	にぶい橙色 褐灰色	石・長（1～3） ○	7層	
104	鉢	底径 (4.2) 残高 5.1	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1～3） ◎	7層 黒斑	
105	鉢	底径 (4.0) 残高 6.2	やや上げ底	マメツ	ナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	石・長（1～3） ○	7層	
106	鉢	底径 4.0 残高 3.6	平底。	マメツ	マメツ	橙色 にぶい橙色	石（1～3） 赤色酸化土粒 △	7層	
107	鉢	底径 4.4 残高 3.3	平底。	ナデ	指ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎	7層 黒斑	
108	鉢	底径 5.1 残高 7.0	くびれのある平底。底部はひずんでいる。	ナデ（指頭痕）	ナデ	明褐灰色 明褐灰色	石・長（1～3） ◎	7層 黒斑	
109	鉢	底径 (3.9) 残高 8.2	上げ底。	胴・底ハケ（8本/cm） 底面指頭痕	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長（1～4） ◎	7層	
110	鉢	口径 (10.8) 底径 (5.8) 器高 9.2	口縁端面はやや面をなす。厚みのある器壁。上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 橙色	石・長（1～2） ◎	7層	
111	鉢	底径 (1.6) 残高 4.3	ミニチュア土器。	マメツ	マメツ	橙色 褐灰色	石・長（2） △	7層	
112	壺	口径 (13.2) 残高 17.8	「く」の字口縁。口縁外面に列点文。頸部に貼付凸帯格子文。	口ヨコナデ 頸ハケ 胴ハケ→ミガキ	口ヨコナデ 頸・胴ハケ→ナデ （指頭痕）	橙色 橙色	石・長（1～3） ◎	7層	33
113	壺	口径 (16.0) 残高 6.3	「く」の字口縁。口縁端部は面をなす。	マメツ	マメツ	明褐灰色・浅黄橙色 明黄褐色	石（1～2） △	7層	
114	壺	口径 (11.6) 残高 7.4	「く」の字口縁。端部は丸味をもつ。	マメツ	マメツ	浅黄橙色・褐灰色 にぶい黄橙色	石・長（1～3） 赤色酸化土粒 △	7層	
115	壺	口径 (17.6) 残高 8.5	口縁端部は面をなす。頸部に貼付凸帯格子文。	口ヨコナデ 頸ハケ→ナデ	口ヨコナデ 頸マメツ	にぶい黄橙色 橙色	石・長（1～3） ウンモ ◎	7層 黒斑	
116	壺	口径 (12.0) 残高 7.5	口縁端部は丸味をもつ。	口ハケ（7本/cm） 頸ハケ（10本/cm）	マメツ	橙色 浅黄橙色	石・長（1～3） ○	7層	
117	壺	口径 (15.2) 残高 7.0	「く」の字口縁。端部は面をなす。	マメツ （ヨコナデ）	マメツ	明黄橙色 黄橙色	石・長（1～3.5） ○	7層	
118	壺	口径 (16.2) 残高 7.3	口縁接合部は下方へやや下垂する。	口ヨコナデ 頸ハケ	口ヨコナデ 頸ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	長（1～2） ウンモ ◎	7層	
119	壺	口径 18.6 残高 13.5	「く」の字口縁。接合部に明確な稜をもつ。	ハケ（14本／cm）	ハケ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ウンモ ◎	7層	33
120	壺	口径 (15.4) 残高 6.6	外反する口縁部。端部はやや面をもつ。	口上ハケ→ヨコナデ 口下ハケ	口上ハケ→ヨコナデ 口下ハケ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1） ◎	7層	

Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品

(4)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
121	壺	残高 7.4	外反する口縁部。接合部に明確な稜をもつ。	ハケ（10本／cm）（指頭痕）	口上ハケ→ヨコナデ 口下ハケ	浅黄橙色・黒褐色 にぶい橙色	石・長（1～4） ウンモ ◎	7層	
122	壺	口径 (34.6) 残高 9.7	大型品。「く」の字口縁。外面に波状文3条以上。頸部に貼付凸帯格子文。	ミガキ	マメツ	にぶい橙色・灰褐色 浅黄橙色	石（1～3） ○	7層 黒斑	
123	壺	口径 14.2 残高 11.1	口縁接合部は下方へ下垂する。端面に波線文3条＋波状文3条。頸部に貼付凸帯格子文。	口ヨコナデ 頸ハケ（11本/cm）	口ヨコナデ（指頭痕） 頸ハケ	にぶい黄橙色 にぶい橙色	長（1～3） ◎	7層 黒斑	34
124	壺	口径 (12.8) 残高 10.6	「コ」の字口縁。端面に波状文3条。頸部に貼付凸帯格子文。	ハケ→ミガキ	マメツ	橙色 浅黄橙色	石・長（1～5） 赤色酸化土粒 ○	7層	34
125	壺	口径 (14.4) 残高 4.1	口縁端部は面をなす。口縁外面に波状文4条。	マメツ	マメツ	橙色 黒褐色	石（1～3） ○	7層	
126	壺	口径 (13.6) 残高 7.3	「コ」の字口縁。端部は丸味をもつ。口縁外面に波状文3条。	口ヨコナデ 頸ハケ（11本/cm）→ミガキ	口ヨコナデ 頸ハケ	にぶい橙色 明褐灰色	石（1） ◎	7層	
127	壺	口径 (19.0) 残高 5.5	口縁端部は面をなす。口縁外面に波状文5条＋波状文5～6条＋波状文5条？上・下段は小さい波状文。	口上ヨコナデ 口下ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石（1～2.5） ウンモ ◎	7層	
128	壺	口径 (18.4) 残高 5.4	「コ」の字口縁。	口上マメツ 口下ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ	浅黄橙色 橙色	石・長（1～2） 赤色酸化土粒 ○	7層	
129	壺	口径 (15.2) 残高 14.5	「コ」の字口縁。頸部は長い。	口ヨコナデ 頸ハケ→ナデ	口ヨコナデ 頸ハケ→ナデ 胴指頭痕	浅黄橙色 浅黄橙色	長（1） ウンモ ◎	7層 黒斑	34
130	壺	残高 3.9	「コ」の字口縁。波状文3条＋沈線文3条。	ヨコナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎	7層	
131	壺	口径 (13.8) 残高 7.1	短い口縁。端部は凹む。接合部は下垂する。	口ヨコナデ 頸ハケ（8本／cm）	口ヨコナデ 頸ハケ→ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ウンモ ◎	7層	
132	壺	口径 (12.2) 残高 9.9	長頸壺。短く外反する口縁。	口ヨコナデ 頸ハケ（7本/cm）	口ヨコナデ 頸ナデ	浅黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ウンモ ◎	7層	
133	壺	口径 (12.8) 残高 9.8	長頸壺。短く外反し口縁端面は面をなす。頸部に貼付凸帯刻目文。	口端ヨコナデ 口ハケ（10本/cm） 頸ヨコナデ	口端ヨコナデ 口ハケ（指頭痕）	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石（1） ◎	7層	
134	壺	口径 (23.2) 残高 26.4	長頸壺。下垂口縁。頸部に貼付凸帯。	マメツ（ハケ→ミガキ）	マメツ	橙色 浅黄橙色	石・長（1～3） 赤色酸化土粒 △	7層	34
135	壺	口径 (33.8) 残高 24.3	長頸壺。口縁外面に竹管文2段＋円形浮文（ヘラ描）。頸部上に沈線文4条。頸部に貼付凸帯格子文。	ハケ→ナデ	ハケ	浅黄橙色 橙色	石・長（1～3.5） 赤色酸化土粒 ○	7層	34
136	壺	口径 (15.4) 残高 3.3	口縁端部は面をなす。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石（1～4） ◎	7層	
137	壺	口径 (17.6) 残高 5.3	口縁端面は凹む。	口端ヨコナデ 口ハケ（12本/cm）	ハケ→ナデ	橙色 浅黄橙色	石・長（1） ウンモ◎	7層	
138	壺	口径 (18.4) 残高 3.6	口縁端部は下垂気味。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1～3） ○	7層	
139	壺	残高 6.4	頸部。貼付凸帯刻目文。	ハケ→ナデ	ナデ（指頭痕）	浅黄橙色 浅黄橙色	石（1） ◎	7層	
140	壺	残高 11.4	頸部。貼付凸帯格子文。	マツメ	マメツ	浅黄橙色 褐灰色	石・長（1～2.5） △	7層	
141	壺	残高 10.4	頸部。貼付凸帯格子文。	マツメ	頸ナデ 胴ハケ→指ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 灰白色・黒褐色	石・長（1～5） ◎	7層 黒斑	
142	壺	底径 9.0 残高 20.9	厚みのある底部。張りのある胴部。	ハケ→ミガキ	ハケ	浅黄橙色 明褐灰色	石・長（1～3） ○	7層 黒斑	
143	壺	底径 (6.2) 残高 7.0	平底。	ハケ→ナデ	マツメ	にぶい橙色 明褐灰色	石・長（1～2） ◎	7層	
144	壺	底径 (8.4) 残高 9.0	平底。	マメツ	マツメ	にぶい黄褐色 褐灰色	石・長（1～3） ◎	7層	
145	壺	底径 8.0 残高 11.0	平底。	ハケ（7本／cm）	ナデ	にぶい橙色 明褐灰色	石（1～3） ◎	7層 黒斑	
146	壺	底径 (6.6) 残高 11.0	やや上げ底。	ハケ→ミガキ	指ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 明褐灰色	石・長（1～2） ◎	7層 黒斑	
147	壺	底径 7.2 残高 9.6	平底。張りのある胴部。	ハケ（8本／cm）→ミガキ	ハクリ	橙色 にぶい橙色	石・長（1～3） 赤色酸化土粒 ◎	7層 黒斑	
148	壺	底径 (7.2) 残高 4.0	平底。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1～4） ◎	7層 黒斑	
149	壺	底径 6.0 残高 4.9	平底。	ナデ	指ナデ	灰白色 褐白色	石・長（1～2） ウンモ ◎	7層 黒斑	

Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品

(5)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
150	壺	底径 (6.2) 残高 6.5	平底。	胴ミガキ 底ナデ	マメツ	にぶい橙色 灰白色	石・長(1～5) ◎	7層 黒斑	
151	壺	底径 (5.8) 残高 6.0	平底。	マメツ	マメツ	橙色 浅黄色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 △	7層 黒斑	
152	壺	底径 (5.6) 残高 2.7	平底。	ミガキ	マメツ	橙色 灰褐色	石（1 ～ 2） ◎	7層	
153	壺	底径 (6.2) 残高 7.4	平底。	マメツ（ハケ）	マメツ	浅黄橙色 黄橙色	石・長(1～3) ○	7層 黒斑	
154	壺	底径 6.0 残高 7.6	平底。	ハケ→ナデ	マメツ	にぶい橙色 灰黄褐色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ◎	7層 黒斑	
155	壺	底径 (5.6) 残高 7.6	平底。	マメツ	マメツ	明黄橙色 明黄橙色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 △	7層 黒斑	
156	壺	底径 7.4 残高 5.7	厚みのある平底。	ミガキ	ハケ(10本／cm) （指頭痕）	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1～3) ◎	7層 黒斑	
157	壺	底径 5.4 残高 5.2	平底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 灰白色	石・長(1～3) ○	7層 黒斑	
158	壺	底径 6.2 残高 11.6	平底。直立気味に立ち上がる胴部。	ミガキ	ハケ→ナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) ◎	7層 黒斑	
159	壺	底径 5.5 残高 8.7	平底。	ハケ（9本／cm） →ミガキ	ハケ→ミガキ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎	7層 黒斑	
160	壺	底径 6.8 残高 4.9	平底。	ハケ(12本／cm)	ミガキ	にぶい橙色 橙色	長（1） ◎	7層	
161	壺	底径 (6.4) 残高 3.8	やや上げ底。厚みがある。	マメツ	マメツ	灰黄褐色 浅黄橙色	石・長(1～2.5) ◎	7層	
162	壺	底径 8.0 残高 15.3	平底。器壁は薄い。	ハケ(10本／cm)	マメツ	橙色 浅黄橙色	石・長（2） 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	
163	壺	底径 (6.0) 残高 3.1	平底。	ハケ→ナデ	マメツ	にぶい橙色 灰白色	石（1） ◎	7層 黒斑	
164	壺	底径 4.5 残高 29.8	平底。胴部下位に焼成後穿孔。	マツメ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色・灰褐色	石・長(1～5) 赤色酸化土粒 △	7層 黒斑	33
165	壺	底径 4.6 残高 16.8	平底。	工具によるナデ	指ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～3) ◎	7層 黒斑	
166	壺	底径 5.0 残高 10.2	平底。	ミガキ	マメツ	にぶい黄褐色 褐灰色	石・長(1～3) ◎	7層 黒斑	
167	壺	底径 4.0 残高 5.9	平底。	ミガキ	マメツ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1～1.5) ◎	7層 黒斑	
168	壺	底径 (3.4) 残高 4.4	平底。	マメツ	マメツ	橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 △	7層	
169	壺	底径 3.6 残高 3.1	平底。	ハケ（8本／cm）	ナデ	灰褐色 にぶい橙色	長（1） ウンモ ◎	7層 黒斑	
170	壺	底径 (4.0) 残高 4.5	平底。	マメツ	マメツ	灰黄色 褐灰色	石・長（1） △	7層	
171	壺	底径 4.2 残高 4.4	平底。	ナデ	マメツ	にぶい橙色 浅黄橙色	石・長(1～4) ◎	7層 黒斑	
172	壺	底径 (4.8) 残高 8.7	平底。	ミガキ	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 灰褐色	長（1） ウンモ ◎	7層 黒斑	
173	壺	底径 (5.2) 残高 6.4	平底。	ナデ	ハケ→指ナデ	褐灰色 褐灰色	石・長(1～2.5) ◎	7層	
174	壺	底径 4.0 残高 16.2	平底。張りのある胴部。	ミガキ・工具によるナデ	マメツ(指頭痕)	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3.5) ◎	7層 黒斑	
175	壺	底径 4.6 残高 14.5	平底。球状の胴部。	ミガキ→工具によるナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1～4） ◎	7層 黒斑	
176	壺	底径 5.5 残高 9.5	平底。	ハケ→ミガキ	指ナデ(指頭痕)	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) 赤色酸化土粒 ◎	7層 黒斑	
177	壺	底径 4.6 残高 11.5	平底。	工具によるナデ	工具によるナデ （指頭痕）	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長(1～4) ○	7層 黒斑	
178	壺	底径 3.4 残高 8.1	平底。	ハケ→ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2.5) ◎	7層 黒斑	
179	壺	底径 5.0 残高 20.5	平底。	ハケ（8本／cm） →ミガキ	指ナデ	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎	7層 黒斑	
180	壺	底径 2.8 残高 12.2	厚みのある小さい平底。球状の胴部。	ハケ→ミガキ	指ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ◎	7層 黒斑	
181	壺	底径 (3.4) 残高 7.3	厚みのある小さい平底。張りのある胴部。	ハケ→ナデ	指ナデ	浅黄橙色 褐灰色	石・長(1～2) ◎	7層	

B１区包含層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
182	壺	底径 4.0 残高 8.6	厚みのある小さい平底。張りのある胴部。	胴上ミガキ 胴下ナデ	指ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) 赤色酸化土粒 ◎	7層 黒斑	
183	壺	底径 (4.0) 残高 8.3	厚みのある平底。	ミガキ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ウンモ ◎	7層	
184	壺	底径 5.6 残高 7.4	平底。	ハケ（5本／cm）	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～4) ○	7層	
185	壺	底径 (5.0) 残高 6.1	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 灰白色	石・長(1～3) △	7層 黒斑	
186	壺	底径 (6.2) 残高 12.4	平底。	ハケ	マメツ	にぶい橙色 橙色	石・長(1～4) ◎	7層 黒斑	
187	壺	底径 (6.2) 残高 10.4	平底。	ハケ・タタキ→ ミガキ	ハケ（10本／cm） →ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	長（1） ウンモ ◎	7層 黒斑	
188	壺	底径 (4.8) 残高 4.3	やや上げ底。	ハケ→ナデ	マメツ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長（1） ○	7層 黒斑	
189	壺	底径 (4.8) 残高 4.3	平底。	ハケ→ナデ	ハケ（11本／cm） →ナデ	にぶい橙色 灰褐色	石（1） ウンモ ◎	7層 黒斑	
190	壺	底径 (5.6) 残高 5.5	厚みのある平底。	ハケ（8本／cm）	マメツ	灰黄褐色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎	7層 黒斑	
191	壺	底径 6.0 残高 5.4	丸味をもつ平底。	マメツ	ナデ	にぶい橙色 褐灰色	石（1～4） ○	7層 黒斑	
192	壺	底径 5.2 残高 7.4	平底。	ハケ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1～3） ◎	7層 黒斑	
193	壺	底径 5.0 残高 3.3	平底。	ハケ→ミガキ	ナデ	黒褐色 褐灰色	石・長（1） ウンモ ◎	7層	
194	壺	底径 4.2 残高 5.4	平底。	ハケ	指頭痕	にぶい橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ◎	7層 黒斑	
195	壺	底径 3.4 残高 11.5	丸味のある平底。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 灰白色	石・長(1～4) 赤色酸化土粒 △	7層 黒斑	
196	壺	底径 5.0 残高 8.6	平底。	マメツ	マメツ	橙色 褐灰色	石・長(1～3.5) △	7層	
197	壺	底径 (3.8) 残高 8.2	丸味のある平底。	マメツ	工具によるナデ	にぶい黄橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ◎	7層 黒斑	
198	壺	底径 5.0 残高 9.5	丸味のある平底。	ハケ→ナデ	胴ハケ（8本/cm） 底面ナデ	にぶい橙色 黒褐色	石・長(1～4) ◎	7層 黒斑	
199	壺	底径 2.6 残高 4.5	厚みがあり、くびれをもつ平底。	ハケ→ミガキ	ナデ	にぶい橙色 褐灰色	長（1） ◎	7層	
200	壺	口径 (13.0) 残高 9.1	折り曲げ口縁。端部は丸くおさめられている。	口ヨコナデ 胴タタキ→ナデ	口ハケ（11本/cm） 胴指ナデ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石（1） ウンモ ◎	7層	
201	壺	口径 (12.0) 底径 2.7 器高 19.0	外反する口縁部。張りのない胴部。平底。	口ヨコナデ 頸・胴上ミガキ 胴下・底工具によるナデ	マメツ	明褐灰色 浅黄橙色	石・長(1～3) ○	7層 黒斑	35
202	壺	口径 (11.5) 底径 2.5 器高 22.1	短く外反する口縁部。平底。	口ハケ→ヨコナデ 頸・胴上ハケ(10本/cm) 胴下・底工具によるナデ	口ヨコナデ 胴底ハケ（指頭痕）	浅黄橙色 にぶい橙色	石（1～3） ウンモ ◎	7層 黒斑	35
203	壺	口径 (7.1) 底径 2.4 器高 16.7	直立する口縁部。張りのある胴部。底部は丸味をもつ。	ハケ→ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 褐灰色	石（1～5） ◎	7層 黒斑	35
204	壺	口径 7.6 底径 2.1 器高 22.4	直立する口縁部。端部は尖る。底部は丸味をもつ。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 橙色	石（1～3） △	7層 黒斑	35
205	壺	底径 2.9 残高 20.2	直立する頸部。器壁は厚い。平底。	ハケ（11本／cm）	指ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎	7層 黒斑	35
206	壺	底径 2.8 残高 4.9	底面は凹む。	ナデ	ナデ	灰褐色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎	7層	
207	壺	底径 3.4 残高 6.0	平底。	ハケ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～3) ウンモ ◎	7層	
208	壺	底径 2.4 残高 5.2	平底。	ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石・長(1～3) ◎	7層	
209	壺	底径 3.3 残高 5.7	平底。	ナデ	ナデ	灰黄褐色 褐灰色	石・長(1～3) ◎	7層	
210	壺	底径 (3.2) 残高 7.4	平底。	ナデ	指ナデ	橙色 橙色	砂粒 ◎	7層	
211	壺	底径 2.4 残高 7.3	平底。	ハケ（11本／cm）	指ナデ	にぶい黄橙色 にぶい橙色	石（1） ウンモ ◎	7層 黒斑	

Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
212	壺	底径 (1.5) 残高 6.4	小さい平底。	ハケ	マメツ	灰褐色 灰白色	石・長(1～3) ◎	7層	
213	壺	底径 1.1 残高 6.8	小さく厚みのある平底。	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ （指頭痕）	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石・長(1～2) ◎	7層	
214	壺	底径 1.2 残高 5.0	小さい平底。器壁は厚い。	ハケ(15本／cm)	(底)ハケ (底面)シボリ痕	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎	7層 黒斑	
215	壺	丸底 残高 9.3	小型品。胴部は張る。	(胴上)ミガキ (胴下)ケズリ→ミガキ	ハケ(10本／cm) （指頭痕）	にぶい橙色 黒色	石・長（1） ◎	7層 黒斑	35
216	壺	底径 1.6 残高 2.0	ボタン状の底部。	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ウンモ ◎	7層	
217	壺	底径 (1.6) 残高 2.8	ボタン状の底部。	ハケ→ミガキ	ナデ（指頭痕）	にぶい黄橙色 にぶい橙色	石（1） ◎	7層	
218	壺	底径 1.0 残高 2.7	ボタン状の底部。	ハケ（指頭痕）	ハケ→ナデ	にぶい黄橙色 灰白色	石（1～1.5） ◎	7層 黒斑	
219	壺	底径 5.5 残高 9.2	底部中央に凹み。端部は突出する。	ハケ→ミガキ	ハケ(10本／cm) →指ナデ	黄橙色 褐灰色	長（1） ウンモ ◎	7層 黒斑	
220	壺	底径 2.8 残高 5.0	くびれをもつ平底。	ハケ→ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（2） ◎	7層 黒斑	
221	器台	口径 16.4 底径 17.4 器高 15.8	口縁端面は凹む。円孔5方向2段（φ1.9cm）。	(口・底)ヨコナデ (胴)ハケ(9本/cm) ミガキ	ハケ→ミガキ （指頭痕）	橙色 橙色	石・長(1～3) ウンモ ◎	7層	36
222	器台	底径 17.6 残高 16.6	大きく外反する口縁部。円孔5方向4段（φ1.4cm）。	マメツ （ハケ→ミガキ）	(胴)ナデ (底)ハケ→ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1～4） ○	7層 黒斑	36
223	器台	残高 16.5	脚部。円孔3方向2段（φ1.4cm）。	マメツ	マメツ	黄橙色 黄橙色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ○	7層	
224	器台	残高 10.0	脚部。円孔4方向3段（φ1.8cm）。	ハケ（7本／cm） →ミガキ	ナデ（指頭痕）	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2.5) ウンモ ◎	7層	
225	器台	残高 21.9	脚部。大型品。円孔6方向5段以上（φ2.3cm）。最下段の円孔は8方向。	ハケ(10本／cm)	指ナデ(指頭痕)	橙色 橙色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ウンモ　◎	7層 黒斑	
226	器台	残高 10.6	脚部。円孔3方向2段か？（φ1.7cm）	ミガキ→ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) ◎	7層	
227	器台	残高 7.9	脚部。沈線文6条+円孔3方向以上（φ1.2cm）+沈線文7条。	ハケ→ミガキ	マメツ （ハケ・ミガキ）	橙色 橙色	石・長(1～3) ◎	7層	
228	器台	底径 (14.2) 残高 7.9	裾端部は丸くおさめられている。上段の円孔7方向、下段の円孔6方向（φ0.8cm）。	マメツ（ハケ）	マメツ （ハケ・ミガキ）	橙色 橙色	石・長(1～4) ○	7層	36
229	器台	口径 (30.6) 残高 2.2	大きく外反する口縁部。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 橙色	石・長(1～3) △	7層	
230	高坏	残高 1.7	口縁部片。端部は下垂する。端面に沈線文1条+波状文1条。	ハケ→ミガキ	ヨコナデ	明褐灰色 灰褐色	砂粒 ◎	7層	36
231	高坏	口径 (26.6) 残高 4.6	坏部外面に稜をもつ。	ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石・長（1） ◎	7層	36
232	高坏	口径 (26.2) 残高 4.6	口縁端部は面をなす。外面に稜をもつ。	(口)ヨコナデ (坏)マメツ(ナデ)	(口)ヨコナデ (坏)ミガキ	浅黄色 浅黄橙色	石・長（1） ウンモ　◎	7層 黒斑	36
233	高坏	残高 3.9	坏部。外面に稜をもつ。	ミガキ	不明	にぶい黄橙色 橙色	石(1)ウンモ 赤色酸化土粒 ◎	7層	
234	高坏	残高 4.5	坏部。外面に稜をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎	7層	
235	高坏	残高 3.8	坏部。外面に稜をもつ。	ヨコナデ	ナデ・ミガキ	浅黄橙色 褐灰色	石（1） ◎	7層	
236	高坏	残高 5.3	接合部。器壁は厚い。	ナデ	(坏)ナデ (脚)シボリ痕	淡橙色 橙色	石・長(1～2) ◎	7層	
237	高坏	残高 7.7	脚部。大きく広がる柱部。	ミガキ	(坏)ナデ (脚)シボリ痕	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) ◎	7層	
238	高坏	残高 7.7	脚部。	ハケ	(坏)ミガキ (脚)ナデ	にぶい橙色 灰白色	石・長(1～5) ◎	7層	
239	高坏	残高 8.7	脚部。ゆるやかに広がる柱部。	ミガキ	(坏)ナデ(指頭痕) (脚)シボリ痕・指ナデ（指頭痕）	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～2) ◎	7層	36
240	高坏	残高 8.7	脚部。厚みのある接合部。	ナデ	(坏)ナデ (脚)指頭痕	浅黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3) ウンモ ◎	7層	
241	高坏	残高 9.8	脚部。円孔4方向以上。	ハケ(13本／cm)	(坏)ナデ (脚)シボリ痕→指ナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) ◎	7層	36
242	高坏	残高 11.0	脚部。細長い柱部。円孔3方向3段（φ1.8cm）。	ミガキ	(坏)ナデ (脚)シボリ痕(指頭痕)	浅黄橙色 浅黄橙色	長（1） ◎	7層	36
243	高坏	残高 13.2	脚部。円孔4方向3段（φ1.9cm）。	ハケ→ナデ	(坏)ナデ (脚)指ナデ(指頭痕)	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎	7層	36

Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
244	高坏	残高 7.7	脚部。円孔3方向。	ミガキ	指ナデ	橙色 橙色	石・長(1～3) ◎	7層	
245	高坏	残高 5.9	脚部。厚みのある器壁。円孔4方向。	ハケ→ナデ	(坏)ナデ (脚)指ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ◎	7層	
246	高坏	残高 13.6	脚部。円孔3方向3段（φ2.2cm）。	ミガキ	指ナデ	明黄褐色 明黄褐色	石・長(1～7) ◎	7層	
247	高坏	残高 15.2	脚部。細長い柱部。器壁は薄い。円孔4方向3段(φ2.2cm)。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 にぶい橙色	長 (1) △	7層	
248	高坏	残高 6.9	脚部。円孔上段3方向。下段1方向以上。	ハケ→ナデ	(坏)マメツ（ナデ） (脚)指頭痕	淡黄色 浅黄橙色	石 (1) ◎	7層	
249	高坏	底径 (18.0) 残高 5.1	裾部。円孔2方向以上。	ハケ→ミガキ	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長(1～2) ◎	7層	
250	支脚	底径 (6.7) 器高 7.0	中実。受部は凹み外側が高い。	指頭痕	ナデ	明褐灰色 明褐灰色	石 (1) ◎	7層	
251	支脚	底径 (15.4) 残高 4.2	裾部。厚みのある器壁。	マメツ	マメツ（ハケ）	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1) ◎	7層	
252	支脚	底径 (12.8) 残高 6.4	裾端部は上方にやや肥厚されている。	指頭痕	指頭痕・ハケ	浅黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3) ◎	7層	
253	支脚	底径 (8.0) 残高 8.6	中空。細長い柱部。	指頭痕・ナデ	ハケ→指ナデ	にぶい黄橙色 褐灰色	石 (1) ◎	7層	
254	支脚	底径 (16.0) 残高 11.3	大きく広がる裾部。	ハケ	ナデ（指頭痕）	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1) ウンモ ◎	7層	
255	支脚	底径 (14.0) 残高 9.9	大きく広がる裾部。	ナデ	(脚)ナデ (裾)ハケ(5本/cm)	にぶい橙色 にぶい橙色	石 (2) 赤色酸化土粒 ○	7層	
256	支脚	底径 (15.6) 残高 (13.0)	裾端部は丸くおさめられている。	マメツ（ハケ）	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～2.5) △	7層	
257	支脚	底径 (16.0) 残高 12.1	短く外反する裾部。	マメツ （ハケ・指頭痕）	マメツ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石 (1～3.5) ○	7層 黒斑	
258	支脚	底径 (9.1) 残高 9.2	「U」字状の受部。	指頭痕・ナデ	指頭痕・ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎	7層	
259	支脚	底径 10.7 残高 3.2	「U」字状の受部。	指頭痕・ナデ	指頭痕・ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3) ◎	7層 黒斑	
260	支脚	底径 9.9 残高 16.7	「U」字状の受部。厚い器壁。	タタキ→ナデ	ハケ(11本/cm) →指ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) ウンモ ◎	7層 黒斑	
261	支脚	受部径 (12.6) 底径 (14.6) 器高 14.2	「U」字状の受部。大きく外反する裾部。	ハケ(11本/cm) (2～3本/cm)	ハケ・ナデ	褐灰色・にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～3) ◎	7層	37
262	支脚	底径 (12.1) 残高 9.6	「U」字状の受部。	指頭痕・ナデ	ハケ・指頭痕	にぶい橙色 橙色	石・長(1～3) ◎	7層	
263	支脚	残高 17.5	内湾し立ち上がる「U」字状の受部。柱部にくびれをもつ。	ハケ・指頭痕	ハケ・指頭痕	浅黄橙色 にぶい橙色	石・長(1～3) ○	7層 黒斑	37
264	支脚	残高 10.9	「U」字状の受部。	マメツ	マメツ（ハケ）	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3.5) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	
265	支脚	受部径 14.9 底径 13.2 器高 16.5	2ヶ所に「U」字状の受部。前方の受部は深く後方の受部は浅い。	ハケ(9本/cm) （指頭痕）	ハケ（指頭痕）	にぶい黄橙色 にぶい橙色	石・長 (1) ウンモ ◎	7層 黒斑	37
266	支脚	残高 15.2	受部。2本の角状突起。	ナデ（指頭痕）	ハケ→指ナデ	黒褐色 黒褐色	石・長(1～5) ◎	7層	
267	支脚	残高 13.5	受部。2本の角状突起。	ハケ→ナデ （指頭痕）	指ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3) ウンモ ◎	7層 黒斑	
268	支脚	底径 (16.4) 残高 16.6	ゆるやかに外反する裾部。受部に2本の角状突起。	ナデ（指頭痕）	ナデ（指頭痕）	橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～6) ◎	7層 黒斑	37
269	甕	口径 (21.4) 器高 5.1	口縁端部は面をなす。	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	橙色 橙色	長 (1) ◎	7層	
270	甕	口径 (24.0) 残高 5.2	口縁端部は面をなす。	マメツ	マメツ	灰黄褐色 灰黄褐色	石・長(1～2) ◎	7層	
271	甕	口径 (26.0) 残高 12.7	長めの口縁部。	(口)ヨコナデ (胴)工具によるナデ	(口)ヨコナデ (胴上)ミガキ (胴下)ナデ(指頭痕)	橙色 明褐色	石・長(1～2) ◎	7層	37
272	甕	残高 5.5	口縁部片。頸部下に貼付凸帯刻目文。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	にぶい黄橙色 褐灰色	石・長 (1) ◎	7層	37
273	甕	残高 3.3	口縁部片。頸部下に貼付凸帯文。	マメツ	マメツ	橙色 浅黄橙色	石・長(1～2) ○	7層	37
274	甕	口径 (28.0) 残高 4.8	口縁端面に刻目。頸部に貼付凸帯刻目文。端部は丸味をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎	7層	
275	甕	口径 (28.7) 残高 2.9	口縁端部は尖り気味。端面に刻目。頸部下に貼付凸帯布目押圧文。	ヨコナデ	(口)ヨコナデ (胴)ハケ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1) ◎	7層	37

Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
276	甕	口径 (26.2) 残高 4.1	ゆるやかに外反する口縁部。頸部に貼付凸帯。	マメツ	㊐ヨコナデ ㊗ミガキ	にぶい橙色 橙色	石・長（1） ○	7層	37
277	甕	口径 (23.2) 残高 3.5	頸部に貼付凸帯刻目文。刻みは小さい。	マメツ	㊐マメツ ㊗ミガキ	橙色 浅黄橙色	石・長（1～4） 赤色酸化土粒 ○	7層	37
278	甕	口径 (18.3) 残高 4.2	屈曲し、外反する口縁部。端部は丸味をもつ。頸部下に貼付凸帯刻目文+貼付凸帯押圧刻目文。	ナデ	ナデ	橙色 にぶい橙色	石・長（1～2） ◎	7層	37
279	甕	底径 5.8 残高 3.5	平底。	ミガキ	マメツ	橙色 にぶい橙色	石・長（1～4） ◎	7層 黒斑	
280	甕	底径 (8.0) 残高 4.7	わずかに上げ底。	ミガキ	ミガキ・ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1） ◎	7層	
281	甕	底径 (8.8) 残高 5.0	わずかに上げ底。	ミガキ	ナデ	にぶい褐色 灰黄褐色	石（1） ◎	7層	
282	甕	底径 (5.4) 残高 4.8	わずかに上げ底。	ミガキ	マメツ	橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎	7層	
283	甕	底径 (5.0) 残高 6.7	やや上げ底。	ミガキ	マメツ	橙色 にぶい橙色	石（1～2） ウンモ ○	7層	
284	甕	底径 (6.4) 残高 8.4	やや上げ底。	ミガキ	ナデ	にぶい褐色 褐灰色	石・長（1～4） ◎	7層	
285	甕	底径 (6.0) 残高 5.6	やや上げ底。	ミガキ	マメツ	橙色 にぶい黄橙色	石・長（1～2） ◎	7層 黒斑	
286	甕	底径 (6.2) 残高 5.4	やや上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1～4） ○	7層	
287	甕	底径 5.9 残高 4.7	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎	7層 黒斑	
288	甕	底径 6.8 残高 4.5	上げ底。	マメツ	マメツ	橙色 灰黄褐色	石（1～4） ○	7層	
289	甕	底径 6.6 残高 4.3	上げ底。	ミガキ→ナデ （指頭痕）	マメツ	にぶい赤褐色・褐灰色 にぶい褐色	石・長（1～2.5） 赤色酸化土粒 ◎	7層	
290	甕	底径 6.3 残高 3.9	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1～2） ウンモ ◎	7層	
291	甕	底径 (7.0) 残高 4.0	上げ底。	ミガキ	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1～2） ◎	7層 黒斑	
292	甕	底径 (6.2) 残高 4.0	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長（1～2） ◎	7層	
293	甕	底径 6.2 残高 5.2	上げ底。底面に焼成後穿孔。	ナデ（指頭痕）	ナデ	にぶい橙色 灰褐色	石・長（1～3） ◎	7層	
294	甕	底径 (6.0) 残高 4.3	上げ底。	ミガキ	ナデ	にぶい橙色 灰褐色	石・長（1～1.5） ウンモ ◎	7層	
295	甕	底径 6.4 残高 4.1	上げ底。	マメツ	マメツ（ナデ）	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石（1.5） ウンモ ◎	7層	
296	甕	底径 (6.4) 残高 3.3	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 灰褐色	石・長（1） ◎	7層	
297	甕	底径 (5.6) 残高 3.8	上げ底。	マメツ	マメツ	橙色 黒褐色	石・長（1～2） ○	7層	
298	甕	底径 4.3 残高 2.5	上げ底。	ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎	7層 黒斑	
299	壺	口径 (23.8) 残高 2.3	口縁端部は下方に肥厚されている。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石（1～3） ○	7層	
300	壺	口径 (26.8) 残高 2.1	下垂口縁。口縁部内面に円形浮文。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石（1～2.5） △	7層	38
301	壺	口径 (21.9) 残高 4.1	口縁端部は下方に肥厚されている。端面に格子文。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 黄橙色	石・長（1～3） ○	7層	38
302	壺	口径 (25.0) 残高 4.4	ゆるやかに外反する口縁部。	ヨコナデ	ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎	7層	
303	壺	口径 (24.4) 残高 8.2	口縁端部は下方にやや肥厚されている。端面に格子文。器壁は厚い。	ヨコナデ ハケ（6本／cm）	ナデ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石（1～2） ◎	7層	38
304	壺	底径 (7.0) 残高 4.2	やや上げ底。	ミガキ→ナデ	ナデ	褐灰色 にぶい橙色	石・長（1） ◎	7層	38
305	壺	底径 (8.1) 残高 6.1	平底。	ナデ	ハケ・ナデ	にぶい黄橙色 橙色	石・長（1） ◎	7層 黒斑	38
306	壺	底径 (9.8) 残高 6.9	厚みのある底部。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 褐灰色	石・長（1～4） ◎	7層 黒斑	
307	壺	底径 6.2 残高 3.9	やや上げ底。	ミガキ	指ナデ	にぶい黄橙色 淡黄色	石（1） ◎	7層 黒斑	38
308	壺	底径 4.4 残高 3.3	平底。	ミガキ	ナデ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石（1～1.5） ◎	7層 黒斑	

B１区包含層出土遺物観察表　土製品

(10)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
309	壺	底径 (8.0) 残高 4.3	やや上げ底。	ミガキ・ハケ	ハケ・ナデ	橙色 橙色	石･長(1～2.5) ◎	７層 黒斑	38
310	壺	底径 (8.4) 残高 5.6	平底。	工具によるナデ	ハケ→ナデ	浅黄橙色 にぶい黄橙色	石･長(1～3.5) ウンモ ◎	７層 黒斑	38
311	壺	底径 (7.2) 残高 4.6	やや上げ底。	ナデ	マメツ	にぶい橙色 褐灰色	石･長(1～4) ◎	７層	38

表12　B１区包含層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
312	窪み石	完形	砂岩	10.97	12.1	5.1	1035	７層	38
313	敲石	完形	砂岩	13.28	5.73	4.35	464	７層	38
314	磨石	完形	花崗岩	8.33	5.42	5.6	361	７層	
315	打製石鏃	一部欠損	サヌカイト	(3.12)	2.5	0.5	2.49	７層	38
316	磨製石斧	欠損	緑泥片岩	(13.84)	3.02	(2.98)	144.46	７層　柱状片刃	
317	砥石	欠損	蛇紋岩	(10.69)	(5.2)	(5.7)	579	７層	
318	砥石	欠損	砂岩	(6.0)	(6.51)	(1.9)	54.82	７層	

表13　B１区包含層出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
319	壺	底径 (9.0) 残高 4.8	平底。	マメツ	ナデ	明褐灰色 にぶい橙色	石･長(1～2) ◎	6・7層	
320	壺	底径 (6.4) 残高 6.0	平底。	ハケ (10本／cm)	工具によるナデ	浅黄橙色 灰白色	長 (1) ◎	6・7層 黒斑	
321	壺	底径 (4.2) 残高 5.2	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色、橙色 灰白色	石 (1～2) ○	6・7層	
322	壺	底径 (8.2) 残高 9.1	平底。内湾ぎみに立ち上がる。	ハケ (8本／cm)	ハケ (7本／cm)	浅黄橙色 暗灰色	石 (1) ◎	6・7層	
323	壺	底径 (4.8) 残高 8.7	平底。	工具によるナデ	底ナデ(指頭痕) 胴工具によるナデ	にぶい褐色 にぶい橙色	石 (1～4) ◎	6・7層	
324	甕	残高 5.1	頸部に「ノ」の字状の刺突文。	ナデ（指頭痕）	頸ナデ 胴マメツ	淡橙色 浅黄橙色	密･石(1～2) ◎	6・7層	
325	甕	底径 (8.2) 残高 4.9	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	密･石･長(1) ◎	6・7層	
326	甕	底径 (3.8) 残高 4.6	突出する平底。	マメツ	ハケ	浅黄橙色 にぶい橙色	石 (1～3) △	6・7層 黒斑	
327	甕	底径 (3.9) 残高 2.4	くびれをもつ平底。	底面ナデ(指頭痕) 底ハケ	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 にぶい橙色	石･長(1～3) ◎	6・7層	
328	甕	底径 (3.4) 残高 2.5	平底。	底面ナデ 底ハケ→ミガキ	ミガキ	にぶい橙色 浅黄橙	石・長 (1) ウンモ ◎	6・7層 黒斑	
329	甕	底径 (5.3) 残高 2.4	くびれをもつ平底。	マメツ	ナデ（指頭痕）	にぶい黄橙色 橙色	石 (1～2) ○	6・7層 黒斑	
330	鉢	底径 (4.4) 残高 7.0	くびれをもち、やや上げ底。	マメツ	ていねいなナデ	灰白色 にぶい橙色	石・長 (1) ○	6・7層	
331	鉢	底径 5.8 残高 3.9	大きく、くびれをもつ上げ底。	底面ナデ(指頭痕) 底ハケ(11本/cm)	ハケ(11本／cm)	にぶい橙色 にぶい橙色	長 (1) ◎	6・7層	
332	高坏	残高 11.1	脚部。円孔3方向2段（φ1.4cm）	ハケ→ミガキ	ナデ	浅黄橙色 にぶい橙色	石･長(1～3) ウンモ ◎	6・7層	
333	甕	口径 (27.9) 残高 4.1	折り曲げ口縁。	ナデ	ナデ	黄橙色 黄橙色	石・長 (1) ウンモ ○	9層	39
334	甕	口径 (23.8) 残高 4.3	折り曲げ口縁。頸部下に貼付凸帯布目押圧文。	口ナデ 頸ナデ→ミガキ	口ナデ 頸ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1) ◎	9層	39
335	甕	口径 (22.0) 残高 4.0	折り曲げ口縁。頸部下に貼付凸帯文+ヘラ工具による刻目。	ナデ	ミガキ	黄橙色 黄橙色	石･長(1～2) ◎	9層	39
336	甕	口径 (22.4) 残高 3.2	口縁端面に刻目。頸部下に貼付凸帯押圧文。	ヨコナデ	口ヨコナデ 頸ミガキ	明赤褐色 橙色	石・長 (1) ◎	9層	39
337	甕	口径 (25.9) 残高 8.6	口縁端面に刻目。頸部下に貼付凸帯押圧文。	口ナデ(指頭痕) 胴ハケ(10本/cm)	マメツ	橙色 灰白色	石 (1～2) ウンモ △	9層	39
338	甕	底径 (7.0) 残高 3.9	厚みのある上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	褐灰白色 褐灰白色	石･長(1～2) ◎	9層	
339	甕	底径 6.0 残高 3.2	上げ底。	底面ケズリ→ナデ 底ナデ	ナデ	橙色 橙色	石･長(1～3) ◎	9層	39

Ｂ１区包含層出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
340	甕	底径 5.8 残高 3.3	上げ底。底部端面は丸い。	ナデ（指頭痕）	ナデ（指頭痕）	橙色 褐色	石・長(1～2) ◎	煤付着 9層	39
341	甕	底径 4.6 残高 2.2	くびれをもつ上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	にぶい橙色 橙色	長（1） ◎	9層	39
342	甕	底径 (6.3) 残高 7.2	上げ底。	ナデ	工具によるナデ	にぶい橙色 にぶい赤褐色	石・長(1～5) ◎	9層	
343	甕	底径 (5.8) 残高 6.5	上げ底。	底面ナデ 底ミガキ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ◎	9層	
344	甕	底径 (7.5) 残高 5.2	くびれをもつ上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	橙色 橙色	石・長(1～4) ◎	9層	
345	甕	底径 (7.0) 残高 3.5	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	にぶい橙色・灰褐色 褐灰色	石・長（1） ◎	9層	
346	甕	底径 (6.2) 残高 5.4	平底。	ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ◎	9層	
347	甕	底径 (5.2) 残高 4.0	平底。	ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ◎	9層	
348	甕	底径 (6.5) 残高 5.1	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	暗赤褐色 橙色	石（1 ～ 4） ウンモ ○	9層	39
349	壺	残高 2.9	口縁部片。口縁端面に斜格子文。	ヨコナデ	ヨコナデ	明赤褐色 にぶい橙色	石・長(1～2) ウンモ ◎	9層	39
350	壺	口径 (18.4) 残高 3.5	大きく外反する口縁部。	ナデ	マメツ	橙色 灰白色	石・長(1～2) △	9層	
351	壺	口径 (15.1) 残高 4.9	外反する口縁。口縁端部に刻目。頸部に貼付凸帯。	ナデ	ミガキ	にぶい褐色 明褐色	長（1） ◎	9層	39
352	壺	口径 (10.2) 残高 3.6	外反する口縁部。	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長（1） ◎	9層	39
353	壺	口径 (13.2) 残高 3.1	大きく外反する口縁。端面に凹線。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長（1） ◎	9層	39
354	壺	残高 7.0	頸部に貼付凸帯押圧文。	マメツ	マメツ	黄橙色 黄橙色	石・長（1） △	9層	
355	壺	底径 (6.8) 残高 10.0	平底。張りのある胴部。	底面ナデ 胴ミガキ→ナデ	ナデ（指頭痕）	浅黄橙色 黒褐色	石・長(1～2) ◎	9層 黒斑	39
356	壺	底径 (6.4) 残高 6.1	平底。内湾する胴部。	ミガキ	ミガキ	明褐色 明褐色	石（1） ウンモ ◎	9層 黒斑	39
357	壺	底径 (6.0) 残高 2.8	平底。	底面ナデ 底ミガキ	ミガキ	浅黄橙色 橙色	石（1） ○	9層 黒斑	
358	壺	底径 (5.8) 残高 2.9	平底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 赤褐色	石・長(1～2) ウンモ ◎	9層 黒斑	39
359	壺	底径 (8.4) 残高 3.9	平底。	ミガキ	ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	長（1） ウンモ ◎	9層 黒斑	
360	壺	底径 (8.8) 残高 3.6	平底。	ナデ	マメツ	浅黄橙色 暗灰黄色	石・長（1） ウンモ ○	9層	
361	壺	底径 (6.9) 残高 5.1	平底。	マメツ	マメツ	淡橙色 にぶい赤褐色	石・長(1～2) ○	9層	
362	壺	底径 (4.8) 残高 5.4	平底。	底面ナデ 底ハケ→ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 灰白色	石・長(1～2) ウンモ ◎	9層	
363	壺	底径 (8.2) 残高 4.7	わずかにくびれを持つ平底。	ハケ（9本／cm）	ハケ（9本／cm）	淡黄色 黒褐色	石（1） ウンモ ◎	9層 黒斑	
364	壺	底径 (5.0) 残高 4.7	大きく外反する平底。	ハケ→ナデ	マメツ	浅黄橙色 暗灰色	石・長(1～3) ◎	9層	
365	壺	底径 (8.0) 残高 6.4	わずかにくびれを持つ平底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 にぶい褐色	石・長(1～2) ウンモ ◎	9層	
366	高坏	口径 (36.0) 残高 4.4	内外に拡張して水平面をつくる口端部。	マメツ	ミガキ	褐灰色 黒褐色・灰褐色	石（1 ～ 2） ウンモ ○	9層	
367	高坏	残高 4.2	脚部片。	マメツ	ナデ	浅黄橙色・黒褐色 浅黄橙色・黒褐色	石（1） △	9層	

表14　Ｂ１区包含層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
368	石斧	欠損	緑泥片岩	(8.81)	(4.1)	(1.51)	114.48	9層 扁平片刃	39
369	剝片		サヌカイト	3.8	6.3	0.6	12.88	9層	39

表15　B１区包含層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
370	壺	口径 (19.4) 残高 2.2	大きく外反する口縁部。	ヨコナデ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～2) ウンモ ○	7・8・9層	
371	壺	底径 (6.4) 残高 3.1	やや上げ底。	ナデ	ナデ	明褐灰色 にぶい橙色	石・長(1～4) ◎	7・8・9層	
372	壺	底径 (7.4) 残高 3.9	平底。	ナデ	ミガキ	灰褐色 にぶい橙色	石・長（1） ウンモ ◎	7・8・9層	
373	壺	底径 (6.4) 残高 3.2	平底。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) ウンモ △	7・8・9層	
374	壺	底径 (7.4) 残高 3.6	平底。	マメツ	ナデ	浅黄色 褐灰色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ○	7・8・9層	
375	甕	底径 (7.0) 残高 4.2	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色・灰褐色 灰白色	石・長(1～3) ◎	7・8・9層	
376	甕	底径 (6.4) 残高 2.8	上げ底。	ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色 褐灰色	石・長(1～2) ◎	7・8・9層	
377	壺	口径 (19.2) 残高 4.1	折り曲げ口縁。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長（1） ウンモ ◎	7・8・9層	
378	壺	口径 (16.8) 残高 4.4	「く」の字口縁。	マメツ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石（3） ○	7・8・9層	
379	壺	底径 1.2 残高 10.1	小さな底部。	(底)ハケメ (胴)マメツ	マメツ	灰白色・浅黄橙色 灰白色	石（1～2） ○	7・8・9層 黒斑	
380	甕	底径 (3.8) 残高 4.4	平底。	(底面)マメツ (底)ハケ	ナデ（指頭痕）	浅黄橙色 にぶい黄橙色	石（1） ○	7・8・9層	
381	甕	底径 (5.0) 残高 5.6	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色・褐灰色 灰白色	石・長(1～2) ◎	7・8・9層 黒斑	
382	甕	底径 (3.2) 残高 2.5	上げ底。大きく外反する底部。	(底面)ナデ(指頭痕) (底)ハケ(10本/cm)	ナデ	浅黄橙色 灰白色	石（1） ◎	7・8・9層 黒斑	
383	甕	口径 (19.0) 残高 6.0	折り曲げ口縁。	ナデ	(口)ナデ (胴)ミガキ	にぶい橙色 橙色	石（1～2） ◎	9・10層	
384	甕	口径 (22.8) 残高 3.2	折り曲げ口縁。	(口)ナデ(指頭痕) (頸)ハケ	ミガキ	橙色 にぶい橙色・黒褐色	石・長(1～3) ◎	9・10層	
385	甕	口径 (22.4) 残高 5.3	折り曲げ口縁。口縁端部に刻目。頸部下に貼付凸帯押圧文。	(口)マメツ (胴)ミガキ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1～2) ○	9・10層	
386	甕	口径 (30.8) 残高 5.3	折り曲げ口縁。頸部下に貼付凸帯押圧文。	マメツ	マメツ	橙色 黄橙色	石・長(1～2) △	9・10層	
387	甕	口径 (34.1) 残高 7.6	折り曲げ口縁。頸部下に貼付凸帯押圧文。	マメツ	マメツ	明黄褐色 明黄褐色	石・長(1～3) △	9・10層	
388	壺	口径 (35.6) 残高 4.2	大きく外反する下垂口縁。口縁端面に山形文。	マメツ	マメツ	灰褐色 浅黄橙色	石（1～2） ウンモ △	9・10層	
389	壺	口径 (30.5) 残高 2.4	大きく外反する下垂口縁。山形文。	マメツ	マメツ	灰黄褐色・褐灰色 にぶい黄褐色	石・長(1～5) ○	9・10層	
390	壺	口径 (19.4) 残高 3.6	大きく外反する下垂口縁。	ナデ	ハケ→ナデ	橙色 橙色	石・長（1） ◎	9・10層	
391	壺	口径 (16.0) 残高 2.4	大きく外反する下垂口縁。口縁端面に山形文。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ウンモ ◎	9・10層	
392	壺	残高 1.9	口縁部片。口縁端部に刻目。	ヨコナデ	ヨコナデ	明赤褐色 明赤褐色	石・長（1） ◎	9・10層	
393	壺	残高 6.5	稜をもつ胴部。	工具によるナデ	ミガキ	褐色・灰褐色 黒褐色	石・長(1～2) ◎	9・10層	
394	壺	残高 2.5	頸部に貼付凸帯刻目押圧文。	ミガキ→ナデ	(頸)ミガキ (胴)ナデ	にぶい橙色 灰褐色	石・長(1～3) ウンモ ◎	9・10層	
395	壺	底径 (6.0) 残高 8.1	上げ底。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1～3) △	9・10層	
396	壺	残高 14.9	胴部片。肩部に浮文2個1組以上。	(頸)ナデ (胴)ミガキ	ミガキ	にぶい橙色 橙色・褐灰色	石・長(1～2) ウンモ ◎	9・10層	
397	壺	残高 9.0	胴部片。刻目凸帯文4条。一部押圧文。	マメツ	マメツ	橙色 黄橙色	石・長（1） ウンモ ○	9・10層	
398	壺	底径 (5.0) 残高 3.8	わずかに上げ底。	ハケ（9本／cm）	マメツ	にぶい橙色 灰白色	長（1）ウンモ ◎	9・10層 黒斑	
399	壺	底径 (6.8) 残高 3.9	平底。	マメツ	マメツ	淡橙色 浅黄色	石・長（1） △	9・10層	
400	壺	底径 (7.6) 残高 7.9	平底。	(底面)ナデ (胴)ミガキ	ハケ→ミガキ	橙色 浅黄橙色	石（1） ◎	9・10層 黒斑	
401	ジョッキ	口径 (25.9) 残高 4.1	肥厚帯を持った口縁部。	ナデ	ミガキ	にぶい褐色 にぶい橙色	石（1）ウンモ ◎	9・10層	

表16　B１区包含層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
402	打製石鏃	完形	サヌカイト	3.6	1.52	0.5	2.75	9・10層	
403	剝片		サヌカイト	3.38	1.8	0.34	1.92	9・10層	

表17　B１区包含層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整		色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
404	甕	口径 (25.2) 残高 3.2	大きく外反する口縁。	口ヨコナデ 胴マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1～2) ○	11層	40
405	甕	口径 (26.0) 残高 4.9	折り曲げ口縁。	口ヨコナデ 胴ナデ	口マメツ 胴ハケ(7本/cm)	灰白色 明赤褐色	石・長（1） ○	11層	40
406	甕	口径 (30.8) 残高 8.2	折り曲げ口縁。頸部に貼付凸帯押圧文。	マメツ	マメツ	明黄褐色 明黄褐色	石・長(1～2) ウンモ ○	11層	40
407	甕	底径 7.1 残高 5.4	上げ底。	ミガキ	ナデ	橙色・灰褐色 にぶい褐色	長（1） ◎	11層	40
408	甕	底径 7.4 残高 3.5	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい黄褐色	石（1） ◎	11層 黒斑	40
409	壺	口径 (29.6) 残高 2.0	下垂口縁。端面に山形文。	ヨコナデ	ヨコナデ ミガキ	赤橙色 赤橙色	石・長(1～2) ◎	11層	40
410	壺	口径 (30.2) 残高 2.5	下垂口縁。端面に刻目。	ヨコナデ	ヨコナデ （指頭痕）	赤褐色 にぶい赤褐色	長（1） ◎	11層	40
411	壺	口径 (26.6) 残高 2.5	下垂口縁。端面に山形文。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 赤橙色	石（1） ウンモ ○	11層	40
412	壺	口径 (19.8) 残高 2.6	大きく外反する口縁部。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1～3) ウンモ ○	11層	40
413	壺	口径 (12.8) 残高 2.7	口縁端面に凹をもつ。	ヨコナデ （指頭痕）	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1～2.5） ウンモ ◎	11層	40
414	壺	口径 (18.2) 残高 2.5	ゆるやかに外反する口縁部。	口端ヨコナデ 口ナデ(指頭痕)	マメツ	黄橙色 黄橙色	石・長(1～2) ○	11層	40
415	壺	残高 8.1	長頸壺の頸部。頸部に凸帯文1条。	頸ハケ(9本/cm) 凸帯ヨコナデ	頸上指ナデ 頸中ミガキ 頸下ミガキ・ナデ（指頭痕）	明赤褐色 明赤褐色	石・長（1） ◎	11層	
416	壺	底径 (7.0) 残高 8.5	わずかに上げ底。	底上ミガキ・ハケ 底下ハケ	ハケ→ミガキ	赤橙色 橙色	石（1） ◎	11層	
417	壺	底径 (9.8) 残高 5.2	わずかに上げ底。	マメツ	ミガキ	にぶい褐色・黒褐色 黄橙色	石・長(1～3) ウンモ ◎	11層	
418	壺	底径 8.0 残高 3.8	平底。	マメツ	ミガキ・ナデ	にぶい橙色 黄橙色	石・長(1～3) ◎	11層	
419	壺？	底径 (5.4) 残高 4.8	やや上げ底。	ナデ	ナデ	灰褐色 にぶい赤褐色	石（1～2） ◎	11層	
420	高坏	口径 (17.0) 残高 4.0	坏部。口縁は直立気味に立ち上がり端面に凹をもつ。	口ヨコナデ 坏ハケ	ナデ	灰黄褐色 褐灰色	石・長（1） ○	11層	
421	ジョッキ	残高 10.0	把っ手部。	マメツ	－	橙色 －	石・長（1） ◎	11層	

表18　B１区包含層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
422	窪み石	完形	砂岩	9.8	10.5	4.8	578.0	11層	40
423	窪み石	完形	砂岩	10.2	10.4	4.45	640.0	11層	40
424	磨製石斧	欠損	緑泥片岩	(8.94)	(7.88)	(4.0)	171.0	11層 柱状片刃	40
425	石斧	欠損	緑泥片岩	(5.94)	(4.31)	(0.9)	42.87	11層 石庖丁転用品	40

表19　B１区出土地点不明遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整		色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
426	甕	口径 (15.3) 残高 5.8	折り曲げ口縁。	ナデ	ナデ（指頭痕）	明褐色 明褐色	石・長(1～2) ◎		
427	甕	口径 (16.2) 残高 4.0	折り曲げ口縁。	口ヨコナデ 胴ナデ(指頭痕)	指ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長（1） ◎	黒斑	
428	甕	底径 (6.4) 残高 4.3	上げ底。	マメツ	マメツ	褐灰色 にぶい橙色	石・長(1～2.5) ウンモ ◎		
429	甕	底径 (6.0) 残高 4.2	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	橙色・灰褐色 灰褐色	石・長（1） ◎		

B１区出土地点不明遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
430	甕	底径 7.0 残高 4.5	上げ底。	ミガキ→ヨコナデ	ナデ	橙色・褐灰色 褐灰色	石・長（1） ◎		
431	甕	口径 (29.6) 残高 6.3	ゆるやかに外反する口縁部。	ハケ	マメツ	浅黄橙色 灰白色	石・長（1～3） 赤色酸化土粒◎		
432	甕	底径 (3.4) 残高 6.8	平底。	ハケ→ミガキ	ナデ	橙色 にぶい橙色	石・長(1～3) ◎		
433	甕	底径 2.2 残高 5.1	小さく突出する底部。	ハケ	ミガキ	橙色・灰白色 灰白色	石（1） ○	黒斑	
434	甕	底径 (2.0) 残高 8.8	平底。	ハケ	ナデ	灰白色 灰白色	長（1） ◎	黒斑	
435	鉢	底径 (3.2) 残高 4.5	小さく突出する上げ底の底部。	マメツ(指頭痕)	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石（1～1.5） △		
436	壺	口径 (21.0) 残高 2.8	口縁端面に格子文。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石（1） △		
437	壺	口径 (29.8) 残高 2.8	下垂口縁。口縁端部に刻み目。口縁端面に山形文。内面に凸帯文。	口端ヨコナデ 口ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1～2) ◎		
438	壺	口径 (22.2) 残高 1.9	下垂口縁。口縁端面に2条の格子文。内面に棒状浮文布目刻み目。	口端マメツ 口ヨコナデ (指頭痕)	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ウンモ ◎		
439	壺	底径 (9.4) 残高 7.1	平底。	底ミガキ(指頭痕) 底面ナデ	マメツ	浅黄橙色・褐灰色 褐灰色	石・長（1） ◎	黒斑	
440	壺	底径 (6.4) 残高 4.3	平底。	マメツ	ナデ	黄橙色 黄橙色	石・長(1～8) ◎	黒斑	
441	壺	底径 (5.8) 残高 5.7	平底。	底マメツ 底面ナデ	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石（1～4） ◎	黒斑	
442	壺	口径 (12.4) 残高 13.0	くの字口縁。口縁端部は丸みをなす。頸部は長い。	口ヨコナデ 胴ハケ→ミガキ	口ヨコナデ 胴ハケ	にぶい橙色 橙色	石・長（1） ◎		
443	壺	口径 (10.4) 残高 7.9	長頸壺の口縁部。	ハケ→ミガキ (9本／cm)	ハケ（6本／cm）	にぶい橙色 にぶい褐色	石・長（1） ◎		
444	壺	底径 (4.0) 残高 3.8	平底。	マメツ	マメツ	橙色 灰白色	石（1～3） 赤色酸化土粒 △		
445	壺	底径 (4.2) 残高 7.7	平底。	ハケ→ミガキ	ナデ	にぶい橙色 にぶい褐色・褐灰色	石（1～3） ◎	黒斑	
446	壺	底径 (3.6) 残高 5.5	つまみ出したような底部。	マメツ	ナデ	灰白色 橙色	石・長（1） 赤色酸化土粒 ◎	黒斑	
447	高坏	残高 5.9	接合部。	マメツ	坏ナデ 脚シボリ痕	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ○		
448	ジョッキ	残高 7.2	把手。	ナデ	－	にぶい黄橙色 －	石・長(1～2) ◎		

表20　B１区出土地点不明遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
449	磨製石斧	欠損	緑泥片岩	(12.0)	(2.1)	(1.07)	67.71	柱状片刃	
450	磨製石斧	欠損	黒色片岩	(5.9)	(3.53)	1.08	40.06	扁平片刃	
451	剝片		サヌカイト	3.6	4.34	0.54	10.46		

表21　B2区第９層出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
452	壺	口径 (37.2) 残高 10.3	口縁端面に格子文。頸部に貼付凸帯押圧文。	口上ヨコナデ 口下ハケ後ナデ・ヨコナデ(10本/cm)	ミガキ	浅黄橙色 明黄褐色	石・長(1～3) ◎		41
453	壺	口径 (26.8) 残高 6.9	口縁端面に格子文。頸部に貼付凸帯押圧文。	ヨコナデ	ミガキ	淡橙色 淡橙色	石・長(1～3) ◎		41
454	壺	残高 6.9	頸部片。頸部に貼付凸帯押圧文。	ナデ	ミガキ→ナデ (指頭痕)	明赤褐色 黄橙色	石・長(1～2) ◎		
455	壺	口径 (19.0) 残高 4.8	口縁端面に山形文。頸部に貼付凸帯布目押圧文。	ヨコナデ	ミガキ	淡橙色 にぶい橙色	石（1） 赤色酸化土粒 ○		
456	壺	残高 7.5	頸部片。頸部に貼付凸帯工具による押圧文。	頸上ヨコナデ 頸下ハケ→ミガキ	ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1～2) ◎		41
457	壺	口径 (19.8) 残高 3.5	口縁端面に格子文。	マメツ	マメツ	黄褐色 にぶい橙色	石・長(1～3) ○		41
458	壺	口径 (15.4) 残高 2.9	口縁端面に山形文。	マメツ	マメツ	黄橙色 黄橙色	石・長(1～3) ウンモ ○		

B2区第9層出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
459	壺	口径 (19.4) 残高 (2.1)	口縁端面に山形文。下垂口縁。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～3) ◎		
460	壺	口径 (24.8) 残高 3.6	口縁端面に山形文。	ナデ（指頭痕）	ナデ	橙色 淡橙色	石（1） ◎		
461	壺	口径 (28.0) 残高 3.0	口縁端面に山形文。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡橙色 橙色	石（1） ◎		
462	壺	口径 (24.0) 残高 (6.1)	口縁端面に山形文。	ヨコナデ	マメツ	淡黄色 淡黄色	石・長(1～3) ウンモ ◎		41
463	壺	口径 (32.8) 残高 2.1	口縁端部に刻目。口縁端面に山形文。	ナデ	ハケ	にぶい橙色 橙色	石・長(1～3) ◎		41
464	壺	口径 (20.0) 残高 4.9	大きく外反する口縁部。	ミガキ	マメツ	橙色 浅黄橙色	石・長（1） 赤色酸化土粒 ◎		
465	壺	口径 (15.6) 残高 4.4	口縁は下方に肥厚する。	マメツ	マメツ	明赤褐色 にぶい橙色	石・長（1） ○		
466	壺	口径 (19.4) 残高 2.8	外反する口縁部。	(口端)マメツ (口)ミガキ	ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	石（1～3.5） ウンモ ◎		
467	壺	口径 (17.9) 残高 2.4	外反する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎		
468	壺	口径 (23.2) 残高 2.6	外反する口縁部。	マメツ（指頭痕）	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3) ◎		
469	壺	口径 (22.0) 残高 4.4	口縁端部に刻目。口縁部上面に円形浮文2個1組確認できる。	(口端)ヨコナデ (口)ナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～3) ◎		41
470	壺	口径 (22.4) 残高 4.4	大きく外反する口縁部。	(口上)ナデ (口下)ハケ	ナデ	にぶい橙色 橙色	石・長（1） ◎		
471	壺	口径 (18.8) 残高 2.8	ゆるやかに外反する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長(1～3) ◎		
472	壺	口径 (23.0) 残高 7.4	口縁端面は、上方にわずかに拡張し、頸部に貼付凸帯。	(口上)ヨコナデ (口)ハケ(8本/cm) (頸)ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 橙色	石・長(1～2) ◎	黒斑	41
473	壺	口径 (15.9) 残高 5.2	ゆるやかに外反する口縁。頸部に貼付凸帯。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長(1～2) ◎		
474	壺	口径 (23.1) 残高 9.4	ゆるやかに外反する口縁。頸部に貼付凸帯3条以上。	ハケ→ナデ	マメツ	にぶい橙色 灰褐色	石・長(1～3) ◎		41
475	壺	残高 9.8	口縁部。頸部に貼付凸帯。	ナデ	(口端)ナデ (口)ミガキ (胴)ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長（1） ◎		41
476	壺	残高 11.0	頸部片。頸部に貼付凸帯2条。	マメツ	(口)ミガキ (胴)マメツ	にぶい橙色 橙色・褐灰色	石・長(1～4) ◎		41
477	壺	残高 4.9	頸部片。頸部に貼付凸帯。	ナデ	ミガキ	灰白色 にぶい橙色	石・長(1～3) ◎		
478	壺	口径 (16.2) 残高 5.1	頸部に貼付凸帯。	マメツ	(口)マメツ (胴)ミガキ	橙色 橙色	石・長(1～4) △		
479	壺	口径 6.5 器高 18.8 底径 6.4	口縁端面に3条の凹線文。肩部に「ノ」の字状列点文。	(口)ヨコナデ (胴上)ナデ (胴下)ミガキ (底)ナデ	(口)ヨコナデ (頸)シボリ痕 (胴)ハケ（指頭痕）	にぶい黄橙色・灰白色 灰白色	長（1） ◎	黒斑	41
480	壺	底径 7.0 残高 13.6	わずかな上げ底の底部。	(胴)ヘラミガキ (底)ナデ	ナデ（指頭痕）	明黄褐色 明黄褐色・黒褐色	石・長（2） ◎	黒斑	
481	壺	底径 (9.4) 残高 4.2	平底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎		
482	壺	底径 (7.4) 残高 4.1	平底。	ナデ	ナデ	浅黄色 黒色	石（1～3） ◎		
483	壺	底径 (7.4) 残高 6.5	わずかな上げ底の底部。底面に籾圧痕？	ミガキ	ヨコナデ	淡黄色 淡黄色	石・長（1） ◎	黒斑	
484	壺	底径 (7.4) 残高 6.0	わずかな上げ底。	ミガキ	ナデ	橙色・褐灰色 にぶい橙色	石（1） ウンモ・赤色酸化土粒 ○		
485	壺	底径 (7.8) 残高 5.7	平底。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1～3) 砂粒 △		
486	壺	底径 (10.2) 残高 4.7	上げ底。	ヨコナデ （指頭痕）	ヨコナデ	黒褐色 にぶい黄橙色	石（1） ○		
487	壺	底径 (9.6) 残高 5.2	平底。	マメツ	マメツ（指頭痕）	にぶい褐色 浅黄橙色	石・長(1～2) ○		
488	壺	底径 (8.0) 残高 4.8	平底。	マメツ	マメツ	淡橙色 灰白色	石（1～3） ○	黒斑	
489	壺	底径 (6.4) 残高 4.2	平底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 淡橙色	石・長(1～2) ◎		
490	壺	底径 (7.6) 残高 3.7	わずかな上げ底。	マメツ	マメツ	明赤褐色 明赤褐色	石（1～2） ウンモ ○		

Ｂ2区第９層出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
491	壺	底径 (9.4) 残高 6.8	わずかな上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 橙色	石・長(1〜4) ウンモ ◎		
492	壺	底径 (8.0) 残高 6.5	わずかな上げ底。	ナデ	ナデ	褐色 灰褐色	石（1〜2.5) ◎		
493	壺	底径 (9.6) 残高 9.5	平底。	ミガキ	ミガキ	灰白色 暗灰色	石・長（1) ◎	黒斑	
494	壺	底径 (6.6) 残高 5.2	わずかな上げ底。	マメツ	ナデ	黒褐色 にぶい褐色	石・長（1) ◎		
495	壺	底径 (12.7) 残高 7.2	平底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 橙色	石・長(1〜5) ◎		
496	壺	底径 (8.0) 残高 5.2	平底。	マメツ	マメツ	灰白色 明黄褐色	石・長(1〜3) ◎		
497	壺	底径 (10.2) 残高 4.7	平底。	(底)ミガキ (底面)ナデ	マメツ	灰褐色 暗灰色	石・長(1〜3) ◎		
498	壺	底径 (9.6) 残高 6.5	平底。	(底)ミガキ (底面)ナデ	ミガキ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1〜2) ◎	黒斑	
499	壺	底径 (7.6) 残高 7.2	わずかな上げ底。	マメツ	マメツ	明褐灰色 灰白色	石・長(1〜4) ◎		
500	壺	底径 (13.8) 残高 6.7	平底。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 にぶい橙色	石・長(1〜2) 赤色酸化土粒 △		
501	壺	底径 (8.0) 残高 5.2	平底。	ナデ	ナデ （指頭痕）	橙色・黒褐色 橙色	石・長(1〜2) ウンモ・赤色酸化土粒 ◎		
502	壺	底径 (11.0) 残高 4.4	平底。	マメツ	マメツ	橙色 にぶい橙色・黒褐色	石・長(1〜5) ◎		
503	壺	底径 (8.0) 残高 4.7	平底。	ナデ	ナデ	橙色・灰褐色 灰褐色	石・長(1〜3) ◎		
504	壺	底径 (5.8) 残高 6.3	わずかな上げ底。	マメツ	マメツ	浅黄色 浅黄色	石・長(1〜2.5) ○		
505	壺	底径 (6.8) 残高 3.5	わずかな上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい黄褐色 褐灰色	石（1〜4) ○		
506	縄文深鉢	残高 5.5	口縁部片。口縁端面に刻み目。外面に平行斜線文。	ナデ	ナデ	淡橙色 灰白色	石・長(1〜2) ウンモ ◎		42
507	甕	残高 5.8	口縁部片。頸部に2条の沈線文。口縁端面に刻み目。	ナデ（指頭痕）	マメツ	にぶい橙色 浅黄橙色	石・長(1〜2) ウンモ ◎		42
508	甕	口径 (24.5) 残高 7.2	折り曲げの口縁部。	ナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 褐灰色	石・長（1) ◎		42
509	甕	口径 (15.5) 残高 6.6	折り曲げ口縁。	(口)ナデ (胴)ミガキ	(口)ナデ (胴)ミガキ	にぶい褐色 明赤褐色	石・長(1〜3) ◎		42
510	甕	口径 (26.0) 残高 8.8	折り曲げ口縁。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ→ミガキ	(口)ヨコナデ (胴)ハケ→ミガキ	淡橙色 橙色	石（1) ウンモ ◎	黒斑	
511	甕	口径 (15.4) 残高 7.8	折り曲げ口縁。	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	にぶい褐色 褐灰色	石（3) ◎	黒斑	42
512	甕	口径 (26.6) 残高 4.4	折り曲げ口縁。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ→ナデ	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	浅黄橙色 灰白色	石・長(1〜3) ウンモ ◎		
513	甕	口径 (16.8) 残高 4.1	折り曲げ口縁。	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長（1) ◎		
514	甕	口径 (24.6) 残高 6.0	折り曲げ口縁。	マメツ	マメツ	明褐灰色 明褐灰色	石（1) 赤色酸化土粒 ○		
515	甕	口径 (17.6) 残高 3.3	折り曲げ口縁。	ハケ→ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石（1) ◎		
516	甕	口径 (26.3) 残高 8.5	折り曲げ口縁。	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	ヨコナデ	にぶい赤褐色 褐灰色	石・長(1〜2) ◎		
517	甕	口径 (30.5) 残高 4.5	折り曲げ口縁。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1〜5) ◎		
518	甕	口径 (25.2) 残高 4.0	折り曲げ口縁。口縁端面は丸みをもつ。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1〜5) ウンモ ○		
519	甕	口径 (16.8) 残高 4.0	折り曲げの口縁部。頸部内面にゆるやかな稜。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 黄橙色・褐灰色	石・長（1) △		
520	甕	口径 (21.4) 残高 5.1	折り曲げ口縁。端面は丸みをもつ。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ→ミガキ	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	にぶい褐色 橙色	石・長（1) ◎		
521	甕	口径 (16.8) 残高 4.0	折り曲げ口縁。	ナデ	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	灰黄褐色 橙色	石・長（1) ◎		42
522	甕	口径 (19.0) 残高 8.3	折り曲げ口縁。	ナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 橙色	長（1) ◎	黒斑	

B2区第9層出土遺物観察表　土製品

(4)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
523	甕	口径 (19.0) 残高 7.3	折り曲げ口縁。上方に湾曲ぎみ。端面に丸みをもつ。	マメツ	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	灰白色 浅黄橙色	石・長(1～2.5) ○		42
524	甕	口径 (19.0) 残高 7.0	折り曲げ口縁。頸部内面にゆるやかな稜をもつ。	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	灰褐色 にぶい橙色	長 (1) ウンモ ◎		
525	甕	口径 (26.0) 残高 6.6	折り曲げ口縁。上方に内湾ぎみ。	㊀ヨコナデ ㊁ハケ	㊀ヨコナデ ㊁ハケ→ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ウンモ ◎		
526	甕	口径 (31.7) 残高 4.0	折り曲げ口縁。内湾ぎみに開く。	ナデ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	褐灰色 にぶい褐色	石・長 (1) ◎		
527	甕	口径 (27.6) 残高 6.5	折り曲げ口縁。	㊀ヨコナデ ㊁マメツ	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	橙色 橙色	石・長(1～2) ○		
528	甕	口径 (32.0) 残高 6.5	口縁端面に刻み目。頸部に貼付凸帯押圧文。	マメツ	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	橙色 橙色	石・長(1～2) ウンモ ◎		42
529	甕	口径 (27.6) 残高 2.3	口縁端面に刻み目。	ヨコナデ	マメツ	にぶい橙色 淡黄色	石 (1～2) ◎		42
530	甕	口径 (26.8) 残高 2.3	口縁端面に刻み目。頸部に貼付凸帯。	マメツ	㊀ヨコナデ ㊁ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1) ウンモ ◎		42
531	甕	口径 (26.0) 残高 4.4	折り曲げ口縁。頸部下に貼付凸帯押圧文。	マメツ	㊀マメツ ㊁ミガキ	明褐色 灰褐色	石・長(1～2) △		42
532	甕	口径 (27.2) 残高 3.0	頸部下に貼付凸帯押圧文。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石 (1～5) ◎		42
533	甕	口径 (25.0) 残高 3.1	頸部下に貼付凸帯。工具による押圧文。	ヨコナデ	㊀ヨコナデ ㊁マメツ	淡橙色 淡橙色	石・長 (1) ◎		42
534	甕	口径 (28.8) 残高 6.3	頸部下に貼付凸帯押圧文。	ナデ	㊀ナデ ㊁ミガキ	浅黄橙色 明褐色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ◎		42
535	甕	残高 3.5	口縁部片。頸部に貼付凸帯布目押圧文。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1～3) ◎		
536	甕	残高 3.3	口縁部片。頸部に貼付凸帯押圧文。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡橙色 にぶい橙色・褐灰色	石・長(1～2) ウンモ ◎		
537	甕	口径 (26.2) 残高 3.2	頸部下に貼付凸帯文。	ヨコナデ	マメツ	橙色 橙色	石・長 (1) ○		
538	甕	底径 (5.4) 残高 2.9	上げ底。	マメツ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) ウンモ ○		
539	甕	底径 5.4 残高 2.9	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 黒褐色	石・長(1～3) ◎	黒斑	
540	甕	底径 (5.4) 残高 2.6	上げ底。	ナデ	ナデ	灰白色・灰褐色 黒褐色	石・長 (1) ◎		
541	甕	底径 (5.2) 残高 3.2	上げ底。	マメツ	マメツ	浅黄橙色・黒褐色 黄橙色	石・長(1～2) ○		
542	甕	底径 (6.4) 残高 3.9	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 灰褐色	石 (1) ◎		
543	甕	底径 (5.6) 残高 3.3	上げ底。	㊀マメツ ㊁ナデ	マメツ	橙色 褐灰色	石・長(1～4) ◎		
544	甕	底径 (6.2) 残高 3.5	上げ底。	マメツ	マメツ	橙色・黒褐色 灰褐色	石・長(1～2) ◎		
545	甕	底径 (6.8) 残高 3.2	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	灰白色・灰褐色 浅黄橙色	石・長 (1) ◎		
546	甕	底径 (5.8) 残高 3.9	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色・褐灰色 暗灰色	石・長 (1) ◎		
547	甕	底径 7.4 残高 4.0	上げ底。	㊀ヨコナデ ㊁ナデ	ナデ	明褐灰色 にぶい褐色	石・長(1～5) ◎		
548	甕	底径 (6.8) 残高 3.7	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	褐灰色 にぶい褐色	石 (1～3) ◎		
549	甕	底径 (5.8) 残高 4.1	上げ底。	㊀ミガキ(指頭痕) ㊁ナデ	マメツ	橙色 灰褐色	石・長 (1) ◎		
550	甕	底径 (5.8) 残高 4.7	厚みのある上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 浅黄橙色	石・長(1～2.5) 赤色酸化土粒 ウンモ ◎		
551	甕	底径 7.0 残高 4.0	上げ底。	マメツ(指頭痕)	マメツ	橙色 褐灰色	石・長(1～2) ◎		
552	甕	底径 7.8 残高 4.5	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ（指頭痕）	にぶい橙色・褐灰色 にぶい橙色	石・長(1～5) 赤色酸化土粒 ◎		
553	甕	底径 (5.8) 残高 3.9	上げ底。	ミガキ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1) ◎		
554	甕	底径 (6.2) 残高 4.8	底部に焼成後穿孔。	マメツ	マメツ	橙色・黒褐色 褐灰色	石 (4) ◎		

B2区第9層出土遺物観察表　土製品

(5)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
555	甕	底径 (6.6) 残高 4.4	上げ底。	底ミガキ 底面ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎		
556	甕	底径 (7.8) 残高 4.7	上げ底。	マメツ	マメツ	明赤褐色 橙色	石・長（1） ○		
557	甕	底径 6.5 残高 4.7	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色・黒褐色 黒褐色	石・長(1～3) ◎	黒斑	
558	甕	底径 (6.7) 残高 5.7	上げ底。	マメツ	ナデ	淡橙色・暗灰色 浅黄橙色	石・長(1～2) 赤色酸化土粒 ◎		
559	甕	底径 (6.8) 残高 5.0	上げ底。	ナデ	ナデ	橙色・黒褐色 黄橙色	石・長(1～2) ◎		
560	甕	底径 (5.6) 残高 5.8	上げ底。	底ミガキ 底面ナデ	ナデ	橙色 黒褐色	石・長(1～3) ◎		
561	甕	底径 5.5 残高 6.9	上げ底。	ハケ→ナデ （指頭痕）	ミガキ→ナデ （指頭痕）	にぶい黄橙色 黒褐色	石・長（1） ◎	黒斑	
562	甕	底径 7.0 残高 10.4	上げ底。	底マメツ 底面ナデ	ナデ（指頭痕）	橙色 明褐灰色	石・長（1） ◎		
563	甕	底径 6.3 残高 7.8	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ（指頭痕）	浅黄橙色・黒褐色 灰褐色	石・長(1～5) ◎		
564	甕	底径 (6.6) 残高 6.9	上げ底。	底ミガキ 底面ナデ	ナデ	にぶい橙色・灰褐色 黒褐色	石・長(1～3) ◎		
565	甕	底径 7.2 残高 5.9	上げ底。	ナデ	ナデ	明褐灰色 浅黄橙色	石・長(1～2) ◎	黒斑	
566	甕	底径 (6.4) 残高 4.4	上げ底。	マメツ	マメツ	橙色 褐灰色	石・長（1） ○		
567	甕	底径 (4.2) 残高 6.7	わずかな上げ底。	ナデ	ナデ	灰白色 浅黄橙色	石・長（1） ◎		
568	甕	底径 (5.0) 残高 4.5	わずかな上げ底。	マメツ	マメツ	橙色 黒褐色	石（1） ◎		
569	甕	底径 (5.6) 残高 3.0	わずかな上げ底。	底ミガキ 底面ナデ	ナデ	灰白色・黒褐色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎	黒斑	
570	高坏	口径 (17.0) 残高 3.5	口縁端部内方に肥厚。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 灰白色	石・長(1～3) ◎		43
571	高坏	口径 (18.0) 残高 3.5	口縁端部内方に肥厚。	ナデ	マメツ	にぶい褐色 明褐灰色	石・長（1） ◎		43
572	高坏	残高 3.2	坏部片。端部に刻み目。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	砂粒 ウンモ ◎		43
573	高坏	残高 13.1	脚部片。2方向から中心への穿孔。（φ0.8cm）	ミガキ	ナデ（指頭痕） シボリ痕	にぶい橙色 淡橙色・灰白色	石（1～1.5） 赤色酸化土粒 ◎		43
574	高坏	残高 11.5	接合部。一定方向に向けての穿孔。（φ1.0cm）	坏ミガキ 脚マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～4) ◎		43
575	高坏	底径 (19.0) 残高 9.1	脚部。裾部拡張。	ハケ→ミガキ	マメツ	にぶい褐色 橙色	石（1） ◎		
576	高坏	残高 9.1	脚部片。	ナデ	ナデ シボリ痕	橙色 黄橙色	石・長(1～3) ◎		
577	高坏	底径 (12.2) 残高 7.0	裾部。	マメツ	ナデ（指頭痕）	黒褐色 黒褐色	石・長（1） ◎		
578	高坏	底径 (14.8) 残高 13.0	三角透かし6方向。	ミガキ	坏ミガキ 脚ナデ	灰褐色 にぶい褐色	石・長(1～1.5) ウンモ ◎		43
579	高坏	残高 3.8	接合部。	ナデ	ナデ	灰褐色 橙色	石・長(1～3) ◎		
580	高坏	底径 (15.4) 残高 4.6	三角透かし2方向以上。	ミガキ	マメツ（指頭痕）	浅黄橙色・黒色 浅黄橙色・黒色	石・長（1） ◎		
581	鉢	底径 4.9 残高 5.2	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ（指頭痕）	橙色 黄橙色	石・長(1～2) 赤色酸化土粒 ◎		43
582	鉢	底径 1.8 残高 5.0	突出する底部。ひずんでいる。	マメツ	マメツ（指頭痕）	にぶい赤橙色・灰白色 明褐灰色	石・長(1～4.5) △	黒斑	43
583	不明	底径 (6.5) 残高 6.0	台部上端に2方向の円孔。	ハケ→ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい黄橙色 黒褐色	石・長(1～2) ◎		43
584	ジョッキ	底径 (8.6) 残高 4.3	直立する底部。	マメツ	マメツ	橙色 暗灰色	石・長(1～3.5) ○		43
585	紡錘車	直径 (4.6) 円孔径 0.6	焼成前穿孔。	マメツ	－	明赤褐色 －	石・長（1） ◎		44
586	勾玉	頭部幅 1.6 尾端部幅0.9 長さ 3.7 最大厚 1.6	背部に刻み目。	ナデ	－	にぶい橙色 －	密 ◎		44

表22　B2区第9層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
587	磨製石斧	欠損	凝灰岩	(7.8)	(7.22)	(4.4)	303.64	伐採斧	44
588	磨製石斧	欠損	凝灰岩	(8.2)	(5.76)	(1.97)	137	伐採斧	44
589	磨製石斧	一部欠損	緑泥片岩	(12.0)	5.57	(2.0)	193.02	扁平片刃	44
590	磨製石斧	一部欠損	緑泥片岩	9.4	1.48	1.0	32.05	柱状片刃	44
591	磨製石斧	欠損	緑泥片岩	(9.98)	(2.1)	2.57	85.85	柱状片刃	
592	石庖丁	欠損	緑泥片岩	(3.05)	(2.21)	(0.52)	5.83		44
593	石庖丁未製品		緑泥片岩	11.06	4.1	1.9	137.57		44
594	打製石鏃	完形	赤色チャート	2.67	1.7	0.32	1.63		44
595	台石	欠損	凝灰岩	(15.68)	(8.02)	(9.4)	1450		
596	台石	完形	砂岩	13.53	10.85	3.7	861		44
597	窪み石	完形	砂岩	9.5	10.45	4.3	835		44

表23　B2区 SX 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整		色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
598	壺	口径 (17.0) 残高 8.0	「く」の字口縁。頸部に貼付凸帯。	マメツ	マメツ	橙色 浅黄橙色	石・長(1～2) △	SX1	
599	甕	底径 8.4 残高 4.4	上げ底。	㊡ヨコナデ ㊡ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長（1） ◎	SX1	
600	甕	底径 7.2 残高 3.9	上げ底。	㊡ヨコナデ ㊡ナデ	ナデ（指頭痕）	灰褐色 灰褐色	石・長（1） ◎	SX2	
601	甕	底径 (3.0) 残高 1.7	平底。	マメツ	ナデ（指頭痕）	明黄褐色 暗灰色	石・長（1） ○	SX2 黒斑	
602	甕	口径 (22.0) 残高 9.8	短く外反する口縁部。	ミガキ	ミガキ（指頭痕）	にぶい橙色 黒色	石・長（1） ◎	SX3	
603	甕	口径 (26.4) 残高 5.6	内湾する口縁部。頸部内面に稜をもつ。	㊡ヨコナデ ㊡ミガキ	㊡ヨコナデ ㊡ミガキ	灰黄褐色 明褐色	石・長(1～1.5) ◎	SX3	
604	壺	底径 (11.6) 残高 8.2	平底。	ミガキ	マメツ	明褐色 灰白色	石・長(1～3) ○	SX3 黒斑	
605	壺	口径 (17.8) 残高 4.4	口縁端面はわずかに拡張する。	マメツ	マメツ	橙色 淡橙色	石（1） ウンモ ○	SX3	
606	甕	底径 (4.4) 残高 2.9	つまみ出しの底部。	ナデ（指頭痕）	ナデ（指頭痕）	にぶい褐色 黒褐色	石（1） ○	SX3	

表24　B2区 SX3出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
607	磨製石斧	欠損	緑泥片岩	(11.3)	3.8	1.9	181	扁平片刃	

表25　B2区出土地点不明遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整		色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
608	甕	口径 (28.2) 残高 7.6	折り曲げ口縁。頸部に貼付凸帯布目押圧文。	マメツ	マメツ	明赤褐色 橙色	石・長(1～3) ○		
609	甕	口径 (28.6) 残高 5.8	折り曲げ口縁。頸部に貼付凸帯押圧文。	ナデ	マメツ	にぶい橙色 浅黄橙色	石・長(1～2) ○		
610	甕	口径 (19.6) 残高 4.9	口縁端面に刻み目。頸部に貼付凸帯押圧文。	ヨコナデ	㊡ヨコナデ ㊡ミガキ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1） ◎		
611	甕	口径 (20.2) 残高 5.6	折り曲げ口縁。	㊡ヨコナデ ㊡ハケ	ミガキ	赤褐色 赤褐色	石・長（1） ◎		
612	甕	口径 (15.1) 残高 3.6	折り曲げ口縁。	㊡ヨコナデ ㊡ナデ	㊡ヨコナデ ㊡ナデ	橙色 橙色	石（1）ウンモ ◎		
613	甕	口径 (17.7) 残高 5.5	口縁下部拡張。	㊡ハケ→ヨコナデ ㊡ハケ	ハケ→ナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	長（1） ◎		
614	甕	底径 (6.7) 残高 4.2	上げ底の底部。	㊡ミガキ ㊡ナデ	ナデ	褐灰色・にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長（1） ◎		
615	壺	口径 (25.4) 残高 4.4	口縁端面に格子文。	ヨコナデ	ミガキ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	砂粒 ◎		
616	壺	口径 (17.8) 残高 9.9	口縁端面に山形文。頸部に貼付凸帯押圧文。	マメツ	ミガキ	明褐色 明褐色	石・長(1～2.5) ◎		
617	壺	残高 8.2	頸部片。頸部に貼付凸帯文3条。	ナデ	ミガキ（指頭痕）	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3) ウンモ ◎		
618	壺	残高 7.2	大きく外反する口縁部。頸部に凸帯文2条以上。	マメツ	マメツ（ハケ）	橙色 橙色	石・長(1～3) ○		

B2区出土地点不明遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
619	壺	底径 (9.4) 残高 4.5	平底。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 橙色	石・長(1～3.5) ◎		
620	壺	底径 (6.0) 残高 5.2	平底。	(底面)ケズリ (底)ナデ	工具によるナデ （指頭痕）	にぶい橙色 橙色	石・長（1） ◎	黒斑	
621	壺	底径 (7.4) 残高 4.8	平底。	(底面)ナデ (底)ミガキ	ナデ	にぶい橙色 褐色	石・長（2） ウンモ	黒斑	
622	壺	底径 (7.2) 残高 3.3	平底。	マメツ	マメツ	灰黄橙色 灰白色	石・長(1～4) ◎		
623	壺	底径 (7.4) 残高 4.1	平底。	ナデ	マメツ	浅黄橙色 褐灰色	長（1） ◎	黒斑	
624	壺	底径 (8.6) 残高 3.0	平底。	ナデ	ナデ（指頭痕）	にぶい黄橙色 にぶい橙色	石（1） ◎		
625	壺	底径 (6.6) 残高 3.6	やや上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	石（1～3） ◎	黒斑	
626	壺	口径 (12.3) 残高 4.0	「く」の字口縁。	マメツ	マメツ	褐灰色 黄橙色	石・長(1～2) ○		
627	壺	口径 (13.0) 残高 4.3	複合口縁。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	長（1）ウンモ ◎		
628	壺	底径 (5.0) 残高 5.5	やや上げ底。	マメツ	マメツ	淡橙色 黄橙色	石・長（1） △		
629	壺	底径 (8.8) 残高 6.4	平底。	ナデ	ナデ	淡橙色 淡橙色	石・長(1～3) ◎	黒斑	
630	壺	底径 (9.3) 残高 8.6	平底。	マメツ	ナデ	明褐色 明黄褐色	石・長(1～3) ○		
631	壺	底径 (3.2) 残高 3.3	やや上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 灰白色	石・長(1～2.5) 赤色酸化土粒 △		
632	壺	底径 6.3 残高 10.4	平底。	(底面)ナデ (胴)ミガキ→ナデ （指頭痕）	ナデ	にぶい褐色 褐灰色	石・長(1～5) 赤色酸化土粒 ◎		
633	高坏	底径 (10.4) 残高 8.9	脚部。広がる裾部。	(坏上)ナデ (脚)ミガキ	マメツ	浅黄橙色・黒褐色 にぶい橙色	石・長(1～4) ○		
634	高坏	残高 8.6	脚部。	ミガキ	ナデ(シボリ痕)	にぶい黄橙色・褐灰色 褐灰色	石・長（1） ◎		
635	高坏	残高 8.3	脚部。三角透かし4方向。	(坏上)ナデ (脚)ミガキ	ナデ(シボリ痕)	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～3) ◎	黒斑	
636	高坏	残高 7.5	脚部。円孔。	ハケ→ナデ	ナデ(シボリ痕)	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石（1） ◎		
637	ジョッキ	底径 (27.4) 残高 6.5	底部周縁に鍔状のタガ。	(胴)ヨコナデ (底上)ハケ(8本/cm) (底)マメツ	(底面)ヨコナデ (底)ハケ(8本/cm)	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ウンモ ○	黒斑	

表26　B2区出土地点不明遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
638	石斧	未製品	緑泥片岩	11.42	5.28	1.44	189.85	扁平片刃	
639	石庖丁	欠損	緑泥片岩	(7.1)	(3.07)	(0.78)	25.16	未製品	
640	スクレイパー		サヌカイト	3.53	4.65	0.39	8.42		

表27　C調査区出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
641	壺	口径 (21.9) 残高 9.0	大きく外反する口縁部。口縁端面に斜線文。口縁端部に刻目。頸部に貼付凸帯押圧文。	(口端)ヨコナデ (頸)マメツ	ミガキ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～3) ◎		45
642	壺	口径 (13.7) 残高 4.6	大きく外反する口縁部。頸部に貼付凸帯布目押圧文。	(口端)ヨコナデ (頸)ナデ	(口端)ヨコナデ (頸)工具によるナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1)ウンモ 赤色酸化土粒 ◎		
643	壺	口径 (29.2) 残高 6.7	大きく外反する下垂口縁。口縁端部に刻目。口縁内面に渦巻状の凸帯文。	(口)ナデ (頸)ハケ→ナデ	マメツ	灰白色 にぶい黄橙色	石・長(1～5) ○		45
644	壺	口径 (32.0) 残高 3.3	大きく外反する口縁端面に格子文。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎		
645	壺	口径 (25.8) 残高 2.8	大きく外反する口縁部。	(口端)ナデ	マメツ	灰白色 灰白色	石（1～3） ◎		
646	壺	口径 (22.8) 残高 2.4	大きく外反する口縁部。	マメツ	ナデ	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ◎		
647	壺	口径 (23.0) 残高 2.5	大きく外反する口縁部。内面に円形浮文。	(口端)ヨコナデ (口)工具によるナデ	工具によるナデ	にぶい橙色 灰白色・黒褐色	石・長（1） ◎		
648	壺	残高 2.1	下垂口縁部片。口縁端面に格子文。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 灰白色	石・長(1～2) ウンモ ◎		45

C 調査区出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
649	壺	残高 2.6	下垂口縁部片。口縁端面に山形文。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1～3) ◎		
650	壺	残高 2.4	下垂口縁部片。口縁端面に三条の直線文。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1) ウンモ ◎		45
651	壺	残高 8.9	頸部片。凸帯6条以上+縦方向の棒状浮文2条1組(布目)。	ヨコナデ	マメツ	灰白色・橙色 灰褐色	石 (2) ◎		45
652	壺	口径 (16.2) 残高 5.0	短く外反する口縁部。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石 (1～2) ○		
653	壺	口径 (13.0) 残高 14.5	短く外反する口縁部。	口端ヨコナデ 口ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	長 (1) ○		
654	壺	底径 (6.4) 残高 3.6	上げ底。	マメツ	マメツ	褐灰色 暗灰色	石・長(1～2) 赤色酸化土粒 ◎		
655	壺	底径 (5.4) 残高 2.7	平底。	ナデ	工具によるナデ	灰白色 褐灰色	長 (1) ◎		
656	壺	底径 (7.2) 残高 4.0	平底。	ナデ	マメツ	橙色 褐灰色	石・長(1～2) ◎	黒斑	
657	壺	底径 (8.3) 残高 3.6	平底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	灰白色 褐灰色	石・長 (1) ◎	黒斑	
658	壺	底径 (5.4) 残高 3.8	やや上げ底。	底面ナデ 底マメツ	ミガキ	橙色 明褐色	石・長(1～2) ◎		
659	壺	底径 (8.7) 残高 4.4	平底。	ナデ	ミガキ	黒褐色・にぶい褐色 にぶい橙色	石・長(1～4) ◎		
660	壺	底径 (7.2) 残高 5.0	丸みのある平底。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 黒褐色	石 (1～3) ◎	黒斑	
661	壺	底径 (8.7) 残高 4.3	わずかに上げ底。	マメツ	ナデ	黄橙色 にぶい橙色	石 (1～2) ◎	黒斑	
662	壺	底径 (7.0) 残高 5.0	平底。	底面ナデ 底指ナデ	マメツ	にぶい褐色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ウンモ ◎	黒斑	
663	壺	底径 (8.2) 残高 3.6	平底。	ナデ	マメツ	にぶい褐色 橙色	石 (1～2) ◎		
664	壺	底径 (15.2) 残高 5.0	平底。	ナデ	マメツ	灰白色 黄橙色	石 (1～2) ◎	黒斑	
665	壺	底径 (9.6) 残高 10.1	やや上げ底。	マメツ	マメツ	赤橙色 黄橙色	石・長(1～2) △		
666	壺	底径 (8.2) 残高 12.0	上げ底。	底面ナデ 胴ミガキ	ミガキ	にぶい橙色 黒褐色	石・長(1～2) ◎	黒斑	
667	壺	底径 (6.4) 残高 3.6	平底。	マメツ	ナデ（指頭痕）	明褐色・黒褐色 灰白色	石・長(1～3) ◎		
668	壺	底径 (6.6) 残高 2.8	平底。	マメツ	マメツ	褐灰色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ○		
669	壺	底径 (4.8) 残高 3.1	平底。	マメツ	ナデ（指頭痕）	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～2) ○		
670	壺	底径 (17.2) 残高 7.3	厚みのある上げ底。	ミガキ	ミガキ	赤褐色 黄橙色	長 (1) ◎		
671	甕	口径 (30.0) 残高 2.7	折り曲げ口縁。	ナデ（指頭痕）	口端ナデ 口ミガキ	浅黄橙色・褐灰色 浅黄橙色	石 (1) ◎		
672	甕	口径 (21.8) 残高 4.1	折り曲げ口縁。	口ヨコナデ 胴ハケ→ナデ	ヨコナデ	灰黄褐色 明黄褐色	石 (1) ○		
673	鉢	口径 (14.8) 残高 4.8	折り曲げ口縁。	ナデ	口端ヨコナデ 胴ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石 (1) ◎		
674	甕	底径 (6.1) 残高 7.7	くびれをもつ上げ底。	ナデ	ナデ	明赤褐色・黒褐色 にぶい褐色	石・長(1～2) ◎		
675	甕	底径 (5.8) 残高 4.5	上げ底。	ミガキ	マメツ	淡橙色・褐灰色 褐灰色	石 (1～3) ◎		
676	甕	底径 (5.6) 残高 3.2	上げ底。	マメツ	マメツ	橙色 灰白色	石・長(1～3) ○		
677	甕	底径 (4.8) 残高 3.8	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ナデ	灰色 暗灰色	石 (2) ◎		
678	甕	底径 (6.0) 残高 3.3	上げ底。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1～2) ウンモ ◎		
679	甕	底径 6.4 残高 3.2	上げ底。	ナデ（指頭痕）	ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長 (1) ◎		
680	甕	底径 (6.0) 残高 3.2	やや上げ底。	ミガキ	ナデ	明赤褐色・灰褐色 灰褐色	石・長(1～2) ◎		
681	甕	底径 (6.8) 残高 2.8	くびれを持つ平底。	マメツ	ナデ	浅黄橙色 褐灰色	石・長(1～3) ウンモ ◎		
682	甕	底径 (6.0) 残高 4.9	やや上げ底。	ナデ	マメツ	赤橙色・褐灰色 褐灰色	石・長 (1) ◎		

C調査区出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
683	甕	底径 (5.8) 残高 3.4	やや上げ底。	(底面)ナデ (底)ミガキ	マメツ	浅黄橙色 褐灰色	石（1） ○	黒斑	
684	甕	底径 (6.4) 残高 2.1	平底。	(底面)ナデ (底)ミガキ	マメツ	浅黄橙色 黄橙色	石（1～2） ◎	黒斑	
685	甕	底径 (6.6) 残高 5.2	平底。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1～4) ◎	黒斑	
686	高坏	口径 (21.6) 残高 3.5	鋤先状の口縁。	ハケ	ハケ→ナデ（指頭痕）	灰白色 にぶい黄橙色	石・長（1） ○		
687	高坏	残高 2.3	坏部片。口縁端部刻目＋穿孔。	ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 にぶい橙色	長（1） ○		
688	高坏	残高 10.5	接合部は厚い。	ミガキ	(坏)マメツ (脚)シボリ痕	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3) 赤色酸化土粒 ○		
689	高坏	底径 (11.0) 残高 4.3	矢羽透かし2方向以上。	マメツ	マメツ	灰白色 明黄褐色	石・長(1～2) ○		
690	ジョッキ	口径 (12.4) 残高 5.5	外反する口縁部。	(口端)ヨコナデ (口)ミガキ	(口端)ヨコナデ (口)ミガキ	にぶい赤褐色 にぶい明褐色・明赤褐色	長（1） ◎		
691	ジョッキ	残高 8.9	把手。	ミガキ→ナデ		明黄褐色	石・長（1） ◎		
692	坏蓋	口径 (12.8) 残高 3.6	口縁は外反し、天井部と口縁部の境に鈍い稜を持つ。須恵器。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	暗赤灰色 暗灰色	密 ◎		
693	甕	口径 (13.8) 残高 5.5	外湾する口縁部。須恵器。	(口)回転ヨコナデ (胴)タタキ	(口)回転ヨコナデ (胴)円心円文	灰白色 灰白色	石・長(1～2) ○		
694	坏	底径 (7.8) 残高 1.5	土師器。高台円盤。	マメツ	ナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	石（1） ウンモ・赤色酸化土粒 ○		
695	坏	底径 7.0 残高 1.5	土師器。高台円盤。	マメツ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長（1） ○		

表28　C調査区出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
696	磨製石斧	欠損	緑泥片岩	(5.11)	(8.33)	(1.99)	90.77	柱状片刃	45
697	磨製石斧	欠損	緑泥片岩	(9.32)	(4.61)	(2.14)	143.56	柱状片刃	45
698	磨製石斧	完形	緑泥片岩	8.08	3.02	0.72	28.56	扁平片刃	45
699	磨製石斧	欠損	凝灰岩	(13.4)	(4.06)	(3.8)	544	伐採斧	45
700	磨製石斧	欠損	凝灰岩	(9.86)	(4.72)	(2.85)	230	伐採斧	
701	石庖丁	欠損	緑泥片岩	(4.12)	(2.69)	(0.5)	7.27		
702	敲石	完形	凝灰岩	10.73	13.0	7.72	1455		
703	窪み石	欠損	凝灰岩	(11.05)	(10.98)	(7.75)	990		
704	敲石	欠損	凝灰岩	(7.5)	(7.3)	(5.91)	392		
705	剝片		凝灰岩	8.9	8.0	1.9	185		

第４章　大峰ヶ台遺跡８次調査地

１．調査の経過

(1)　調査・報告の経緯（第95図）

本調査は、南江戸五丁目15－８における宅地開発に伴う緊急発掘である。調査対象地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『33　大峰ヶ台弥生遺跡Ｂ・大峰ヶ台古墳群Ｂ』内にあり、周知の遺跡内にある。

1989（平成元）年に関係者から当該地における埋蔵文化財確認願の申請が提出されたことを受け、遺跡の有無と範囲確認のために試掘調査を行い、当地での遺跡の遺存を確認した。この結果から関係者は協議を行い、開発によって失われる部分に対して記録保存のための発掘調査を実施することとした。対象とする土地は複数の所有者がいることから、調査は２区画に分けて実施し北側地をＡ区、南側地をＢ区とした。Ａ区は1989年２月に伊藤重夫・中岡義明・丹下義房の各氏から、Ｂ区は1989年７月に株式会社愛媛建築研究所から松山市教育委員会文化教育課に埋蔵文化財確認願が申請されている。本格調査は平成元年７月に２区画同時で実施した。整理と報告書作成は2004（平成16）年度に行い、報告書の刊行に至っている。

なお、本遺跡の遺跡名は概要報告で「辻遺跡２次調査地」としていたが、その後の検討で「大峰ヶ台遺跡８次調査地」と変更されたので、本報告書では変更名称を使用している。

(2)　調査組織

調 査 地　松山市南江戸五丁目　Ａ区：1544-1・同-2・同-3、1545-1・同-2・同-3
　　Ｂ区：1538-1・同-3・同-4・同-5

遺 跡 名　大峰ヶ台遺跡８次調査地

調査期間　平成元年７月15日～同年７月31日

調査面積　Ａ区501㎡、Ｂ区595㎡

調査担当　西尾幸則
　　栗田正芳（現：松山市教育委員会文化財課）
　　松村　淳（退職）

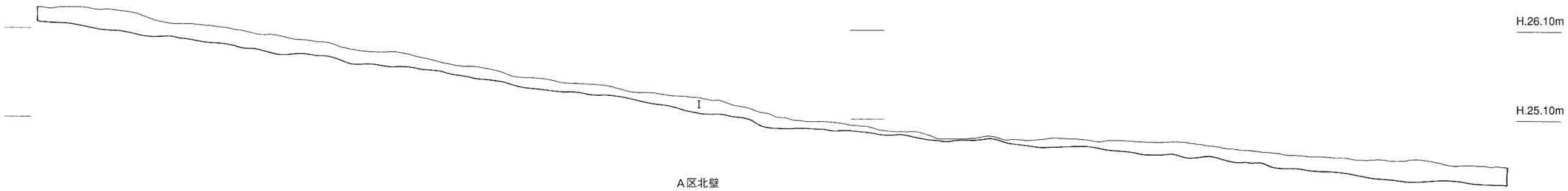
調査協力　伊藤重夫・中岡義明・丹下義房・高橋写真館
　　栗林愼八・株式会社愛媛建築研究所

２．層　位（第96図）

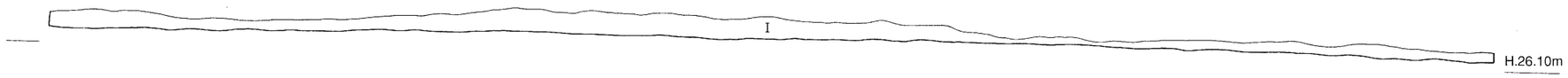
調査地は大峰ヶ台丘陵の南西山麓の傾斜地にあり、標高は21.4～23.8mである。傾斜は西高東低で標高差2.1m、北高南低で標高差2.6mとなる。

土層は対象地全域が近現代の開墾の影響をうけ、表土下は地山であり、したがって、遺構に伴う土層以外は近現代層である。近現代層のＩ層はＢ区で灰色土（第96図Ｉ－①）や褐色土（第96図Ｉ－②）の土壌が検出されている。また、Ｂ区の土層壁面には畑の畝となる褐色土（第96図スミアミ）と畑溝の埋土が確認できる。

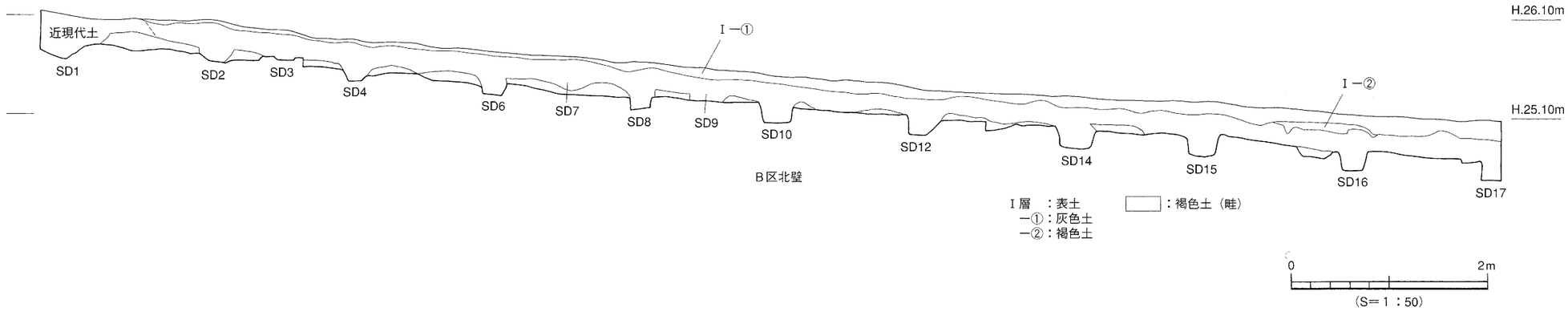
第95図　調査地位置図（Ｓ＝１：1,000）



A区北壁



A区西壁



B区北壁

第96図　A・B区土層図

第97図　A・B区遺構配置図

３．Ａ区の遺構と遺物（第97・98図、図版46）

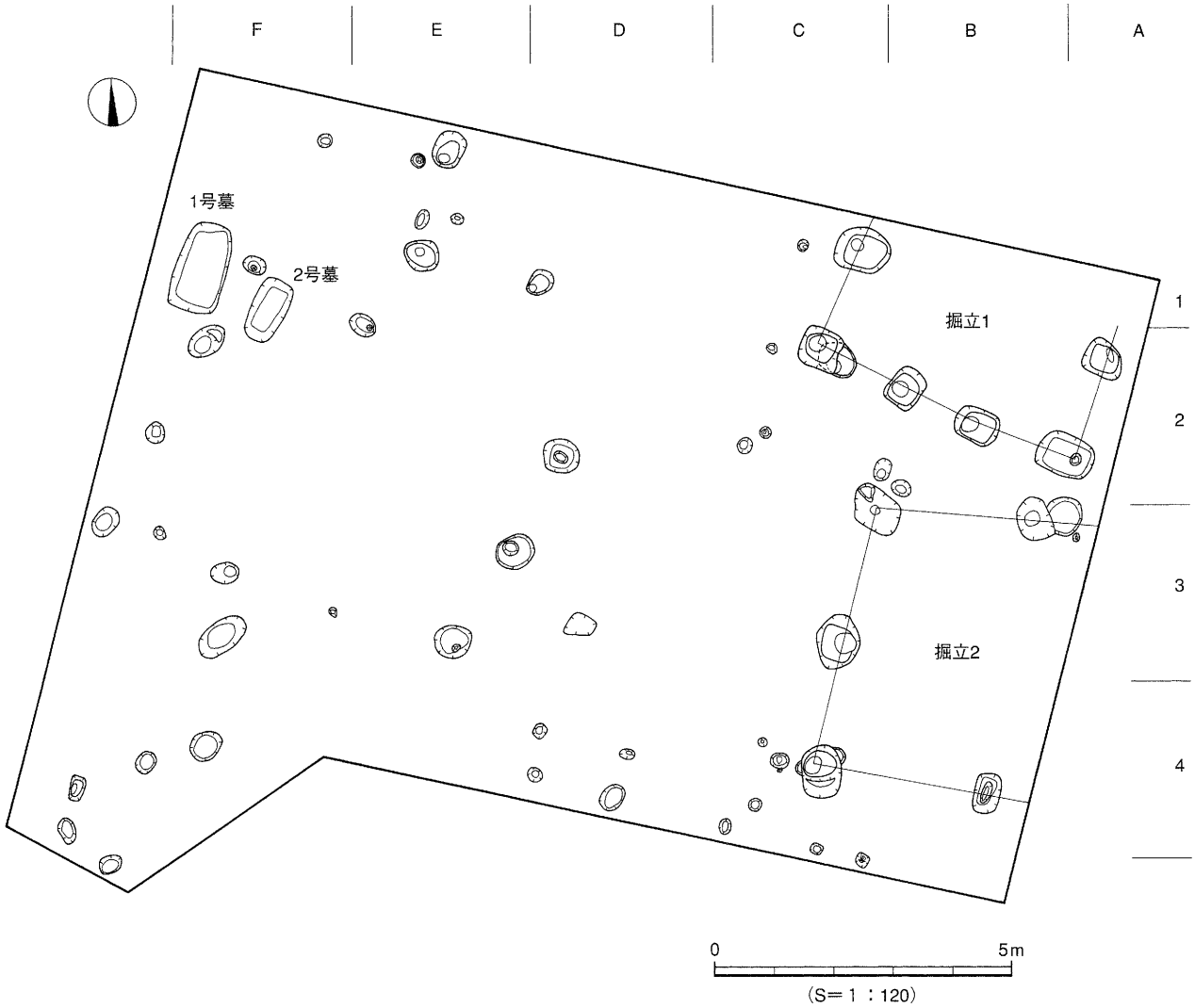
Ａ区では古墳時代後期～中世の遺構を検出し、遺構には掘立柱建物址２棟、土坑２基、ピット46基がある。

(1) 掘立柱建物址

１号掘立柱建物址（掘立１、第99図、図版46・47）

建物は調査区の北東隅、グリッドＡ～Ｃ－１～２で検出し、北に続く。規模は東西が３間で4.70m、南北が２間以上で１.80mとなり、検出床面積は8.46m²となる。柱の掘り方は正方形～長方形を呈し、柱穴５基に柱痕跡がある。柱痕は径が20～30cmであり、柱間は1.30～1.80mである（表29）。掘り方埋土は暗茶褐色で、幾つかの柱穴では須恵器や土師器の小破片が少量出土している。時期の判明する破片は第99図の５点に限られ、１～４が須恵器の坏蓋で、５が土師器のコシキの把手部分である。これらの出土品は丘陵周辺にある古墳群や集落跡からの流入品の可能性が高い。

時期：築造時期は埋土や周辺遺跡の状況から古墳時代後期とする。

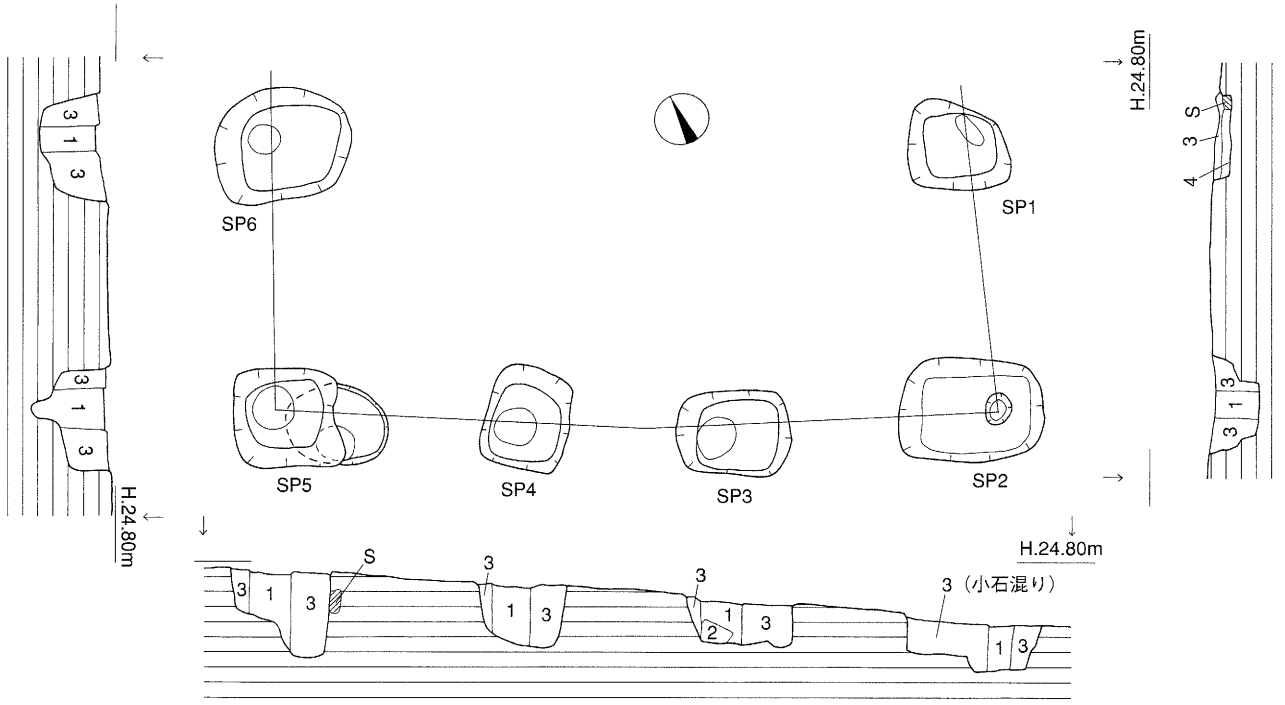


第98図　Ａ区遺構配置図

2号掘立柱建物址（掘立2、第100図、図版46・47）

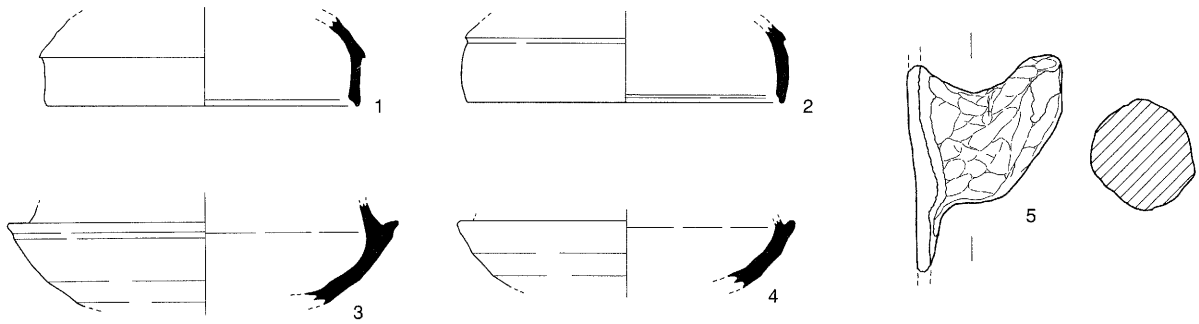
建物は調査区の東端、グリッドB～C－3～4で検出し、東に続く。規模は南北が2間で4.45m、東西が2間以上で2.65mとなり、検出床面積は11.79㎡となる。柱の掘り方は概ね四角形を呈し、柱穴2基に柱痕跡がある。柱痕は径が18～22㎝であり、柱間は2.25～2.65mである（表29）。掘り方埋土は暗～茶褐色土であり、出土遺物はない。

時期：築造時期は埋土や周辺遺跡の状況から古墳時代後期とする。



1．暗茶褐色土（柱痕・3より濃い）
2．柱痕（青白色土に赤黄色混り）
3．暗茶褐色土（赤黄粒混り）
4．暗茶褐色土

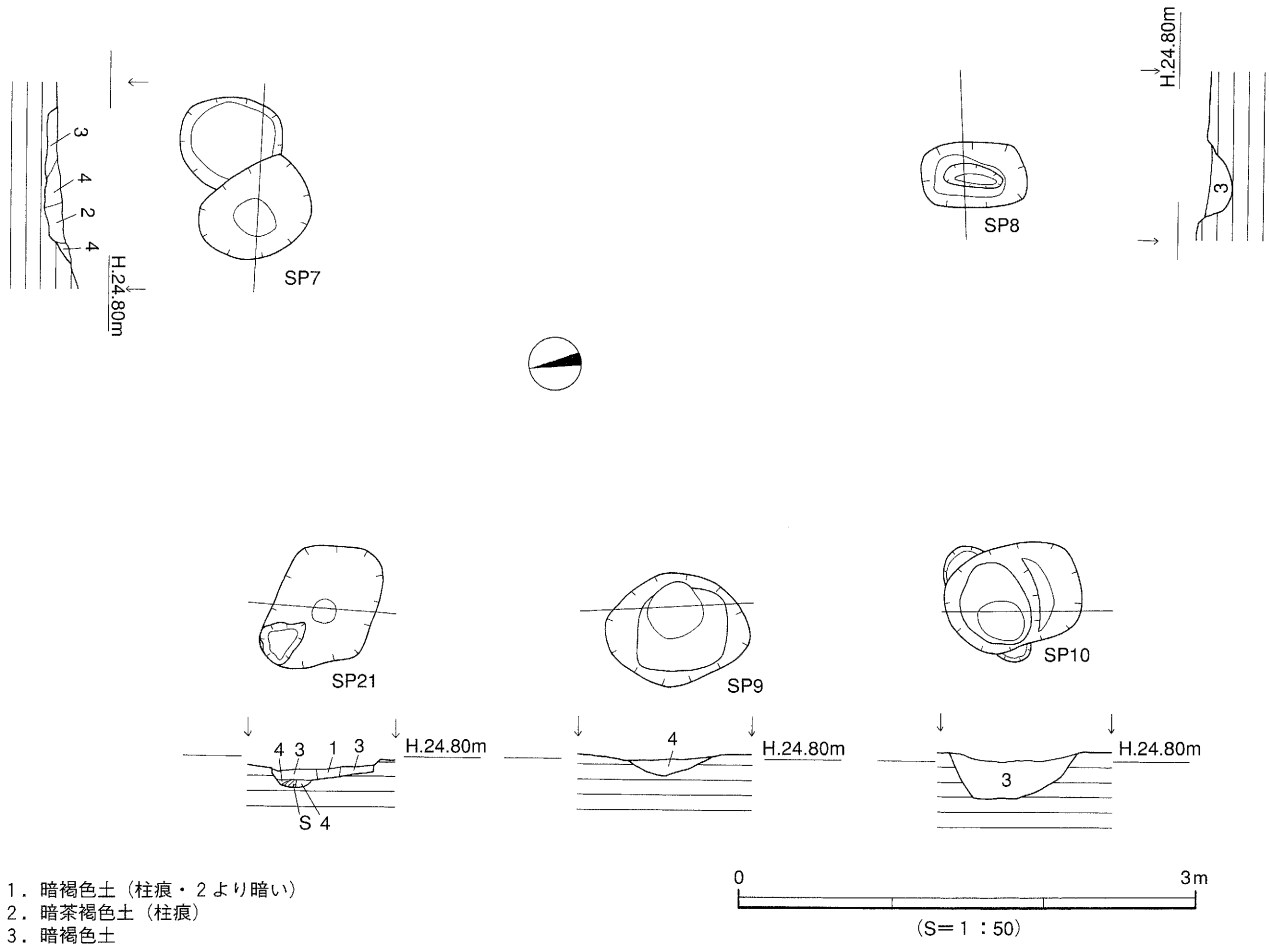
0　3m
（S＝1：50）



1．SP4
2・5．SP2
3．SP5
4．SP4

0　5　10cm
（S＝1：3）

第99図　掘立1測量図・出土遺物実測図



1．暗褐色土（柱痕・２より暗い）
2．暗茶褐色土（柱痕）
3．暗褐色土
4．茶褐色土

第100図　掘立２測量図

(2)　墓

１号墓（第101図、図版47）

１号墓は調査区の北東、グリッドＦ１で検出する。平面形状は長方形で南北1.36m、東西0.77m、断面形状は逆台形で深さ0.16mである。基盤面の３辺には凹みがあり、箱式型の木棺痕跡を推定させる。埋土は明黄色土の単一層で、中央部床面から土師器の小皿と礫とが各１点出土している。小皿は内湾して立ち上がる口縁部で、外面には回転ナデの痕跡をもつ。特徴から14～15世紀に比定する。

時期：出土品から14～15世紀とする。

２号墓（第101図、図版47）

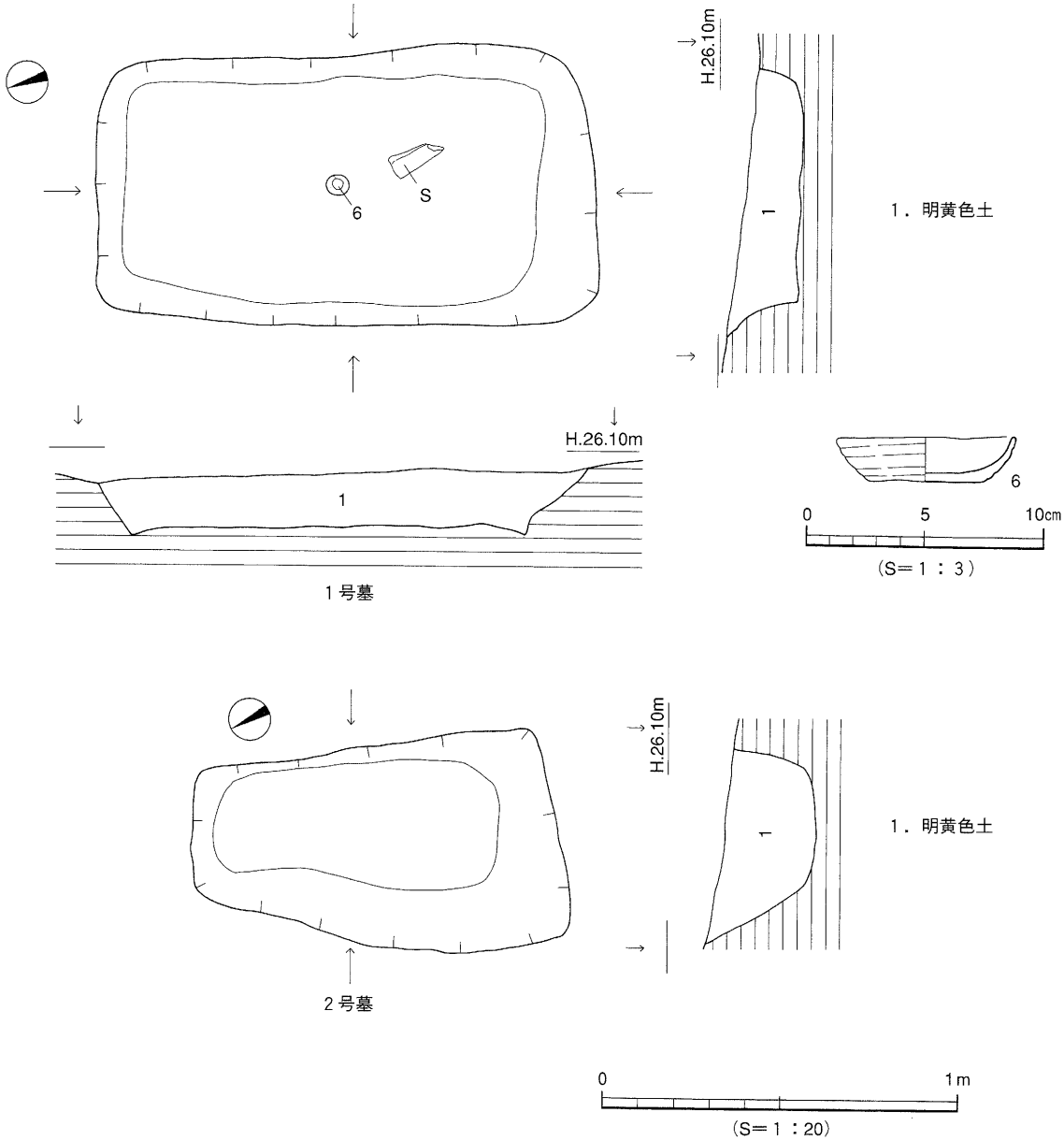
２号墓は調査区の北東、グリッドＦ１で検出し、１号墓の南東0.7mに並列してある。平面形状は北西部が乱れるが、本来は長方形と見られ南北1.20m、東西0.45mを測る。断面形状は膨らみをもつ逆台形状で、深さ0.25mである。埋土は明黄色土の単一層で、出土遺物はない。

なお、本土坑は１号墓に隣接かつ並列し、埋土が大差ないため墓として報告した。

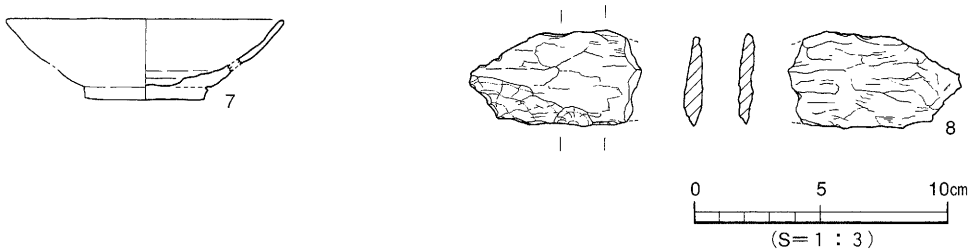
時期：１号墓と同時期とし14～15世紀とする。

(3)　その他

第102図にはＡ区出土の遺物２点を掲載した。７は土師器の坏で、円盤高台をもつ。８は石器で、緑色片岩の剝片である。



第101図　1・2号墓測量図・出土遺物実測図



第102図　出土地点不明遺物実測図

４．Ｂ区の遺構と遺物（第97・103図、図版48）

Ｂ区では古代～中世と近世の遺構を検出している。遺構には溝19条とピット33基があり、第103図の下段には古代～中世の遺構配置、上段には近世の遺構配置を掲載した。

(1) 古代～中世 溝１条とピット33基がある。

ＳＤ18：調査区の東端、グリッドＤ８～９にあり、調査区外に続く。ピットＰ28を切り、Ｐ30に切られる。検出長は2.90m、幅は0.40mで、出土遺物には第104図13・14がある。13・14は古墳時代の須恵器片であるが、ここでは流れ込み品として理解した。切り合いの関係にある遺構も時期が特定されず、細かな時期判断ができない。

ピット：大小さまざまなピットが33基検出された。このうちＰ17・Ｐ25（第104図９・10）からは古墳時代須恵器の坏・蓋片が出土しているが、周辺地からの流入品と考えられ、遺構の時期決定には有効な資料と言えない。その他のピットも細かな時期や性格は判断できない。

(2) 近　世 溝18条がある（第103図）。

ＳＤ１～17：ＳＤ１～17は並列し、調査区土層壁面の観察からは溝の両側で褐色土壌が検出されていることから（第96図）畑址と推定される。検出長は0.70～4.50m、溝幅は0.26～0.46m、深さは0.06～0.60m、畝幅（溝と溝の間）は1.0～0.3mである。ＳＤ６・14（第104図11・12）の埋土からは古墳時代の須恵器片が出土しているが、周辺地からの流入品と考えられる。畑址の細かな時期判断はできない。

ＳＤ19：ＳＤ１～17に切られ、それらと直交する位置関係にある。検出長は9.34m、幅は0.40mであり、出土遺物はない。したがって、細かな時期判断ができない。

その他：調査区内からは第104図15・16の須恵器片と、17の土製品が出土している。

５．小　結

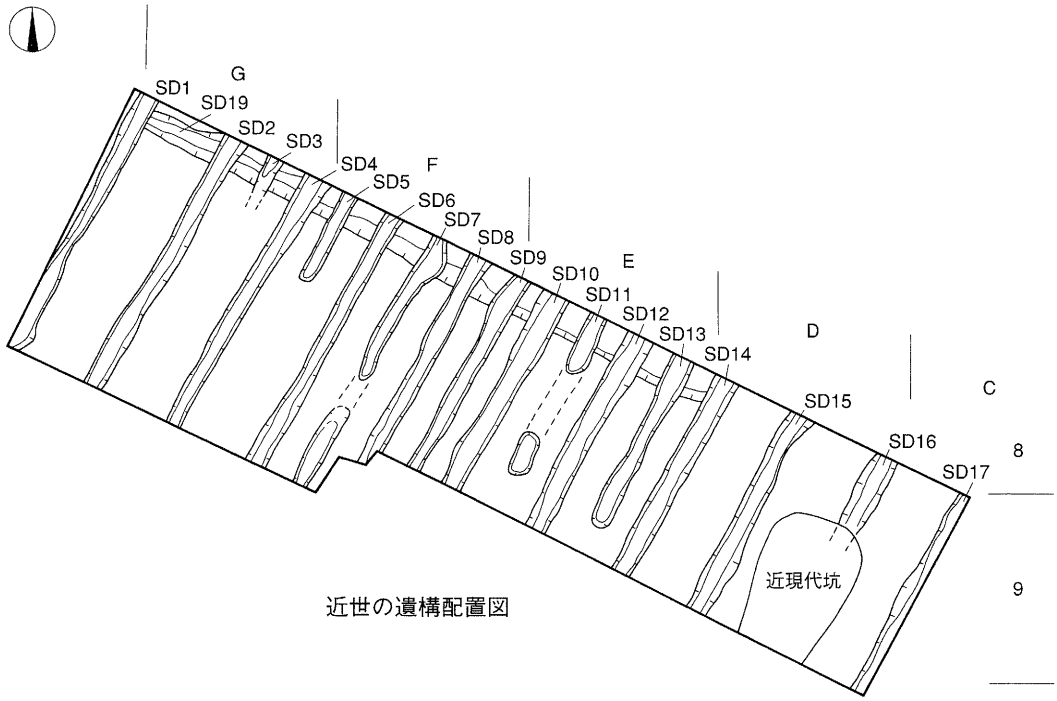
今回の調査では古墳時代～近世の遺構や遺物を検出した。隣接する遺跡の資料を加味して、調査のまとめをする。

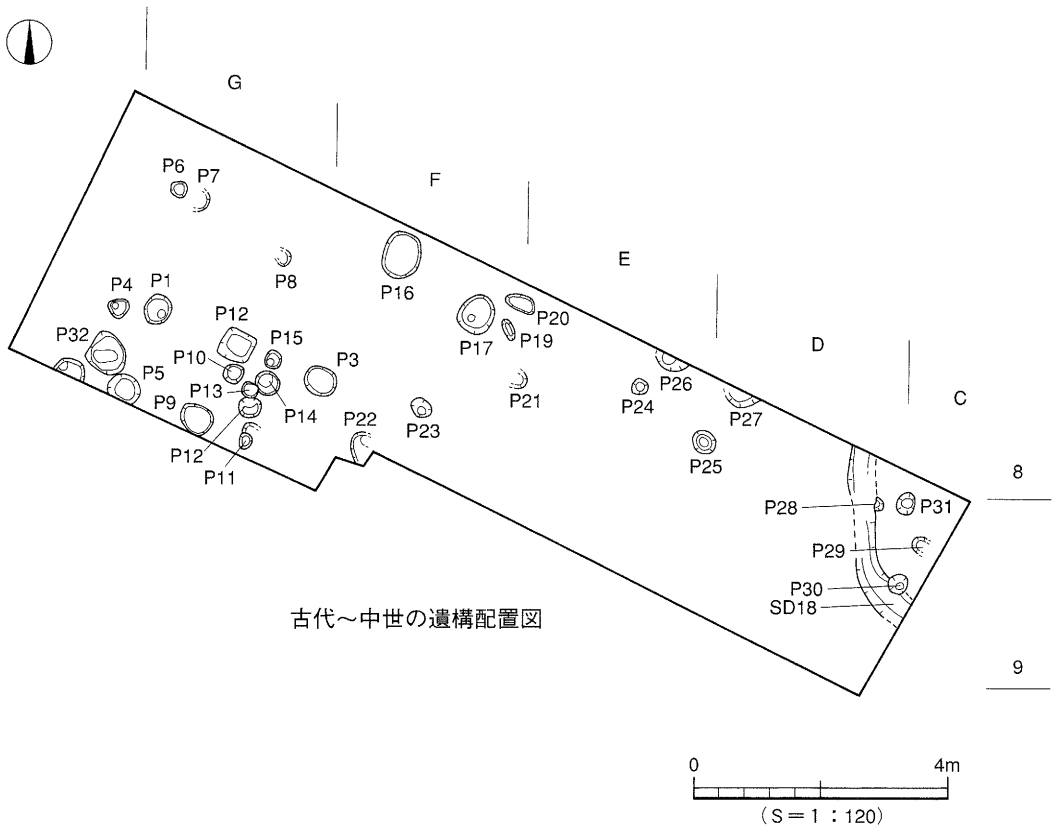
(1) 古墳時代 掘立柱建物址は隣接の辻遺跡第３調査区で16棟検出されているが、Ａ区掘立１のように長方形の掘り方で柱並びの整った建物址は認められず、埋土も異なることから、古墳時代後期の建物と考えた。一方、遺構から出土した須恵器片は、本調査区の東側にある辻遺跡第３調査区に展開する古墳時代集落や、丘陵上部に築かれた古墳（岡田　1994）からの流入品と理解しておく。

(2) 古代～中世 明確に古代に限定される資料はないが、時期比定を最大限の範囲で考えたために、古代～中世の時間幅を設けた。１・２号墓は中世に比定される。周辺の地域では、本書掲載の南江戸桑田遺跡や隣接の辻遺跡第３調査区で近世墓が検出され、一帯に近世墓の事例は多いが、中世墓の検出は少なく、稀少資料と言える。

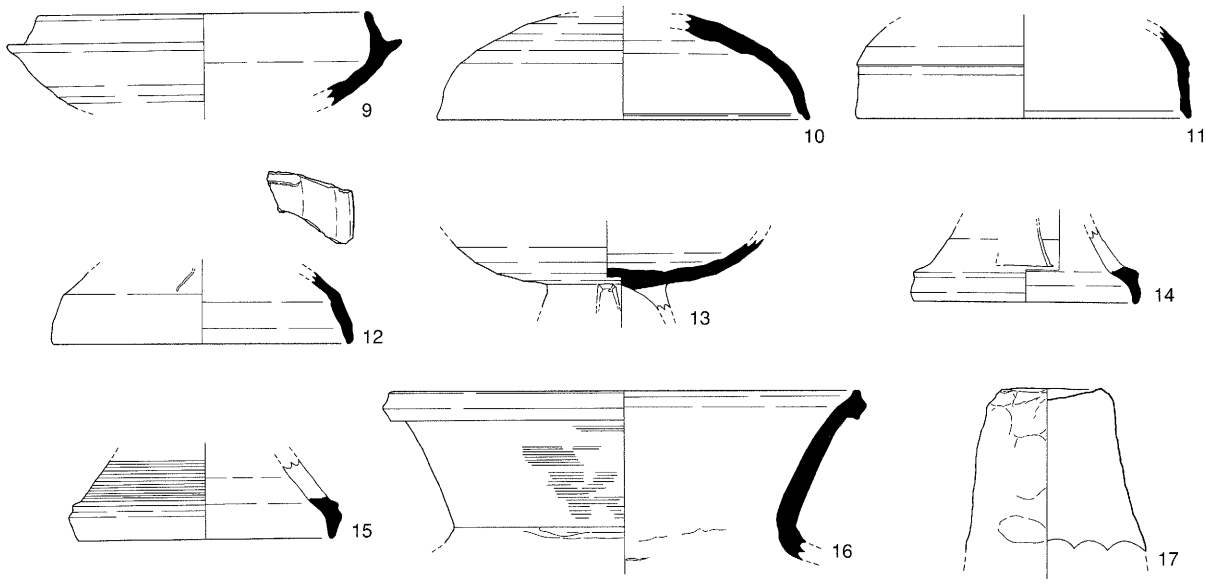
(3) 近　世 Ｂ区では畑址を検出したが、溝の直交する切り合い関係からは畑地の大きな土地改良が知られる。近世の畑地遺構は調査例が少なく、基礎資料を得たことで成果と言える。

岡田敏彦編　1994『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター





第103図　B区遺構配置図



9：P17
10：P25
11：SD6
12：SD14
13・14：SD18
15：グリッド
16・17：近現代坑

0　5　10cm
（S＝１：３）

第104図　Ｂ区出土遺物実測図

遺構・遺物一覧　ー凡例ー

(1)　以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

(2)　遺物観察表の各掲載について

法　量　欄　(　)：復元推定値

調　整　欄　土器の各部位名称を略記した。

例）口→口縁部、胴→胴部、天→天井部、脚→脚部、体→体部、底→底部。

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例）長→長石、石→石英、密→精製土。(　) 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例）砂・長（1～4）→「1～4㎜大の砂粒・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表29　掘立柱建物址一覧

掘立	規模（間）	方　位	桁　行		梁　行		床面積(㎡)	時　期	備考
			実長（m）	柱間寸法(m)	実長（m）	柱間寸法(m)			
1	3×(2)	南北	4.7	1.6・1.3・1.8	1.8	1.8	8.46	6C後半	
2	2×(2)	東西	4.45	2.2・2.25	2.65	2.65	11.79	6C後半	

表30　墓一覧

墓	平面形	断面形	規模（m） 長さ（長径）×幅（短径）×深さ	床面積(㎡)	埋　土	出土遺物	時　期	備考
1	長方形	逆台形	1.36×0.77×0.16	1.04	明黄色	石・土師	14～15C	
2	長方形	逆台形	1.20×0.45×0.25	0.54	明黄色		14～15C	

表31　溝一覧

溝（SD）	地　区	規模（m） 長さ×幅×深さ	方　向	出土遺物	時　期	備　考
1	H7・8	4.5 × 0.3 ×	南北		近世	
2	G7・8	4.5 × 0.3 ×0.32	南北		近世	
3	G7	0.7 × 0.3 ×0.06	南北		近世	
4	F7・8	4.5 × 0.38 ×0.45	南北		近世	
5	F7	1.5 × 0.26 ×	南北		近世	
6	F7・G8	4.5 × 0.24 ×0.42	南北	須恵	近世	
7	F7・8	(4.5) × 0.3 ×0.22	南北		近世	
8	F7・8	3.5 × 0.3 ×0.5	南北		近世	
9	F7・8	3.2 × 0.3 ×0.12	南北		近世	
10	E8	3.5 × 0.44 ×0.52	南北		近世	
11	E8	(2.7) × 0.34 ×	南北		近世	
12	E8・9	3.5 × 0.46 ×0.54	南北		近世	
13	E8・9	3.5 × 0.46 ×0.54	南北		近世	
14	E8・9	3.5 × 0.42 ×0.6	南北	須恵	近世	
15	D8・E9	3.5 × 0.34 ×0.5	南北		近世	
16	D8・9	1.2 × 0.4 ×0.5	南北		近世	
17	C8・D9	3.5 ×(0.26) ×0.6	南北		近世	
18	D8・9	2.9 × 0.4 ×	北～東	須恵	古代～中世	
19	E8～G7	9.34 × 4.0 ×	東西		近世	

表32　A区出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
1	坏蓋	口径 (12.0) 残高 3.4	口縁端部は内傾し、凹面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 暗灰色	密 ◎	掘立1 SP4	
2	坏蓋	口径 (12.2) 残高 3.1	口縁端部は内傾し、凹面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	掘立1 SP2	
3	坏身	残高 4.1		胴上回転ナデ 胴下回転ヘラ削り	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎	掘立1 SP5	
4	坏身	残高 2.7		胴上回転ナデ 胴下回転ヘラ削り	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ○	掘立1 SP4	
5	こしき	残高 9.0	断面が長楕円形を呈す。	ナデ	ナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1～2) ◎	掘立1 SP2	
6	皿	口径 7.3 器高 2.0 底径 4.7	完形品。多段のナデ。	坏回転ナデ 底マメツ	マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長 (1) ◎	1号墓	48
7	坏	口径 (10.8) 器高 (3.2) 底径 4.8	貼り付け高台。	坏マメツ 底回転糸切り	マメツ	淡茶色 淡茶色	密 ◎	出土地 不明	

表33　A区出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ (cm)	法量 幅 (cm)	法量 厚さ (cm)	法量 重さ (g)	備考	図版
8	板状剝片		緑色片岩	6.7	3.8	0.7	23.10	出土地不明	

表34　B区出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
9	坏身	口径 (12.2) 残高 3.9	たちあがり端部は丸い。	口回転ナデ 胴回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	P17	
10	蓋	口径 (14.4) 残高 4.1	口縁端部は内傾し凹面をもつ。	口回転ナデ 天回転ヘラ削り	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	P25	
11	坏蓋	口径 (13.0) 残高 3.6	口縁端部は内傾する。	口回転ナデ 天回転ヘラ削り	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	SD6	
12	坏蓋	口径 (11.6) 残高 2.8	口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	SD14	
13	高坏	残高 2.8	三方透かし。	坏底回転ヘラ削り	回転ナデ 一部タタキ	暗灰色 暗灰色	密 ◎	SD18	
14	高坏	底径 (8.7) 残高 3.0	透かし一ヶを看取。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	SD18	
15	高坏	底径 (9.8) 残高 3.1	脚端部はたちあがり、上部がナデ凹む。	柱カキ目 脚端回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	グリッド	
16	甕	口径 (18.1) 残高 6.7	口縁端部は上下拡張。	口回転ナデ 頸カキ目→回転ナデ	口回転ナデ 胴タタキ	暗灰色 暗灰色	密 ◎	近現代 坑	
17	支脚	残高 6.4	受部がわずかに凹む。	ナデ		淡茶褐色	石・長(1～3) 金 ◎	近現代 坑	

第５章　北斎院遺跡

１．調査の経過

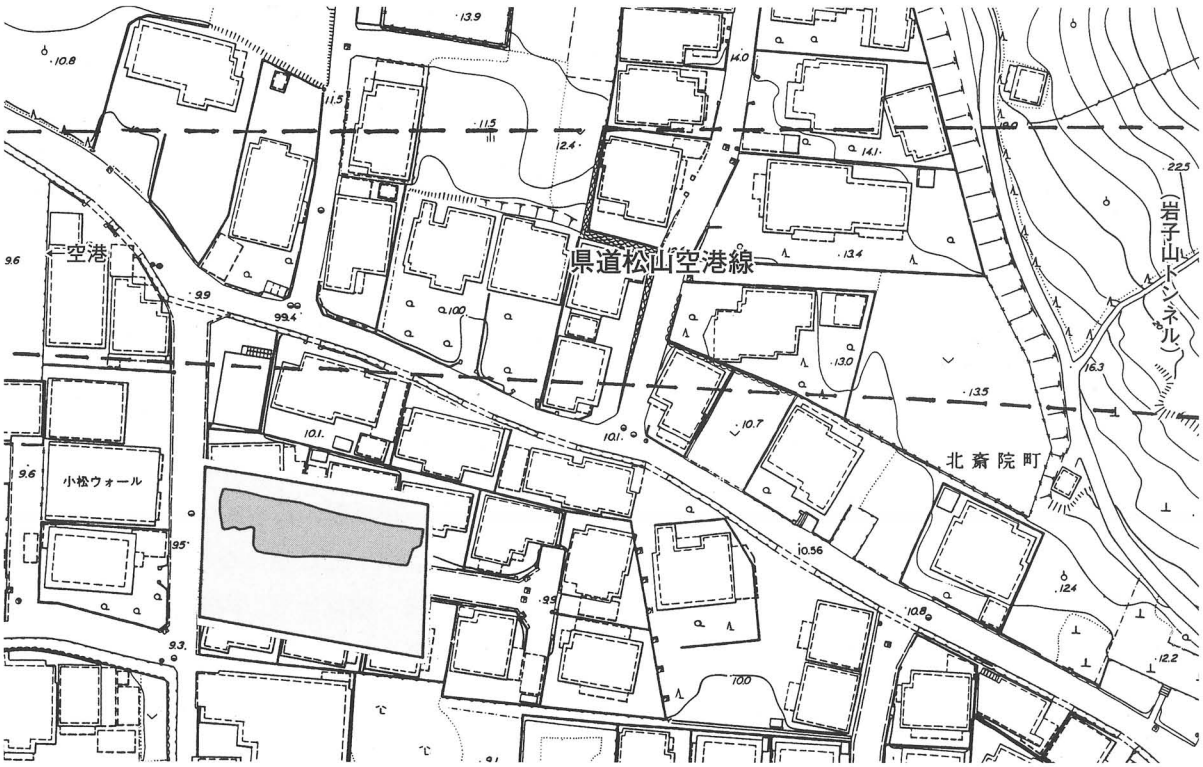
(1)　調査・報告の経緯

昭和50年６月、松山市北斎院町379-1・379-2で宅地開発に伴う事前の発掘調査を実施した。該当地は、松山市が指定する松山市埋蔵文化財包蔵地『156　北斎院遺物包含地』内にある。調査は、松山市教育委員会社会教育課が開発者の㈱森田住宅(森田政志)の協力を得て、昭和50年７月に実施した。

整理等作業と報告書作成は、平成16年度に松山市教育委員会の委託を受け、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した。報告書作成では、調査から29年余り経過し、担当者の不在や基礎資料の損失があり、それを補うために関係者には聞き取り調査を行い、資料の充実に努めた。執筆は、３－２）が宮内、残りは梅木が担当した。

(2)　調査組織

調 査 地　松山市北斎院町379-1・379-2
遺 跡 名　北斎院遺跡
調査期間　昭和50年６月18日～同年７月17日
調査面積　600㎡
調査担当　森　光晴（退職）
調査協力　㈱森田住宅（森田政志）



第105図　調査地位置図（Ｓ＝１：1,000）

2．層　位（第107図、図版49）

調査地は、宮前川で形成された沖積低地にあり、東側後背には標高111mの岩子山がある。標高は現在の地表面で10.0m、包含層上面で約9.0mとなり、宮前川河口までは約4.0km、西方の伊予灘までは標高129mの弁天山を越え約3.0kmの位置となる。

基本層位は8層で、部分的に3つの土壌が検出されている。

第Ⅰ層：宅地造成土で、厚さ約40cm。

第Ⅱ層：造成前の耕作土で、厚さ10～30cm。

第Ⅲ層：褐色粘土で、厚さ20～30cm。

第Ⅳ層：茶褐色土で、厚さ40～70cm。

第Ⅴ層：小礫混じりの砂層で、砂層の部分が多い箇所があり、厚さ20～40cm。

第Ⅵ層：砂礫層で、厚さ2～5cm。

第Ⅶ層：黒色粘土で、西側に厚く堆積し、厚さ10～60cm。

第Ⅷ層：青色粘土で、厚さ約10cm。

このうち、第Ⅲ層上面は調査地中央で段差があり、近現代の耕地整備の跡が認められる。第Ⅴ層上面と第Ⅶ層上面は調査地東側で段差があり、第Ⅳ層と第Ⅵ層との堆積前に掘削された様子が見て取れ、かつ各段差部分には土壌①の砂層があることから、当地が水田・畑地であった可能性を推定させている。なお、第Ⅳ層～第Ⅶ層で遺物が出土している。ただし、現状では出土物と層位との関係は判断できない。

3．遺構と遺物（第106図）

遺構は柱穴・小穴が50基、杭が25基以上あり、第Ⅶ層上面で検出されている。

柱穴・小穴は、平面形態は円形が主体で、少数の隅丸四角形がある。規模は径・辺が0.8～40cmで、深さは不明である。構造物を想定する組み合わせは判断できなかった。杭は調査地の西部・中央部北・東部南の3地点で集中的に検出されているが、構造物を判断するには至っていない。杭の大きさは長さ60cm前後である。出土遺物は顕著なものはないが、現状では特定出来ない。

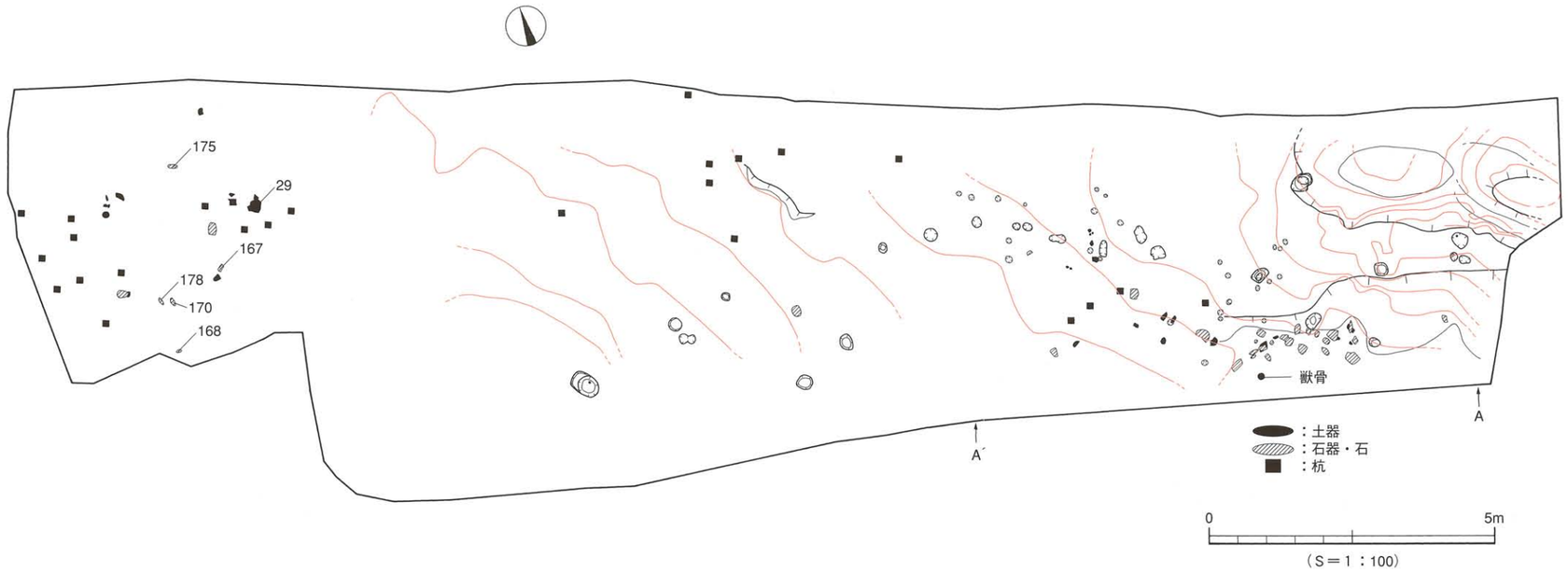
調査区からの出土遺物には、土器・石器・杭があるが、出土地点が明確でないために、ここでは土器は時期毎に、石器は時期区分せずに掲載する。杭は現状では保管されていない。

(1)　土　器

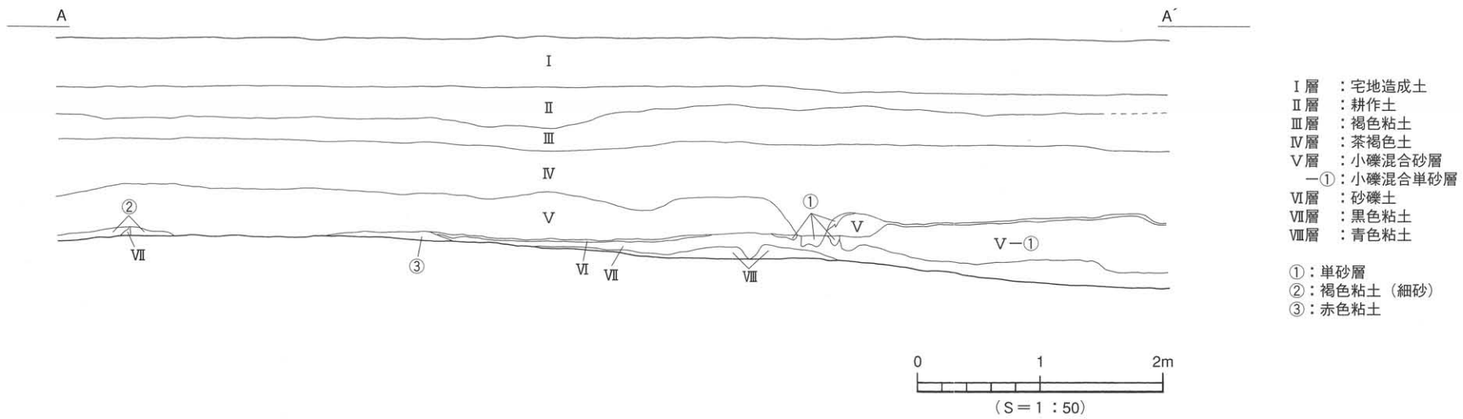
1）弥生時代～古墳時代初頭（第108・109図、図版50）

1～7は弥生時代中期に属するもので、1・2は甕、3・5～7は壺、4は高坏になる。8～20は後期後葉から古墳時代初頭までに属するもので、8～10は甕、11～16は壺、17～20は鉢である。

21～58は古墳時代初頭に比定され、いわゆる外来系土器である。21～32は甕になり、21～26は口縁端部が内方に小さく拡張する近畿系甕の特徴をもつ。27～29は口縁～胴部片で、内面にヘラケズリ痕が見られる。30～32は口縁端部の拡張はなく、内面にはヘラケズリ痕があり、ずいぶんと在地化された甕である。33～36は壺で、33は加飾の著しい二重口縁壺、34～36は直口壺、37～39はいわゆる小型丸底土器である。40～46は鉢で、45と46は厚手になる。47～52は高坏、53は脚台付鉢、54・55は小型器台、56・57は脚付き鉢である。58は山陰系鼓型器台で、模倣品である。



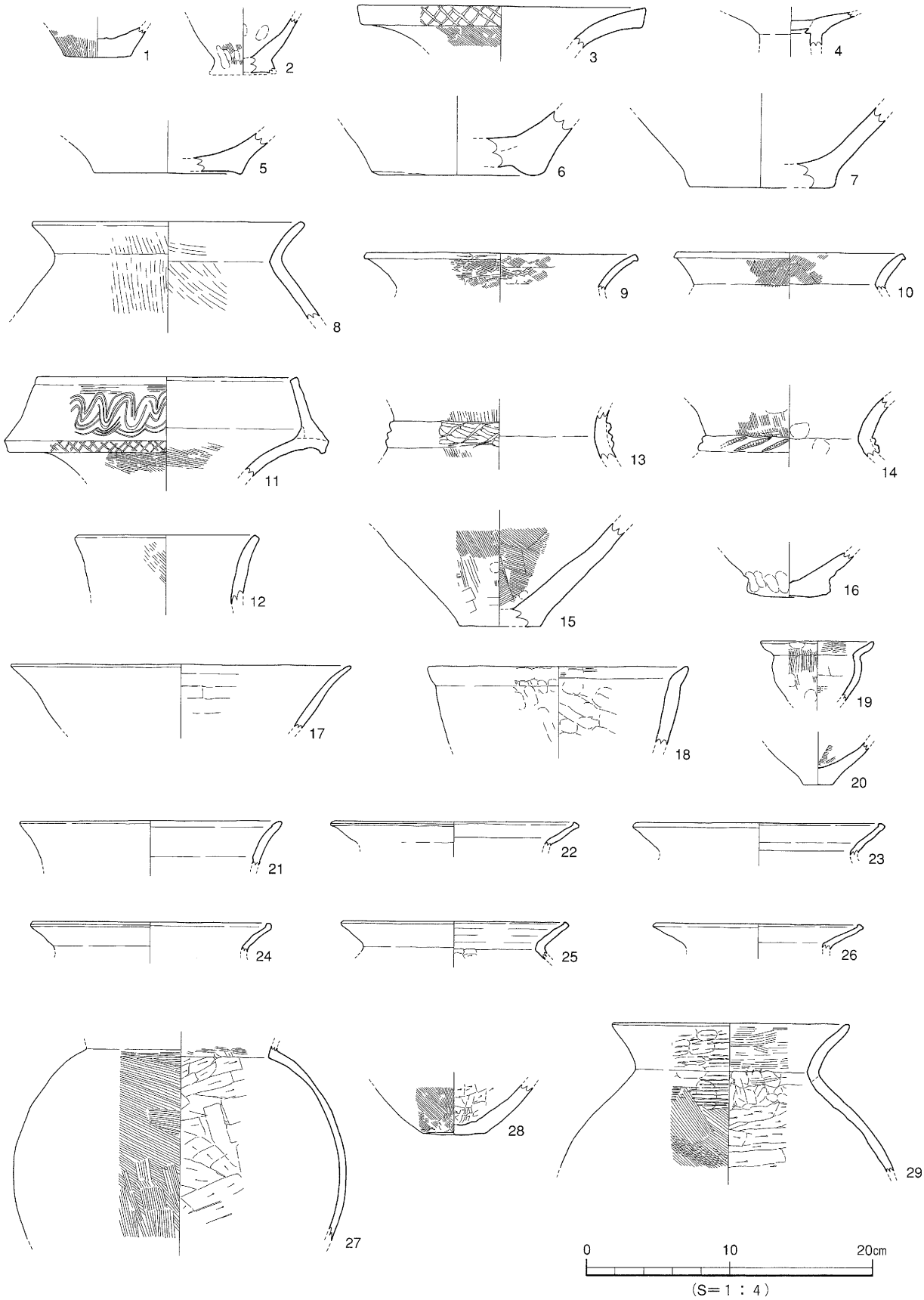
第106図　遺構配置図・遺物出土状況



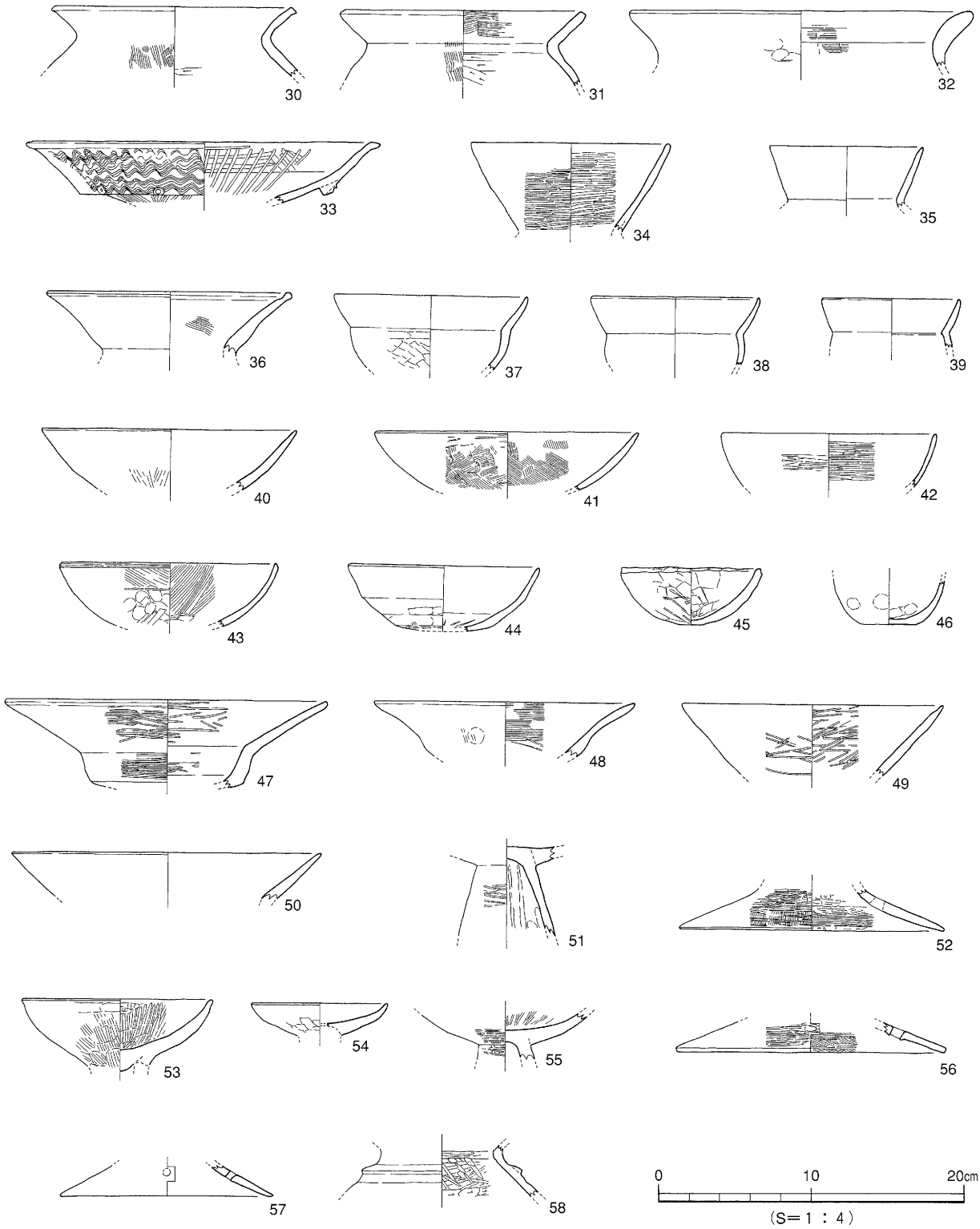
Ⅰ層　：宅地造成土
Ⅱ層　：耕作土
Ⅲ層　：褐色粘土
Ⅳ層　：茶褐色土
Ⅴ層　：小礫混合砂層
　－①：小礫混合単砂層
Ⅵ層　：砂礫土
Ⅶ層　：黒色粘土
Ⅷ層　：青色粘土

①：単砂層
②：褐色粘土（細砂）
③：赤色粘土

第107図　土　層　図



第108図　出土遺物実測図(1)



第109図　出土遺物実測図(2)

2）古墳時代中期～古代（第110～115図、図版50・51）

①　須恵器

蓋坏（59～104）：59～66は坏Ｇの蓋。59は天井部と口縁部の境界に凹線状の凹みが巡る。60・61は天井部と口縁部との境界が不明瞭であり、口縁端部は尖り気味に丸い。62～64は天井部からなだらかな弧を描き口縁部に下がり、口縁端部は尖り気味に丸い。62の口縁端部には刻目を施す。65・66はかえりをもつ坏蓋。かえりは口縁部より下がり、端部は尖り気味となる。67は坏Ｇの身。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に丸い。底部外面は回転ヘラキリ後、未調整となる。59～61は６世紀後半、62～64は７世紀前半、65～67は７世紀後半。

68～72は坏Ｈ身。68・69はたちあがりを欠損する。底部外面1/2前後に回転ヘラケズリ調整を施す。70はたちあがりが低く内傾し、たちあがり端部は尖り気味に丸い。71はたちあがりが内傾し、たちあがり端部は尖り気味に丸く仕上げる。72はたちあがりが太く短く内傾し、たちあがり端部は尖る。68～71は６世紀後半、72は７世紀前半。

73～79は坏。73は体部が直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。74は平底の底部から体部が直線的に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に仕上げる。底部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。75～79は底部片。底部の切り離しは回転ヘラキリ技法による。78・79は円盤高台の坏で、79は窄まりながら突出する底部である。73・74は８世紀前半、75～78は９世紀、79は10世紀前半。

80～91は坏Ｂの蓋。80・81は扁平な頂部からなだらかな弧を描き口縁部に下がり、口縁部は下方に屈曲する。口縁端部は丸く仕上げる。82～84は笠形の頂部から口縁部に下がり、口縁端部は下方に屈曲する。口縁端部は丸く仕上げる。85～87は扁平な頂部から口縁部に至り、口縁部は下外方に屈曲する。口縁端部は尖り気味に仕上げ、口縁端面は凹む。88は口縁部がＳ字状となり、下外方に屈曲する。89～91は坏蓋のつまみ。すべて中央部が突出する。80～84は８世紀前半、85～88は８世紀後半、89～91は８世紀代。

92～104は坏Ｂ。92・93は体底部付近に高台が付き、高台は細く直立する。94は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部は直立する。体底部境界は丸みをもち、高台は低く外傾する。底部外面に回転ヘラキリ痕を残す。95～99は体底部付近に高台が付き、高台は外方に短く開く。96・98は底部外面に回転ヘラキリ痕を残す。100・101は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に仕上げる。高台は体底部境界に付き、やや外方に開く。100の底部外面に回転ヘラキリ痕を残す。102は高台が体底部境界よりやや内側に付き、外方に開く。103は高台が下内方に、104は下方に下がる。102・104の底部外面は回転ヘラケズリ調整を施す。97は７世紀後半、94・95・97・99・100は８世紀前半、その他は８世紀後半。

皿（105～110）：105～108は皿Ａ、109・110は皿Ｂ。105・106は底部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。口縁端部は105が平坦、106・107は外傾する。108は口縁端部内面に浅い凹線状の凹みが巡る。109は大型品で、高台は細く角張り平坦面で接地する。110は体底部境界に明瞭な稜をもち、高台は太く下内方に肥厚する。109・110の底部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。110は８世紀前半、105～109は８世紀後半。

高坏（111～119）：111は無蓋高坏。坏部は椀形を呈し、脚端部は下方に屈曲する。112は脚裾部。111と同様、脚端部は下方に屈曲する。113は柱裾部境界に凸線が巡り、透かしをもつ。114～117は柱部。116の柱部中位に２条の沈線が巡る。117は器壁が厚く、粘土紐の巻き上げ痕が顕著に残る。

118・119は有蓋高坏の蓋。118は中央部が凹み、119は中央部がやや突出する。113は6世紀前半、118・119は6世紀代、111・112・114～117は7世紀前半。

椀（120）：120は台付椀。体部は内湾し、体部中位に1条の沈線が巡る。6世紀後半。

壺（121～129）：121～124は長頸壺。121は口縁部片で、口縁端部は丸く仕上げる。122は肩胴部片。肩部に刺突文と沈線を施す。123・124は台付壺の底部。高台はやや外方に開き、124は端部が肥厚する。125は広口壺。口縁端部内面はやや肥厚する。126は直口壺。肩部の張りは強く、肩胴部境界に明瞭な稜をもつ。127は四耳壺。把手は断面方形を呈し、径5㎜大の円孔を穿つ。128は小型壺、129は短頸壺の蓋。129の口縁端部に刻目を施す。128・129は6世紀後半、122は7世紀前半、123～126は8世紀前半、127は8世紀後半。

平瓶（130）：130は肩胴部片で肩部の張りは強く、胴部との境界に明瞭な稜をもつ。8世紀前半。

甕（131～136）：131～133は口縁部が短く外反し、131・132は口縁端部が内方に肥厚する。133は口縁端部が面をもつ。134は長く外反する頸部をもち、頸部中位に1条の沈線が巡る。口縁端部は上下方に肥厚し、端面は凹む。135は頸部が短く外反し、口縁端部は上下方に肥厚する。136は口縁部が直立し、口縁端部は内方に肥厚する。131・132は7世紀後半、133～136は8世紀。

② 土師器

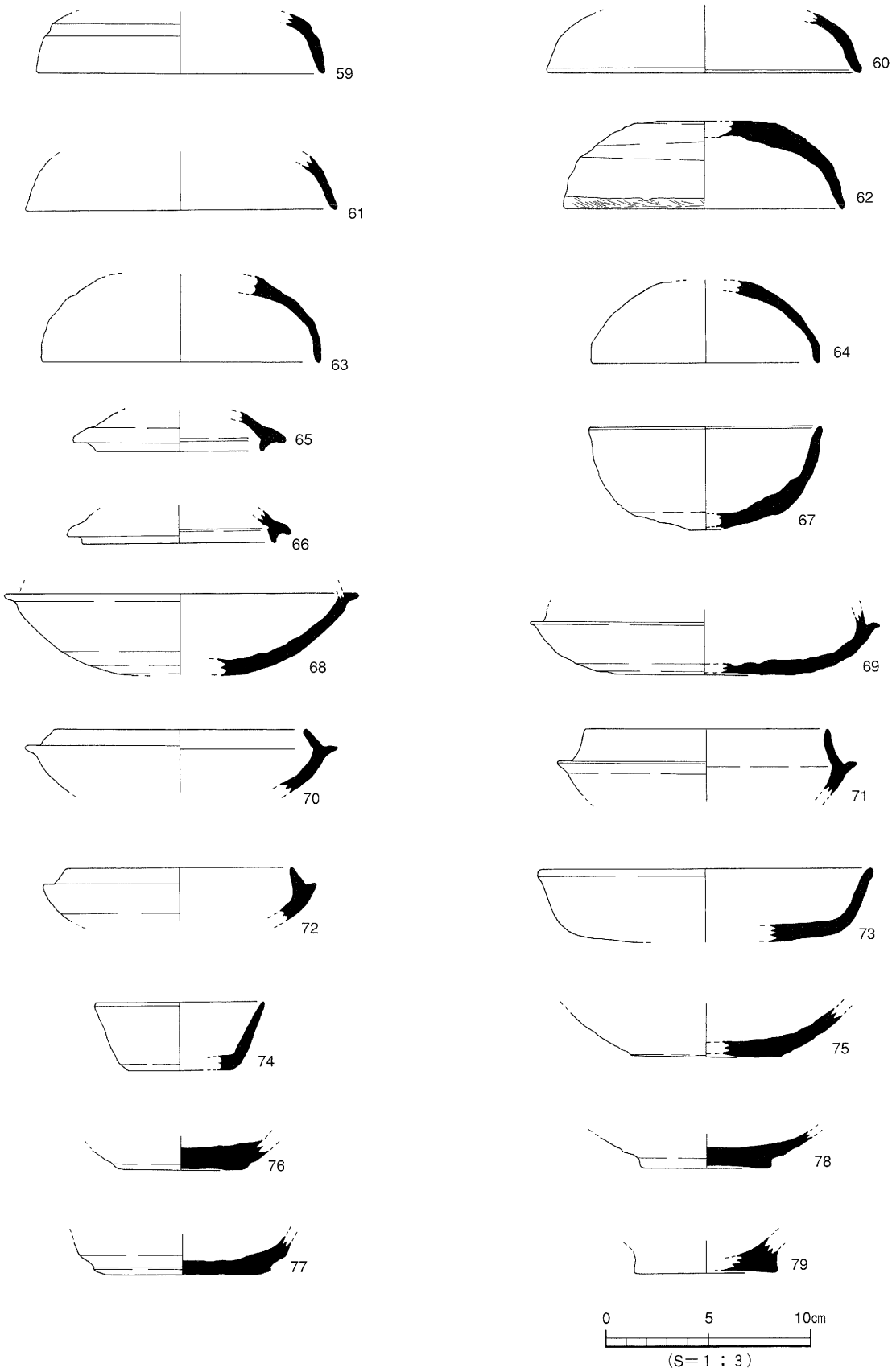
蓋坏（137～154）：137～140は坏A。口縁部は内方へ折り曲げられ、口縁部内面に浅い凹みをもつ。137の体部内面には左下がりの放射状暗文を施す。口縁部外面はすべてヨコナデ調整、底部外面は138のみ回転ヘラキリ痕を残す。137・138・140は内外面共に赤色塗彩を施す。141～148は坏C。141は体部が内湾し、口縁端部は尖る。体底部内面に暗文を施す。外面はヘラミガキ調整を施す。142は体部内面に右下がりの放射状暗文、底部内面にらせん状の暗文を施す。外面に赤色塗彩を残す。143は口縁端部を尖り気味に仕上げ、体部内面に右下がりの放射状暗文を施す。144は口縁部が外反し、体部内面に右下がりの暗文を施す。底部外面にはヘラ状工具による線刻を施す。145・146は口縁部内面に浅い凹みが巡り、145の体部内面に暗文を施す。146は赤色塗彩を施す。147・148は体部が内湾し、口縁部を尖り気味に仕上げる。149は体部中位に稜をもち、口縁部は外反する。147・149は赤色塗彩を施す。141は7世紀前半、142・149は7世紀後半、143～146は8世紀前半、137～140は8世紀後半、147・148は時期不明。

150は坏B蓋。天井部は扁平で、口縁部は丸みをもつ。151～153は高台の付く坏B。151は太く丸みのある高台をもち、体底部境界に稜をもつ。152・153は体底部境界が丸みをもつ。150・152・153は内外面共に赤色塗彩を施す。154は円盤高台の坏。底部の切り離しは回転ヘラキリ技法による。150～153は8世紀前半、154は10世紀後半。

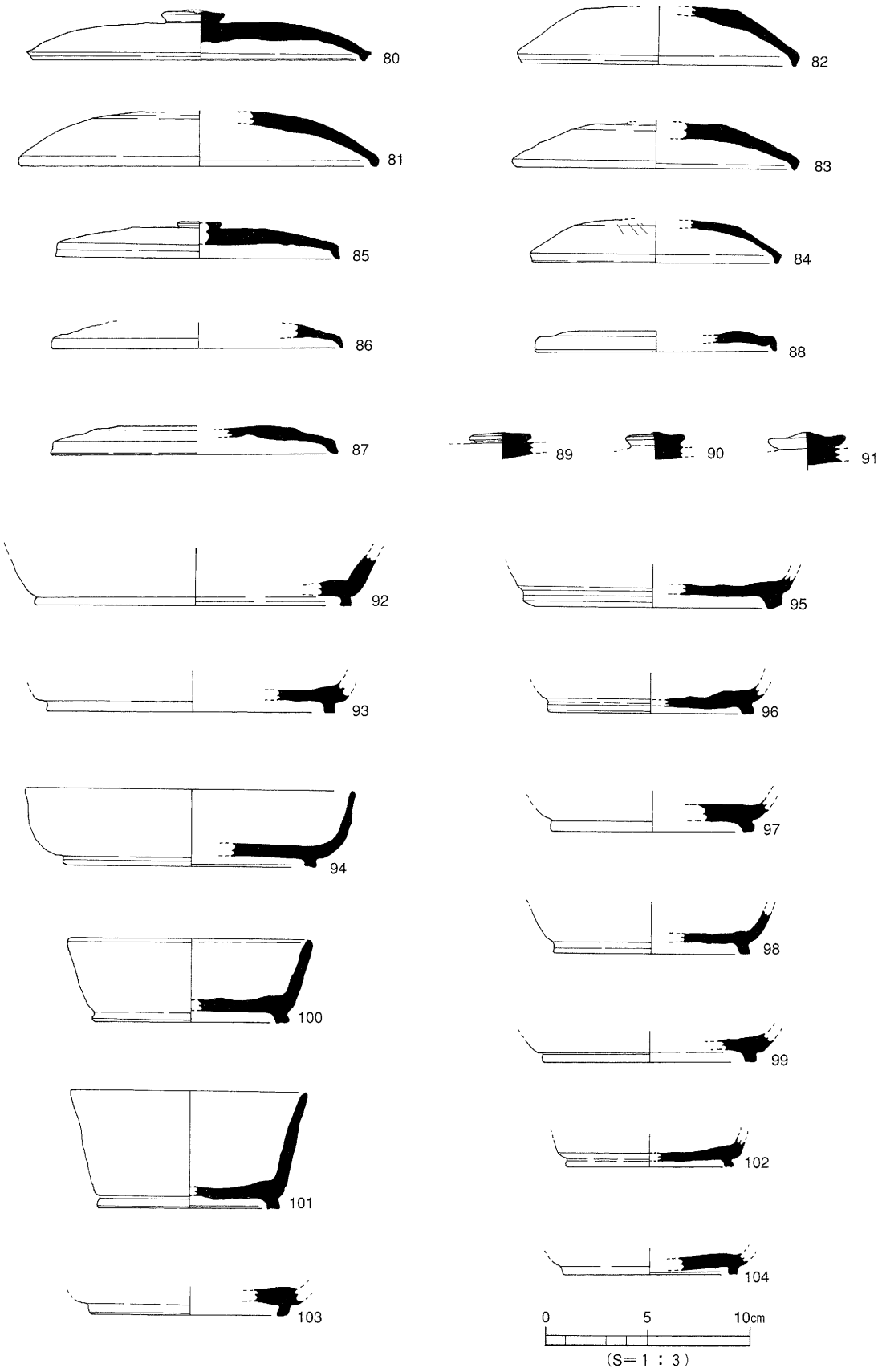
皿（155～157）：155・156は口縁部内面に浅い凹みが巡る。157は口縁端部を尖り気味に仕上げる。すべて赤色塗彩を施す。8世紀前半。

高坏（158・159）：158は高坏の坏部。坏部内面に右下がりの放射状暗文を施す。内外面共に丁寧なヘラミガキ調整を施す。159は脚部片。ヘラ状工具により10面に面取りされる。8世紀前半。

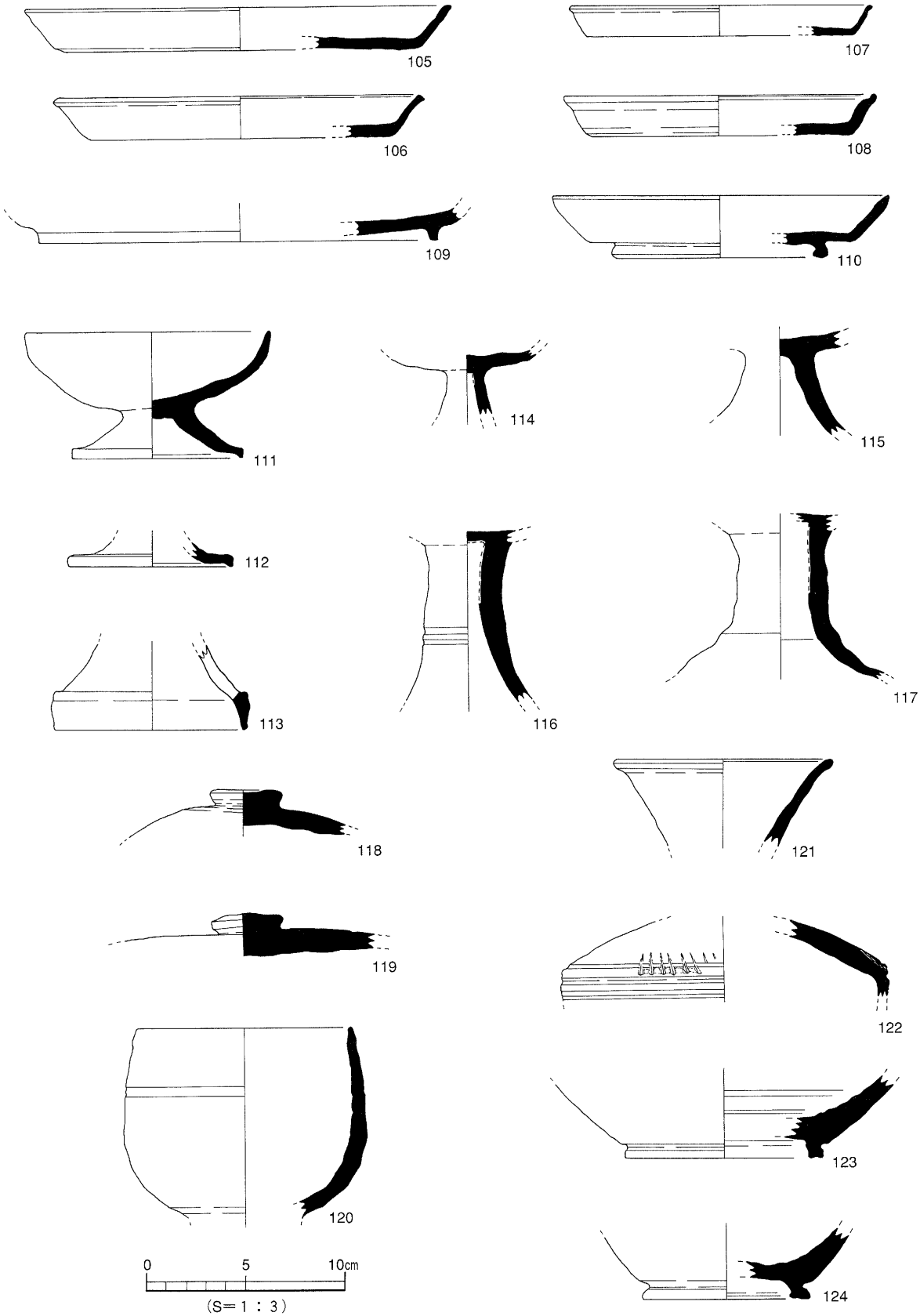
甕（160～166）：160は口縁部は直立し、端部はわずかに外反する。161は口縁部は短く外反し、口縁端部を丸く仕上げる。162～165の口縁部は内湾し、162・163は口縁端面がやや凹む。164の口縁端部は平坦面をもち、165は内傾する面をもつ。166は口縁中位がやや肥厚し、口縁端部は内傾する面をもつ。165・166の胴部外面には粗いハケメ調整を施す。7～8世紀。



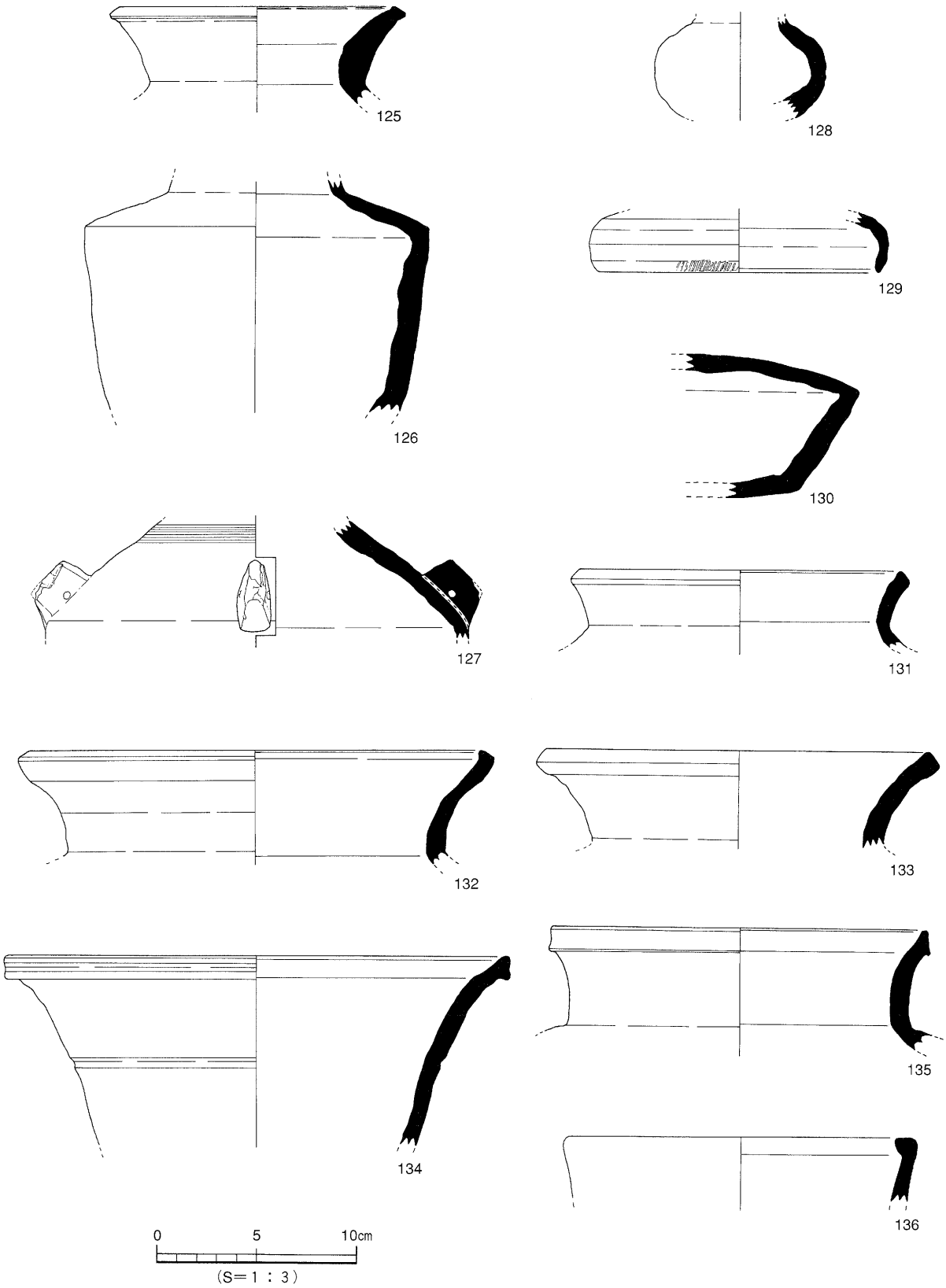
第110図　出土遺物実測図(3)



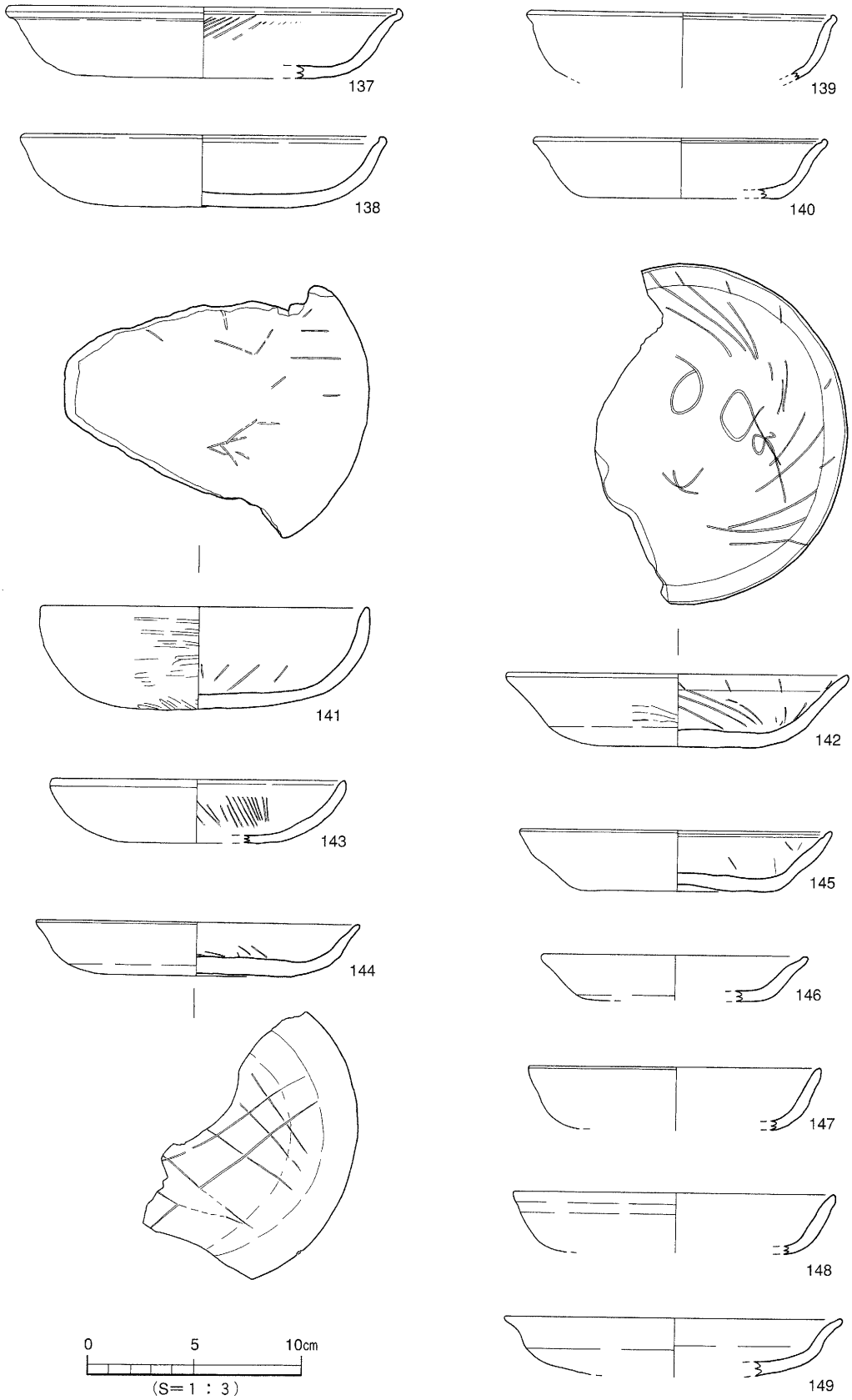
第111図　出土遺物実測図(4)



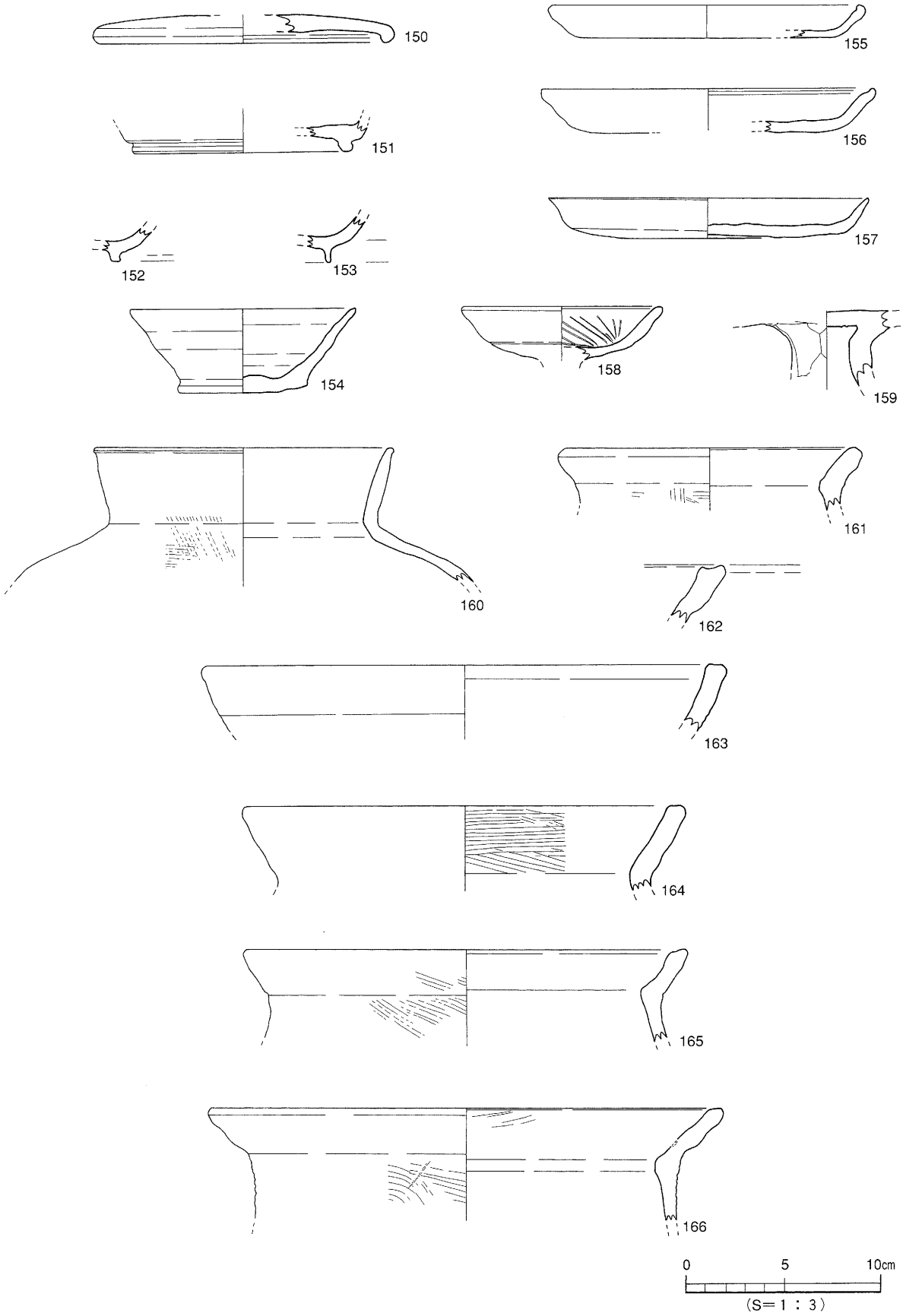
第112図　出土遺物実測図(5)



第113図　出土遺物実測図(6)



第114図　出土遺物実測図(7)



第115図　出土遺物実測図(8)

3）石　器（第116・117図）

167は緑色片岩製の石庖丁未製品、168・189は砥石、170は完存の安山岩製の叩き石。171は完存の磨き石で、敲き痕をもつ。172は完存の凹石で、擦り痕あり。173は2分の1残存の石皿、174は4分の1残存の砂岩製台石、175～178は用途不明品で、175は完存の砂岩製品である。

4）骨

179（図版51）は獣歯である。このほかに数点の獣歯の出土がある。

4．小　結

北斎院遺跡の調査では、杭列や柱・小穴等の生活および生産に関連する遺構を確認し、弥生時代から古代までの遺物が得られた。

基本土層からは古墳時代以前、遅くとも古代以前に水田ないし畑地であったことは明らかである。また、第Ⅳ層以下が砂礫層であることから、古代まで居住地としては適さなかったことも分かる。このことは、検出遺構が杭や小さい穴に限られることからも裏付けられよう。一方古墳時代～古代の周辺地には集落遺跡の宮前川遺跡群があり、当遺跡もその一部に含まれると見られ、宮前川遺跡群の居住域の東限を示す資料が得られたことになる。

遺物では、古墳時代初頭の近畿系・山陰系土器は宮前川遺跡群内で製作したものと見られるが（田崎　1995・作田　1998）、これまでに出土した土器との比較では、甕の口縁端部の肥厚が典型的な形状よりは小さい点に特徴がある。

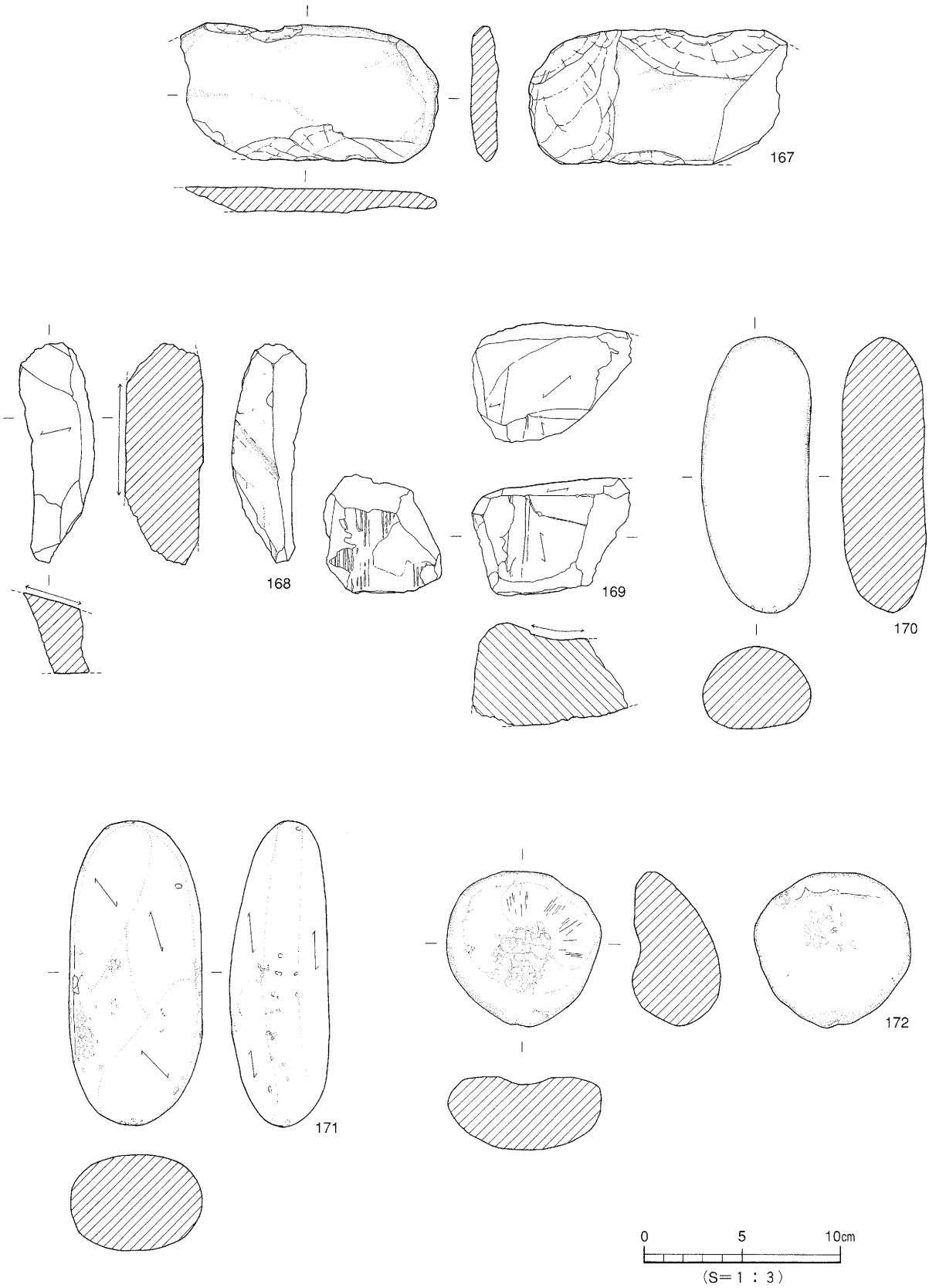
さて、注目は古代の土器群であり、特に8世紀代の赤色塗彩や暗文つき土師器は平野内でも類例が少なく、貴重な資料である。ただし、その内容には在地品・搬入品等幾つかのものがあり、搬入元は中部瀬戸内地方に求められるものもある。

以上、北斎院遺跡の調査の報告をした。狭い調査範囲ではあるが、当地の古墳時代までの集落域や古墳時代と古代の外来系土器が得られたことで、一定の成果が得られたと言える。

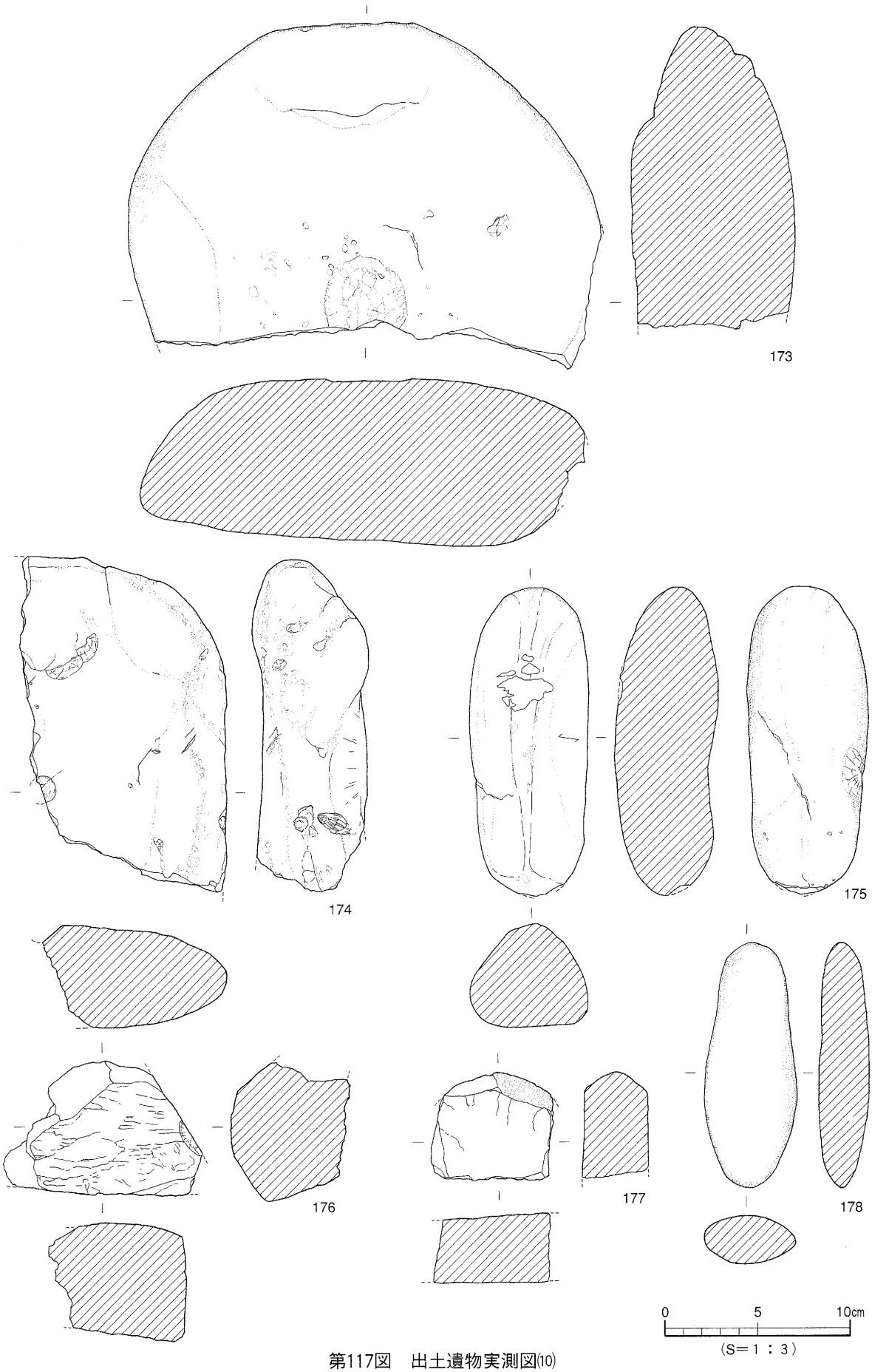
参考文献

作田一耕編　1998　『斎院・古照』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター

田崎　博之　1995　「瀬戸内における弥生時代社会と交流」『古代王権と交流6』名著出版



第116図　出土遺物実測図(9)



第117図　出土遺物実測図(10)

表35　出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
1	甕	底径 4.5 残高 2.1	外傾する立ち上がりをもつ。	ハケ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1～2) ○	黒斑	
2	甕	底径 (4.4) 残高 3.7	立ち上がりをもつ、上げ底。	マメツ (一部ハケ)	ナデ	黄橙色 黄橙色	石・長(1～2) 金 ○	煤付着	
3	壺	口径 (20.0) 残高 2.9	口縁端部に斜格子目文。	ハケ	マメツ	黄橙色 橙色	石・長(1～2) ◎		
4	高坏	残高 2.5	坏底部片。組み合わせ手法。	マメツ	マメツ	黄灰色 黄橙色	石・長(1～3) 金 ○		
5	壺	底径 (10.4) 残高 2.9	わずかに上げ底になる。	ミガキ (マメツ)	ナデ	黄橙色 黄橙色	石・長(1～2) ◎		
6	壺	底径 (12.0) 残高 3.3	輪台状の上げ底。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1～2) ○		
7	壺	底径 (10.0) 残高 4.8	外傾する立ち上がりをもつ。	マメツ	マメツ	灰黄色 黒褐色	石・長(1～2) 金 ◎		
8	甕	口径 (18.2) 残高 6.8	「く」の字口縁。	ハケ	ハケ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1～2) ○		
9	甕	口径 (18.6) 残高 2.5	口縁端部はあいまいな面をなす。	ハケ	ハケ	乳褐色 淡褐色	石・長 (1) 金 ◎		
10	甕	口径 (15.8) 残高 2.6	口縁端部は面をなす。	ハケ	ハケ	淡褐色 淡褐色	石・長(1～2) ◎	煤付着	
11	壺	口径 (18.0) 残高 6.8	6条のクシ描き波状文。木口押圧の斜格子目文。	㊐ハケ→施文 ㊖ハケ	マメツ ハケ	灰褐色 灰白色	石・長(1～2) ○		
12	壺	口径 (12.0) 残高 4.8	長頸壺の口縁部。	ハケ（マメツ）	マメツ	灰黄褐色 黄橙色	石・長(1～2) ○		
13	壺	残高 3.4	木口押圧の斜格子目文。	ハケ	マメツ	黄褐色 淡黄褐色	石・長(1～4) ○		
14	壺	残高 4.2	木口押圧の斜格子目文。	ハケ	マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1～2) ◎		
15	壺	底径 (5.6) 残高 6.7	中型品底部。	ハケ→一部板ナデ	ハケ	黄橙色 黒褐色	石・長 (1) 金 ◎		
16	壺	底径 3.0 残高 3.1	中型品底部。	ナデ	ナデ	黄橙色 褐色	石・長(1～2) 金 ◎		
17	鉢	口径 (23.6) 残高 4.5	口縁端部は丸い。	ヨコナデ (一部マメツ)	ヨコナデ	淡黄橙色 黄橙色	石・長(1～2) 金 ◎		
18	鉢	口径 (18.0) 残高 5.4	口縁端部は細く丸い。	ナデ	ナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1～3) 金 ◎		
19	鉢	口径 (7.8) 残高 4.2	口縁端部は細く丸い。	㊐ハケ→ヨコナデ ㊗ハケ（一部ナデ）	㊐ハケ ㊗ハケ→ナデ	褐色 褐色	石・長(1～2) 金 ◎		
20	鉢	底径 2.0 残高 2.5	突出する底部。	マメツ	ハケ	灰白色 灰白色	石・長(1～2) 金 ◎		

出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
21	甕	口径 (16.0) 残高 3.0	口縁内端部がわずかに丸く肥厚。	ヨコナデ	ヨコナデ	明褐色 明褐色	石・長 (1) 金 ○		
22	甕	口径 (17.2) 残高 1.6	口縁内端部がわずかに丸く肥厚。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗褐色 淡褐色	石・長(1～4) ◎	煤付着	
23	甕	口径 (17.0) 残高 2.2	口縁内端部がわずかに丸く肥厚。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳白色 乳白色	石 (1) 金 ◎		
24	甕	口径 (16.4) 残高 2.0	口縁端部が直立ぎみに立ち上がる。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長 (1) 金 ◎	煤付着	
25	甕	口径 (15.3) 残高 2.6	口縁内端部がわずかに立ち上がる。	ヨコナデ	口ヨコナデ 胴ケズリ	乳茶色 乳褐色	石・長 (1) 金 ◎		
26	甕	口径 (14.2) 残高 1.8	口縁内端部がわずかに立ち上がる。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄色 淡黄色	長 (1) ○		
27	甕	残高 13.6	球形の胴部。	ハケ	ケズリ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～2) 金 ◎	黒斑 煤付着	
28	甕	底径 (4.6) 残高 3.5	平底。屈曲部に稜線あり。	ハケ	ケズリ	暗灰褐色 淡褐色	石・長(1～2) 金 ◎	黒斑	
29	甕	口径 16.5 残高 10.2	口縁部はやや長く、端部は丸い。	口タタキ→ヨコナデ 胴タタキ→ハケ	口ハケ→ヨコナデ 胴ケズリ	淡橙褐色 淡橙褐色	石・長(1～4) 金 ◎		
30	甕	口径 (16.0) 残高 4.5	口縁端部は面をなす。	口ヨコナデ 胴ハケ	口～胴上ヨコナデ 胴中ケズリ	淡黄橙色 淡橙色	長 (1) ◎		
31	甕	口径 (15.2) 残高 5.0	口縁部は内湾して立ち上がる。	口ヨコナデ 胴ハケ	口ハケ 胴ケズリ	灰黄褐色 淡黄橙色	長 (1) ◎	煤付着	
32	甕	口径 (22.6) 残高 3.4	口縁部は器壁が厚い。古墳中・後期の可能性もある。	ヨコナデ	ハケ→ヨコナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1～2) 金 ◎		
33	壺	口径 22.0 残高 4.0	8条のクシ描き波状文3段。竹管文入り円形小浮文。	二次口ヨコナデ→施文 一次口ミガキ	ミガキ	淡橙色 淡橙色	石・長 (1) 金 (多) ◎		50
34	壺	口径 (13.0) 残高 5.8	直口壺。精製品。小型品。	口端ミガキ→ヨコナデ 口下ミガキ	ヨコナデ→ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長 (1) 金 ◎	煤付着	
35	壺	口径 (9.9) 残高 4.0	直口壺。小型品。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐色 灰白色	石・長 (1) 金 ◎		
36	壺	口径 (16.0) 残高 4.2	直口壺。口縁内端部が小さく肥厚。	ヨコナデ	ハケ→ヨコナデ	淡黄橙色 灰白色	石・長(1～2) 金 ◎	黒斑	
37	鉢	口径 (12.6) 残高 5.0	小型丸底鉢。	口ヨコナデ 胴板ナデか	ヨコナデ	淡茶褐色 黄橙色	石 (1) ◎		
38	鉢	口径 (11.0) 残高 4.5	小型丸底鉢。	口ヨコナデ 胴ナデ	ヨコナデ	淡黄橙色 灰白色	長 (1) ◎		
39	鉢	口径 (9.0) 残高 3.2	小型丸底鉢。精製品。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	石・長 (1) ◎		
40	鉢	口径 (16.6) 残高 4.0		胴上ヨコナデ 胴下ハケ	ヨコナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1～2) ◎		

出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
41	鉢	口径 (17.0) 残高 3.8	直口鉢。口縁端部は細く尖る。	口端ハケ→ヨコナデ 胴ハケ	口端ハケ→ヨコナデ 胴ハケ	黄橙色 黄橙色	石・長（1） ◎	煤付着	
42	鉢	口径 (14.0) 残高 3.4	直口鉢。	口端ヨコナデ 胴ヨコナデ→ミガキ	口端ヨコナデ 胴ヨコナデ→ミガキ	乳褐色 黄褐色	石・長（1） 金 ◎		
43	鉢	口径 (14.0) 残高 4.0	直口鉢。精製品。	胴上ヨコナデ→ハケ 胴下ナデ→ミガキ	ヨコナデ→ハケ	茶褐色 茶褐色	石・長（1） 金 ◎		
44	鉢	口径 12.4 残高 4.3	直口鉢。精製品。	胴上ヨコナデ 胴下板ナデ状	ヨコナデ （工具痕有）	茶褐色 茶褐色	石・長（1） ◎		
45	鉢	口径 9.0 器高 3.7 底径 1.2	直口鉢。精製品。	ナデ （板ナデ痕有）	ナデ （板ナデ痕有）	茶褐色 茶褐色	細 砂 ◎		
46	鉢	底径 3.6 残高 3.0	大きな平底。	ナデ	ナデ	灰褐色 灰褐色	密 金 ◎	黒斑	
47	高坏	口径 (21.0) 残高 5.7	有段高坏。精製品。	ミガキ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	密 金 ◎		
48	高坏	口径 (17.0) 残高 3.6	口縁端部はわずかに内湾する。	マメツ	ハケ	黄橙色 黄橙色	長（1） 金 ○		
49	高坏	口径 (17.0) 残高 4.7	口縁部は直線的に開く。精製品。	ミガキ	ミガキ	淡褐色 淡褐色	密 ◎		
50	高坏	口径 (20.1) 残高 3.0	口縁部は直線的に開く。	ナデ	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	密 金 ◎		
51	高坏	残高 5.9	組み合わせ式。	ミガキ	坏底ミガキ 脚シボリ痕	淡黄色 淡黄色	密 ◎		
52	高坏	底径 (17.2) 残高 2.7	裾部は直線的。	ハケ→ミガキ	ハケ（1部ヨコナデ）	茶褐色 茶褐色	密 金 ◎	黒斑 煤付着	
53	脚付鉢	口径 (12.2) 残高 4.7	直口口縁部。組み合わせ式。	ハケ	ミガキ	乳茶褐色 乳茶褐色	石・長(1～3) 金 ◎		
54	小型器台	口径 9.0 残高 2.0	直口口縁部は端部が細る。	口ヨコナデ 底板ナデ状	口ヨコナデ 底マメツ	淡褐色 茶褐色	石・長(1～2) ◎	煤付着	
55	小型器台	残高 2.9		ミガキ	坏ミガキ 脚ナデ	黄橙色 橙色	密 金 ◎		
56	脚付鉢	底径 (17.2) 残高 2.0	裾部片。直径0.8cmの円孔。	ミガキ	ハケ	淡茶褐色 淡茶褐色	密 金 ◎	黒斑	
57	脚付鉢	底径 (14.0) 残高 2.0	裾部片。直径0.5cmの円孔。	ミガキ	ナデ	茶褐色 茶褐色	密 ◎	煤付着	
58	鼓形器台	残高 3.4	突帯状の段部をもつ。	ヨコナデ	ケズリ状→ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～5) 金 ◎		
59	坏蓋	口径 (14.0) 残高 2.9	天井部と口縁部との境界に凹線状の凹み。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
60	坏蓋	口径 (15.0) 残高 2.9	天井部と口縁部との境界にはわずかに不明瞭な稜をもつ。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	褐灰白色 褐灰白色	密 長（1） ◎		

出土遺物観察表　土製品

(4)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
61	坏蓋	口径 (15.0) 残高 2.6	小片。天井部と口縁部との境界は不明瞭で、口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
62	坏蓋	口径 13.5 残高 4.2	扁平な天井部。口縁端部に刻目あり。	㊤回転ヘラケズリ1/3 ㊐回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰色 オリーブ灰色	密 長（1～5） ◎		50
63	坏蓋	口径 (13.5) 残高 4.2	天井部からなだらかなカーブを描き口縁部に至る。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 ◎		
64	坏蓋	口径 (10.9) 残高 3.9	丸みのある天井部から、なだらかなカーブを描き口縁部に至る。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰色	密 ◎		
65	坏蓋	口径 (10.4) かえり径 (8.1) 残高 1.9	かえりは口縁部より下方に下がり、かえり端部は尖り気味に丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
66	坏蓋	口径 (10.9) かえり径 (9.4) 残高 1.6	口縁部は短く下外方にのび、かえり端部は尖り気味に丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
67	坏身	口径 (11.2) 器高 5.0	口縁部はわずかに外反し、底部は丸底。底部外面は回転ヘラキリ後、未調整。	㊐回転ナデ ㊡回転ヘラキリ	㊐回転ナデ ㊡ナデ	灰色 灰色	密 長（1） ◎		
68	坏身	受部径 (17.0) 残高 4.0	受部は短く水平にのび、底部は丸みをもつ。	㊥回転ナデ ㊡回転ヘラケズリ1/2	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
69	坏身	受部径 (16.9) 残高 3.2	受部は短く水平にのび、底部は平底風。	㊥回転ナデ ㊡回転ヘラケズリ1/3	㊥回転ナデ ㊡ナデ	青灰色 青灰色	密 長（1～3） ◎		
70	坏身	たちあがり径 (12.0) 受部径 (15.0) 残高 3.1	たちあがりは内傾し、たちあがり端部は丸い。受部は短く水平にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
71	坏身	たちあがり径 (11.7) 受部径 (14.5) 残高 3.3	たちあがりは内傾し、たちあがり端部は、尖り気味。受部は短く上外方にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
72	坏身	たちあがり径 (10.9) 受部径 (13.2) 残高 2.6	たちあがりは短く内傾し、端部は尖り気味に丸い。受部は太く、上外方に短くのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
73	坏	口径 (16.0) 残高 3.6	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
74	坏	口径 (8.2) 底径 (5.2) 残高 3.3	体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は尖り気味。底部は平底。	㊐回転ナデ ㊡回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長（1～2） ◎		
75	坏	底径 (7.1) 残高 2.4	体部は内湾気味に立ち上がり、底部は平底。	㊦回転ナデ ㊡回転ヘラキリ	㊦回転ナデ ㊡ナデ	灰白色 灰白色	密 長（1） ◎		
76	坏	底径 (6.0) 残高 1.4	底部外面に「×」状のヘラ記号あり。	㊦回転ナデ ㊡回転ヘラキリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長（1） ◎		
77	坏	底径 (8.6) 残高 1.9	体底部境界は凹み、底部は平底。	㊦回転ナデ ㊡回転ヘラキリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長（1～9） ◎		
78	坏	底径 6.3 残高 1.8	円盤高台の坏。	㊦回転ナデ ㊡回転ヘラキリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長（1～2） ◎		
79	坏	底径 (6.8) 残高 1.7	円盤高台の坏。窄まりながら突出する底部。底部切り離しは回転ヘラキリ。	㊦回転ナデ ㊡回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
80	坏蓋	口径 (16.2) つまみ径 (3.1) 器高 2.5	天井部からゆるやかな弧を描いて下がり、口縁部は下内方へ屈曲する。	㊀回転ナデ ㊤回転ヘラケズリ1/2 ㊐回転ナデ	㊤ナデ ㊐回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

出土遺物観察表　土製品

(5)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
81	坏蓋	口径 (17.3) 残高 2.6	天井部からゆるやかな弧を描いて下がり、口縁部は下方へ屈曲する。口縁端部は丸い。	㊦回転ヘラケズリ1/3 ㊐回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
82	坏蓋	口径 (13.5) 残高 2.8	笠形の天井部をもち、口縁部は下方に屈曲する。口縁外端面はわずかに凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
83	坏蓋	口径 (13.8) 残高 2.2	笠形の天井部をもち、口縁部は下方に屈曲する。	㊦回転ヘラケズリ1/3 ㊐回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 長 (1) ◎		
84	坏蓋	口径 (12.0) 残高 2.1	笠形の天井部をもち、口縁部は下方に屈曲する。天井部外面に線刻あり。	㊦回転ヘラケズリ1/3 ㊐回転ナデ	㊦ナデ ㊐回転ナデ	灰色 灰色	密 長 (1) ◎		
85	坏蓋	口径 (14.0) つまみ径(2.1) 器高 1.8	扁平な天井部をもち、口縁部は下外方に屈曲する。口縁外端面は凹む。	㊀回転ナデ ㊦回転ヘラケズリ1/3 ㊐回転ナデ	㊦ナデ ㊐回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
86	坏蓋	口径 (14.2) 残高 1.2	扁平な天井部から、わずかに稜をもち口縁部に至る。口縁部は下外方に屈曲する。小片。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰白色	密 長 (1) ◎		
87	坏蓋	口径 (14.0) 残高 1.4	扁平な天井部から、わずかに稜をもち口縁部に至る。口縁部は下外方に屈曲し、口縁外端面は凹む。	㊦回転ヘラケズリ1/2 ㊐回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長 (1) ◎		
88	坏蓋	口径 (11.8) 残高 1.0	扁平な天井部からS字状に屈曲し、口縁部は下方に屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 長 (1) ◎		
89	坏蓋	つまみ径 3.0 残高 1.3	頂部がわずかに突出するつまみ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰白色	密 長 (1) ◎		
90	坏蓋	つまみ径 2.9 残高 1.3	頂部が突出するつまみ。	回転ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 長 (1) ◎		
91	坏蓋	つまみ径 3.7 残高 1.6	頂部が突出するつまみ。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
92	坏	底径 15.4 高台径 14.9 残高 2.3	体部は直線的に立ち上がり、体底部境界は丸味をもつ。高台は細く、平坦面で接地する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 金 ◎		
93	坏	底径 14.8 高台径 14.1 残高 0.8	体底部境界は丸味をもち、高台は低く直立する。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰白色	密 金 ◎		
94	坏	口径 (15.8) 高台径 12.3 器高 3.7	体部は内湾気味に立ち上がり、体底部境界は丸味をもつ。高台は外端面で接地。	㊐回転ナデ ㊡回転ヘラキリ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 金 ◎		
95	坏	底径 (13.0) 高台径 (11.6) 残高 1.6	体底部境界は明瞭な稜をもつ。高台は太く外方に開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 石・長 (1) ◎		
96	坏	底径 (10.4) 高台径 (10.0) 残高 1.5	体底部境界は丸味をもち、高台は太く外方に開く。	㊥回転ナデ ㊡回転ヘラキリ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 長 (1) ◎		
97	坏	高台径 (9.9) 残高 1.1	体底部境界は丸味をもち、高台は太く外方に開く。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
98	坏	底径 (10.0) 高台径 (9.6) 残高 2.1	体底部境界は稜をもち、高台は角張り外方に開く。	㊥回転ナデ ㊡回転ヘラキリ	㊥回転ナデ ㊡ナデ	青灰色 青灰色	密 長 (1) ◎		
99	坏	底径 (10.8) 高台径 (10.3) 残高 1.1	体底部境界は稜をもち、高台は丸味をもち下外方に短く開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
100	坏	口径 (11.8) 高台径 (9.7) 器高 4.1	体部は直線的に立ち上がる。高台は体底部境界付近につき、下外方へ短く開く。	㊐回転ナデ ㊥回転ナデ ㊡回転ヘラキリ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 ◎		

出土遺物観察表　土製品

(6)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
101	坏	口径 (11.3) 高台径 (9.0) 器高 3.7	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台は体底部境界付近につき、下外方へ短く開く。	口回転ナデ 体回転ナデ 底不明	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
102	坏	高台径 (8.2) 残高 1.5	高台は体底部境界より内側に付き、短く下外方へ開く。	体回転ナデ 底回転ヘラケズリ	体回転ナデ 底ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
103	坏	高台径 (9.6) 残高 1.4	体底部境界は丸味をもち、高台は下内方へ開く。	体回転ナデ 底不明	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長 (1) ◎		
104	坏	高台径 (8.5) 残高 1.0	高台は体底部境界付近につき、短く下方へ下がる。	体回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
105	皿	口径 (21.2) 底径 (18.4) 器高 2.2	体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は平坦面をもつ。	体回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 灰白色	密 ◎		
106	皿	口径 (18.0) 底径 (15.0) 器高 2.1	体部は外反し、口縁端部は外傾する面をもつ。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	褐灰色 褐灰色	密 長 (1～3) ◎		
107	皿	口径 (14.8) 底径 (13.4) 器高 1.5	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口回転ナデ 底回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長 (1) ◎		
108	皿	口径 (15.6) 底径 (12.8) 器高 2.0	口縁部は外湾し、端部内面に凹線状の凹みをもつ。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ→ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長 (1) 金 ◎		
109	皿	高台径 (20.0) 残高 1.1	体底部境界は丸味をもち、高台は直立する。	体回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
110	皿	口径 (16.8) 高台径 (10.4) 器高 3.1	体部は直線的に立ち上がり、体底部境界に明瞭な稜をもつ。高台は内側に肥厚する。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 長 (1～2) ◎		
111	高坏	口径 (12.1) 脚底径 (8.0) 器高 6.3	椀形の坏部。口縁部は直立し、端部は尖り気味に丸い。脚端部は下方に屈曲する。	回転ナデ	坏上回転ナデ 坏下ナデ 脚回転ナデ	灰色 灰色	密 金 ◎		
112	高坏	脚底径 (8.2) 残高 1.2	脚端部は下方に屈曲し、脚端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長 (1) ◎		
113	高坏	脚底径 (9.4) 残高 4.3	脚裾部は下方に屈曲し、柱裾部境界に凸線が巡る。透かし看取。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 長 (1) ◎		
114	高坏	残高 3.2	細身の柱部。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	自然釉	
115	高坏	残高 4.2	低脚の高坏脚部片。	回転ナデ	坏ナデ 脚回転ナデ	青灰色 青灰色	密 金 ◎		
116	高坏	残高 8.5	長脚高坏の脚部片。柱部中位に沈線2条が巡る。	回転ナデ	坏ナデ 脚回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 長 (1～2) ◎		
117	高坏	残高 8.3	高坏の脚部。器壁は厚い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 金 ○		
118	高坏	つまみ径 3.7 残高 2.4	有蓋高坏の蓋。つまみ中央部が凹む。	つ回転ナデ 天回転ヘラケズリ 回転ナデ	天ナデ 回転ナデ	灰色 灰色	密 長 (1～5) ◎		
119	高坏	つまみ径 3.6 残高 2.2	有蓋高坏の蓋。つまみ中央部が突出する。	回転ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 長 (1～3) ◎		
120	椀	口径 (10.4) 残高 9.5	台付椀。体部は内湾し、中位に沈線1条が巡る。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰白色	密 石・長(1～2) ◎		

出土遺物観察表　土製品

(7)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
121	壺	口径 (10.6) 残高 4.4	長頸壺の口縁部。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
122	壺	残高 4.1	肩胴部境界に沈線1条が巡り、胴部に刺突文と沈線を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長（1）金 ◎		
123	壺	高台径 (9.8) 残高 3.7	台付壺の底部。高台は太く直立し、接地面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 金 ◎		
124	壺	高台径 (8.2) 残高 2.4	台付壺の底部。高台端部は肥厚し、平坦面で接地する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 金 ◎		
125	壺	口径 (13.6) 残高 4.8	口縁部は外反し、端部内面はわずかに上方に肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	自然釉	
126	壺	残高 11.2	直口壺の胴部。肩部は明瞭な稜をもち、胴部は直線的に立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長（1） ◎	自然釉	
127	壺	残高 5.9	四耳壺。断面方形状の把手を貼付。径0.5cm大の円孔を穿つ。	肩上回転カキメ 肩下回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長（1～2） ◎		
128	壺	残高 5.0	小型壺。扁球形の胴部。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰黄色	密 ○		
129	壺	口径 (13.8) 残高 2.9	短頸壺の蓋。口縁部は内湾し、口縁端部に刻目を施す。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 長（1～2） ◎		50
130	平瓶	残高 7.2	平瓶の胴部。肩胴部境界に明瞭な稜をもつ。	胴回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長（1） ◎		
131	甕	口径 (16.0) 残高 3.8	短く外反する口縁部。口縁端部は内方に肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 長（1） ◎		
132	甕	口径 (20.4) 残高 5.7	口縁部は内湾し、口縁端部内面は内方に肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長（1） ◎	自然釉	
133	甕	口径 (19.0) 残高 4.8	口縁部は外反し、口縁端部外面は面をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 石・長(1～2) ◎	自然釉	
134	甕	口径 24.8 残高 9.5	やや外反する頸部。頸部外面に沈線1条が巡る。口縁端部は上下方に肥厚し、端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 長（1） ◎	自然釉	
135	甕	口径 (18.6) 残高 6.0	短く外反する口縁部。口縁端部は上下方に肥厚し、端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 石・長(1)金 ◎		
136	甕	口径 (15.6) 残高 3.2	直立する口縁部。口縁端部は内側に肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 金 ◎		
137	坏	口径 (18.2) 底径 (13.6) 器高 3.3	口縁端部を内方へ折り曲げ、体部内面に放射状暗文を施す。赤色塗彩。	口ヨコナデ 底不明	ヨコナデ	乳白色 乳白色	密 長（1）金 ◎	暗文	
138	坏	口径 (16.7) 底径 (8.5) 器高 3.3	口縁端部をわずかに内方へ折り曲げる。丸味をもつ平底の底部。赤色塗彩。	口ヨコナデ 底回転ヘラキリ	ヨコナデ	乳色 乳白色	密 石・長・金 ◎		
139	坏	口径 (14.0) 残高 3.1	口縁端部を内方へ折り曲げる。赤色塗彩。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳橙色 乳赤橙色	密 石・長(1～2)金 ◎		
140	坏	口径 (13.2) 残高 2.8	口縁端部を内方へ折り曲げ、端部内面に浅い凹みが巡る。	口ヨコナデ 底不明	ヨコナデ	乳灰色 乳灰色	密 長（1） ◎		

出土遺物観察表　土製品

(8)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
141	坏	口径 (15.1) 底径 (7.5) 器高 4.8	体部は内湾し、口縁部は直立する。体底部に暗文あり。底部外面に線刻あり。	口ヨコナデ 体ヘラミガキ 底ヘラミガキ	ヨコナデ	乳橙色 乳橙色	密 金 ◎	暗文	50
142	坏	口径 (15.8) 底径 (7.6) 器高 3.4	口縁部は外反し、端部は丸い。内面に右下がりの放射状暗文、底部内面にらせん状暗文を施す。赤色塗彩。	口ヘラミガキ 体ナデ 底ナデ	ヘラミガキ	乳橙色 乳橙色	密 石・長(1～2)金 ◎	暗文	51
143	坏	口径 (13.6) 底径 (7.3) 残高 2.9	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に丸い。体部内面に右下がりの放射状暗文を施す。	マメツ	ミガキ？	乳黄色 乳黄橙色	密 長 (1～2) 金 ◎	暗文	
144	坏	口径 (15.0) 底径 (9.0) 器高 2.5	体部中位でやや外反し、口縁端部は丸い。体部内面に右下がりの放射状暗文を施す。底部外面にヘラ記号あり。	口ヘラミガキ 体ヘラミガキ 底ナデ	ミガキ	乳橙色 乳白色	密 石・長 (1) 金 ◎	暗文	51
145	坏	口径 (14.6) 底径 (9.6) 器高 2.8	体部中位に弱い稜をもち、口縁端部内面に浅い凹みが巡る。体部内面に暗文あり。	口ヘラミガキ 体ヘラミガキ 底ナデ	ミガキ	乳橙色 乳橙色	密 長 (1) 金 ◎	暗文	
146	坏	口径 (12.4) 底径 (8.0) 残高 2.1	体部は直線的に立ち上がり、口縁端部はわずかに内方へ折り曲げる。赤色塗彩。	口ヨコナデ 体ヨコナデ 底マメツ	マメツ	赤褐色 褐色	密 石・長(1～2) ◎		
147	坏	口径 (13.6) 残高 2.9	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に丸い。赤色塗彩。	マメツ(ミガキ)	マメツ	乳橙色 乳橙色	密 長 (1) 金 ◎		
148	坏	口径 (15.0) 残高 2.8	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反し、端部は尖り気味。	マメツ(ミガキ)	ヨコナデ	乳橙色 乳橙色	密 長 (1) 金 ◎		
149	坏	口径 (15.7) 残高 2.7	体部中位に稜をもち、口縁部は外反する。口縁端部は丸い。赤色塗彩。	口ヨコナデ 体ナデ	ヨコナデ	赤褐色 赤褐色	密 ◎		
150	坏蓋	口径 (14.8) 残高 1.9	扁平な天井部。口縁部は下方に屈曲し、端部は丸い。赤色塗彩。	ヨコナデ	ヨコナデ	赤褐色 赤褐色	密 金 ◎		
151	坏	高台径 (11.0) 残高 1.5	体底部境界は稜をもち、高台は太く下外方に開く。	マメツ	マメツ	乳橙色 乳白色	密 長 (1) 金 ◎		
152	坏	残高 1.5	体底部境界は丸味をもち、高台は下外方にわずかに開く。小片。赤色塗彩。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳橙色 乳橙色	密 ◎		
153	坏	残高 2.4	体底部境界は丸味をもつ。高台は細く、下方にのびる。小片。赤色塗彩。	ヨコナデ	ミガキ	橙色 橙色	密 長 (1) 金 ◎		
154	坏	口径 11.6 底径 6.6 器高 4.3	円盤高台の坏。口縁部は直立し、口縁端部は丸い。底部の切り離しは回転ヘラキリ技法による。	口ヨコナデ 底回転ヘラキリ	ヨコナデ	黄橙色 黄橙色	密 石・長(1～2) ◎		
155	皿	口径 (15.4) 底径 (12.8) 残高 1.6	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は内方へ折り曲げる。赤色塗彩。	マメツ	ヨコナデ	乳赤橙色 乳赤橙色	密 長 (1) ◎		
156	皿	口径 (16.7) 底径 (11.8) 残高 2.3	口縁部は外反し、口縁端部内面に浅い凹みが巡る。赤色塗彩。	マメツ	ヨコナデ	乳褐色 乳褐色	密 ◎		
157	皿	口径 (16.3) 底径 (11.8) 器高 2.1	体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に丸い。底部は丸味のある平底。赤色塗彩。	マメツ	マメツ	乳橙色 乳橙色	密 長 (1) ◎		
158	高坏	口径 (10.2) 残高 2.7	坏部中位外面に凹線状の凹みが巡り、坏部内面に右下がりの放射状暗文を施す。	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黄褐色 茶褐色	密 石・長(1～3)金 ◎	暗文	
159	高坏	残高 3.9	柱部はヘラにより10面の面取りが施されている。	坏ミガキ 脚ケズリ	ナデ	乳橙色 乳橙色	密 長 (1) ◎		51
160	甕	口径 (15.2) 残高 7.0	口縁部は直立気味に立ち上がり、口縁端部はわずかに外方に肥厚する。	口ヨコナデ 胴ハケ (4～5本／cm)	ヨコナデ	乳黄色 乳白色	長 (1) 金 ◎		

出土遺物観察表　土製品

(9)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
161	甕	口径 (14.8) 残高 3.3	くの字状に折れ曲がる口縁部。器壁は厚く、口縁端部は丸く仕上げる。	口上ヨコナデ 口下ハケ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	長（1～2） ◎		
162	甕	残高 3.0	内湾する口縁部。口縁端面は凹む。小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳褐色 乳褐色	長（1～3） ◎		
163	甕	口径 (25.3) 残高 3.4	内湾する口縁部。口縁端部は外方に肥厚し、口縁端面は凹む。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(1～4) ◎		
164	甕	口径 (21.2) 残高 4.1	わずかに内湾する口縁部。口縁端部は平坦面をもつ。	ヨコナデ	ハケ（4本／cm）	褐色 褐色	石・長(1～4) ◎		
165	甕	口径 22.6 残高 4.6	わずかに内湾する口縁部。口縁端部は内傾する。	口ヨコナデ 胴ハケ （5本／cm）	ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(1～2) ◎		
166	甕	口径 (26.1) 残高 5.9	S字状の口縁部。口縁端部は内傾する。胴部外面に粗いハケメ調整を施す。	口ヨコナデ 胴ハケ （4本／cm）	口ハケ→ナデ 胴ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1～6) ◎		

表36　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
167	石庖丁	3/4	緑色片岩	(13.0)	6.9	1.3	765	未製品	
168	砥石			(11.2)	(3.7)	4.9	163		
169	砥石			6.1	(8.1)	5.3	290	鋳型転用？	
170	叩石	完存	安山岩	14.0	5.5	4.3	495		
171	磨石	完存		15.5	6.8	4.9	878	敲打痕有り	
172	凹石	完存		7.9	7.7	4.5	350	擦痕有り	
173	石皿	1/2		(25.0)	18.4	8.6	5800		
174	台石	1/4	砂岩	(17.9)	(11.0)	5.6	1565		
175	用途不明品	完存	砂岩	16.4	6.3	5.45	220		
176	用途不明品	完存		13.0	4.9	2.65	215		
177	不明品			(7.2)	(10.2)	6.1	705		
178	不明品			(5.8)	6.4	3.7	245		

第６章　調査の成果と課題

これまでの本書では四遺跡の調査について事実とその成果を提示してきた。最後に、遺跡間の関連性や、遺跡が所在する大峰ヶ台丘陵東麓域と、宮前川下流域での調査成果を整理し、報告のまとめとする。

１．大峰ヶ台丘陵東麓域での成果

南江戸桑田遺跡、大峰ヶ台遺跡６次調査地（旧、辻遺跡）、同８次調査地（旧、辻遺跡２次調査地）の三遺跡は大峰ヶ台丘陵東麓域にある。現在までに、この地域では弥生時代～近世の集落や墳墓の存在が判明してきている。

弥生時代では、大峰ヶ台遺跡６次調査地における中期～後期の大量な遺物は第３章の小結で述べられているように大峰ヶ台丘陵の山頂部や中腹以上に営まれた集落の廃棄品と見て良かろう。ただし、大峰ヶ台丘陵山頂部およびその付近での明確な集落関連遺構は中期に限られることから、後期集落の遺構の確認が今後の課題になる。遺物では、２点が注目される。一つ目は中期中葉の土製勾玉586（第81図）であり、松山平野での土製勾玉の出土例は17点（松山市埋蔵文化財センター保管分）と少なく、さらには背部に刻み目をもつ勾玉は初例である。二つ目は後期後葉の壺２点（第37図134・135）で、拡張される口縁端部は器台の受端部形状に類似し、135では文様も同様である。器種間での形状や文様の共通性が知られる資料である。

古墳時代では、８次調査地と隣接する調査地とで20棟弱もの竪穴式住居址が検出され、後期の居住区の範囲が分かってきた。また、８次調査地の掘立柱建物址は竪穴式住居址群から少し離れ、規模が大きいことで、その機能が注目される。しかしながら、詳細な時期を決定できないことから、住居址群との関係を明らかにすることが出来ず、課題になった。

近世では、南江戸桑田遺跡の墳墓群は本報告の最重要資料である。近世の墳墓域は南江戸桑田遺跡とその周辺地に広がり、30例前後の墳墓が存在すると推定される。検出された各墓は遺存の良好なものが多く、棺の埋設方法や古人骨研究にとって、新しい資料が得る結果となった。棺の埋設では桶棺を横倒で埋めており、西日本地域でも珍しい事例であろう。また、古人骨については松下孝幸先生に鑑定を依頼し、多くの結果と所見を頂いている。その詳細な報告は紙間の都合上、『宮前川流域の遺跡Ⅱ－写真図版・分析編－』にて行うが、ここでは事実報告として、その要約部分を下記しておく。

「南江戸桑田遺跡出土人骨について－要　約－」

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム　館長　松下　孝幸

１）南江戸桑田遺跡から出土した近世人骨は合計15体である。そのうち成人骨は11体で、男性骨は６体、女性骨は５体である。また、幼小児骨は４体（29.7%）であった。

２）この15体の人骨は、考古学的所見より、近世に属する人骨である。

３）頭蓋長幅示数が算出できたのは女性２例のみで、１例は81.25となり、短頭型に、もう１例は70.31となり、長頭型に属していた。

４）顔面頭蓋の観察や計測はできなかった。

5）鼻根部の観察もできなかった。
6）上腕骨は、男女とも細い。男性では骨体の扁平性はあまり強くないが、女性骨体はやや扁平である。
7）大腿骨は、男性の骨体はやや細い方で、矢田平山ほど太くない。女性骨体もやや細いが、矢田平山よりはわずかに大きい。男性には骨体両側面が後方へ発達したものがみられたが、女性では粗線も骨体両側面の後方への発達はみられない。また、男性では骨体上部の扁平性は弱いが、女性はかなり扁平である。
8）脛骨の大きさは男女とも中程度で、矢田平山ほど太くはない。また、骨体の扁平性は男女ともに認められない。
9）男性の推定身長値は159.20㎝（橈骨からの推定値）となり、近世人としては高身長に属している。女性は144.46㎝（上腕骨からの推定値）、143.92㎝（脛骨からの推定値）となり、低身長値である。男女ともに大腿骨からの推定値を算出することができなかったが、他の資料とも検討してみたところ、大腿骨からの推定値もこの推定値と大差ないものと推定され、男性はやや高身長、女性は低身長と思われる。
10）左側股関節の骨折例が１例みられた（８号墓人骨、男性）。

２．宮前川下流域での成果

北斎院遺跡は古墳時代～古代の遺構面で、杭列や小穴が検出され、宮前川遺跡群の居住域や生産域を知るひとつの情報が得られた。宮前川遺跡群は東に岩子山・御産所の独立丘陵、西に西山・弁天山の独立丘陵があり、その間（300～500m）に宮前川が流れ、それを避けて沖積低地に集落を営まれる。古墳時代～古代の流路は摑めていないが、今回の集落関連遺構の検出は旧流路の位置を求める際の一資料になる。また、包含層からは土器・石器等の資料が得られている。古墳時代初頭の土器は近接する宮前川遺跡群の時期と同じだが、僅かに部分形状が異なることは注意を要する。具体的には甕の口縁端部形状が異なるものであり、今後の土器研究上で解決して頂きたい。古代の土器には注目されるものが含まれていた。８世紀代の土器は、松山平野でも出土数が少なく、そのうえ赤色塗彩や暗文土師器は稀であり、稀少な資料が得られたと言える。これらの外来系土師器には在地産と搬入品とが見られ、搬入元も複数カ所が上げられ、さらなる分析が必要である。

以上で、四遺跡の調査報告を終える。今回の報告では松山平野西部の宮前川中～下流域の遺跡を取り扱った。宮前川流域には、全国的に著名な古墳時代前期の堰が発見された古照遺跡、西日本地域における古墳時代初頭土器の好資料を出土した宮前川遺跡群があり、注目される遺跡が展開している。今回の成果はこれらの遺跡、特に集落立地を考える資料が得られており、一定の評価が与えられるであろう。

なお、本報告書は二分冊で構成されており、分析・観察表・写真図版は松山市文化財調査報告書第107集を見ていただきたい。

抄　　録

ふりがな	みやまえがわりゅういきのいせき
書名	宮前川流域の遺跡　— 本文編 —
副書名	南江戸桑田、大峰ヶ台６次・８次、北斎院
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第102集
編著者名	梅木謙一・栗田茂敏・宮内慎一・大西朋子
編集機関	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
所在地	市教委：〒790-0003　松山市三番町６丁目6-1　TEL(089)948-6605 埋　文：〒791-8032　松山市南斎院町乙67-6　TEL(089)923-6363
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
南江戸桑田（みなみえどくわた）	南江戸（みなみえど）５丁目 770他	38201		33° 50′ 17″	132° 44′ 50″	19880809～ 19881012	2,881	宅地開発
大峰ヶ台６次（おおみねがだいろくじ）	朝日ヶ丘（あさひがおか）１丁目 1376他	38201		33° 50′ 26″	132° 44′ 37″	19880511～ 19900228	3,000	総合公園整備
大峰ヶ台８次（おおみねがだいはちじ）	南江戸（みなみえど）５丁目 1544-1他	38201		33° 50′ 21″	132° 44′ 48″	19890715～ 19890731	1,096	宅地開発
北斎院（きたさや）	北斎院町（きたさやちょう）379-1 他	38201		33° 50′ 06″	132° 43′ 56″	19750618～ 19750717	600	宅地開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南江戸桑田	近世墓	近世	近世墓群	土師皿・櫛・銭貨 漆器椀	横倒埋納の桶棺
大峰ヶ台６次	集落	弥生時代		弥生土器・土製勾玉	
大峰ヶ台８次	集落	古墳時代	掘立柱建物址 墓	須恵器 土師器	
北斎院	集落	弥生時代 古墳時代 古代		弥生土器・土師器 須恵器・石器 木杭	外来系土器

松山市文化財調査報告書　第102集

宮前川流域の遺跡　―本文編―

平成17年３月31日　発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790-0003　松山市三番町６丁目６-１
TEL(089)９４８－６６０５

財団法人　松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032　松山市南斎院町乙67番地６
TEL(089)９２３－６３６３

印刷　セキ株式会社
〒790-8686　松山市湊町７丁目７番地１
TEL(089)９４５－０１１１